2025（令和7）年度

国際コミュニケーション学科

専門教育科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
国際コミュニケーション学科専任教員			
ナンバリング：E31A01			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 立派な社会人になるための知識とマナーの習得、コミュニケーション能力向上のための講義・演習を実施し、就職や今後の人生に備えて学習を積み重ねます。プロジェクト型学習（PBL：Project Based Learning）、グループ活動を多く取り入れ、ひとつの目標に向かって仲間と協力しあうこと、PDCAサイクルをまわすことも学びます。 (授業目標) (学習成果) ☐ A：グループワークで各メンバーの理解が深まるよう、主体的に責任を果たすことができる。 ☒ B：グループ討議や、討議結果のプレゼンテーションなどにより、自分の主張を分かりやすく伝えることができる。 ☐ E：分析加工した情報を効果的に伝える資料として作成できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 学長講演/避難訓練(3学科共通) 学長講演を聞く 避難訓練を実施する 2 学科教員によるオムニバス授業①（グループワーク） 学科の教員が持ち回りで特別授業を行う。 各専任教員の専門性を活かし、在学中や卒業後に役立つであろう情報を提供する。 課題解決型授業やグループワークを実施する。 3 学科教員によるオムニバス授業②（グループワーク） 学科の教員が持ち回りで特別授業を行う。 各専任教員の専門性を活かし、在学中や卒業後に役立つであろう情報を提供する。 課題解決型授業やグループワークを実施する。 4 学科教員によるオムニバス授業③（グループワーク） 学科の教員が持ち回りで特別授業を行う。 各専任教員の専門性を活かし、在学中や卒業後に役立つであろう情報を提供する。 課題解決型授業やグループワークを実施する。 5 学科教員によるオムニバス授業④（グループワーク） 学科の教員が持ち回りで特別授業を行う。 各専任教員の専門性を活かし、在学中や卒業後に役立つであろう情報を提供する。 課題解決型授業やグループワークを実施する。 6 学科教員によるオムニバス授業⑤（グループワーク） 学科の教員が持ち回りで特別授業を行う。 各専任教員の専門性を活かし、在学中や卒業後に役立つであろう情報を提供する。 課題解決型授業やグループワークを実施する。 7 学科教員によるオムニバス授業⑥（グループワーク） 学科の教員が持ち回りで特別授業を行う。 各専任教員の専門性を活かし、在学中や卒業後に役立つであろう情報を提供する。 課題解決型授業やグループワークを実施する。 8 学科教員によるオムニバス授業⑦（グループワーク） 学科の教員が持ち回りで特別授業を行う。 各専任教員の専門性を活かし、在学中や卒業後に役立つであろう情報を提供する。 課題解決型授業やグループワークを実施する。 9 学科教員によるオムニバス授業⑦（グループワーク） 学科の教員が持ち回りで特別授業を行う。 各専任教員の専門性を活かし、在学中や卒業後に役立つであろう情報を提供する。 課題解決型授業やグループワークを実施する。 10 特別講演（菊池桃子客員教授）（3学科共通） 女性の働き方・キャリアについて考える 11 英語実力確認テスト 英語力を測る試験を行い、卒業時に必要な学力が備わっているかを確認する。 12 短大生活2年間の振り返り 短大生活2年間の振り返り、社会人としてどのような人生を歩むのかを考える
------	---

	13 英語・ICT特別課題①（オンデマンド） 2年間のまとめとして、英語力とICT力を確認する課題について、期日までに提出する。
	14 英語・ICT特別課題②（オンデマンド） 2年間のまとめとして、英語力とICT力を確認する課題について、期日までに提出する。
	15 英語・ICT特別課題②（オンデマンド） 2年間のまとめとして、英語力とICT力を確認する課題について、期日までに提出する。
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：グループメンバーとしての発言ができる。 ◎B：グループワークに参加し、意見形成に寄与することができる。 E：ICTを活用して情報を収集することができる。
事前・事後学習	事前：各回のテーマとなる内容についてリサーチしてくる。特にPBLに関しては、プロジェクトの進捗状況を確認し、グループ内でのタスクを整理しておく。（約60分） 事後：次回までに進めておくべきことをリストアップし、必要に応じて更なるリサーチを行う。（約60分）
指導方法	各回の内容に応じて、講義、演習などさまざまな方法で実施します。授業計画は変更になることもありますので、必ずGoogle Classroomの情報を確認するようにしてください。 フィードバックの方法：Google Classroomを使用し、授業内で評価を行い指導する場合と、後日評価内容に従って指導する場合があります。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A：グループによるPBLの過程を評価する。 ◎B：グループワークを通じて作成した提出課題を評価する。 E：ICTを活用して作成された資料を評価する。 授業での発言やプレゼンテーション作成時の貢献度 40% プレゼンテーション・英語力確認テスト 30% 課題 30%
テキスト	なし
参考書	授業で指示する。
履修上の注意	掲示される授業に関する指示に従い、毎回きちんと受講して下さい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
久保田カオリ			
ナンバリング：E11C01			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 円滑なコミュニケーションのために、場面にあったヘアメイクをすることの有用性を理解する。 社会における自分像を確立していく一つの手段としてヘアメイクでの自己表現を考えていく。 前半はスキンケア、ヘアメイクの基本的な知識・技術を修得し、自分の顔で表現できるようにする。 後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を学び、場面にふさわしい身だしなみ（ヘアメイク）を学び自分の顔で表現できるようにする。 (授業目標) 客観的な視点から自身を分析し、場面に相応しいヘアメイクプランを立てられるように目指していく。 (学習成果) ◎D:場面にふさわしい身だしなみ（ヘアメイク）を理解し、現状での課題を把握して自己表現することができる。 ◎E:基礎的なヘアメイクの知識を理解し、説明できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法、使用する道具に関する説明。 Google Classroomの操作方法について。 2 美しい肌とは(1) 皮膚理論と肌トラブルについて理解する。 自然な笑顔を作る表情筋トレーニング。 3 美しい肌とは(2) (実習) スキンケアの基礎知識、スキントypesについて理解する。 正しいスキンケア・クレンジングで健やかな肌を育てる。 4 顔のプロポーションと「印象分析」 自分の顔の特徴を客観的に分析し、インプレッションマップに基づいた印象タイプを理解する。 これまでの学習内容の理解度を確認する「知識テスト」を実施し、課題評価を行う。 5 ベースメイクのテクニック (実習) 肌色知識とトラブルカバーで美しい肌を作る。 コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する。 6 チーク&リップのテクニック (実習) 骨格の把握と立体を理解する。 チーク・リップを実習する。 7 アイブロウのテクニック (実習) 基本のバランスと形・色を理解する。 ペンシルとパウダーで自然な眉を実習する。 8 アイメイクのテクニック (実習) 目元の観察と形・バランスを理解する。 基本のアイシャドウ・アイライン・マスカラを実習する。 9 トータルメイク(1) (実習) メイクの強弱やバランスを考え、場面に相応しいメイクを実習する。 セルフメイクの顔写真をGoogle Classroomに提出し、実技評価を行う。 10 トータルメイク(2) (実習) メイクの強弱やバランスを考え、場面に相応しいメイクを実習する。 セルフメイクの顔写真をGoogle Classroomに提出し、実技評価を行う。 11 ヘアの基礎 (実習) 基本のヘアテクニック。清潔感のあるヘアアレンジを実習する。 12 セルフプロデュース (1) (PBL) 将来を見据えたセルフプロデュースを考える。 自身が希望する職業にふさわしいヘアメイクを調査研究し、ヘアメイクプランを考える。 プレゼンテーション資料の制作。 13 セルフプロデュース (2) (PBL) セルフプロデュース (1) で考えたヘアメイクプランをセルフで表現する。
------	---

	<p>制限時間内にセルフでヘアメイクを完成させ、顔写真をGoogle Classroomに提出することで実技評価を行う。</p> <p>1 4 プレゼンテーション(1) (プレゼンテーション) セルフプロデュース (1)、 (2)の成果をプレゼンテーション形式で発表する。プレゼン資料をGoogle Classroomに提出し、発表することで課題評価を行う。</p> <p>1 5 プレゼンテーション (2) (プレゼンテーション) セルフプロデュース (1)、 (2)の成果をプレゼンテーション形式で発表する。プレゼン資料をGoogle Classroomに提出し、発表することで課題評価を行う。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎D: 場面にふさわしい身だしなみ (ヘアメイク) を理解できる。</p> <p>◎E: 基礎的なヘアメイクの知識を理解できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習:ヘアメイク情報誌や化粧品売場でスキンケア・ヘアメイクアップに関する情報を集める。(30分)</p> <p>事後学習:授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。授業の講義資料を熟読し、復習をする。(60分)</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・技術解説とデモンストレーションを行い、実際にセルフでヘアメイクアップの実習を行う。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom にセルフヘアメイクの写真提出⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・知識テストと技術テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ⇒技術テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・プレゼン形式で課題の発表を実施する。 ⇒Google Classroom に課題を提出⇒授業内でアドバイスを行う⇒結果を返却
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎D: 将来を見据えたセルフプロデュースを考え、ヘアメイクで自己表現を行い、プレゼンテーション形式で発表することで評価する。</p> <p>◎E:ヘアメイクに必要な知識テストを行い評価する。</p> <p>実技50%、課題30%、授業への貢献度20%</p>
テキスト	なし
参考書	<p>「日本化粧品検定 準2級・3級対策テキスト」 コスメの教科書 A5版/発売日:2024年12月13日/出版社:主婦の友社</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・実習はご自身の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 ・メイクの技術チェックや情報共有のため、人前でノーメイクの状態からモデルをすることがある。 ・ノーメイク、もしくはメイクした状態でアドバイスや評価を受けることがある。 ・実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 ・「セルフビューティ論」を履修することが望ましい。 ・実習に必要なヘアメイク道具類を必ず各自で用意すること。 ・授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	実習、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E12A02			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course is designed to help students communicate fluently and confidently in English. It develops language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images. There will be exercises in speaking, listening, reading and writing. Students must practice using the language and grammar with each other in pair work and role play situations. To attain an A grade in this class students will be expected to show a high level of understanding of the language and grammar learnt and be able to demonstrate effective usage with each other and the teacher. (Goals) This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. (Achievements) ◎ D: Students can talk about their opinions in about 100 words. ○ E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
----------------------------------	---

授業計画	1 Introduction to the text and course Classroom language, behavior and expectations. Asking for personal information/giving personal information. Asking follow up questions for extended conversation. 2 Unit 1 - Talking about yourself (Work in pairs or small groups, role play) Building vocabulary / Listening Practice / Conversation & Pair work 3 Unit 2 - Describing appearance (Work in pairs or small groups, role play) Building vocabulary / Listening practice / Conversation & Pair work 4 Unit 2 - Describing people (Work in pairs or small groups, role play) Grammar: "be" vs. "have" / Conversation about your family 5 Unit 3 - Talking about things you do every day (Work in pairs or small groups, role play) Routines / Conversation and pair work (weekend plans) 6 Unit 3 - Talking about things you do every day (Work in pairs or small groups, role play) Grammar: Adverbs of frequency / Group discussion / Reading 7 Unit 4 - Describing things (Work in pairs or small groups, role play) Responding to directions / Talking about your room 8 Unit 4 - Describing a place (Work in pairs or small groups, role play) Grammar : Using prepositions / Talking about a special place for you 9 Unit 5 - Asking for and giving directions (Work in pairs or small groups, role play) Listening for specific information / Using prepositions for directions 10 Unit 5 - Describing a shopping mall (Work in pairs or small groups, role play) Grammar: Talking about locations / Talking about special events 11 Speaking practice and test 1 (Presentation/Assignment) Preparing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 12 Speaking practice and test 2 (Presentation/Assignment) Preparing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 13 On demand: Kinds of music Instructions will be given on Google Classrooms. 14 On demand: Listening Instructions will be given on Google Classrooms.
------	--

	15 On demand: Interview Instructions will be given on Google Classrooms.
到達目標・基準 C評価になる基準	The students will need to demonstrate a continued effort in class and to maintain a notebook with each lessons grammar and new vocabulary. Students need to demonstrate a basic usage of language for simple communication tasks. ◎ D: Students can talk about their opinions in about 70 words. ○ E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Students are expected to come to class having already previewed the vocabulary for the lesson. (45 minutes) After each class, students are expected to memorize the key phrases for each lesson. Students will be expected to bring a notebook to class in order to write new vocabulary and new phrases they learn in class. (45 minutes)
指導方法	Lessons are taught in English only. Key vocabulary and dialogs are translated in the book to avoid confusion. The main emphasis of each class will be conversation. Speaking will take up the majority of each lesson, however listening, reading and writing will also play a role. Students will receive on-the-spot feedback in class about their progress and also about their participation.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: Participation, Kikutan Test, Presentation ○E: Quiz, Final Exam Participation 30% Quiz 10% Kikutan Test 20% Presentation 10% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 1 (5th Edition). Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown. Pearson. ISBN 978-9813130227.
参考書	
履修上の注意	As this is a conversation class all students are expected to participate in all activities. Students should be prepared to work in pairs or in small groups, as deemed necessary by the teacher, depending upon the activity.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Pair work, group work, role play, and PBL will be the focus of this class. Oral level checks are designed to help keep students focused on the task at hand.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E12A02			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course is to help EFL students communicate more fluently and confidently. It develops English language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images. Each unit includes an actual classroom activity. This course helps EFL students build fluency and confidence in spoken English through vocabulary, grammar, and interactive activities. Students aiming for A/S grades must actively participate and demonstrate strong language skills, with a top 10% final test score required. (Goals) This course aims to enhance students' listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and ability to apply English in real-world situations. (Achievements) ◎D : Be able to express one's opinion in spoken form with a length of approximately 90 words. ○E : This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently.
----------------------------------	--

授業計画	1 Unit 1 It's nice to meet you (Pair work) Introduce yourself to a partner. 2 Unit 1 It's nice to meet you (Pair work, Group work, Discussion) Exchange personal information. 3 Unit 2 Who are they talking about? (Pair work) Describe people in a picture. 4 Unit 2 Who are they talking about? (Pair work, Group work, Discussion) Exchange information about descriptions in order to identify someone. Describe people in your family. 5 Unit 3 When do you start? (Pair work) Make plans with someone. 6 Unit 3 When do you start? (Pair work, Group work, Discussion) Ask and answer questions about schedules. Compare habits and routines with a partner. 7 Unit 4 Where does this go? (Pair work) Describe where things are in a room. 8 Unit 4 Where does this go? (Pair work, Group work, Discussion) Ask and answer questions about where things are. Compare where things are in a room. 9 Unit 5 How do I get there? (Pair work) Ask for and give directions to a place. 10 Unit 5 How do I get there? (Pair work, Group work, Discussion) Identify places in your community. 11 Speaking Test 1 In-class final exam. 12 Speaking Test 2 In-class final exam. 13 On-Demand Assignment 1: Everyday Conversations - Role-Play Video Objective: Practice common English conversations in real-life situations. Task: Work with a partner to create a short role-play video based on a given scenario. 14 On-Demand Assignment 2: Storytelling - Describe a Memorable Experience Objective: Improve fluency by narrating a personal experience in a clear, engaging way. Task: Record a 2-3 minute video sharing a real-life story in English.
------	---

	15 On-Demand Assignment 3: Job and Career Exploration Interview Objective: Conduct and record a short interview to practice real-world communication. Task: Choose someone with an interesting job and interview them in English.
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D : Students can make a presentation in about 63 words. ○E : Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be assigned as homework to complete before class (30 minutes). After class, students are expected to review key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 minutes). Additionally, students should keep a record of new vocabulary and key phrases learned in class.
指導方法	Students will receive ongoing feedback on participation and spoken assignments. Lessons are conducted primarily in English, focusing on speaking and listening skills. Each unit is covered over two lessons with pair and group activities to enhance fluency, pronunciation, and comprehension. Interactive tasks provide opportunities for real-life communication in an engaging environment.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D : Participation, Vocabulary Test, Presentation ○E : Speaking Test (Final Exam) Participation 30% Vocabulary Test (Kikutan) 20% Presentation 20% Speaking Test 30%
テキスト	English Firsthand 1 Fifth Edition. Helgesen, Wiltshier, Brown. Pearson 2018. 978-9813130227
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in all activities and engage in pair and small group work. They should make their best effort without hesitation and take advantage of the opportunity to practice and improve their English communication skills in an enjoyable and supportive environment.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, others.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E12A02			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course is to help EFL students communicate more fluently and confidently. It develops English language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images. Each unit includes an actual classroom activity. This course helps EFL students build fluency and confidence in spoken English through vocabulary, grammar, and interactive activities. Students aiming for A/S grades must actively participate and demonstrate strong language skills, with a top 10% final test score required. (Goals) This course aims to enhance students' listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and ability to apply English in real-world situations. (Achievements) ◎D : Be able to express one's opinion in spoken form with a length of approximately 80 words. ○E : This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently.
----------------------------------	--

授業計画	1 Unit 1 It's nice to meet you (Pair work) Introduce yourself to a partner. 2 Unit 1 It's nice to meet you (Pair work, Group work, Discussion) Exchange personal information. 3 Unit 2 Who are they talking about? (Pair work) Describe people in a picture. 4 Unit 2 Who are they talking about? (Pair work, Group work, Discussion) Exchange information about descriptions in order to identify someone. Describe people in your family. 5 Unit 3 When do you start? (Pair work) Unit 3 When do you start? (Pair work) 6 Unit 3 When do you start? (Pair work, Group work, Discussion) Ask and answer questions about schedules. Compare habits and routines with a partner. 7 Unit 4 Where does this go? (Pair work) Describe where things are in a room. 8 Unit 5 How do I get there? (Pair work) Ask for and give directions to a place. 9 Unit 5 How do I get there? (Pair work, Group work, Discussion) Unit 5 How do I get there? (Pair work, Group work, Discussion) 10 Speaking Test 1 In-class final exam. 11 Speaking Test 2 In-class final exam. 12 13 On-Demand Assignment 1: Everyday Conversations - Role-Play Video Objective: Practice common English conversations in real-life situations. Task: Work with a partner to create a short role-play video based on a given scenario. 14 On-Demand Assignment 2: Storytelling - Describe a Memorable Experience Objective: Improve fluency by narrating a personal experience in a clear, engaging way. Task: Record a 2-3 minute video sharing a real-life story in English. 15 On-Demand Assignment 3: Job and Career Exploration Interview
------	---

	Objective: Conduct and record a short interview to practice real-world communication. Task: Choose someone with an interesting job and interview them in English.
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D : Students can make a presentation in about 56 words. ○E : Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be assigned as homework to complete before class (30 minutes). After class, students are expected to review key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 minutes). Additionally, students should keep a record of new vocabulary and key phrases learned in class.
指導方法	Students will receive ongoing feedback on participation and spoken assignments. Lessons are conducted primarily in English, focusing on speaking and listening skills. Each unit is covered over two lessons with pair and group activities to enhance fluency, pronunciation, and comprehension. Interactive tasks provide opportunities for real-life communication in an engaging environment.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D : Participation, Vocabulary Test, Presentation ○E : Speaking Test (Final Exam) Participation 30% Vocabulary Test (Kikutan) 20% Presentation 20% Speaking Test 30%
テキスト	English Firsthand 1 Fifth Edition. Helgesen, Wiltshier, Brown. Pearson 2018. 978-9813130227
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in all activities and engage in pair and small group work. They should make their best effort without hesitation and take advantage of the opportunity to practice and improve their English communication skills in an enjoyable and supportive environment.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, others.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E12A02			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、基礎的な英語コミュニケーション能力を養成することを目的とする。特に話された英語を正確に聞き取って理解する訓練を行うことにより、英語運用力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを伝えるために、正確な文法知識を身につける。最終的に、自分自身や身近な話題について英語でスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。 (授業目標) 場面に応じた適切な語彙や表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 (学習成果) ◎D： 70 words程度の分量で自分の意見を話すことができる。 ◎E： 身近な話題についての会話を聞き取ることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション 授業の進め方とテキストの説明を行う。 2 Unit 1 - Talking about yourself (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 語彙力の構築 / リスニング練習 / 会話&ペアワーク 3 Unit 2 - Describing appearance (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 語彙力の構築 / リスニング練習 / 会話&ペアワーク 4 Unit 2 - Describing appearance (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) 文法：「be」と「have」/家族についての会話 5 Unit 3 - Talking about things you do every day (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) 週末の予定についての会話 6 Unit 3 - Talking about things you do every day (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 文法：頻度の副詞/グループディスカッション/リーディング 7 Unit 4 - Describing things (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 道順に答える/部屋のことを話す 8 Unit 4 - Describing things (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 文法：前置詞を使う / 自分の特別な場所について話す 9 Unit 5 - Asking for and giving directions (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 特定の情報を聞く / 道順の前置詞を使う 10 Unit 5 - Asking for and giving directions (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 文法：場所について話す/特別なイベントについて話す 11 Speaking practice and test 1 (テスト) ペアで準備を行い、その後、講師が評価する時間制限付きのスピーキングテストを実施 12 Speaking practice and test 2 (テスト) ペアで準備を行い、その後、講師が評価する時間制限付きのスピーキングテストを実施 13 オンデマンド：Kinds of movies 指示はGoogle Classroomで提供されます。 14 オンデマンド：Listening 指示はGoogle Classroomで提供されます。
------	--

	15 オンデマンド: Interview 指示はGoogle Classroomで提供されます。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D: 49 words程度の分量で自分の意見を話すことができる。 ○E: 身近な話題についての会話を聞き取ることができる。
事前・事後学習	事前学習: 分からない語彙や表現を調べる。(約30分) 事後学習: 語彙や表現、文法を復習し、授業で扱った英文をスムーズに読めるようになるまで音読する。(約60分)
指導方法	ディクテーションやロールプレイングなどさまざまな演習を行うことにより、基本的なリスニング力とスピーキング力の養成を目指す。また、さまざまな問題演習を通して、コミュニケーションに必要な基本的な語彙や文法知識を身につける。毎回確認のための小テストを実施する。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③1分間プレゼンテーションの実施とそれに対するコメント
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: 授業貢献度やキクタンテストの成績、プレゼンテーションの完成度で評価する。 ○E: 小テストや定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 10% キクタンテスト 20% プレゼンテーション 10% 定期試験 30%
テキスト	English Firsthand 1 (5th Edition). Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown. Pearson. ISBN 978-9813130227.
参考書	
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを毎回実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E12A02			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、基礎的な英語コミュニケーション能力を養成することを目的とする。特に話された英語を正確に聞き取って理解する訓練を行うことにより、英語運用力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを伝えるために、正確な文法知識を身につける。最終的に、自分自身や身近な話題について英語でスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。 (授業目標) 場面に応じた適切な語彙や表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 (学習成果) ◎D： 60 words程度の分量で自分の意見を話すことができる。 ○E： 身近な話題についての会話を聞き取ることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション 授業の進め方とテキストの説明を行う。 2 Unit 1 - Talking about yourself (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 語彙力の構築 / リスニング練習 / 会話&ペアワーク 3 Unit 2 - Describing appearance (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 語彙力の構築 / リスニング練習 / 会話&ペアワーク 4 Unit 2 - Describing appearance (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) 文法：「be」と「have」/家族についての会話 5 Unit 3 - Talking about things you do every day (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) 週末の予定についての会話 6 Unit 3 - Talking about things you do every day (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) 文法：頻度の副詞/グループディスカッション/リーディング 7 Unit 4 - Describing things (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 道順に答える/部屋のことを話す 8 Unit 4 - Describing things (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 文法：前置詞を使う / 自分の特別な場所について話す 9 Unit 5 - Asking for and giving directions (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 特定の情報を聞く / 道順の前置詞を使う 10 Unit 5 - Asking for and giving directions (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) 文法：場所について話す/特別なイベントについて話す 11 Speaking practice and test 1 (テスト) ペアで準備を行い、その後、講師が評価する時間制限付きのスピーキングテストを実施 12 Speaking practice and test 2 (テスト) ペアで準備を行い、その後、講師が評価する時間制限付きのスピーキングテストを実施 13 オンデマンド：Kinds of music 指示はGoogle Classroomで提供されます。 14 オンデマンド：Listening 指示はGoogle Classroomで提供されます。
------	---

	15 オンデマンド: Interview 指示はGoogle Classroomで提供されます。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D: 42 words程度の分量で自分の意見を話すことができる。 ○E: 身近な話題についての会話を聞き取ることができる。
事前・事後学習	事前学習: 分からない語彙や表現を調べる。(約30分) 事後学習: 語彙や表現、文法を復習し、授業で扱った英文をスムーズに読めるようになるまで音読する。(約60分)
指導方法	ディクテーションやロールプレイングなどさまざまな演習を行うことにより、基本的なリスニング力とスピーキング力の養成を目指す。また、さまざまな問題演習を通して、コミュニケーションに必要な基本的な語彙や文法知識を身につける。毎回確認のための小テストを実施する。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③1分間プレゼンテーションの実施とそれに対するコメント
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: 授業貢献度やキクタンテストの成績、プレゼンテーションの完成度で評価する。 ○E: 小テストや定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 10% キクタンテスト 20% プレゼンテーション 10% 定期試験 30%
テキスト	English Firsthand 1 (5th Edition). Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown. Pearson. ISBN 978-9813130227.
参考書	
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを毎回実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E12A03			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course aims to help students communicate fluently and confidently in English. It develops language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images. Each unit begins with a video introduction exercise. Students aiming for S grade results will have to demonstrate effective use of the language and grammar and confidence in speaking. Accurate listening skills will also be required in addition to high scores in quizzes and the final test. (Goals) This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. (Achievements) ◎ D: Students can talk about their opinions in about 200 words. ○ E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
----------------------------------	--

授業計画	1 Unit 6 - Talking about past events (Work in pairs or small groups, role play) Listening for specific information / Talking about your weekend 2 Unit 6 - Talking about past events (Work in pairs or small groups, role play) Talking about the past / Telling someone about a trip you have taken 3 Unit 7 - Describing someone's job (Work in pairs or small groups, role play) Grammar simple present Questions and answers 4 Unit 7 - Describing someone's job (Work in pairs or small groups, role play, PBL) Grammar: Talking about likes and dislikes / Talking about your hobbies 5 Unit 8 - Inviting someone out (Work in pairs or small groups, role play) Listening for specific time details / Making plans for the evening 6 Unit 8 - Inviting someone out (Work in pairs or small groups, role play) Verb patterns for invitations / Talking about going to a concert 7 Unit 9 - Plans and Activities (Work in pairs or small groups, role play, PBL) Vocabulary building / Listening for vacation plans / Discussing summer plans 8 Unit 9 - Plans and Activities (Work in pairs or small groups, role play, PBL) Talking about the future. 9 Unit 11 - Instructions (Work in pairs or small groups, role play, PBL) Listening for general understanding / Discussing problems and giving instructions 10 Unit 11 - Talking about something you are passionate about (Work in pairs or small groups, role play) Grammar: Sequence markers and imperatives 11 Speaking practice and test 1 (Presentation/Assignment) Preparing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 12 Speaking practice and test 2 (Presentation/Assignment) Preparing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 13 On demand: Shopping Instructions will be given on Google Classrooms. 14 On demand: Listening Instructions will be given on Google Classrooms. 15 On demand: Interview Instructions will be given on Google Classrooms.
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	<p>The students will be expected to participate to the best of their ability and understand the basics of the language and grammar studied. They should be able to use the basic structures to communicate with each other and be able to explain three cultural differences between Japan and the United States of America.</p> <p>◎ D: Students can talk about their opinions in about 140 words. ○ E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.</p>
事前・事後学習	<p>Students are expected to come to class already having previewed the vocabulary for the lesson. (45 minutes) After each class, students are expected to memorize the key phrases for each lesson. Students will be expected to bring a notebook to class in order to write new vocabulary and new phrases they learn in class. (45 minutes)</p>
指導方法	<p>Lessons are taught in English only. Key vocabulary and dialogs are translated in the book to avoid confusion. The main emphasis of each class will be conversation. Speaking will take up the majority of each lesson, however listening, reading and writing will also play a role. Students will receive on the spot feedback in class about their progress and also about their participation.</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎D: Participation, Presentation ○E: Speaking Test, Final Exam</p> <p>Participation 30% Quiz 20% Presentation 20% Final Exam 30%</p>
テキスト	<p>English Firsthand 1 (5th Edition). Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown. Pearson. ISBN 978-9813130227.</p>
参考書	
履修上の注意	<p>As this is a conversation class all students are expected to participate in all activities. Students should be prepared to work in pairs or in small groups, as deemed necessary by the teacher, depending upon the activity.</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	<p>Pair work, group work, role play, and PBL will be the focus of this class.</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E12A03			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course helps EFL students build fluency and confidence in spoken English through vocabulary, grammar, and interactive activities. Students aiming for A/S grades must actively participate and demonstrate strong language skills, with a top 10% final test score required. (Goals) This course aims to enhance students' listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and ability to apply English in real-world situations. (Achievements) ◎D : Be able to express one's opinion in spoken form with a length of approximately 180 words. ○E : This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently.
----------------------------------	---

授業計画	1 Unit 6 What happened? (Pair work) Ask about past events. 2 Unit 6 What happened? (Pair work, Group work, Discussion) Talk about things you did at different times in the past. 3 Unit 7 I'd love that job (Pair work) Ask and answer questions about jobs and job skills. 4 Unit 7 I'd love that job (Pair work, Group work, Discussion) Talk about jobs you would like or would not like, and give reasons. 5 Unit 8 What's playing? (Pair work) Discuss your opinions. 6 Unit 8 What's playing? (Pair work, Group work, Discussion) Make plans with a partner. Talk about entertainment options. 7 Unit 9 What are you going to do? (Pair work) Ask and answer questions about future plans and activities. 8 Unit 9 What are you going to do? (Pair work, Group work, Discussion) Discuss goals. 9 Unit 10 How much is this? (Pair work) Ask and answer questions about shopping. 10 Unit 10 How much is this? (Pair work, Group work, Discussion) Negotiate prices. 11 Speaking Test 1 In-class final exam. 12 Speaking Test 2 In-class final exam. 13 On-Demand Assignment 1: Giving and Following Directions Objective: Practice giving and understanding directions in English. Task: Record yourself giving clear and polite directions to a specific place. 14 On-Demand Assignment 2: Ordering Food & Making Small Talk Objective: Develop confidence in ordering food and interacting politely in a restaurant. Task: Create and record a role-play video of ordering food at a restaurant. 15 On-Demand Assignment 3: Job & Career Exploration Interview (Part 2) Objective: Conduct an interview to learn about career challenges, advice, and industry insights.
------	--

	Task: Interview a professional and record the highlights.
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D : Students can make a presentation in about 126 words. ○E : Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be assigned as homework to complete before class (30 minutes). After class, students are expected to review key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 minutes). Additionally, students should keep a record of new vocabulary and key phrases learned in class.
指導方法	Students will receive ongoing feedback on participation and spoken assignments. Lessons are conducted primarily in English, focusing on speaking and listening skills. Each unit is covered over two lessons with pair and group activities to enhance fluency, pronunciation, and comprehension. Interactive tasks provide opportunities for real-life communication in an engaging environment.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D : Participation, Vocabulary Test, Presentation ○E : Speaking Test (Final Exam) Participation 30% Vocabulary Test 20% Presentation 20% Speaking Test 30%
テキスト	English Firsthand 1 Fifth Edition. Helgesen, Wiltshier, Brown. Pearson 2018. 978-9813132771
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in all activities and engage in pair and small group work. They should make their best effort without hesitation and take advantage of the opportunity to practice and improve their English communication skills in an enjoyable and supportive environment.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, others.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング:E12A03			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course helps EFL students build fluency and confidence in spoken English through vocabulary, grammar, and interactive activities. Students aiming for A/S grades must actively participate and demonstrate strong language skills, with a top 10% final test score required. (Goals) This course aims to enhance students' listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and ability to apply English in real-world situations. (Achievements) ◎D : Be able to express one's opinion in spoken form with a length of approximately 160 words. ○E : This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently.
----------------------------------	---

授業計画	1 Unit 6 What happened? (Pair work) Ask about past events. 2 Unit 6 What happened? (Pair work, Group work, Discussion) Talk about things you did at different times in the past. 3 Unit 7 I'd love that job (Pair work) Ask and answer questions about jobs and job skills. 4 Unit 7 I'd love that job (Pair work, Group work, Discussion) Talk about jobs you would like or would not like, and give reasons. 5 Unit 8 What's playing? (Pair work) Discuss your opinions. 6 Unit 8 What's playing? (Pair work, Group work, Discussion) Make plans with a partner. Talk about entertainment options. 7 Unit 9 What are you going to do? (Pair work) Ask and answer questions about future plans and activities. 8 Unit 9 What are you going to do? (Pair work, Group work, Discussion) Discuss goals. 9 Unit 10 How much is this? (Pair work) Ask and answer questions about shopping. 10 Unit 10 How much is this? (Pair work, Group work, Discussion) Negotiate prices. 11 Speaking Test 1 In-class final exam. 12 Speaking Test 2 In-class final exam. 13 On-Demand Assignment 1: Giving and Following Directions Objective: Practice giving and understanding directions in English. Task: Record yourself giving clear and polite directions to a specific place. 14 On-Demand Assignment 2: Ordering Food & Making Small Talk Objective: Develop confidence in ordering food and interacting politely in a restaurant. Task: Create and record a role-play video of ordering food at a restaurant. 15 On-Demand Assignment 3: Job & Career Exploration Interview (Part 2) Objective: Conduct an interview to learn about career challenges, advice, and industry insights.
------	--

	Task: Interview a professional and record the highlights.
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D : Students can make a presentation in about 112 words. ○E : Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be assigned as homework to complete before class (30 minutes). After class, students are expected to review key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 minutes). Additionally, students should keep a record of new vocabulary and key phrases learned in class.
指導方法	Students will receive ongoing feedback on participation and spoken assignments. Lessons are conducted primarily in English, focusing on speaking and listening skills. Each unit is covered over two lessons with pair and group activities to enhance fluency, pronunciation, and comprehension. Interactive tasks provide opportunities for real-life communication in an engaging environment.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D : Participation, Vocabulary Test, Presentation ○E : Speaking Test (Final Exam) Participation 30% Vocabulary Test 20% Presentation 20% Speaking Test 30%
テキスト	English Firsthand 1 Fifth Edition. Helgesen, Wiltshier, Brown. Pearson 2018. 978-9813132771
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in all activities and engage in pair and small group work. They should make their best effort without hesitation and take advantage of the opportunity to practice and improve their English communication skills in an enjoyable and supportive environment.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, others.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E12A03			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、基礎的な英語コミュニケーション能力を養成することを目的とする。特に話された英語を正確に聞き取って理解する訓練を行うことにより、英語運用力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを伝えるために、正確な文法知識を身につける。最終的に、自分自身や身近な話題について英語でスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。 (授業目標) 場面に応じた適切な語彙や表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 (学習成果) ◎D： 140 words程度の分量で自分の意見を話すことができる。 ○E： 身近な話題についての会話を聞き取ることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 Unit 6 - Talking about past events (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) 特定の情報を聞く/週末について話す 2 Unit 6 - Talking about past events (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) 過去を語る/旅のことを誰かに話す 3 Unit 7 - Talking about future jobs (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 具体的な時間の詳細を聞く/夜の計画を立てる 4 Unit 7 - Talking about future jobs (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) 招待状の動詞パターン/コンサートに行くことについて話す 5 Unit 8 - Talking about entertainment (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) 具体的な時間の詳細を聞く/夜の計画を立てる 6 Unit 8 - Talking about entertainment (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) 招待状の動詞パターン/コンサートに行くことについて話す 7 Unit 9 - Plans and Activities (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 語彙力強化 / 値段を聞く / 洋服屋に行く 8 Unit 9 - Plans and Activities (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 未来について話す 9 Unit 11 - Instructions (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) 大まかな理解のための傾聴/問題を議論し、指示を与える 10 Unit 11 - Instructions (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) 文法：シーケンス マーカーと命令形 11 Speaking practice and test 1 (テスト) ペアで準備を行い、その後、講師が評価する時間制限付きのスピーキングテストを実施 12 Speaking practice and test 2 (テスト) ペアで準備を行い、その後、講師が評価する時間制限付きのスピーキングテストを実施 13 オンデマンド： Shopping 指示はGoogle Classroomで提供されます。 14 オンデマンド： Listening 指示はGoogle Classroomで提供されます。
------	--

	15 オンデマンド: Interview 指示はGoogle Classroomで提供されます。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D: 98 words程度の分量で自分の意見を話すことができる。 ○E: 身近な話題についての会話を聞き取ることができる。
事前・事後学習	事前学習: 分からない語彙や表現を調べる。(約30分) 事後学習: 語彙や表現、文法を復習し、授業で扱った英文をスムーズに読めるようになるまで音読する。(約60分)
指導方法	ディクテーションやロールプレイングなどさまざまな演習を行うことにより、基本的なリスニング力とスピーキング力の養成を目指す。また、さまざまな問題演習を通して、コミュニケーションに必要な基本的な語彙や文法知識を身につける。毎回確認のための小テストを実施する。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③1分間プレゼンテーションの実施とそれに対するコメント
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: 授業貢献度やTOEICの成績、プレゼンテーションの完成度で評価する。 ○E: 小テストや定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 20% プレゼンテーション 20% 定期試験 30%
テキスト	English Firsthand 1 (5th Edition). Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown. Pearson. ISBN 978-9813130227.
参考書	
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを毎回実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E12A03			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、基礎的な英語コミュニケーション能力を養成することを目的とする。特に話された英語を正確に聞き取って理解する訓練を行うことにより、英語運用力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを伝えるために、正確な文法知識を身につける。最終的に、自分自身や身近な話題について英語でスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。 (授業目標) 場面に応じた適切な語彙や表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 (学習成果) ◎D： 120 words程度の分量で自分の意見を話すことができる。 ◎E： 身近な話題についての会話を聞き取ることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 Unit 6 - Talking about past events (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) 特定の情報を聞く/週末について話す 2 Unit 6 - Talking about past events (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) 過去を語る/旅のことを誰かに話す 3 Unit 7 - Talking about future jobs (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習) 文法、現在形の質問と回答 4 Unit 7 - Talking about future jobs (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) 文法：好き嫌いについて話す/趣味について話す 5 Unit 8 - Talking about entertainment (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) 具体的な時間の詳細を聞く/夜の計画を立てる 6 Unit 8 - Talking about entertainment (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) 招待状の動詞パターン/コンサートに行くことについて話す 7 Unit 9 - Plans and Activities (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習) 語彙力アップ / 休暇の予定を聞く / 夏の計画について話し合う 8 Unit 9 - Plans and Activities (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習) 文法：不確実な未来の出来事/予測をする 9 Unit 11 - Instructions (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習) 大まかな理解のための傾聴/問題を議論し、指示を与える 10 Unit 11 - Instructions (グループワーク： ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) 文法：シーケンス マーカーと命令形 11 Speaking practice and test 1 (テスト) ペアで準備を行い、その後、講師が評価する時間制限付きのスピーキングテストを実施 12 Speaking practice and test 2 (テスト) ペアで準備を行い、その後、講師が評価する時間制限付きのスピーキングテストを実施 13 オンデマンド： Shopping 指示はGoogle Classroomで提供されます。 14 オンデマンド： Listening 指示はGoogle Classroomで提供されます。
------	---

	15 オンデマンド: Interview 指示はGoogle Classroomで提供されます。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D: 84 words程度の分量で自分の意見を話すことができる。 ◎E: 身近な話題についての会話を聞き取ることができる。
事前・事後学習	事前学習: 分からない語彙や表現を調べる。(約30分) 事後学習: 語彙や表現、文法を復習し、授業で扱った英文をスムーズに読めるようになるまで音読する。(約60分)
指導方法	ディクテーションやロールプレイングなどさまざまな演習を行うことにより、基本的なリスニング力とスピーキング力の養成を目指す。また、さまざまな問題演習を通して、コミュニケーションに必要な基本的な語彙や文法知識を身につける。毎回確認のための小テストを実施する。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③1分間プレゼンテーションの実施とそれに対するコメント
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: 授業貢献度やTOEICの成績、プレゼンテーションの完成度で評価する。 ◎E: 小テストや定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 20% プレゼンテーション 20% 定期試験 30%
テキスト	English Firsthand 1 (5th Edition). Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown. Pearson. ISBN 978-9813130227.
参考書	
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを毎回実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
石田毅			
ナンバリング：E12A04			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) さまざまなジャンルのまとまった英文を精読し、これを適宜参照しながら自分の意見を含めた論理的な英文を書く演習を行います。1つのユニットに対して、①読解演習、②文法演習、③作文演習、の3つのステップで授業を構成します。総合的な英語力を伸ばすためにリーディング力は必須の力であり、特にリスニング力やライティング力の基盤となります。「何となくわかった気になる」だけの読み方から「自信を持って読める」読み方へと進めていきましょう。</p> <p>(授業目標) グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。</p> <p>(学習成果) ◎C：指定されたテーマについて自分の考えを含む論理的でまとまりのある文章（100語程度）を書くことができる ○D：英語の基本構造と論理展開に留意しながら、まとまりのある文章を正確に読み取ることができる</p>
----------------------------------	--

授業計画	<p>#01 オリエンテーション（ペアまたはグループワーク） 授業の進め方や評価方法について説明する 今後の学習の進め方について議論する</p> <p>#02 Unit 1: Things Happen for a Reason【読解】（ペアまたはグループワーク） 原因・理由の表現、結果の表現に着目しながら、本文を読み解く</p> <p>#03 Unit 1: Things Happen for a Reason【文法】（ペアまたはグループワーク） 原因・理由と結果の表現を整理しながら問題演習を行う 小テスト(1): Unit 1 本文</p> <p>#04 Unit 1: Things Happen for a Reason【作文】（ペアまたはグループワーク） スマホのマナー違反について作文する 小テスト(2): Unit 1 文法</p> <p>#05 Unit 2: Same or Different?【読解】（ペアまたはグループワーク） 比較・対象の表現に着目しながら、本文を読み解く 課題提出(1): Unit 1 作文</p> <p>#06 Unit 2: Same or Different?【文法】（ペアまたはグループワーク） 比較の表現を整理しながら問題演習を行う 小テスト(3): Unit 2 本文</p> <p>#07 Unit 2: Same or Different?【作文】（ペアまたはグループワーク） イヌ派 vs ネコ派について作文する 小テスト(4): Unit 2 文法</p> <p>#08 Unit 3: Here's What I Think【読解】（ペアまたはグループワーク） 不定詞の用法に着目しながら、本文を読み解く 課題提出(2): Unit 2 作文</p> <p>#09 Unit 3: Here's What I Think【文法】（ペアまたはグループワーク） 不定詞の用法を整理しながら問題演習を行う 小テスト(5): Unit 3 本文</p> <p>#10 Unit 3: Here's What I Think【作文】（ペアまたはグループワーク） 自分の好きな季節について作文する 小テスト(6): Unit 3 文法</p> <p>#11 Unit 4: Sorting Things Out【読解】（ペアまたはグループワーク） 受動態の用法に着目しながら、本文を読み解く 課題提出(3): Unit 3 作文</p> <p>#12 Unit 4: Sorting Things Out【文法】（ペアまたはグループワーク） 受動態の用法を整理しながら問題演習を行う 小テスト(7): Unit 4 本文</p> <p>#13 Unit 4: Sorting Things Out【作文】（遠隔#1） インバウンド需要について作文する 小テスト(8): Unit 4 文法</p>
------	--

	<p>#14 既習事項の復習①（遠隔#2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド配信教材で既習の語彙や文法を復習する ・教材への取り組みをもって出席とみなす <p>#15 既習事項の復習②（遠隔#3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド配信教材で既習の語彙や文法を復習する ・教材への取り組みをもって出席とみなす 								
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎C：指定されたテーマについて70語程度の文章を書くことができる</p> <p>○D：まとまりのある文章を読んで、段落ごとの要点を口頭で指摘することができる</p>								
事前・事後学習	<p>事前学習（30分）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 読解課題内の語句を調べて大まかなあらすじを理解しておく ② 文法の解説と例文を読んで、理解が怪しい箇所を確認しておく ③ 英文整序課題を筆写して文章の「型」を理解しておく <p>事後学習（60分）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本文を音読して英語表現および論理展開の流れを確認する ② 文法事項の演習問題に取り組んで理解を定着させる ③ 当該ユニットの学習内容をふまえてまとまりのある文章を書く 								
指導方法	<p>1つのユニットを ①読解演習、②文法演習、③作文演習 の3つのステップで進める。ワークシートの提出により、課題の進捗を確認する。</p> <p>フィードバックの方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業内での質疑応答、小テストの実施、②授業内での質疑応答、小テストの実施、③課題の提出&添削 								
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎C：小テストの成績、ワークシートの取り組み状況、ライディング課題の内容で評価する</p> <p>○D：授業への貢献度、統一単語テストの成績で評価する</p> <table> <tr> <td>授業への貢献度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>小テストの成績</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>キクタンテスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>課題提出の状況</td> <td>40%</td> </tr> </table>	授業への貢献度	20%	小テストの成績	20%	キクタンテスト	20%	課題提出の状況	40%
授業への貢献度	20%								
小テストの成績	20%								
キクタンテスト	20%								
課題提出の状況	40%								
テキスト	Robert Hickling & Jun Yashima, Jigsaw - Insightful Reading to Successful Writing, Cengage Learning, 2020. (ISBN : 9784863123694)								
参考書									
履修上の注意	ほぼ毎週何らかの宿題を課し、授業内で提出してもらいます。1つ1つの課題は決して難しくありませんが、締切を守って規則正しく取り組むことが求められます。課題提出が滞る場合、単位認定はできません。								
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク								

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E12A04			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎力を養うことを目的とする。リーディングに関しては多読教材を使用して、大量の英語の文章を読み、英文読解力の向上を図る。またライティングに関しては実例から抜き出されたテンプレートを活用し、英語らしい「情報の展開パターン」を学ぶことを目的とする。実用的かつ実践的なライティングスキルを習得する。 (授業目標) グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：エッセイのスタイルの応じて、90語程度の英語の文章を書くことができる。 ○D：大量の英語を制限時間内に読み切り、正確に読解すると同時に自分の言葉でまとめることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション、Planning for your study 授業の進め方やテキストについて説明を行う。 2 Ch.1 Self-Introduction (ペアワーク：パッセージの内容をペアで報告) 日本語を母語とする学生と英語を母語とする学生が書いた自己紹介原稿を読み比べる。 3 Ch.1 Self-Introduction (ペアワーク：お互いの英文にフィードバックし、書き直す) 英語らしい自己紹介のポイントを把握し、完成させる。 4 Ch.2 Apologies (ペアワーク：パッセージの内容をペアで報告) 日本語を母語とする学生と英語を母語とする学生が書いた謝罪メールを読み比べる。 5 Ch.2 Apologies (ペアワーク：お互いの作文を添削する) 謝罪する場合の流れである「謝罪の表明、どうすべきであったかの認識の提示、教訓として学んだこと、今後の決意表明」の構成を学び、メール文を完成させる。 6 Ch.3 Reports (ペアワーク：パッセージの内容をペアで報告) 日本語を母語とする学生と英語を母語とする学生が書いた「サークルのイベント開催」についての報告書を読み比べる。 7 Ch.3 Reports (ペアワーク：お互いの作文を添削する) becauseを効果的に使用した英語の報告書の構成を学び、提示された報告書を完成させる。 8 ライティング課題① (オンデマンド) 報告書の形式に則って、これまでの自身の何かしらの活動についての報告書を英語で作成する。謝罪や反省の意を示すための文書を英語で作成する。 9 Ch.4 Requests (ペアワーク：パッセージの内容をペアで報告) 日本語を母語とする学生と英語を母語とする学生が書いた「留学先に提出する推薦状」を指導教官に依頼するメール文を読み比べる。 10 Ch.4 Requests (ペアワーク：お互いの作文を添削する) 丁寧に依頼するための婉曲表現の適切な書き方を学び、メール文を完成させる。 11 ライティング課題① (PBL型学習) (オンデマンド) 提示されたトピックの中から1つを選択し、80語程度のパラグラフを考え、書き終える。 12 リーディング課題 (PBL型学習) 世界最大の辞書であるThe Oxford English Dictionaryを使用し、現代社会のキーワードとなっている単語の意味を確認し、まとめる。 『キクタン』テストの実施。 13 多読教材を使用した英語多読リーディング演習① 図書館にある英語多読リーディング教材の中から一週間で読み切れるものと思われるものの中から一冊選択し、他者へ説明できるようにまとめながら読む。 14 多読教材を使用したリーディング演習② (グループワーク) 前回読んだリーディング教材について、あらためて内容を英語でまとめ、それをグループ内でシェアし、どの作品がもっとも興味を持つものだったのかをグループ内で検討する。 15 ライティング課題② (PBL型学習) (オンデマンド)
------	---

	提示されたトピックの中から1つを選択し、80語程度のパラグラフを考え、書き終える。 フォーマットに従って、全体を修正する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：一定のテーマについて63語程度の英語の文章を書くことができる。 ○D：一定のテーマについて書かれた英語の文章の構成（主題文や指示文など）を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：本文中の分からない語句を調べ、日本語訳を行う。(45分) 事後学習：語句や表現、文法を復習し、英文の音読を行う。(45分)
指導方法	一定のテーマに関して英語で書かれた文章の読み、文中に出てきた重要語句や表現、文法事項の確認を行う。 また、学んだ語彙や表現を用いて実際に英文を書く訓練を行う。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：ライティング課題・小テストの成績で評価する。 ○D：授業への貢献度と『キクタン』テスト・リーディング課題の成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 20% 『キクタン』テスト 20% リーディング課題 10% ライティング課題 20%
テキスト	Hirotooshi Yagihashi et al., English Template Writing (『英語の思考と型を身に付けるテンプレート・ライティング』), 金星堂, 2024. ISBN: 9784764742024
参考書	『ジーニアス英和辞典』第5版 大修館書店 / 『プログレッシブ英和中辞典』第5版 小学館 / 『新英和中辞典』第7版 研究社 / 『オーレックス英和辞典』第2版 旺文社 / 『ウィズダム英和辞典』第4版 三省堂 / 『リーダーズ英和中辞典』第2版 研究社 / 『アドバンストフェイバリット英和辞典』東京書籍 / 『コンパスローズ英和辞典』研究社
履修上の注意	授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
宮崎真弓			
ナンバリング：E12A04			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 本授業では、小説・物語と食文化の接点をテーマにした教材を扱い、基礎英文法の復習と、学んだ文法ルールを応用したリーディングおよび短いセンテンスのライティングを行う。英文エッセイの解釈やそれに対する自身の考えをまとめ、ペアやグループで意見交換をする時間も設ける。 (授業目標) 昨今のインバウンドビジネスの活発化やグローバル化を見据え、グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。英語で自身の意見を表明できるコミュニケーション力、英文から複雑な情報を読み取る・正確な英文を書ける能力の習得を目指す。 (学習成果) ◎C：新たに500語程度の英単語の語彙を習得することができる。 ○D：文型、品詞、時系といった基礎知識に従い、正確な単文を書く事ができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション（ペアワークまたはグループワーク） 授業の進め方、クラスルール、評価方法、課題、テキストについて説明する。 ライティングに備え、五文型と動詞の形、時制の基本を確認する。 2 Itの用法（ペアワークまたはグループワーク） Chapter 1: Harry Potter and Chocolate Frogsの読解。 Itの用法（形式主語、強調構文）を学ぶ。ライティング演習。 3 品詞（ペアワークまたはグループワーク） chapter 2: Peter Rabbit and Pieの読解。 名詞・動詞・形容詞・副詞を中心に品詞のルールを学ぶ。ライティング演習。 4 接続詞（ペアワークまたはグループワーク） Chapter 5: Daddy-Long-Legs and Ice Creamの読解。 重要接続詞を覚える。ライティング演習。 5 否定形（ペアワークまたはグループワーク） Chapter 6: Kenji Miyazawa and Tomatoesの読解。 否定文を学ぶ。ライティング演習。 6 比較（ペアワークまたはグループワーク） Chapter 7: O. Henry and "Witches' Loaves"の読解。 比較級を学ぶ。ライティング演習。 7 完了形（ペアワークまたはグループワーク） Chapter 8: The Old Man and Fishの読解。 現在完了、過去完了を学ぶ。ライティング演習。 8 動名詞（ペアワークまたはグループワーク） Chapter 9: East of Eden and Lettuceの読解。 動名詞を学ぶ。ライティング演習。 9 仮定法（ペアワークまたはグループワーク） Chapter 10: Laura and Cheese-making on the Prarieの読解。 仮定法を学ぶ。ライティング演習。 10 関係詞（ペアワークまたはグループワーク） chapter 11: Breakfast and Tiffany'sの読解。 関係代名詞・関係副詞を学ぶ。ライティング演習。 11 受動態（ペアワークまたはグループワーク） Chapter 12: Agatha Christie and Applesの読解。 受動態を学ぶ。ライティング演習。 12 『キクタン』テスト実施、講義総括、期末筆記試験 『キクタン』テスト実施予定日。半期の総括と、期末試験の実施。 13 課題英作文（オンデマンド） 指定された資料または設問を参照し、指示に従い英作文課題を作成、提出する。詳細は別途伝える。 14 課題英作文（オンデマンド）
------	---

	指定された資料または設問を参照し、指示に従い英作文課題を作成、提出する。詳細は別途伝える。 15 課題英作文（オンデマンド） 指定された資料または設問を参照し、指示に従い英作文課題を作成、提出する。詳細は別途伝える。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：食文化や日常生活、英語圏の小説その他文芸作品等の感想や意見を表すために、80words 程度の文章を書くことができる。 ○D：初級・中級レベルの英文エッセイの内容を正確に読み取ることができる。
事前・事後学習	事前学習：扱う英文に目を通し、分からない単語の意味を辞書で確認した上で授業に臨むこと。(45分) 事後学習：チャプター内の「Quiz」、または「Comprehension」を再度解く。授業内に扱った文法項目の復習。(45分)
指導方法	授業前半は英文読解を中心に行い、内容の解説と、重要となる文法項目の解説を行う。授業後半はテキストの問題演習に取り組み、書き換え・並び替え・空欄補充などの形式のライティングの設問に取り組み。演習形式のライティングに慣れてきたら、こちらが指定したトピックで自由英作文に取り組み。 フィードバックの方法：①授業中の質疑応答 ②作文題の提出&添削
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：ライティング課題・授業への貢献度・授業内期末試験で評価します。 ○D：授業への貢献度・(前期)『キクタン』テスト・授業内期末試験で評価します。 (評価方法) 授業への貢献度 30% (前期のみ)『キクタン』テスト 20% ライティング課題 20% 期末筆記試験 30%
テキスト	Fiona Wall Minami, 田口誠一, 本山ふじ子, 『フィクションにみる食文化：A Taste of English: Food and Fiction』(朝日出版社、2023年) ISBN:978-4-255-15528-9
参考書	
履修上の注意	ペアワークやグループワークには積極的に取り組んでください。また、ライティング課題は教員の指示に従った形式で作成してください。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
石田毅			
ナンバリング：E12A04			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 英文法の基礎を確認しながら短い英文を書く練習を積み重ね、最終的には短いパラグラフが書けるようになることを目指す。暗唱例文テストや作文課題、オンラインでの問題演習など、授業外でも取り組みを求める。1つ1つの課題は難しくないが、計画的に取り組む姿勢が必要となる。 (授業目標) グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：締切を守ってさまざまな課題に取り組むことができる ○D：身近なテーマについてまとまりのある文章（70語程度）を書くことができる
----------------------------------	--

授業計画	Week #01 授業オリエンテーション（ペアまたはグループワーク） ・授業の進め方、成績評価の方法、授業担当者との連絡方法等を説明する ・オンライン教材「リンガポルタ」に登録し、学習を始める Week #02 Unit 1: Introduce Yourself 【前半】（ペアまたはグループワーク） ・自己紹介に役立つ表現を確認する ・文法項目（be動詞、疑問詞）を確認し、例文を暗唱する Week #03 Unit 1: Introduce Yourself 【後半】（ペアまたはグループワーク） ・ヒロミの自己紹介文を読み解く ・自分の自己紹介文を書く Week #04 Unit 2: Introduce Your Friends 【前半】（ペアまたはグループワーク） ・人の描写に役立つ表現を確認する ・文法項目（一般動詞の現在形）を確認し、例文を暗唱する Week #05 Unit 2: Introduce Your Friends 【後半】（ペアまたはグループワーク） ・級友の紹介文を読み解く ・自分の親しい人の紹介文を書く Week #06 Unit 3: Write about Your Weekend 【前半】（ペアまたはグループワーク） ・出来事や行為の描写に役立つ表現を確認する ・文法項目（一般動詞の過去形）を確認し、例文を暗唱する Week #07 Unit 3: Write about Your Weekend 【後半】（ペアまたはグループワーク） ・ヒロミの週末の出来事を読み解く ・自分の休暇の思い出を説明する Week #08 Unit 4: Write about Your Part-time Job 【前半】（ペアまたはグループワーク） ・仕事の説明に役立つ表現を確認する ・文法項目（現在進行形、過去進行形）を確認し、例文を暗唱する Week #09 Unit 4: Write about Your Part-time Job 【後半】（ペアまたはグループワーク） ・ヒロミのアルバイトに関する文章を読み解く ・自分のアルバイトを説明する Week #10 Unit 5: Write about Your Summer Plans 【前半】（ペアまたはグループワーク） ・予定の説明に役立つ表現を確認する ・文法項目（未来表現）を確認し、例文を暗唱する Week #11 Unit 5: Write about Your Summer Plans 【後半】（ペアまたはグループワーク） ・ヒロミの夏休みの計画を読み解く ・夏休みの予定を説明する Week #12 Unit 6: Giving Directions to Your House 【前半】（ペアまたはグループワーク） ・道案内に役立つ表現を確認する ・文法項目（助動詞の用法）を確認し、例文を暗唱する Week #13 既習文法の復習①（遠隔#1） ・オンデマンド配信教材で既習語彙や文法事項を復習する ・教材への取り組みをもって出席とみなす Week #14 既習文法の復習②（遠隔#2） ・オンデマンド配信教材で既習語彙や文法事項を復習する
------	---

	<p>・教材への取り組みをもって出席とみなす</p> <p>Week #15 Unit 6 : Giving Directions to Your House 【後半】 (遠隔#3)</p> <p>・お気に入りの場所までの道案内を書く</p> <p>・課題の提出をもって出席とみなす</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎C : 定められた課題を何とか完了することができる</p> <p>○D : 身近なテーマについて49語程度の文章を書くことができる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (30分) 次回授業の該当箇所を確認し、オンライン教材で語彙と文法を確認する</p> <p>事後課題 (60分) 指示された例文の暗唱、英作文の課題の完成、オンライン教材で語彙・文法演習に取り組む</p>
指導方法	<p>語彙と文法の確認をした後に、テーマに沿った10個の単文作文を行う。さらに10個の例文を日本語→英語でスムーズに言えるよう口頭練習も行う。例文を応用した文章読解を行った後、読んだ文章を参照しながら情報を自分に関する内容に書き換えた文章を作成する。10個の例文暗唱と自分に関する文章作成が評価の主な対象となる。</p> <p>フィードバックの方法 : ①授業内での質疑応答 ②小テストの採点&添削 ③作文課題の提出&添削</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎C : 授業内小テストの成績、オンライン教材 (リンガポルタ) の進捗状況で評価する</p> <p>○D : 作文課題の提出状況、キクタンテストの成績で評価する</p> <p>授業への貢献度 20%</p> <p>授業内小テスト 20%</p> <p>作文課題の提出 40%</p> <p>キクタンテスト 20%</p>
テキスト	<p>Teruhiko Kamoyama & Timothy F. Hawthorne, Let's Write & Learn English - From Sentence to Paragraph -, SEIBIDO, 2025. (ISBN : 9784791973088)</p>
参考書	<p>必要の応じて授業内で指示する</p>
履修上の注意	<p>わからないことはできるだけ授業内で解決しましょう。質問は決して恥ずかしいコトではありません。わからないことを少しでも理解するように、できないことを少しずつできることに変えるために学校へ通うのだという大前提を再確認し、わからないことは遠慮なく質問してください。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	<p>ペアワーク、グループワーク</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
東祥子			
ナンバリング：E12A04	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 基礎英語の修得に焦点を当てた授業です。様々なシチュエーションで使える英語を基礎文法にそって理解し、語彙・熟語を増やし、実践英語を意識した授業です。また、身近な日常生活における基礎的な英語表現をライティングとリーディングを通して学びます。基礎文法を重視した授業です。 (授業目標) グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：50 words 程度の文章を書くことができる。語彙力を養い、基礎文法をしっかりと理解することができる。 ○D：文法を理解し、正しい英語を書き、文章を正しく読めることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 be動詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 2 be動詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 3 一般動詞の現在形 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 4 一般動詞の現在形 reading (オンデマンド授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 5 代名詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 6 代名詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 7 進行形 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 8 進行形 reading (オンデマンド授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 9 時・場所を表す前置詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 10 時・場所を表す前置詞 reading (オンデマンド授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 11 加算名詞・府可算名詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 12 加算名詞・府可算名詞 reading (PBL型授業)、キクタン単語テスト 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 キクタン単語テスト 13 一般動詞の過去形 writing (PBL型授業)
------	---

	<p>14 文法を理解し、例文作成、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 一般動詞の過去形 reading (PBL型授業)</p> <p>15 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 ペアワーク 単語テスト 疑問詞 writing・筆記試験 文法を理解し、例文作成、筆記試験</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎C：授業外でも毎日音読・単語を繰り返し演習することができる。</p> <p>○D：基礎文法を理解し、学習した語彙・表現・熟語を生かしreading & writingができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：翌週の授業範囲の単語等の意味調べ・例文音読 (45分)</p> <p>事後学習：単語の復習・例文音読・フレーズの書写 (45分)</p>
指導方法	<p>WRITING：各回の文法を理解した上で、例文を各人作成して発表。</p> <p>READING：各回の文法を取り入れた例文を各人和訳して発表。</p> <p>毎回発音を意識してクラスで音読。一方的な講義ではなく、参加型。ペアワークを積極的に取り入れる。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎C：授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習で評価する。</p> <p>◎D：課題、試験で評価する。</p> <p>授業への貢献度 30%</p> <p>単語テスト 30%</p> <p>筆記試験 40%</p>
テキスト	English Missions! Starter, Robert HICKLING, Misato USUKURA (金星堂、2024) ISBN978-4-7647-4070-9 C1082
参考書	授業時に紹介
履修上の注意	授業には必ず辞書を持ってくること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、PBL型

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
石田毅			
ナンバリング：E12A05			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) さまざまなジャンルのまとまった英文を精読し、これを適宜参照しながら自分の意見を含めた論理的な英文を書く演習を行います。1つのユニットに対して、①読解演習、②文法演習、③作文演習、の3つのステップで授業を構成します。総合的な英語力を伸ばすためにリーディング力は必須の力であり、特にリスニング力やライティング力の基盤となります。「何となくわかった気になる」だけの読み方から「自信を持って読める」読み方へと進めていきましょう。</p> <p>(授業目標) グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。</p> <p>(学習成果) ◎C：指定されたテーマについて自分の考えを含む論理的でまとまりのある文章（200語程度）を書くことができる ○D：英語の基本構造と論理展開に留意しながら、まとまりのある文章を正確に読み取ることができる</p>
----------------------------------	--

授業計画	#01 Unit 5: Step by Step 【読解】（ペアまたはグループワーク） 時を表す表現に着目しながら本文を読み解く #02 Unit 5: Step by Step 【文法】（ペアまたはグループワーク） 時を表す表現を整理しながら問題演習を行う 小テスト(1): Unit 5 本文 #03 Unit 5: Step by Step 【作文】（ペアまたはグループワーク） 得意料理のレシピを作成する 小テスト(2): Unit 5 文法 #04 プレゼンテーション（グループワーク） 得意料理のレシピを口頭で発表する 課題提出(1): Unit 5 作文 #05 Unit 6: Feeling Through Your Senses 【読解】（ペアまたはグループワーク） 形容詞と副詞の用法に着目しながら本文を読み解く #06 Unit 6: Feeling Through Your Senses 【作文】（ペアまたはグループワーク） 自分の好きな場所を描写する 小テスト(3): Unit 6 本文 #07 Unit 7: Don't You Agree? 【読解】（ペアまたはグループワーク） 無生物主語の構文に着目しながら本文を読み解く 課題提出(2): Unit 6 作文 #08 Unit 7: Don't You Agree? 【作文】（ペアまたはグループワーク） 「自由時間などお金はどちらがより大切か」の意見文を書く 小テスト(4): Unit 7 本文 #09 Unit 8: You Be the Judge 【読解】（ペアまたはグループワーク） 完了時制に着目しながら本文を読み解く 課題提出(3): Unit 7 作文 #10 Unit 8: You Be the Judge 【読解】（ペアまたはグループワーク） 飲食店のクチコミ評価を書く 小テスト(5): Unit 8 本文 #11 Unit 9: Two Sides to Every Story 【読解】（ペアまたはグループワーク） 賛成反対の対立に着目しながら本文を読み解く 課題提出(4): Unit 8 作文 #12 Unit 9: Two Sides to Every Story 【作文】（ペアまたはグループワーク） ネットショッピングの長所と短所を作文する 小テスト(6): Unit 9 本文 #13 Unit 6: Feeling Through Your Senses 【文法】（遠隔） 形容詞と副詞の用法を整理しながら問題演習を行う 小テスト(7): Unit 6 文法 #14 Unit 7: Don't You Agree? 【文法】（遠隔）
------	---

	<p>無生物主語の構文を整理しながら問題演習を行う 小テスト(8) : Unit 7 文法</p> <p>#15 Unit 8 : You Be the Judge 【文法】 (遠隔) 完了時制の用法を整理しながら問題演習を行う 小テスト(9) : Unit 8 文法</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎C : 指定されたテーマについて140語程度の文章を書くことができる ○D : まとまりのある文章を読んで、段落ごとの要点を口頭で指摘することができる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (30分)</p> <p>① 読解課題内の語句を調べて大まかなあらすじを理解しておく ② 文法の解説と例文を読んで、理解が怪しい箇所を確認しておく ③ 英文整序課題を筆写して文章の「型」を理解しておく</p> <p>事後学習 (60分)</p> <p>① 本文を音読して英語表現および論理展開の流れを確認する ② 文法事項の演習問題に取り組んで理解を定着させる ③ 当該ユニットの学習内容をふまえてまとまりのある文章を書く</p>
指導方法	<p>1つのユニットを ①読解演習、②文法演習、③作文演習、の3つのステップで進める。ワークシートの提出で課題の進捗を確認する</p> <p>フィードバックの方法： ①授業内での質疑応答、小テストの実施、②授業内での質疑応答、小テストの実施、③課題の提出&添削</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎C : 小テストの成績、ライディング課題の内容で評価する ○D : 授業への貢献度、ワークシートの取り組み状況で評価する</p> <p>授業への貢献度 20% 小テストの成績 30% 課題提出の状況 50%</p>
テキスト	Robert Hickling & Jun Yashima, Jigsaw - Insightful Reading to Successful Writing, Cengage Learning, 2020. (ISBN : 9784863123694)
参考書	
履修上の注意	ほぼ毎週何らかの宿題を課し、授業内で提出してもらいます。1つ1つの課題は決して難しくありませんが、締切を守って規則正しく取り組むことが求められます。課題提出が滞る場合、単位認定はできません。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E12A05			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎力を養うことを目的とする。リーディングに関しては多読教材を使用して、大量の英語の文章を読み、英文読解力の向上を図る。またライティングに関しては実例から抜き出されたテンプレートを活用し、英語らしい「情報の展開パターン」を学ぶことを目的とする。実用的かつ実践的なライティングスキルを習得する。 (授業目標) グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：エッセイのスタイルに応じて、180語程度の英語の文章を書くことができる。 ○D：大量の英語を制限時間内に読み切り、正確に読解すると同時に自分の言葉でまとめることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 Ch. 5 Declining / Refusals (ペアワーク：パッセージの内容をペアで報告) 日本語を母語とする学生と英語を母語とする学生が書いた、ある企業担当者に断りを入れるメール文を読み比べる。 2 Ch. 5 Declining / Refusals (ペアワーク：お互いの英文にフィードバックし、書き直す) 英語らしい断りの表現のポイントを把握し、完成させる。 3 Ch. 6 Proposals (ペアワーク：パッセージの内容をペアで報告) 日本語を母語とする学生と英語を母語とする学生が書いた大学への提案文を読み比べる。 4 Ch. 6 Proposals (ペアワーク：お互いの作文を添削する) 英語の提案文の特徴を学び、分かりやすい提案文を完成させる。 5 ライティング課題A (オンデマンド) あるトピックに沿って断りの表現を含めた文書を英語で作成する。 あるトピックに関する提案文書を英語で作成する。 6 Ch. 7 Recommendations / Personal Statements (ペアワーク：パッセージの内容をペアで報告) 日本語を母語とする学生と英語を母語とする学生が書いた志望する企業への「志望動機・理由書」「自己推薦書」を読み比べる。 7 Ch. 7 Recommendations / Personal Statements (ペアワーク：お互いの作文を添削する) 英語の志望動機・理由書の構成を学び、例として奨学金応募フォームを完成させる。 8 Ch. 8 Opinions (ペアワーク：パッセージの内容をペアで報告) 日本語を母語とする学生と英語を母語とする学生が書いた「リサーチ課題を行う際の方法」について、適切な方法が何かを述べた文を読み比べる。 9 Ch. 8 Opinions (ペアワーク：お互いの作文を添削する) 議論の余地がある事柄に対して、自身の立場を述べる英語的な構成を学び、自分の意見を表明する文を完成させる。 10 Ch. 9 Asking for Advice (ペアワーク：パッセージの内容をペアで報告) 良いアドバイスをもらうために、何が問題かを示し、相談先に何を求めているのかを明確にするための文を完成させる。 11 ライティング課題B① (PBL型学習) (オンデマンド) 今年一年で最も面白かった文化的コンテンツ (本、映画、音楽、舞台、アニメなど) の中から1つを選択し、150~180語程度のエッセイの構成を考え、書き始める。 12 英語資格試験特別対策講座 TOEIC® IPテストなどの英語資格試験の特別対策講座を通じて、スコアアップを目指す。 13 多読教材を使用した英語多読リーディング演習① 図書館にある英語多読リーディング教材の中から一週間で読み切れるものと思われるものの中から一冊選択し、他者へ説明できるようにまとめながら読む。 14 多読教材を使用したリーディング演習② (グループワーク) 前回読んだリーディング教材について、あらためて内容を英語でまとめ、それをグループ内でシェアし、どの作品がもっとも興味を持つものだったのかをグループ内で検討する。 15 ライティング課題B② (PBL型学習) (オンデマンド)
------	--

	今年一年で最も面白かった文化的コンテンツ（本、映画、音楽、舞台、アニメなど）の中から1つを選択し、150～180語程度のエッセイの構成を考え、書き終える。 エッセイのフォーマットに従って、全体を修正する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：一定のテーマについて126語程度の英語の文章を書くことができる。 ○D：一定のテーマについて書かれた英語の文章の構成（主題文や指示文など）を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：本文中の分からない語句を調べ、日本語訳を行う。(45分) 事後学習：語句や表現、文法を復習し、英文の音読を行う。(45分)
指導方法	一定のテーマに関して英語で書かれた文章の読み、文中に出てきた重要語句や表現、文法事項の確認を行う。 また、学んだ語彙や表現を用いて実際に英文を書く訓練を行う。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：ライティング課題・小テストの成績で評価する。 ○D：授業への貢献度・小テスト・リーディング課題の成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 30% リーディング課題 20% ライティング課題 20%
テキスト	Hirotooshi Yagihashi et al., English Template Writing (『英語の思考と型を身に付けるテンプレート・ライティング』), 金星堂, 2024. ISBN: 9784764742024
参考書	『ジーニアス英和辞典』第5版 大修館書店 / 『プログレッシブ英和中辞典』第5版 小学館 / 『新英和中辞典』第7版 研究社 / 『オーレックス英和辞典』第2版 旺文社 / 『ウィズダム英和辞典』第4版 三省堂 / 『リーダーズ英和中辞典』第2版 研究社 / 『アドバンストフェイバリット英和辞典』東京書籍 / 『コンパスローズ英和辞典』研究社
履修上の注意	授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
宮崎真弓			
ナンバリング：E12A05			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 本授業では、基礎英文法の復習と、学んだ文法ルールを応用したリーディングおよびライティングを実践する。英文エッセイの解釈やそれに対する自身の考えをまとめ、ペアやグループで意見交換をする時間も設ける。 (授業目標) 昨今のインバウンドビジネスの活発化やグローバル化を見据え、「グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。英語で自身の意見を表明できるコミュニケーション力、英文から複雑な情報を読み取る・正確な英文を書ける能力の習得を目指す。 (学習成果) ◎C：新たに500語程度の英単語の語彙を習得することができる。 ○D：文型、品詞、時系といった基礎知識に従い、正確な単文を書く事ができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション（ペアワークまたはグループワーク） 授業の進め方、クラスルール、評価方法、課題、テキストについて説明する。 ライティングに備え、前期の学習内容をレビューする。 2 現在時制と現在進行形（ペアワークまたはグループワーク） Unit1: These Are the Facts エッセイ読解。現在時制と現在進行形を学ぶ。事実と意見の表明のライティング演習。 3 動詞の種類（ペアワークまたはグループワーク） Unit2: Separating into Groups エッセイ読解。動詞の種類を学ぶ。分類に役立つ表現を用いたライティング演習。小テスト予定。 4 人称代名詞（ペアワークまたはグループワーク） Unit4: Sizing Things Up エッセイ読解。人称代名詞を学ぶ。文章内の指示と主題の明示を意識したライティング演習。 5 過去時制と過去進行形（ペアワークまたはグループワーク） Unit5: Mission Accomplished エッセイ読解。過去形・過去進行形を学ぶ。表現の重複を避けるライティング演習。 6 前置詞（ペアワークまたはグループワーク） Unit6: This Really Happened エッセイ読解。前置詞を学ぶ。直接話法・間接話法を用いたライティング演習。小テスト予定。 7 助動詞（ペアワークまたはグループワーク） Unit7: Every Problem Has a Solution エッセイ読解。助動詞を学ぶ。無生物主語を用いたセンテンスのライティング演習。 8 疑問文（ペアワークまたはグループワーク） Unit8: Writing to Clarify エッセイ読解。パラフレーズを意識したライティング演習。小テスト予定。 9 to 不定詞・動名詞を目的語にとる動詞（ペアワークまたはグループワーク） Unit9: Don't You See It My Way? エッセイ読解。to 不定詞・動名詞を目的語にとる動詞を学ぶ。情報を追加するライティング演習。 10 現在完了（ペアワークまたはグループワーク） Unit10: One Thing Leads to Another エッセイ読解。現在完了の復習。原因・理由と結果を表すライティング演習。 11 未来形（ペアワークまたはグループワーク） Unit12: What Do You Think? エッセイ読解。未来形を学ぶ。意見を主張するライティング演習。 12 講義総括、期末筆記試験 半期の総括と、期末試験の実施。 13 課題英作文（オンデマンド） 指定された資料または設問を参照し、指示に従い英作文課題を作成、提出する。詳細は別途伝え
------	---

	<p>14 る。 課題英作文（オンデマンド） 指定された資料または設問を参照し、指示に従い英作文課題を作成、提出する。詳細は別途伝える。</p> <p>15 課題英作文（オンデマンド） 指定された資料または設問を参照し、指示に従い英作文課題を作成、提出する。詳細は別途伝える。</p>								
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎C：英語を媒介にして、情報や意見を理解・伝達できる。160words 程度の文章を書くことができる。</p> <p>○D：初級・中級レベルの英文エッセイの内容を正確に読み取ることができる。</p>								
事前・事後学習	<p>事前学習：扱う英文に目を通し、分からない単語の意味を辞書で確認した上で授業に臨むこと。（45分）</p> <p>事後学習：授業内に扱った文法項目の復習。（45分）</p>								
指導方法	<p>授業前半は英文読解を中心に行い、内容の解説と、重要となる文法項目の解説を行う。授業後半はテキストの問題演習に取り組み、書き換え・並び替え・空欄補充などの形式のライティングの設問に取り組む。演習形式のライティングに慣れてきたら、こちらが指定したトピックで自由英作文に取り組む。</p> <p>フィードバックの方法：①授業中の質疑応答 ②小テストの添削 ③作文題の提出&添削</p>								
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎C：ライティング課題・授業への貢献度・授業内期末試験で評価します。</p> <p>○D：授業への貢献度・小テストで評価します。</p> <p>（評価方法）</p> <table> <tr> <td>授業への貢献度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>ライティング課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>期末筆記試験</td> <td>40%</td> </tr> </table>	授業への貢献度	30%	ライティング課題	20%	小テスト	10%	期末筆記試験	40%
授業への貢献度	30%								
ライティング課題	20%								
小テスト	10%								
期末筆記試験	40%								
テキスト	<p>Robert Hickling, Jun Yashima, 'Jigsaw Intro: Insightful Reading to Successful Writing' (Cengage Learning, 2021年) ISBN:978-4863123861</p>								
参考書									
履修上の注意	<p>ペアワークやグループワークには積極的に取り組んでください。また、ライティング課題は教員の指示に従った形式で作成してください。</p>								
アクティブ・ラー ニング、PBL	<p>ペアワーク、グループワーク</p>								

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
石田毅			
ナンバリング：E12A05			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 英文法の基礎を確認しながら短い英文を書く練習を積み重ね、最終的には短いパラグラフが書けるようになることを目指す。暗唱例文テストや作文課題、オンラインでの問題演習など、授業外でも取り組みを求める。1つ1つの課題は難しくないが、計画的に取り組む姿勢が必要となる。 (授業目標) グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：締切を守ってさまざまな課題に取り組むことができる ○D：身近なテーマについてまとまりのある文章(140語程度)を書くことができる
----------------------------------	---

授業計画	Week #01 Unit 7: Write about Your Favorite Things 【前半】 (ペアまたはグループワーク) ・後期の授業計画や評価方法を説明する ・お気に入りの説明に役立つ表現を確認する ・文法項目(受動態)を確認し、例文を暗唱する Week #02 Unit 7: Write about Your Favorite Things 【後半】 (ペアまたはグループワーク) ・ヒロミの好きな映画について読み解く ・お気に入りの作品を説明する Week #03 Unit 8: Write about Things You Enjoy 【前半】 (ペアまたはグループワーク) ・趣味の説明に役立つ表現を確認する ・文法項目(現在完了形)を確認し、例文を暗唱する Week #04 Unit 8: Write about Things You Enjoy 【後半】 (ペアまたはグループワーク) ・ヒロミの趣味について読み解く ・好きな活動について書く Week #05 Unit 9: Write about Your Schoolwork 【前半】 (ペアまたはグループワーク) ・理由の説明に役立つ表現などを確認する ・文法項目(比較表現)を確認し、例文を暗唱する Week #06 Unit 9: Write about Your Schoolwork 【後半】 (ペアまたはグループワーク) ・ヒロミの学業成績について読み解く ・前期の成績について書く Week #07 Unit 10: Give Your Ideas - How to Improve Your English 【前半】 (ペアまたはグループワーク) ・英語学習法の説明に役立つ表現などを確認する ・文法項目(不定詞の用法)を確認し、例文を暗唱する Week #08 Unit 10: Give Your Ideas - How to Improve Your English 【後半】 (ペアまたはグループワーク) ・ヒロミの英語学習法について読み解く ・オススメの英語学習法について書く Week #09 Unit 11: Explain Japanese Food 【前半】 (ペアまたはグループワーク) ・日本の食べ物や料理の紹介に役立つ表現を確認する ・文法項目(分詞の用法)を確認し、例文を暗唱する Week #10 Unit 11: Explain Japanese Food 【後半】 (ペアまたはグループワーク) ・納豆に関する文章を読み解く ・日本の食べ物や料理を説明する Week #11 Unit 12: Give Your Ideas about Sports 【前半】 (ペアまたはグループワーク) ・スポーツの効用に関する表現を確認する ・文法項目(動名詞の用法)を確認し、例文を暗唱する Week #12 Unit 12: Give Your Ideas about Sports 【後半】 (ペアまたはグループワーク) ・スポーツをすべきかの議論を読み解く ・「誰もがスポーツをすべきか」について意見を書く Week #13 既習文法の復習①(遠隔#1) ・オンデマンド配信教材で既習語彙や文法事項を復習する ・教材への取り組みをもって出席とみなす
------	--

	<p>Week #14 既習文法の復習② (遠隔#2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド配信教材で既習語彙や文法事項を復習する ・教材への取り組みをもって出席とみなす <p>Week #15 Unit 14: Write to Yourself 10 Years from now (遠隔#3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年後の自分宛に手紙を書く ・課題の提出をもって出席とみなす 								
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎C : 定められた課題を何とか完了することができる</p> <p>○D : 身近なテーマについて98語程度の文章を書くことができる</p>								
事前・事後学習	<p>事前学習 (30分) 次回授業の該当箇所を確認し、オンライン教材で語彙と文法を確認する</p> <p>事後課題 (60分) 指示された例文の暗唱、英作文の課題の完成、オンライン教材で語彙・文法演習に取り組む</p>								
指導方法	<p>語彙と文法の確認をした後に、テーマに沿った10個の単文作文を行う。さらに10個の例文を日本語→英語でスムーズに言えるよう口頭練習も行う。例文を応用した文章読解を行った後、読んだ文章を参照しながら情報を自分に関係する内容に書き換えた文章を作成する。10個の例文暗唱と自分に関する文章作成が評価の主な対象となる。</p> <p>フィードバックの方法 : ①授業内での質疑応答 ②小テストの採点&添削 ③作文課題の提出&添削</p>								
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎C : 授業内小テストの成績、オンライン教材 (リングポルタ) の進捗状況で評価する</p> <p>○D : 作文課題の提出状況で評価する</p> <table> <tr> <td>授業への貢献度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業内小テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>作文課題の提出</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>オンライン課題</td> <td>20%</td> </tr> </table>	授業への貢献度	20%	授業内小テスト	20%	作文課題の提出	40%	オンライン課題	20%
授業への貢献度	20%								
授業内小テスト	20%								
作文課題の提出	40%								
オンライン課題	20%								
テキスト	Teruhiko Kamoyama & Timothy F. Hawthorne, Let's Write & Learn English - From Sentence to Paragraph -, SEIBIDO, 2025. (ISBN : 9784791973088)								
参考書	必要の応じて授業内で指示する								
履修上の注意	わからないことはできるだけ授業内で解決しましょう。質問は決して恥ずかしいコトではありません。わからないことを少しでも理解するように、できないことを少しずつできることに変えるために学校へ通うのだという大前提を再確認し、わからないことは遠慮なく質問してください。								
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク								

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
東祥子			
ナンバリング：E12A05	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	授業内容) 基礎英語の修得に焦点を当てた授業です。様々なシチュエーションで使える英語を基礎文法にそって理解し、語彙・熟語を増やし、実践英語を意識した授業です。また、身近な日常生活における基礎的な英語表現をライティングとリーディングを通して学びます。基礎文法を重視した授業です。 (授業目標) グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：100 words 程度の文章を書くことができる。語彙力を養い、基礎文法をしっかり理解することができる。 ○D：文法を理解し、正しい英語を書き、文章を正しく読めることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 疑問詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 2 接続詞 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 単語テスト ペアワーク 3 接続詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 4 動名詞・不定詞 writing (オンデマンド授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 5 動名詞・不定詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 6 未来形 writing (PBL型授業) 文法を理解単語テストし、例文作成、音読・書写 単語テスト ペアワーク 7 未来形 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 8 現在完了形 writing (オンデマンド授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 9 現在完了形 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク 10 比較級・最上級 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 単語テスト ペアワーク 11 比較級・最上級 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク
------	--

	12	助動詞 writing (オンデマンド授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写
	13	助動詞 reading (PBL型授業) 文法を理解し、文章表現を学び読み込む、音読・書写 単語テスト ペアワーク
	14	受動態 writing (PBL型授業) 文法を理解し、例文作成、音読・書写 単語テスト ペアワーク
	15	受動態 reading、筆記試験 文法を理解し、例文作成、筆記試験
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：授業外でも毎日音読・単語を繰り返し演習することができる。 ○D：基礎文法を理解し、学習した語彙・表現・熟語を生かしreading & writingができる。	
事前・事後学習	事前学習：翌週の授業範囲の単語等の意味調べ・例文音読（45分） 事後学習：単語の復習・例文音読・フレーズの書写（45分）	
指導方法	WRITING：各回の文法を理解した上で、例文を各人作成して発表。 READING：各回の文法を取り入れた例文を各人和訳して発表。 毎回発音を意識してクラスで音読。一方的な講義ではなく、参加型。ペアワークを積極的に取り入れる。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習で評価する。 ◎D：課題、試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 30% 筆記試験 40%	
テキスト	English Missions! Starter, Robert HICKLING, Misato USUKURA (金星堂、2024) ISBN978-4-7647-4070-9 C1082	
参考書	授業時に紹介	
履修上の注意	授業には必ず辞書を持ってくること。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、PBL型	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E22A06			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course helps EFL students build fluency and confidence in spoken English through vocabulary, grammar, and interactive activities. Students aiming for A/S grades must actively participate and demonstrate strong language skills, with a top 10% final test score required. (Goals) This course aims to enhance students' listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and ability to apply English in real-world situations. (Achievements) ◎D : Be able to express one's opinion in spoken form with a length of approximately 300 words. ○E : This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently.
----------------------------------	---

授業計画	1 Unit 1. Have you two met? (Pair work, Group work, Discussion) Introductions and relationships. 2 Unit 1. Have you two met? (Pair work, Group work, Discussion) Exchange information about your hobbies and interests. 3 Unit 2. You must be excited (Pair work, Group work, Discussion) Describe your feelings. 4 Unit 2. You must be excited (Pair work, Group work, Discussion) Ask about your partner's feelings. Express empathy. 5 Unit 3. Where should I go? (Pair work, Group work, Discussion) Talk about a trip. 6 Unit 3. Where should I go? (Pair work, Group work, Discussion) Make recommendations. 7 Unit 4. I love that (Pair work, Group work, Discussion) Express agreement and disagreement. 8 Unit 4. I love that (Pair work, Group work, Discussion) Share your opinions. Ask about your partner's opinions. 9 Unit 5. What's your excuse? (Pair work, Group work, Discussion) Make requests. 10 Unit 5. What's your excuse? (Pair work, Group work, Discussion) Make excuses. Accept and refuse offers. 11 Speaking Test 1 In-class final exam. 12 Speaking Test 2 In-class final exam. 13 On-Demand Assignment 1: Everyday Conversations - Role-Play Video Objective: Practice common English conversations in real-life situations. Task: Work with a partner to create a short role-play video based on a given scenario. 14 On-Demand Assignment 2: Storytelling - Describe a Memorable Experience Objective: Improve fluency by narrating a personal experience in a clear, engaging way. Task: Record a 2-3 minute video sharing a real-life story in English. 15 On-Demand Assignment 3: Job and Career Exploration Interview Objective: Conduct and record a short interview to practice real-world communication. Task: Choose someone with an interesting job and interview them in English.
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D : Students can make a presentation in about 210 words. ○E : Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be assigned as homework to complete before class (30 minutes). After class, students are expected to review key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 minutes). Additionally, students should keep a record of new vocabulary and key phrases learned in class.
指導方法	Students will receive ongoing feedback on participation and spoken assignments. Lessons are conducted primarily in English, focusing on speaking and listening skills. Each unit is covered over two lessons with pair and group activities to enhance fluency, pronunciation, and comprehension. Interactive tasks provide opportunities for real-life communication in an engaging environment.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D : Participation, Vocabulary Test, Presentation ○E : Speaking Test (Final Exam) Participation 30% Vocabulary Test (Kikutan) 20% Presentation 20% Speaking Test 30%
テキスト	English Firsthand 2, Fifth Edition. M. Helgesen, J. Wiltshier, S. Brown. Pearson, 2018. 978-9813130234
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in all activities and engage in pair and small group work. They should make their best effort without hesitation and take advantage of the opportunity to practice and improve their English communication skills in an enjoyable and supportive environment.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, others.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E22A06			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course is to help EFL students communicate more fluently and confidently. It develops English language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images. Each unit includes an actual classroom activity. Goals for S grades include active participation in all class activities and demonstrating a high level of understanding and use of target language. Students will need to gain a top 10% score in the final test. (Goals) This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. (Achievements) ◎D: Students can talk about their opinions in about 270 words. ○E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
----------------------------------	---

授業計画	1 Introduction to course Expectations and goals of course. 2 Unit 1. Have you two met? (Pair work) Introductions and relationships. 3 Unit 1. Have you two met? (Pair work, Group work, Discussion) Exchange information about your hobbies and interests. 4 Unit 2. You must be excited (Pair work) Describe your feelings. 5 Unit 2. You must be excited (Pair work, Group work, Discussion) Ask about your partner's feelings. Express empathy. 6 Unit 3. Where should I go? (Pair work, Group work, Discussion, PBL) Talk about a trip. 7 Unit 3. Where should I go? (Pair work, Group work, Discussion, PBL) Make recommendations. 8 Unit 4. I love that (Pair work) Express agreement and disagreement. 9 Unit 4. I love that (Pair work, Group work, Discussion, PBL) Share your opinions. Ask about your partner's opinions. 10 Unit 5. What's your excuse? (Pair work) Make requests. 11 Speaking practice and test 1 (Presentation/Assignment) Preparing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 12 Speaking practice and test 2 (Presentation/Assignment) Preparing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 13 On demand: Talk about your culture Instructions will be given on Google Classrooms. 14 On demand: Listening Instructions will be given on Google Classrooms. 15 On demand: Interview Instructions will be given on Google Classrooms.
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	Goals for the students include participation in all class activities to the best of their ability, being able to demonstrate a basic level of understanding and language use; achieving a score of 60-70% in the final test. ◎D: Students can talk about their opinions in about 189 words. ○E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class. (30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 mins). Students will also be expected to keep records of writing assignments and of new vocabulary.
指導方法	All students receive ongoing personal feedback in class about participation. Students will check, mark and receive scores of all their work in class. Written assignments will be collected, edited and returned with grade and comment. Lessons are taught mainly in English. Students are expected to work in pairs and small groups. Each unit in the text will be covered in two lessons. There are speaking, listening, reading and writing elements in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice the target language in pairs/groups in class.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: Participation, Kikutan Test, Presentation/Assignment ○E: Speaking Test, Final Exam Participation 30% Quiz 10% Kikutan Test 20% Presentation/Assignment 10% Final exam 30%
テキスト	English Firsthand 2, Fifth Edition. M. Helgesen, J. Wiltshier, S. Brown. Pearson, 2018. ISBN 978-9813130234.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, PBL.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E22A06			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course is to help EFL students communicate more fluently and confidently. It develops English language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images. Each unit includes an actual classroom activity. Goals for A/S grades include active participation in all class activities and demonstrating a high level of understanding and use of target language. Students will need to gain a top 10% score in the final test. (Goals) The goals of this course are to enhance listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and real-world application. (Achievements) ◎D: Students can talk about their opinions in about 240 words. ○E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
----------------------------------	--

授業計画	1 Introduction to course (PBL) Expectations and goals of course. 2 Unit 1. Have you two met? (Pair work) Introductions and relationships. 3 Unit 1. Have you two met? (Pair work, Group work, Discussion) Exchange information about your hobbies and interests. 4 Unit 2. You must be excited (Pair work) Describe your feelings. 5 Unit 2. You must be excited (Pair work, Group work, Discussion) Ask about your partner's feelings. Express empathy. 6 Unit 3. Where should I go? (Group work) Talk about a trip. 7 Unit 3. Where should I go? (Pair work, Group work, Discussion) Make recommendations. 8 Unit 4. I love that (Pair work) Express agreement and disagreement. 9 Unit 4. I love that (Pair work, Group work, Discussion) Share your opinions. Ask about your partner's opinions. 10 Unit 5. What's your excuse? (Pair work) Make requests. 11 Speaking practice and test 1 (Presentation/Assignment) Preparing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 12 Speaking practice and test 2 (Presentation/Assignment) Preparing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 13 On demand: Talk about your culture Instructions will be given on Google Classrooms. 14 On demand: Listening Instructions will be given on Google Classrooms. 15 On demand: Interview Instructions will be given on Google Classrooms.
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	Goals for the students include participation in all class activities to the best of their ability, being able to demonstrate a basic level of understanding and language use; achieving a score of 60-70% in the final test. ◎D: Students can talk about their opinions in about 168 words. ○E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class. (30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 mins). Students will also be expected to keep records of writing assignments and of new vocabulary.
指導方法	All students receive ongoing personal feedback in class about participation. Students will check, mark and receive scores of all their work in class. Written assignments will be collected, edited and returned with grade and comment. Lessons are taught mainly in English. Students are expected to work in pairs and small groups. Each unit in the text will be covered in two lessons. There are speaking, listening, reading and writing elements in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice the target language in pairs/groups in class.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: Participation, Kikutan Test, Presentation/Assignment ○E: Speaking Test, Final Exam Participation 30% Quiz 10% Kikutan Test 20% Presentation/Assignment 10% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 2, Fifth Edition. M. Helgesen, J. Wiltshier, S. Brown. Pearson, 2018. ISBN 978-9813130234.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, PBL.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E22A06			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course helps EFL students build fluency and confidence in spoken English through vocabulary, grammar, and interactive activities. Students aiming for a top grade must actively participate and demonstrate strong language skills, with a top 10% final test score required. (Goals) This course aims to enhance students' listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and ability to apply English in real-world situations. (Achievements) ◎D : Be able to express one's opinion in spoken form with a length of approximately 210 words. ○E : This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently.
----------------------------------	--

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 1: Have you two met? (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション) Introductions: self and others 2. Unit 1: Have you two met? (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Asking about family, interests & experiences 3. Unit 2: You must be excited! (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talking about emotions (vocabulary & examples) 4. Unit 2: You must be excited! (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talking about emotions (personal experiences) 5. Review & Fluency expansion (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Review & Fluency expansion 6. Mid-term Review (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Mid-term Review 7. Unit 3: Where should I go? (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション) Comparing and recommending places 8. Unit 3: Where should I go? (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Describing personal experiences 9. Unit 5: What's your excuse? (1) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Asking to borrow things, giving reasons 10. Unit 5: What's your excuse? (2) (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Making excuses 11. Speaking Test 1 In-class final exam. 12. Speaking Test 2 In-class final exam. 13. On-Demand Assignment 1: Everyday Conversations - Role-Play Video Objective: Practice common English conversations in real-life situations. Task: Work with a partner to create a short role-play video based on a given scenario. 14. On-Demand Assignment 2: Storytelling - Describe a Memorable Experience Objective: Improve fluency by narrating a personal experience in a clear, engaging way.
------	--

	<p>15. Task: Record a 2-3 minute video sharing a real-life story in English. On-Demand Assignment 3: Job and Career Exploration Interview Objective: Conduct and record a short interview to practice real-world communication. Task: Choose someone with an interesting job and interview them in English.</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎D : Students can make a presentation in about 157 words. ○E : Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.</p>
事前・事後学習	<p>Some exercises from the text will be assigned as homework to complete before class (30 minutes). After class, students are expected to review key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 minutes). Additionally, students should keep a record of new vocabulary and key phrases learned in class.</p>
指導方法	<p>Students will receive ongoing feedback on participation and spoken assignments. Lessons are conducted primarily in English, focusing on speaking and listening skills. Each unit is covered over two lessons with pair and group activities to enhance fluency, pronunciation, and comprehension. Interactive tasks provide opportunities for real-life communication in an engaging environment.</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎D : Participation, Vocabulary Test, Presentation ○E : Speaking Test (Final Exam)</p> <p>Participation 30% Vocabulary Test (Kikutan) 20% Presentation 20% Speaking Test 30%</p>
テキスト	<p>English Firsthand (5th edition) Level 2 Mark Helgesen, et al., Pearson Education, 2018. 978-9813130234</p>
参考書	<p>授業内で指示します。</p>
履修上の注意	<p>Students are expected to actively participate in all activities and engage in pair and small group work. They should make their best effort without hesitation and take advantage of the opportunity to practice and improve their English communication skills in an enjoyable and supportive environment.</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	<p>Group work, pair work, discussion, presentation, others.</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E22A07			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course helps EFL students build fluency and confidence in spoken English through vocabulary, grammar, and interactive activities. Students aiming for A/S grades must actively participate and demonstrate strong language skills, with a top 10% final test score required. (Goals) This course aims to enhance students' listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and ability to apply English in real-world situations. (Achievements) ◎D : Be able to express one's opinion in spoken form with a length of approximately 400 words. ○E : This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently.
----------------------------------	---

授業計画	1 Unit 6. What's it like there? (Pair work, Group work, Discussion) Talk about the symbols and traditions of your country. 2 Unit 6. What's it like there? (Pair work, Group work, Discussion) Ask about the symbols and traditions of your partner's country. 3 Unit 7. Do you remember when? (Pair work, Group work, Discussion) Talk about your past experiences. 4 Unit 7. Do you remember when? (Pair work, Group work, Discussion) Ask about your partner's past experiences. 5 Unit 8. Let's have a get-together (Pair work, Group work, Discussion) Make plans with a partner. 6 Unit 8. Let's have a get-together (Pair work, Group work, Discussion) Discuss having get-together in different cultures. 7 Unit 9. What should I do? (Pair work, Group work, Discussion) Give advice to your partner. 8 Unit 9. What should I do? (Pair work, Group work, Discussion) Ask your partner for advice. 9 Unit 10. Tell me a story! (Pair work, Group work, Discussion) Tell your partner a story. 10 Unit 10. Tell me a story! (Pair work, Group work, Discussion) Ask questions about your partner's story. Discuss your dreams. 11 Speaking Test 1 In-class final exam. 12 Speaking Test 2 In-class final exam. 13 On-Demand Assignment 1: Giving and Following Directions Objective: Practice giving and understanding directions in English. Task: Record yourself giving clear and polite directions to a specific place. 14 On-Demand Assignment 2: Ordering Food & Making Small Talk Objective: Develop confidence in ordering food and interacting politely in a restaurant. Task: Create and record a role-play video of ordering food at a restaurant. 15 On-Demand Assignment 3: Job & Career Exploration Interview (Part 2) Objective: Conduct an interview to learn about career challenges, advice, and industry insights.
------	---

	Task: Interview a professional and record the highlights.
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D : Students can make a presentation in about 280 words. ○E : Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be assigned as homework to complete before class (30 minutes). After class, students are expected to review key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 minutes). Additionally, students should keep a record of new vocabulary and key phrases learned in class.
指導方法	Students will receive ongoing feedback on participation and spoken assignments. Lessons are conducted primarily in English, focusing on speaking and listening skills. Each unit is covered over two lessons with pair and group activities to enhance fluency, pronunciation, and comprehension. Interactive tasks provide opportunities for real-life communication in an engaging environment.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D : Participation, Vocabulary Test, Presentation ○E : Speaking Test (Final Exam) Participation 30% Vocabulary Test 20% Presentation 20% Speaking Test 30%
テキスト	English Firsthand 2, Fifth Edition. M. Helgesen, J. Wiltshier, S. Brown. Pearson, 2018. 978-9813130234
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in all activities and engage in pair and small group work. They should make their best effort without hesitation and take advantage of the opportunity to practice and improve their English communication skills in an enjoyable and supportive environment.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, others.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E22A07			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) The aim of this course is to help improve EFL students communication and confidence. This course builds on the work done in the first semester. Goals for S grades include active participation in all class activities and demonstrating a high level of understanding and use of target language. Students will need to gain a top 10% score in the final test. (Goals) This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. (Achievements) ◎D: Students can talk about their opinions in about 360 words. ○E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
----------------------------------	---

授業計画	1 Unit 7. Do you remember when? (Pair work) Talk about your past experiences. 2 Unit 7. Do you remember when? (Pair work, Group work, Discussion) Ask about your partner's past experiences. 3 Unit 8. Let's have a get-together (Pair work) Make plans with a partner. 4 Unit 8. Let's have a get-together (Pair work) Explain what things you must do and should do in your culture. 5 Unit 9. What should I do? (Pair work) Give advice to your partner. 6 Unit 9. What should I do? (Pair work, Group work, Discussion) Ask your partner for advice. 7 Unit 11. In my opinion (Pair work, PBL) Agree or disagree with your partner's opinion. Discuss a controversial issue. 8 Unit 11. In my opinion (Pair work, Group work, Discussion, PBL) State your opinion. 9 Unit 12. It's my dream (Pair work) Talk about your future goals and plans. 10 Unit 12. It's my dream (Pair work, Group work, Discussion) Ask your partner about her goals and plans for the future. 11 Preparation and Speaking Tests 1 Preparing for the speaking test in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 12 Preparation and Speaking Tests 2 Preparing for the speaking test in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 13 On demand: Kinds of movies Instructions will be given on Google Classrooms. 14 On demand: Listening Instructions will be given on Google Classrooms. 15 On demand: Interview Instructions will be given on Google Classrooms.
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	The expectations for the students will be the same as in the first semester. ◎D: Students can talk about their opinions in about 252 words. ○E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class. (30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 mins). Students will also be expected to keep records of writing assignments and of new vocabulary.
指導方法	All students receive ongoing personal feedback in class about participation. Students will check, mark and receive scores of all their work in class. Written assignments will be collected, edited and returned with grade and comment. Lessons are taught mainly in English. Students are expected to work in pairs and small groups. Each unit in the text will be covered in two lessons. There is a speaking, listening, reading and writing element in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice the target language in pairs/groups in class.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: Participation, Presentation/Assignment ○E: Speaking Test, Final Exam Participation 30% Quiz 20% Presentation 20% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 2, Fifth Edition. M. Helgesen, J. Wiltshier, S. Brown. Pearson, 2018. ISBN 978-9813130234.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, PBL.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E22A07			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) The aim of this course is to help improve EFL students communication and confidence. This course builds on the work done in the first semester. Goals for A/S grades include active participation in all class activities and demonstrating a high level of understanding and use of target language. Students will need to gain a top 10% score in the final test. (Goals) The goals of this course are to enhance listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and real-world application. (Achievements) ◎D: Students can talk about their opinions in about 320 words. ○E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
----------------------------------	--

授業計画	1 Unit 7. Do you remember when? (Pair work) Talk about your past experiences. 2 Unit 7. Do you remember when? (Pair work, Group work, Discussion) Ask about your partner's past experiences. 3 Unit 8. Let's have a get-together (Pair work) Make plans with a partner. 4 Unit 8. Let's have a get-together (Pair work) Explain what things you must do and should do in your culture. 5 Unit 9. What should I do? (Pair work) Give advice to your partner. 6 Unit 9. What should I do? (Pair work, Group work, Discussion) Ask your partner for advice. 7 Unit 11. In my opinion (Pair work) State your opinion. 8 Unit 11. In my opinion (Pair work, Group work, Discussion) Agree or disagree with your partner's opinion. Discuss a controversial issue. 9 Unit 12. It's my dream (Pair work) Tell a story about yourself. 10 Unit 12. It's my dream (Pair work, Group work, Discussion) State your opinion. 11 Preparation and Speaking Tests 1 Preparing for the speaking test in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 12 Preparation and Speaking Tests 2 Preparing for the speaking test in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 13 On demand: Kinds of movies Instructions will be given on Google Classrooms. 14 On demand: Listening Instructions will be given on Google Classrooms. 15 On demand: Interview Instructions will be given on Google Classrooms.
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	The expectations for the students will be the same as in the first semester. ◎D: Students can talk about their opinions in about 224 words. ○E: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class. (30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 mins). Students will also be expected to keep records of writing assignments and of new vocabulary.
指導方法	All students receive ongoing personal feedback in class about participation. Students will check, mark and receive scores of all their work in class. Written assignments will be collected, edited and returned with grade and comment. Lessons are taught mainly in English. Students are expected to work in pairs and small groups. Each unit in the text will be covered in two lessons. There is a speaking, listening, reading and writing element in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice the target language in pairs/groups in class.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: Participation, Vocabulary Test, Presentation/Assignment ○E: Speaking Test, Final Exam Participation 30% Quiz 10% Presentation 10% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 2, Fifth Edition. M. Helgesen, J. Wiltshier, S. Brown. Pearson, 2018. ISBN 978-9813130234.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, PBL.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E22A07			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course helps EFL students build fluency and confidence in spoken English through vocabulary, grammar, and interactive activities. Students aiming for A/S grades must actively participate and demonstrate strong language skills, with a top 10% final test score required. (Goals) This course aims to enhance students' listening comprehension, speaking fluency, vocabulary, pronunciation, cultural awareness, and ability to apply English in real-world situations. (Achievements) ◎D : Be able to express one's opinion in spoken form with a length of approximately 320 words. ○E : This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently.
----------------------------------	---

授業計画	1 Unit 6. What's it like there? (Pair work, Group work, Discussion) Talk about the symbols and traditions of your country. 2 Unit 6. What's it like there? (Pair work, Group work, Discussion) Ask about the symbols and traditions of your partner's country. 3 Unit 7. Do you remember when? (Pair work, Group work, Discussion) Talk about your past experiences. 4 Unit 7. Do you remember when? (Pair work, Group work, Discussion) Ask about your partner's past experiences. 5 Unit 8. Let's have a get-together (Pair work, Group work, Discussion) Make plans with a partner. 6 Unit 8. Let's have a get-together (Pair work, Group work, Discussion) Discuss having get-together in different cultures. 7 Unit 9. What should I do? (Pair work, Group work, Discussion) Give advice to your partner. 8 Unit 9. What should I do? (Pair work, Group work, Discussion) Ask your partner for advice. 9 Unit 10. Tell me a story! (Pair work, Group work, Discussion) Tell your partner a story. 10 Unit 10. Tell me a story! (Pair work, Group work, Discussion) Ask questions about your partner's story. Discuss your dreams. 11 Speaking Test 1 In-class final exam. 12 Speaking Test 2 In-class final exam. 13 On-Demand Assignment 1: Giving and Following Directions Objective: Practice giving and understanding directions in English. Task: Record yourself giving clear and polite directions to a specific place. 14 On-Demand Assignment 2: Ordering Food & Making Small Talk Objective: Develop confidence in ordering food and interacting politely in a restaurant. Task: Create and record a role-play video of ordering food at a restaurant. 15 On-Demand Assignment 3: Job & Career Exploration Interview (Part 2) Objective: Conduct an interview to learn about career challenges, advice, and industry insights.
------	---

	Task: Interview a professional and record the highlights.
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D : Students can make a presentation in about 224 words. ○E : Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be assigned as homework to complete before class (30 minutes). After class, students are expected to review key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 minutes). Additionally, students should keep a record of new vocabulary and key phrases learned in class.
指導方法	Students will receive ongoing feedback on participation and spoken assignments. Lessons are conducted primarily in English, focusing on speaking and listening skills. Each unit is covered over two lessons with pair and group activities to enhance fluency, pronunciation, and comprehension. Interactive tasks provide opportunities for real-life communication in an engaging environment.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D : Participation, Vocabulary Test, Presentation ○E : Speaking Test (Final Exam) Participation 30% Vocabulary Test 20% Presentation 20% Speaking Test 30%
テキスト	English Firsthand 2, Fifth Edition. M. Helgesen, J. Wiltshier, S. Brown. Pearson, 2018. 978-9813130234
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in all activities and engage in pair and small group work. They should make their best effort without hesitation and take advantage of the opportunity to practice and improve their English communication skills in an enjoyable and supportive environment.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Group work, pair work, discussion, presentation, others.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E22A08			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	この授業は英語でのコミュニケーション力、特に読むことと書くことを学ぶ授業です。Freshman English から継続し、グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディングとライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養います。たくさん読むことで文章に慣れ、書く練習をしていきます。実際に使える英語表現力を身につけられるよう、学生に身近なテーマで批判的思考力を身につけながら読む力、書く力を養って行きます。 (授業目標) ◎C：授業で学んだテーマ、日常的なトピックについて270 words程度の文章を書くことができる。 ○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得することができる。また日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。
----------------------------------	--

授業計画	1 オリエンテーション 授業概略説明、スピーキングプラクティスについて 2 Unit 1: The Sentence and the Paragraph (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas 3 Unit 1: The Sentence and the Paragraph (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing a Paragraph 4 Unit 1: The Sentence and the Paragraph (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Unity and Coherence 5 Unit 1: The Sentence and the Paragraph (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/Timed Writing 6 Unit 2: Descriptive Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas 7 Unit 2: Descriptive Paragraphs (オンデマンド) Brainstorming and Outlining 8 Unit 2: Descriptive Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas Editing/Stimulating Ideas 9 Unit 2: Descriptive Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/ Timed Writing 10 Unit 3: Example Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas 11 Unit 3: Example Paragraphs (オンデマンド) Brainstorming and Outlining 12 Unit 3: Example Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas 13 Unit 3: Example Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/Timed Writing 14 Reading and Writing Workshop 1 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Book Report 15 Reading and Writing Workshop 2 (オンデマンド) Book Report
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：授業で学んだテーマ、日常的なトピックについて189 words程度の文章を書くことができる。 ○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得し使用することができる。
---------------------	--

事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。授業内のスピーキングプラクティス用の原稿の準備をする。(45分) 事後学習：授業内で行ったリーディングの復習、単語テストやフレーズの復習を実施するのでその準備を行う。(45分)
指導方法	英語で読むこと、書くことに慣れるため、たくさん読んでたくさん書くことをします。授業は原則英語で行いますが、時に日本語でも指導をします。日々の積み重ねが大切なので、毎回のスピーキングプラクティスを実施します。また重要文法事項も復習して行きます。ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①スピーキングプラクティス ②授業後における質疑対応 ③毎回行う自己評価シートでの振り返りに個別に対応する。④ライティングの課題
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：ライティング課題、確認クイズで評価します。 ○D：授業への貢献度、キクタンテスト、スピーキングプラクティスで評価します。 授業への貢献度 30% 「キクタン」テスト 20% ライティング課題 20% 確認クイズ 30%
テキスト	Effective Academic Writing. Alice Savage, Masoud Shafiei, Second Edition, Oxford University Press, 2012
参考書	基本を学び構成力を養う英語ライティングルールブック テイエス企画
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。毎回のスピーキングプラクティス用の原稿は必ず準備をしましょう。 課題の中にオンライン課題もあります。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E22A08			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では最低限必要とされる英文法・語法を扱いながら、リーディング・ライティングの力を伸ばすことを目標とします。文構造にこだわりながらテキストにある自然科学や歴史に関する文章を読めるように指導します。また英文読解を通じて、語彙力の強化も目標とします。
	(授業目標) Freshman Englishから継続し、グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。
	(学習成果) ◎C：ある話題について、270 words程度の英語の文章を正確に書くことができる。 ○D：あるテーマの英文を読み、英文を正確に理解することができる。また英文の構造を分析しながら読解することができる。

授業計画	1 オリエンテーション 講義概要及び、テキスト、評価方法の説明。
	2 第1章 主語と動詞で英文を考える① 英文の中で動詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。
	3 第1章 主語と動詞で英文を考える② 英文の中で動詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。
	4 第2章 名詞と代名詞で英文を考える① 英文の中で名詞と代名詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。
	5 第2章 名詞と代名詞で英文を考える② 英文の中で名詞と代名詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。
	6 主語と動詞、名詞と代名詞に関するまとめ（オンデマンド） 文中の主語と動詞、名詞と代名詞を意識して、英文読解に取り組む。
	7 第3章 形容詞と副詞で英文を考える① 英文の中で形容詞と副詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。
	8 第3章 形容詞と副詞で英文を考える② 英文の中で形容詞と副詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。
	9 第4章 時制を中心に英文を考える① 英文の中で時制がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。
	10 第4章 時制を中心に英文を考える② 英文の中で時制がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。
	11 ライティング課題①（PBL型学習）（オンデマンド） 提示されたトピックの中から1つを選択し、200語以上のエッセイの構成を考え、書き始める。
	12 形容詞と副詞、時制に関するまとめ 文中の主語と動詞、名詞と代名詞を意識して、英文読解に取り組む。 『キクタン』テストの実施
	13 多読教材を使用した英語多読リーディング演習① 図書館にある英語多読リーディング教材の中から一週間で読み切れるものを選択し、他者へ説明できるようにまとめながら読む。
	14 多読教材を使用したリーディング演習②（グループワーク） 前回読んだリーディング教材について、あらためて内容を英語でまとめ、それをグループ内でシェアし、どの作品がもっとも興味を持つものだったのかをグループ内で検討する。

	15 ライティング課題② (PBL型学習) (オンデマンド) 提示されたトピックの中から1つを選択し、200語以上のエッセイの構成を考え、書き終える。 エッセイのフォーマットに従って、全体を修正する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C: ある話題について、読者を意識しながら英語で189 words以上の文章を書くことが出来る。 ○D: あるテーマの英文を読み、主語や動詞、目的語といった文の構造を理解することが出来る。
事前・事後学習	事前学習: 次のUnitで扱う単語や重要表現、文法事項の予習を行い、英文を読む。(45分) 事後学習: 重要語句や文法の復習と英文の音読を行う。(45分)
指導方法	指導方法: 語彙、文法の説明を行った後、あるテーマの英文について音読をしながら内容を把握する。ユニットで学習した語彙・文法を用いて、身近な内容についての文章を書く練習をする。 フィードバックの方法: ①小テスト ②質疑応答 ③作文課題の添削とコメント
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C: ライティング課題・小テストの成績で評価する。 ○D: 授業への貢献度・『キクタン』テスト・リーディング課題の成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 20% 『キクタン』テスト 20% リーディング課題 10% ライティング課題 20%
テキスト	倉林秀男『英文解釈のテオリアー英文法で迫る英文読解入門』(Z会、2021) ISBN: 9784865314472 竹岡広信『よくばり英作文〈新装版〉』(駿台文庫、2024) ISBN: 9784796111607
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	授業には必ず辞書を持参すること。文の構造だけではなく、文章の論理的な構造も意識するようにしてほしい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク・PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E22A08			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、特にリーディングとライティングの基礎力を強固にすることを目的とする。そのために英文法および英語構文の重要事項を確認し、問題演習を行う。また、短い英文の読解を通して、正確に英文を読み取る技能の習得も目指す。 (授業目標) Freshman Englishから継続し、グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：授業で学んだ語彙や表現を使って、240語程度の英文で自分の意図を明確に表現することができる。 ○D：様々なトピックの英語で書かれた文章を読み、その内容を正確に理解することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション 授業の進め方とテキストの説明を行う。 2 Unit 1 名詞と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 名詞の役割と種類について理解する。名詞に着目して英文読解を行う。 3 Unit 2 冠詞と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 冠詞の役割と種類について理解する。冠詞に着目して英文読解を行う。 4 Unit 3 代名詞 (1) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 代名詞の種類について理解する。代名詞に着目して英文読解を行う。 5 Unit 4 代名詞 (2) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 代名詞の種類について理解する。代名詞に着目して英文読解を行う。 6 名詞・冠詞・代名詞についてのリーディング演習 (オンデマンド) 名詞・冠詞・代名詞について意識しながら英文読解を行う。 7 Unit 5 時制と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 動詞の時制について理解する。時制に着目して英文読解を行う。 8 Unit 6 進行形と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 進行形について理解する。進行形に着目して英文読解を行う。 9 Unit 7 完了形 (1) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 完了形の基本形について理解する。完了形に着目して英文読解を行う。 10 Unit 8 完了形 (2) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 完了形 (過去完了や未来完了) について理解する。完了形に着目して英文読解を行う。 11 ライティング課題① (PBL型学習) (オンデマンド) 提示されたトピックの中から1つを選択し、200語程度のエッセイの構成を考え、書き始める。 12 Unit 9 助動詞 (1) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 助動詞 (can, may, must) について理解する。助動詞に着目して英文読解を行う。 『キクタン』テストの実施 13 Unit 10 助動詞 (2) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 助動詞 (would, should, ought to など) について理解する。助動詞に着目して英文読解を行う。 14 Unit 11 態 (1) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 態 (受動態の基本) について理解する。受動態に着目して英文読解を行う。 15 ライティング課題② (PBL型学習) (オンデマンド) 提示された7つのトピックの中から1つを選択し、200語程度のエッセイの構成を考え、書き終える。 エッセイのフォーマットに従って、全体を修正する。
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：身近な話題についての文章を168語程度の英語で書くことができる。 ○D：英語の構造と品詞の概念について理解している。
---------------------	--

事前・事後学習	事前学習：本文中の分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(45分) 事後学習：語句や表現、文法を復習し、本文の音読を行う。(45分)
指導方法	文法チェックポイントについて解説し、関連例文を通してポイントの内容を深く説明する。多種多様な問題演習を通して学んだ文法知識の定着を図る。また、英語で書かれた短いエッセイ文章を読解し、文章の中の英語表現を用いてライティングを行う。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：ライティング課題、小テストの成績で評価する。 ○D：授業への貢献度と『キクタン』テストの成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 30% 『キクタン』テスト 20% ライティング課題 20%
テキスト	Keiichiro Fukui et al. Fundamental English Grammar with Short Readings. (『読解力につなげるコア英文法』) 朝日出版社、2019. ISBN: 9784255156385
参考書	『ジーニアス英和辞典』第5版 大修館書店 / 『プログレッシブ英和中辞典』第5版 小学館 / 『新英和中辞典』第7版 研究社 / 『オーレックス英和辞典』第2版 旺文社 / 『ウィズダム英和辞典』第4版 三省堂 / 『リーダーズ英和中辞典』第2版 研究社 / 『アドバンストフェイバリット英和辞典』東京書籍 / 『コンパスローズ英和辞典』研究社
履修上の注意	授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
玉川明日美			
ナンバリング：E22A08			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>本講義では、英語における「読む」と「書く」の力を伸ばすことを目標とした授業です。既習の文法事項や定型表現を再度確認して定着を図るとともに、「なぜ、そのような言葉の組み合わせで、○○ということ表現するのか」という点にまで掘り下げて考えることで、単に構文の意味を覚えてあてはめて使う、というレベルから、自分の意図を伝えるのにふさわしい表現を理解して選び、伝える、という実践的なレベルへと高めていきます。</p> <p>(授業目標) Freshman Englishから継続し、グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。</p> <p>(学習成果) ◎C：自分の意見を210words程度の文章で正確に書くことができる。</p> <p>○D：様々なトピックに関するまとまった文章を、文法や語彙の知識によって段落や文構造を分析し、必要な情報を正確に読み取ることができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 【対面】授業ガイダンス、イントロダクション 授業の概要説明 イントロダクション：「英文法や慣用表現の『なぜ?』」を考える</p> <p>2 【対面】テーマ [1] 文型《解説編》 英文の構造の基本的なルールを確認し、理解する。「文型」に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する)</p> <p>3 【対面】テーマ [1] 文型《読解編》 リーディング用テキストを用いて、「文型」に着目して文構造を分析を行う。単語の「意味」に依らずに「文法」から英文中の必要な情報を取捨選択する練習を行う。 (グループワーク：パッセージの英文を分析し、発表し合う。パッセージのトピックについてディスカッションをする)</p> <p>4 【対面】テーマ [2] 前置詞《解説編》 前置詞のルールを確認し、理解する。「前置詞」に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する)</p> <p>5 【対面】テーマ [2] 前置詞《読解編》 リーディング用テキストを用いて、「前置詞」に着目して文構造を分析する。単語の「意味」に依らずに「文法」から英文中の必要な情報を取捨選択する練習を行う。 (グループワーク：パッセージの英文を分析し、発表し合う。パッセージのトピックについてディスカッションをする)</p> <p>6 【オンデマンド】文構造の基本的なルールの理解度の確認と実践 「文型」および「前置詞」についての理解度を確認するための確認問題、および、与えられたトピックに関するライティング課題を行う。課題を達成するために必要なライティング(モデル文章)に関する解説、課題に関する指示のスライド資料を配信し、それらを視聴、学習した上で課題に取り組む。 【期限内の課題の提出、達成状況に応じて出欠記録を入力する。】</p> <p>7 【対面】テーマ [3] 動詞と時制(現在形・過去形・未来表現)《解説編》 動詞と時制のルールを確認し、理解する。動詞に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する)</p> <p>8 【対面】テーマ [3] 動詞と時制(現在形・過去形・未来表現)《読解編》 リーディング用パッセージを用いて、「動詞」に着目して文構造を分析する。単語の「意味」に依らずに「文法」から英文中の必要な情報を取捨選択する練習を行う。 (グループワーク：パッセージの英文を分析し、発表し合う。パッセージのトピックについてディスカッションをする)</p> <p>9 【対面】テーマ [4] 修飾語(形容詞、副詞、分詞)・受動態《解説編》 英語における各修飾語(形容詞、副詞、分詞)と受動態の基本的なルールを確認、理解する。各修飾語と受動態に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する)</p> <p>10 【対面】テーマ [4] 修飾語(形容詞、副詞、分詞)・受動態《読解編》 リーディング用パッセージを用いて、分詞を伴う各修飾語(形容詞、副詞、分詞)と受動態に着目して文構造を分析する。単語の「意味」に依らずに「文法」から英文中の必要な情報を取捨選択</p>
------	--

	<p>する練習を行う。 (グループワーク：パッセージの英文を分析し、発表し合う。パッセージのトピックについてディスカッションをする)</p> <p>11 【オンデマンド】動詞と修飾語の規則の理解度の確認と実践 動詞と各修飾語(助動詞、形容詞、副詞、分詞)についての理解度を確保するための確認問題、および、与えられたトピックに関するライティング課題を行う。課題を達成するために必要なライティング(モデル文章)に関する解説、課題に関する指示の資料(スライド)を配信し、それらを視聴、学習した上で課題に取り組む。 【期限内の課題の提出、達成状況に応じて出欠記録を入力する。】</p> <p>12 【対面】テーマ[5] 助動詞《解説＋読解編》 助動詞の規則や応用表現を確保、理解する。助動詞に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確保し、発表する。)</p> <p>13 【対面】テーマ[6] 動詞表現(完了形、進行形)《解説編》 分詞を伴う動詞の表現(完了形、進行形)の基本的な規則を確保、理解する。完了形と進行形に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確保し、発表する。)</p> <p>14 【対面】テーマ[6] 動詞表現(完了形、進行形)《読解編》、『キクタン』テスト リーディング用パッセージを用いて、分詞を伴う動詞の表現(完了形、進行形)に着目して文構造を分析する。単語の「意味」に依らずに「文法」から英文中の必要な情報を取捨選択する練習を行う。 (グループワーク：パッセージの英文を分析し、発表し合う。パッセージのトピックについてディスカッションをする) また、授業中に『キクタン』テストを実施する。</p> <p>15 【オンデマンド】動詞表現の規則の理解度の確認と実践 助動詞や完了形、進行形についての理解度を確保するための確認問題、および、与えられたトピックに関するライティング課題を行う。課題を達成するために必要なライティング(モデル文章)に関する解説、課題に関する指示の資料(スライド)を配信し、それらを視聴、学習した上で課題に取り組む。 【期限内の課題の提出、達成状況に応じて出欠記録を入力する。】</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎C：自分の意見を157words程度の文章で、モデル文章を参考にして書くことができる。 ○D：英文の構造を理解している。英文を英文法の知識に基づいてチャンク分け(区切り)をして読むことができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：授業時の指示に従って、必要な予習を行うこと。事前に知っておくべき語彙の意味や品詞の確保、英文の分析などの課題を行う。(約45分) 事後学習：授業の内容を自分なりに再度整理し、学習した内容の定着を行う。復習課題(問題演習、語彙や文法問題の確保テストなど)を行う。(45分)</p>
指導方法	<p>指導方法：テーマとして設定した文法事項について、2回の授業をワンセットとして学んでいく。前半で文法について解説を行い、問題演習やモデル文を応用した作文練習を通して理解を深める。後半で100～300語程度のリーディング用パッセージを用いて、学んだ文法事項を通して構文の分析、内容の読解を行う。また、テーマに応じて与えられた題材で英語でコメントを書く練習を行う。</p> <p>授業課題のフィードバックの方法： ①小テストを実施し、採点評価と解説を行う。 ②小テスト、及び、課題に伴う質疑応答 ③課題の採点評価とコメントの返却</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎C：ライティング課題、小テスト、総括課題の成績で評価する ○D：授業への貢献度(授業内のアクティビティ)と『キクタン』テストの成績で評価する</p> <p>授業への貢献度：30% 『キクタン』テスト：20% ライティング課題：20% 定期的な既習事項確保課題：20% 小テスト：10%</p>
テキスト	高橋 美津子、『実践！使って身につく基礎英文法』、朝日出版社、2022年。【ISBN：978-4-255-15687-3】
参考書	必要な際には授業中に指示します。
履修上の注意	<p>すぐに単語の品詞や意味を確保できるように辞書を持参してください。 辞書は電子辞書、タブレット端末の辞書アプリ(ただし、大学や出版社が配信している辞書として確かなものに限る)、紙の辞書どちらでも構いませんが、スマホの翻訳アプリやAIによる検索・回答を辞書代わりに使用することは禁止です。 授業は「テーマ」に沿って進行するため、教科書のUnitの進行と連動していない(Unitをまたいだり、順番が前後したりします)場合があります。毎回の授業で、教科書のどの部分を学習したかに注意し、記録をつけておきましょう。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアまたはグループワーク、PBL型授業

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E22A09			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	この授業は英語でのコミュニケーション力、特に読むことと書くことを学ぶ授業です。Basicから継続し、グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディングとライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養います。たくさん読むことで文章に慣れ、書く練習をしていきます。実際に使える英語表現力を身につけられるよう、学生に身近なテーマで批判的思考力を身につけながら読む力、書く力を養って行きます。 (授業目標) ◎C：授業で学んだテーマ、日常的なトピックについて380 words程度の文章を書くことができる。 ○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得することができる。また日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。
----------------------------------	--

授業計画	1 Unit 4: Process Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas 2 Unit 4: Process Paragraphs (オンデマンド) Brainstorming and Outlining 3 Unit 4: Process Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas 4 Unit 4: Process Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/Time Writing 5 Unit 5: Narrative Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas 6 Unit 5: Narrative Paragraphs (オンデマンド) Brainstorming and Outlining 7 Unit 5: Narrative Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas 8 Unit 5: Narrative Paragraphs (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Editing/Time Writing 9 Unit 6: Urban Studies (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Stimulating Ideas 10 Unit 6: Urban Studies (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Brainstorming and Outlining 11 Unit 6: Urban Studies (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Developing Your Ideas 12 Unit 6: Urban Studies (オンデマンド) Editing/Time Writing 13 Reading and Writing Workshop 1 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Writing: Summarizing 14 Reading and Writing Workshop 2 (グループワーク、ディスカッション) Writing: Lunch Box Activity 15 Reading and Writing Workshop 3 Writing and Sharing: Lunch Box Activity
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：授業で学んだテーマ、日常的なトピックについて 252 words程度の文章を書くことができる。 ○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得し使用することができる。
---------------------	---

事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。授業内のスピーキングプラクティス用の原稿の準備をする。新聞を読むこと (45分) 事後学習：授業内で行ったリーディングの復習、単語テストやフレーズの復習を実施するのでその準備を行
---------	---

	う。(45分)
指導方法	英語で読むこと、書くことに慣れるため、たくさん読んでたくさん書くことをします。授業は原則英語で行いますが、時に日本語でも指導をします。積み重ねが大事なので、スピーキングプラクティスを毎回実施します。また重要文法事項も復習して行きます。スピーチ、ディスカッション、グループワークを積極的に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①スピーキングプラクティス ②授業後における質疑対応 ③毎回行う自己評価シートでの振り返りに個別に対応する。④ライティングの課題
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：ライティング課題、確認クイズで評価します。 ○D：授業への貢献度、スピーキングプラクティス、プレゼンテーションで評価します。 授業への貢献度 30% スピーキングプラクティス 15% ライティング課題 20% プレゼンテーション 15% 確認クイズ 20%
テキスト	Effective Academic Writing. Alice Savage, Masoud Shafiei, Second Edition, Oxford University Press, 2012
参考書	基本を学び構成力を養う英語ライティングルールブック テイエス企画
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。毎回のスピーキングプラクティス用の原稿は必ず準備をしましょう。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E22A09			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では最低限必要とされる英文法・語法を扱いながら、リーディング・ライティングの力を伸ばすことを目標とします。文構造にこだわりながらテキストにある自然科学や歴史に関する文章を読めるように指導します。また英文読解を通じて、語彙力の強化も目標とします。 (授業目標) Sophomore English: Basicから継続し、グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：ある話題について、360words程度の英語の文章を正確に書くことが出来る。 ○D：あるテーマの英文を読み、英文を正確に理解することができる。また英文の構造を分析しながら読解することが出来る。
----------------------------------	--

授業計画	1 第5章 助動詞で英文を考える① 英文の中で助動詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。 2 第5章 助動詞で英文を考える② 英文の中で動詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。 3 第6章 受動態で英文を考える① 英文の中で受動態がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。 4 第6章 受動態で英文を考える② 英文の中で受動態がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。 5 助動詞・受動態に関するリーディング演習（オンデマンド） 文中の助動詞・受動態を意識して、英文読解に取り組む。 6 第7章 準動詞で英文を考える① 英文の中で準動詞（不定詞・動名詞・分詞）がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。 7 第7章 準動詞で英文を考える② 英文の中で準動詞（不定詞・動名詞・分詞）がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。 8 第8章 前置詞を中心に英文を考える① 英文の中で前置詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。 9 第8章 前置詞を中心に英文を考える② 英文の中で前置詞がどのように機能し、文型とどう関係しているのかをテキストの英文を参考に改めて考えなおす。 10 準動詞、前置詞に関するまとめ 文中の準動詞、前置詞を意識して、英文読解に取り組む。 11 ライティング課題①（PBL型学習）（オンデマンド） 今年一年で最も面白かった文化的コンテンツ（本、映画、音楽、舞台、アニメなど）の中から1つを選択し、300～350語程度のエッセイの構成を考え、書き始める。 12 英語資格試験特別対策講座 TOEIC® IPテストなどの英語資格試験の特別対策講座を通じて、スコアアップを目指す。 13 多読教材を使用した英語多読リーディング演習① 図書館にある英語多読リーディング教材の中から一週間で読み切れるものを選択し、他者へ説明できるようにまとめながら読む。 14 多読教材を使用したリーディング演習②（グループワーク） 前回読んだリーディング教材について、あらためて内容を英語でまとめ、それをグループ内でシェアし、どの作品がもっとも興味を持つものだったのかをグループ内で検討する。
------	--

	15	ライティング課題② (PBL型学習) (オンデマンド) 今年一年で最も面白かった文化的コンテンツ (本、映画、音楽、舞台、アニメなど) の中から1つを選択し、300~350語程度のエッセイの構成を考え、書き終える。 エッセイのフォーマットに従って、全体を修正する。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C: ある話題について、読者を意識しながら英語で252words以上の文章を書くことができる。 ○D: あるテーマの英文を読み、主語や動詞、目的語といった文の構造を理解することができる。	
事前・事後学習	事前学習: 次のUnitで扱う単語や重要表現、文法事項の予習を行い、英文を読む。(45分) 事後学習: 重要語句や文法の復習と英文の音読を行う。(45分)	
指導方法	指導方法: 語彙、文法の説明を行った後、あるテーマの英文について音読をしながら内容を把握する。ユニットで学習した語彙・文法を用いて、身近な内容についての文章を書く練習をする。 フィードバックの方法: ①小テスト ②質疑応答 ③作文課題の添削とコメント	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C: ライティング課題・小テストの成績で評価する。 ○D: 授業への貢献度・小テスト・リーディング課題の成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 30% リーディング課題 20% ライティング課題 20%	
テキスト	倉林秀男『英文解釈のテオリアー英文法で迫る英文読解入門』(Z会、2021) ISBN: 9784865314472 竹岡広信『よくばり英作文〈新装版〉』(駿台文庫、2024) ISBN: 9784796111607	
参考書	授業中に指示する。	
履修上の注意	授業には必ず辞書を持参すること。文の構造だけではなく、文章の論理的な構造も意識するようにしてほしい。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、PBL型学習	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E22A09			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、特にリーディングとライティングの基礎力を強固にすることを目的とする。そのために英文法および英語構文の重要事項を確認し、問題演習を行う。また、短い英文の読解を通して、正確に英文を読み取る技能の習得も目指す。 (授業目標) Sophomore English: Basicから継続し、グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：授業で学んだ語彙や表現を使って、自分の意図を明確に表現する320語程度の英文を書くことができる。 ○D：様々なトピックの英語で書かれた文章を読み、その内容を正確に理解することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 Unit 13 不定詞 (1) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 不定詞の基本について理解する。不定詞に着目して英文読解を行う。 2 Unit 14 不定詞 (2) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 不定詞の注意すべき用法について理解する。不定詞に着目して英文読解を行う。 3 Unit 15 分詞 (1) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 分詞の基本的な用法について理解する。分詞に着目して英文読解を行う。 4 Unit 16 分詞 (2) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 分詞構文などの発展的な用法について理解する。分詞に着目して英文読解を行う。 5 Unit 17 動名詞 (1) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 動名詞の基本的な用法について理解する。動名詞に着目して英文読解を行う。 6 Unit 18 動名詞 (2) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 動名詞の注意すべき用法について理解する。動名詞に着目して英文読解を行う。 7 リーディング課題 (オンデマンド) 不定詞・動名詞・分詞を含んだ長文読解、英文読解を通じて知識の定着を図る。 8 Unit 19 形容詞・副詞と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 形容詞・副詞について理解する。形容詞・副詞に着目して英文読解を行う。 9 Unit 20 比較 (1) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 比較の基本的な用法について理解する。比較に着目して英文読解を行う。 10 Unit 21 比較 (2) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 比較の注意すべき用法について理解する。比較に着目して英文読解を行う。 11 ライティング課題① (PBL型学習) (オンデマンド) これまで読んだり見たりした作品 (文学作品、映像作品) を1つ選択し、250～300語程度のエッセイ (Book Review) の構成を考え、それを紹介するエッセイを書き始める。 12 英語資格試験特別対策講座 TOEIC® IPテストなどの英語資格試験の特別対策講座を通じて、スコアアップを目指す。 13 Unit 22 前置詞と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 前置詞について理解する。前置詞に着目して英文読解を行う。 14 Unit 23 関係詞 (1) と関連英文読解 (ペアワーク：ペアで文章の内容を確認し発表する) 関係詞の基本的な用法について理解する。関係詞に着目して英文読解を行う。 15 ライティング課題② (PBL型学習) これまで読んだり見たりした作品 (文学作品、映像作品) を1つ選択し、250～300語程度のエッセイの構成を考え、それを紹介するエッセイを書き終える。 エッセイのフォーマットに従って、全体を修正する。
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：身近な話題についての文章を224語程度の英語で書くことができる。 ○D：不定詞や分詞、関係詞などの概念について理解している。
---------------------	--

事前・事後学習	事前学習：本文中の分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(45分) 事後学習：語句や表現、文法を復習し、本文の音読を行う。(45分)
指導方法	文法チェックポイントについて解説し、関連例文を通してポイントの内容を深く説明する。多種多様な問題演習を通して学んだ文法知識の定着を図る。また、英語で書かれた短いエッセイ文章を読解し、文章の中の英語表現を用いてライティングを行う。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：ライティング課題・小テストの成績で評価する。 ○D：授業貢献度・リーディング課題の成績で評価する。 授業への貢献度 30% 小テスト 30% リーディング課題 20% ライティング課題 20%
テキスト	Keiichiro Fukui et al. Fundamental English Grammar with Short Readings. (『読解力につなげるコア英文法』) 朝日出版社、2019. ISBN: 9784255156385
参考書	『ジーニアス英和辞典』第5版 大修館書店 / 『プログレッシブ英和中辞典』第5版 小学館 / 『新英和中辞典』第7版 研究社 / 『オーレックス英和辞典』第2版 旺文社 / 『ウィズダム英和辞典』第4版 三省堂 / 『リーダーズ英和中辞典』第2版 研究社 / 『アドバンストフェイバリット英和辞典』東京書籍 / 『コンパスローズ英和辞典』研究社
履修上の注意	授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、PBL型学習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修 主要科目：○
担当教員			
玉川明日美			
ナンバリング：E22A09			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	本講義では、英語における「読む」と「書く」の力を伸ばすことを目標とした授業です。既習の文法事項や定型表現を再度確認して定着を図るとともに、「なぜ、そのような言葉の組み合わせで、○○ということ表現するのか」という点にまで掘り下げて考えることで、単に構文の意味を覚えてあてはめて使う、というレベルから、自分の意図を伝えるのにふさわしい表現を理解して選び、伝える、という実践的なレベルへと高めていきます。 (授業目標) Freshman Englishから継続し、グローバル社会で必要とされる英語力、特にリーディング力とライティング力の向上を目指し、問題を読み解く力や論理的な文章を構築する力を養う。 (学習成果) ◎C：自分の意見を280words程度の文章で正確に書くことができる。 ○D：様々なトピックに関するまとまった文章を、文法や語彙の知識によって段落や文構造を分析し、必要な情報を正確に読み取ることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 【対面】 授業ガイダンス、イントロダクション 授業の概要説明 イントロダクション：「単文と複文：「英文」の基本ルールの再確認」 2 【対面】 テーマ [1] 不定詞と動名詞《解説編》 「不定詞」と「動名詞」の基本的なルールを確認し、理解する。「不定詞」と「動名詞」に着目し、問題演習を行う。（ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する） 3 【対面】 テーマ[1] 不定詞と動名詞《読解編》 リーディング用テキストを用いて、「不定詞」と「動名詞」に着目して文構造を分析を行う。単語の「意味」に依らずに「文法」から英文中の必要な情報を取捨選択する練習を行う。 (グループワーク：パッセージの英文を分析し、発表し合う。パッセージのトピックについてディスカッションをする) 4 【対面】 テーマ[2] 名詞節《解説編》 「名詞節」のルールを確認し、理解する。「名詞節」に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する) 5 【対面】 テーマ[2] 名詞節《読解編》 リーディング用テキストを用いて、「名詞節」に着目して文構造を分析する。単語の「意味」に依らずに「文法」から英文中の必要な情報を取捨選択する練習を行う。 (グループワーク：パッセージの英文を分析し、発表し合う。パッセージのトピックについてディスカッションをする) 6 【オンデマンド】 「名詞」扱いする表現の基本的なルールの理解度の確認と実践 「不定詞」、「動名詞」、及び「名詞節」についての理解度を確認するための確認問題、および、与えられたトピックに関するライティング課題を行う。課題を達成するために必要なライティング(モデル文章)に関する解説、課題に関する指示のスライド資料を配信し、それらを視聴、学習した上で課題に取り組む。 【期限内の課題の提出、達成状況に応じて出欠記録を入力する。】 7 【対面】 テーマ[3] 関係節《解説編[1]》 「関係節」の基本的なルールを確認し、理解する。関係節に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する) 8 【対面】 テーマ[3] 関係節《解説編[2]》 「関係節」の応用ルール(非制限用法)を確認し、理解する。関係節に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する) 9 【対面】 テーマ[3] 関係節《解説編》 リーディング用パッセージを用いて、「関係節」に着目して文構造を分析する。単語の「意味」に依らずに「文法」から英文中の必要な情報を取捨選択する練習を行う。 (グループワーク：パッセージの英文を分析し、発表し合う。パッセージのトピックについてディスカッションをする) 10 【オンデマンド】 関係節のルールの理解度の確認と実践 「関係節」についての理解度を確認するための確認問題、および、与えられたトピックに関するライティング課題を行う。課題を達成するために必要なライティング(モデル文章)に関する解説、課題に関する指示の資料(スライド)を配信し、それらを視聴、学習した上で課題に取り組む。
------	--

	<p>【期限内の課題の提出、達成状況に応じて出欠記録を入力する。】</p> <p>11 【対面】テーマ[4] 状況に関する副詞節《解説編》 「状況」を表現する「副詞節」のルールを確認、理解する。副詞節に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する。)</p> <p>12 【対面】テーマ[4] 「条件」の副詞節《解説編》 「条件法」および「仮定法」を表現する「副詞節」のルールを確認、理解する。「条件法」と「仮定法」で使用される「副詞節」に着目し、問題演習を行う。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する。)</p> <p>13 【対面】テーマ[5] 表敬表現《解説+読解編》 英語における「敬体(表敬表現)」について確認し、理解する。特定の対象や状況を想定して、「敬体」と「常体」の使い分けについて学ぶ。 (ペアワーク：ペアで文の構造について分析結果を確認し、発表する。)</p> <p>14 【対面】総括：英語資格試験対策講座 既習事項の習熟度の確認と、それらの知識を用いて英語資格試験の問題に挑戦する。</p> <p>15 【オンデマンド】副詞節のルールと表敬表現の理解度の確認と実践 「副詞節」の理解度を確認するための確認問題、および、与えられたトピックに関して、「表敬表現」を用いたライティング課題を行う。課題を達成するために必要なライティング(モデル文章)に関する解説、課題に関する指示の資料(スライド)を配信し、それらを視聴、学習した上で課題に取り組む。 【期限内の課題の提出、達成状況に応じて出欠記録を入力する】</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎C：自分の意見を196words程度の文章で、モデル文章を参考にして書くことができる。</p> <p>○D：英文の構造を理解している。英文を英文法の知識に基づいて、複文中の「節」の部分を見分けることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：授業時の指示に従って、必要な予習を行うこと。事前に知っておくべき語彙の意味や品詞の確認、英文の分析などの課題を行う。(約45分)</p> <p>事後学習：授業の内容を自分なりに再度整理し、学習した内容の定着を行う。復習課題(問題演習、語彙や文法問題の確認テストなど)を行う。(45分)</p>
指導方法	<p>指導方法：テーマとして設定した文法事項について、2回の授業をワンセットとして学んでいく。前半で文法について解説を行い、問題演習やモデル文を応用した作文練習を通して理解を深める。後半で100～300語程度のリーディング用パッセージを用いて、学んだ文法事項を通して構文の分析、内容の読解を行う。また、テーマに応じて与えられた題材で英語でコメントを書く練習を行う。</p> <p>授業課題のフィードバックの方法： ①小テストを実施し、採点評価と解説を行う。 ②小テスト、及び、課題に伴う質疑応答 ③課題の採点評価とコメントの返却</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎C：ライティング課題、小テスト、総括課題の成績で評価する</p> <p>○D：授業への貢献度(授業内のアクティビティ)と英語資格試験対策 練習テストの成績で評価する</p> <p>授業への貢献度：30% ライティング課題：20% 定期的な既習事項確認課題：20% 小テスト：10% 英語資格試験対策 練習テスト：20%</p>
テキスト	高橋 美津子、『実践！使って身につく基礎英文法』、朝日出版社、2022年。【ISBN：978-4-255-15687-3】 (※前期から引き続き、同じ教科書を使用する)
参考書	必要な際には授業中に指示します。
履修上の注意	<p>すぐに単語の品詞や意味を確認できるように辞書を持参してください。</p> <p>辞書は電子辞書、タブレット端末の辞書アプリ(ただし、大学や出版社が配信している辞書として確かなものに限る)、紙の辞書どちらでも構いませんが、スマホの翻訳アプリやAIによる検索・回答を辞書代わりに使用することは禁止です。</p> <p>授業は「テーマ」に沿って進行するため、教科書のUnitの進行と連動していない(Unitをまたいだり、順番が前後したりします)場合があります。毎回の授業で、教科書のどの部分を学習したかに注意し、記録をつけておきましょう。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアまたはグループワーク、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
竹原文代			
ナンバリング：E12C10			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容：全クラス共有） TOEICテストの各パートの特徴の理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、毎回単語テストを行います。TOEICテストのリスニングとリーディングの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を学びます。 （授業内容：Uクラス向け） 効果的な勉強の仕方を授業内で共に実践し、それぞれが必要とするスコアを取れるよう指導します。 （授業目標：Uクラス向け） グローバル社会で必要とされる英語力の向上を目指すとともに、資格試験準備の効率的かつ効果的な学習戦略・受験戦略を考察する。 （学習成果：全クラス共通） ○C：TOEICテストの正解・不正解の根拠を正しく述べることができ、語彙の学習を継続して計画的に学習することができる。 ◎E：TOEICテストの全パートを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
----------------------------------	---

授業計画	Week #01 オリエンテーション（ペアワーク・グループワーク） 授業の進め方、教材の使い方（前期はTEST1を使用）、課題の内容、単語の学習の仕方、TOEICテストの特徴についての説明、及びクラスルールの確認。 Week #02 Part 1, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 1 頻出パターンの学習 Part 5 品詞問題 Week #03 Part 2, Part 5, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 2 ストレートな問題の解法 Part 5 品詞問題 Part 7 オンデマンド授業に向けて説明（Q147-Q148を使用）、意図問題とは 小テスト キクタン Day 1-4 Week #04 オンデマンド授業1回目 Part 7 Q149 - 157 を解く 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読の4項目を実践。次の授業に備える Week #05 Part 2, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 2 変化球問題への対処 Part 7 オンデマンド授業の内容確認と復習 小テスト キクタン Day 5-8 Week #06 Part 3, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 3 Q32 - Q37 意図問題とは Part 5 動詞問題 小テスト キクタン Day 9-12 Week #07 Part 3, Part 5, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 3 Q38 - Q43 Part 5 その他の文法問題と語彙問題 Part 7 位置選択問題とは、同義語問題とは 小テスト キクタン Day 13-16 Week #08 オンデマンド授業2回目 Part 7 Q158 - 171 を解く 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読の4項目を実践。次の授業に備える Week #09 Part 3, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 3 Q44 - Q49 Part 7 オンデマンド授業の内容確認と復習 小テスト キクタン Day 17-20 Week #10 Part 3, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 3 Q50 - Q55 Part 5 演習問題 小テスト キクタン Day 21-24 Week #11 Part 3, Part 7（ペアワーク・グループワーク）
------	---

	<p>Part 3 Q56 - Q61 Part 7 Q172 - Q175、MPの特徴と解き方 小テスト キクタン Day 25-28</p> <p>Week #12 オンデマンド授業 3 回目</p> <p>Part 7 Q176 - Q185 を解く 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読の 4 項目を実践。次の授業に備える</p> <p>Week #13 Part 3, Part 7 (ペアワーク・グループワーク) Part 3 Q62 - Q64、グラフィック問題の解き方 Part 7 オンデマンド授業の内容確認と復習 小テスト キクタン Day 29-32</p> <p>Week #14 Part 3, Part 7 (ペアワーク・グループワーク)</p> <p>Part 3 Q65 - Q70 Part 7 Q186 - Q190 小テスト キクタン Day 33-36</p> <p>Week #15 理解度テスト・調整回 理解度テストの実施 Part 7 Q191 - Q200, NOT問題とは</p>						
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○C : TOEICテストの全パートの問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。</p> <p>◎E : TOEICテストの全パートの70%を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。</p>						
事前・事後学習	<p>事前学習：指定された範囲の単語を学習する。(45分)</p> <p>事後学習：文法確認、語彙確認、音読などを中心に復習をする。(45分)</p>						
指導方法	<p>授業内で単語小テストを行い、継続的・計画的な語彙学習の一助とする。前期は Part 1, 2, 3, 5, 7 に焦点を当て、リスニングとリーディングをバランスよく指導する。進捗状況により取り扱いパートが前後する場合もある。</p> <p>フィードバック方法：①授業内での質疑応答 ②単語テストの実施 ③必要に応じて個別対応</p>						
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○C : グループワーク、ペアワークを通し授業への貢献度を数値化し評価する</p> <p>◎E : 各種テストで評価する</p> <table border="0"> <tr> <td>授業への貢献度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>単語テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>確認テスト</td> <td>40%</td> </tr> </table>	授業への貢献度	30%	単語テスト	30%	確認テスト	40%
授業への貢献度	30%						
単語テスト	30%						
確認テスト	40%						
テキスト	<p>国際ビジネスコミュニケーション協会『公式TOEIC Listening & Reading 問題集10』(IIBC, 2023) ISBN 978-4906033713</p> <p>一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』(アルク, 2016) ISBN 978-4757428584</p> <p>プリント教材</p>						
参考書	必要に応じて授業内で指示する。						
履修上の注意	<p>① 人前で間違えることを嫌がらないでください。間違いから学んだ方が定着率が高いからです。更にこのクラスは習熟度別ですので、誰かが間違えたことはクラスメートの他の学生も間違えていたり曖昧だったりするはずです。皆さんの間違いは自分だけではなく他の人の学習にも必ず役に立ちます。</p> <p>② 一生懸命取り組んでもなかなかすぐには点数に繋がらない事もあります。でも必ずその努力は報われますので、スコアの上下に一喜一憂せずにコツコツと地道な努力を積み重ねる意識を持って参加してください。</p> <p>③ 授業でスマホを使用する場面もありますが、指示がない限り音が鳴らないようにしてカバンの中に入れてください。</p>						
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、PBL型学習						

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
石田毅、高橋大樹、Ivan Botev			
ナンバリング：E12C10			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) TOEIC L&R Testに挑戦しようとする学生に対して、TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現をリスニングとリーディングを通して学びます。また単語力強化のため毎回単語テストを行います。 (授業目標) TOEICテストのスコアアップを目指し、各パートの特徴理解や専門的な解法を習得し、各人の目標に向けて計画的に実践・検証・改善を繰り返す力を養う。 (学習成果) ○C：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 Introduction/Overview of TOEIC L&R Test Lesson 1 文のはじめの5Ws & Howを聴き取る (グループワーク・ペアワーク) テキストの説明及び、授業に関する説明 TOEIC L & R TESTの概要 Part 2を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 2 Lesson 2 be動詞の直後の「動作」「状態」を写真中に確認する (グループワーク・ペアワーク) Part 1を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 3 Lesson 3 写真と矛盾した要素を探す (グループワーク・ペアワーク) Part 1を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 4 Lesson 4「許可」「依頼」「提案」「申し出」は質問・応答の典型をセットで学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 2を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 5 Lesson 5 各問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答を学ぶ/Part 1・2の攻略について (オンデマンド) Part 2を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニングなどの課題を配信し、期限までに提出する。 6 Lesson 12 典型的な設問と3問の流れを学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 3 & 4を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 7 Lesson 13 会話の全体構造も理解する (グループワーク・ペアワーク) Part 3を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 8 Lesson 14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる (グループワーク・ペアワーク) Part 4を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 9 Lesson 22 図表問題の解き方 ① (グループワーク・ペアワーク) Part 3 & 4を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 10 Lesson 22 図表問題の解き方 ②/Part 3・4の攻略について (オンデマンド) Part 3 & 4を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニングなどの課題を配信し、期限までに提出する。 11 Lesson 6 「意味」だけでなく「形」から学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 5を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 12 Lesson 8 キーワードを探して正しい時制を学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 5 & 6を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 13 Lesson 9 品詞を攻略しよう (グループワーク・ペアワーク) Part 5を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 14 Lesson 10 to do形、ing形、ed/en形の使われるパターンを学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 5を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 15 Lesson 17 代名詞を学ぶ/Part 5・6の攻略について (オンデマンド)
------	---

	Part 5 & 6を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニングなどの課題を配信し、期限までに提出する。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：TOEICテストで出題される語彙、最低(Sクラス:180ワード、Tクラス:160ワード、Rクラス:140ワード)を理解することができる。 ◎E：TOEICテストのリーディングセクションの構成、特にPart1, 2, 3, 4, 5, 6の構成を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。(約45分) 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。授業で行った単語、フレーズの書写作業。(約45分)
指導方法	履修学生を3クラス (S, T, R) に分けパート別に5週ずつ指導する。クラスによって学習するパートの順番は異なる。 毎回単語テストを行う。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開する。一方的な講義でなくペアワーク、グループワークなども積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：単語テストの実施及び、学生からのコメントに対し随時フィードバックを行う。定期的な書写ノート提出の際、ノートの方にフィードバックを行う。 学生の学習の状況を把握し、フィードバックをおこなうためGoogle Classroomを利用する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習で評価する。 ◎E：確認テストで評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 30% 確認テスト 40%
テキスト	石井洋佑, Karl Rosvold, Michael McDowell 『はじめてのTOEIC®L&Rテストきほんのきほん』 (スリーエーネットワーク, 2017) ISBN: 9784883197613 一杉武史 『キクタンTOEIC® L&Rテスト SCORE 500』 (アルク, 2020) ISBN: 9784757436404
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。毎回の事後学習の書写を行って次回の授業にのぞむこと。 *自費にて公式TOEIC®テストを受験することを勧めます。受験した場合は教員に報告すること。*学内TOEIC希望者受験も積極的に受験すること。 連絡はすべてGoogleClassroomで行うので必ず確認をすること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
東祥子			
ナンバリング：E12C10	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) TOEIC テストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) TOEIC テストのスコアアップを目指し、各パートの特徴理解や専門的な解法を習得し、各人の目標に向けて計画的に実践・検証・改善を繰り返す力を養う。 (学習成果) ○C:TOEIC テストの全 Partの問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。 ○E:TOEIC テストの全 Partを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 旅行に関する語句・表現を覚える (PBL型授業) Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング ペアワーク 2 名詞を学ぶ (単数形・複数形) (PBL型授業) Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト：Day14-15 ペアワーク 3 レストランや食事・料理に関する語句・表現を覚える (PBL型授業) Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト：Day16-17 ペアワーク 4 形容詞を学ぶ (名詞を説明する) (オンデマンド授業) Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 5 買い物に関する語句・表現を覚える (PBL型授業) Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト：Day18-19 ペアワーク 6 副詞を学ぶ (動詞・形容詞を説明する) (PBL型授業) Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト：Day20-21 ペアワーク 7 エンターテインメントに関する語句・表現を覚える (PBL型授業) Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト：Day22-23 ペアワーク 8 時制を学ぶ (現在・過去・未来) (オンデマンド授業) Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 9 広告・宣伝に関する語句・表現を覚える (PBL型授業) Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト：Day24-25 ペアワーク 10 主語と動詞の一致を学ぶ (3単元のs) (PBL型授業) Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト：Day26 ペアワーク 11 イベント・セミナー・講習会に関する語句・表現を覚える (PBL型授業) Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト：復習回Day14-26 ペアワーク 12 能動態・受動態を学ぶ (オンデマンド授業) Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング
------	---

	13	日常生活に関する語句・表現を覚える (PBL型授業) Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト: Day27 ペアワーク
	14	動名詞・不定詞を学ぶ (動詞の後ろに続く場合) (PBL型授業) Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング キクタン小テスト: Day28 ペアワーク
	15	メディアに関する語句・表現を覚える・筆記試験 (確認テスト) Part1&3を中心に練習を行う。確認テスト
到達目標・基準 C評価になる基準	○C: TOEIC テストで出題される語彙、最低120語を理解することができる。 ◎E: TOEIC テストの構成、特に Part2, 3, 5の構成を理解することができる。	
事前・事後学習	事前&学習: 単語テストの勉強と英文音読 (45分) 事後学習: 単語の復習と英文音読、授業で扱った単語・フレーズの書写 (45分)	
指導方法	単語テストを行い習熟度の充実を図る。実践形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題特徴と解法のポイントを解説し、文法も重視し考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点を当てて授業を展開する。また一方的な講義ではなくペアワークなども積極的に取り入れる。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C: 各回の課題を理解し、授業内の質疑応答アウトプットで評価する。 ◎E: : 課題、筆記試験で評価する。 授業への貢献度30% 単語テスト30% 確認テスト40%	
テキスト	Score Booster for the TOEIC L&R Test Beginner, Koji HAYAKAWA, Yoichi KISHI (金星堂、2023) ISBN978-4-7647-4088-4 C1082 キクタン TOEIC L&Rテスト SCORE 500, 一杉武史 (アルク、2023) ISBN978-4-7574-3640-4 C0082	
参考書	授業時に紹介	
履修上の注意	毎回辞書を使用するので持参。授業では課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら積極的に参加する事が求められます。単語テスト準備・毎日音読・書写は必ず行い英語力を向上させる。 また、自費にてTOEICを受験することを勧めます。受験した場合は講師に報告すること。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、PBL型学習	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
竹原文代			
ナンバリング：E12C11			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容：全クラス共通） TOEICテストの各パートの特徴の理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、毎回単語テストを行います。TOEICテストのリスニングとリーディングの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を学びます。 （授業内容：Uクラス向け） 効果的な勉強の仕方を授業内で共に実践し、それぞれが必要とするスコアを取れるよう指導します。 （授業目標：Uクラス向け） グローバル社会で必要とされる英語力の向上を目指すとともに、資格試験準備の効率的かつ効果的な学習戦略・受験戦略を考察する。 （学習成果：全クラス共通） ○C：TOEICテストの正解・不正解の根拠を正しく述べることができ、語彙の学習を継続して計画的に学習することができる。 ◎E：TOEICテストの全パートを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
----------------------------------	---

授業計画	Week #01 オリエンテーション（ペアワーク・グループワーク） 授業の進め方、教材の使い方（後期はTEST2を使用）、課題の内容、単語の学習の仕方、TOEICテストの特徴についての説明とクラスルールの確認。 Week #02 Part 1, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 1 ディクテーション Part 5 品詞問題 Week #03 Part 2, Part 5, Part 6（ペアワーク・グループワーク） Part 2 ストレートな問題の解法 Part 5 品詞問題 Part 6 オンデマンド授業に向けて説明（Q131-134を使用） 小テスト キクタン Day 37-40 Week #04 オンデマンド授業1回目 Part 6 Q135-142 を解く 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読を十分に行い、次の授業に備える。 Week #05 Part 2, Part 6（ペアワーク・グループワーク） Part 2 変化球問題への対処 Part 6 オンデマンド授業の内容確認と復習 小テスト キクタン Day 41-44 Week #06 Part 4, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 4 Q71 - Q76 Part 5 動詞問題 小テスト キクタン Day 45-48 Week #07 Part 4, Part 5, Part 6（ペアワーク・グループワーク） Part 4 Q77 - Q82 Part 5 その他の文法問題と語彙問題 Part 6 Q143 - Q146 Week #08 オンデマンド授業2回目 Part 7 Q147 - Q153 精読、正解の根拠確認、単語の学習、音読を十分に行い、次の授業に備える。 Week #09 Part 4, Part 7（ペアワーク・グループワーク） Part 4 Q83 - Q88 Part 7 オンデマンド授業の内容確認と復習 小テスト キクタン Day 53-56 Week #10 Part 4, Part 5（ペアワーク・グループワーク） Part 4 Q89 - Q94 Part 5 演習問題 小テスト キクタン総復習 Day 1-22（Chapter 1, 2） Week #11 Part 4, Part 7（ペアワーク・グループワーク）
------	---

	<p>Part 4 Q95 - Q100 Part 7 Q154 - Q157 小テスト キクタン総復習 Day 23-39 (Chapter 3, 4)</p> <p>Week #12 TOEIC L&R IPテスト受験 (オンデマンド授業3回目に相当するものとする) TOEIC L&R IPテストを受験する</p> <p>Week #13 Part 3, Part 7 (ペアワーク・グループワーク) Part 3 TEST2より抜粋 Part 7 Q158-164 小テスト キクタン総復習 Day 40-56 (Chapter 5, 6, 7)</p> <p>Week #14 Part 3, Part 7 (ペアワーク・グループワーク) Part 3 TEST2より抜粋 Part 7 Q165-175</p> <p>Week #15 理解度テスト・調整回 理解度テストの実施 Part 7 MPより抜粋</p>						
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○C : TOEICテストの全パートの問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。</p> <p>◎E : TOEICテストの全パートの70%を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。</p>						
事前・事後学習	<p>事前学習：指定された範囲の単語を学習する。(45分)</p> <p>事後学習：文法確認、語彙確認、音読などを中心に復習をする。(45分)</p>						
指導方法	<p>授業内で単語小テストを行い、継続的・計画的な語彙学習の一助とする。後期は前期にカバーしなかった Part 4, 6 に重きを置きつつ全パートの重要問題を抜粋し、リスニングとリーディングをバランスよく指導する。進捗状況により取り扱いパートが前後する場合もある。</p> <p>フィードバック方法：①授業内での質疑応答 ②単語テストの実施 ③必要に応じて個別対応</p>						
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○C : グループワーク、ペアワークを通し授業への貢献度を数値化し評価する</p> <p>◎E : 各種テストで評価する</p> <table border="0"> <tr> <td>授業への貢献度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>単語テスト</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>TOEIC IPテスト</td> <td>40%</td> </tr> </table>	授業への貢献度	30%	単語テスト	30%	TOEIC IPテスト	40%
授業への貢献度	30%						
単語テスト	30%						
TOEIC IPテスト	40%						
テキスト	<p>国際ビジネスコミュニケーション協会『公式TOEIC Listening & Reading 問題集10』(IIBC, 2023) ISBN 978-4906033713</p> <p>一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』(アルク, 2016) ISBN 978-4757428584</p> <p>プリント教材</p>						
参考書	必要に応じて授業内で指示する。						
履修上の注意	<p>① 人前で間違えることを嫌がらないでください。間違いから学んだ方が定着率が高いからです。更にこのクラスは習熟度別ですので、誰かが間違えたことはクラスメートの他の学生も間違えていたり曖昧だったりするはずです。皆さんの間違いは自分だけではなく他の人の学習にも必ず役に立ちます。</p> <p>② 一生懸命取り組んでいてもなかなかすぐには点数に繋がらない事もあります。でも必ずその努力は報われますので、スコアの上下に一喜一憂せずにコツコツと地道な努力を積み重ねる意識を持って参加してください。</p> <p>③ 授業でスマホを使用する場面もありますが、指示がない限り音が鳴らないようにしてカバンの中に入れてください。</p>						
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、PBL型学習						

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
石田毅、高橋大樹、Ivan Botev			
ナンバリング：E12C11			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) TOEIC L&R Testに挑戦しようとする学生に対して、TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現をリスニングとリーディングを通して学びます。また単語力強化のため毎回単語テストを行います。 (授業目標) TOEICテストのスコアアップを目指し、各パートの特徴理解や専門的な解法を習得し、各人の目標に向けて計画的に実践・検証・改善を繰り返す力を養う。 (学習成果) ○C：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 Lesson 7 「動作」と「状態」の違いを学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 1を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 2 Lesson 11 「音」の流れを学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 1 & 2を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 3 Lesson 15 典型的な問題文と答えのヒントとなるフレーズを学ぶ ① (グループワーク・ペアワーク) Part 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 4 Lesson 15 典型的な問題文と答えのヒントとなるフレーズを学ぶ ②, Lesson 16 Part7の頻出トピック・文書形式を学ぶ ① (グループワーク・ペアワーク) Part 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 5 Lesson 16 Part7の頻出トピック・文書形式を学ぶ ② (オンデマンド) Part 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニングなどの課題を期日までに提出する。 6 Lesson 21 Scanningを学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 7 Lesson 23 Multiple Passageを学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 8 Lesson 26 文脈を読み取る ① (グループワーク・ペアワーク) Part 3 & 4, 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 9 Lesson 26 文脈を読み取る ② Part 3 & 4, 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 10 Lesson 27 口語的なやりとりを学ぶ (オンデマンド) Part 3 & 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニングなどの課題を期日までに提出する。 11 Lesson 18 形容詞節を学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 5 & 6を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 12 英語資格試験 (TOEIC® IPテスト) 対策講座 TOEIC® IPテストを受験し、1年間の成果を確認する。 13 Lesson 20 接続詞系の問題は空所の後ろに「主語+動詞」があるか確認 Part 5 & 6を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 14 Lesson 24 文章展開パターンを学ぶ (グループワーク・ペアワーク) Part 6を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 15 Lesson 25 代名詞や限定詞について学ぶ/TOEIC攻略について (オンデマンド) Part 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニングなどの課題を期日までに提出する。
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	○C：TOEICテストで出題される語彙、最低(Sクラス:180ワード、Tクラス:160ワード、Rクラス:140ワード)を理解することができる。 ◎E：TOEICテストのリーディングセクションの構成、特にPart1, 2, 3, 4, 5, 6, 7の構成を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。(約45分) 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。授業で学んだ単語、フレーズの書写を行う。(約45分)
指導方法	履修学生を3クラス(S, T, R)に分けパート別に5週ずつ指導する。クラスによって学習するパートの順番は異なる。毎回単語テストを行う。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開する。一方的な講義でなくペアワーク、グループワークなども積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：単語テストの実施。授業後のコメントに対しては随時フィードバックを行う。定期的な書写ノート提出の際、ノートの方にフィードバックを行う。 学生の学習の状況を把握し、フィードバックをおこなうためGoogle Classroomを利用する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習で評価する。 ◎E：TOEIC IPで評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 30% TOEIC IP 40%
テキスト	石井洋佑, Karl Rosvold, Michael McDowell 『はじめてのTOEIC®L&Rテストきほんのきほん』(スリーエーネットワーク、2017) ISBN: 9784883197613 一杉武史 『キクタンTOEIC® L&Rテスト SCORE 500』(アルク、2020) ISBN: 9784757436404
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。事後学習の書写は必ず行い次週の授業に臨むこと。 *自費にてTOEICテストを受験することを勧めます。受験した場合は教員に報告すること。 連絡はGoogleClassroomで行うので必ず確認をすること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
東祥子			
ナンバリング：E12C11	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) TOEICテストのスコアアップを目指し、各パートの特徴理解や専門的な解法を習得し、各人の目標に向けて計画的に実践・検証・改善を繰り返す力を養う。 (学習成果) ○C:TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。 ○E:TOEICテストの全Partを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 代名詞を学ぶ（主格・所有格・目的格）（PBL型授業） Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク 2 求人・採用に関する語句・表現を覚える（PBL型授業） Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク 3 比較を学ぶ（比較級・最上級）（PBL型授業） Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク 4 売上・業績に関する語句・表現を覚える（オンデマンド授業） Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 5 前置詞を学ぶ（理由・譲歩・定型表現）（PBL型授業） Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク 6 会議に関する語句・表現を覚える（PBL型授業） Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク 7 接続詞を学ぶ（理由・譲歩）（PBL型授業） Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク 8 オフィスに関する語句・表現を覚える（オンデマンド授業） Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 9 前置詞と接続詞の違いを学ぶ（PBL型授業） Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク 10 人事に関する語句・表現を覚える（PBL型授業） Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク 11 関係代名詞を学ぶ（主格・所有格）（PBL型授業） Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク 12 英語資格試験（TOEIC® IPテスト）対策講座
------	--

	<p>TOEIC® IPテストを受験し、1年間の成果を確認する。</p> <p>13 ビジネスに関する語句・表現を覚える。語彙の結びつきを学ぶ①（名詞・形容詞）（PBL型授業） Part1&3（Part5&7）を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク</p> <p>14 予算・費用に関する語句・表現を覚える（オンデマンド授業） Part5&7を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング</p> <p>15 語彙の結びつきを学ぶ②（動詞・副詞）（PBL型授業） Part1&3を中心に練習を行う。音読・聞き取りトレーニング 単語テスト ペアワーク</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○C:TOEIC テストで出題される語彙、最低120語を理解することができる。</p> <p>◎E:TOEIC テストの構成、特に Part1, 2, 3, 4, 5, 6, 7の構成を理解することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：単語テストの勉強と英文音読（45分）</p> <p>事後学習：単語の復習と英文音読、授業で扱った単語・フレーズの書写（45分）</p>
指導方法	<p>単語テストを行い習熟度の充実を図る。実践形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題特徴と解法のポイントを解説し、文法も重視し考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点を当てて授業を展開する。また一方的な講義ではなくペアワーク、グループワークなども積極的に取り入れる。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○C:各回の課題を理解し、授業内の質疑応答アウトプットで評価する。</p> <p>◎E:TOEIC IPで評価する。</p> <p>授業への貢献度30%</p> <p>単語テスト30%</p> <p>TOEIC IP40%で評価する。</p>
テキスト	<p>Score Booster for the TOEIC L&R Test Beginner, Koji HAYAKAWA, Yoichi KISHI（金星堂、2023）ISBN978-4-7647-4088-4 C1082</p> <p>キクタン TOEIC L&Rテスト SCORE 500, 一杉武史（アルク、2023）ISBN978-4-7574-3640-4 C0082</p>
参考書	<p>授業時に紹介</p>
履修上の注意	<p>毎回辞書を使用するので持参。授業では課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら積極的に参加する事が求められます。単語テスト準備・毎日音読・書写は必ず行い英語力を向上させる。</p> <p>また、自費にてTOEICを受験することを勧めます。受験した場合は講師に報告すること。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	<p>ペアワーク、PBL型学習</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	国専：選択
担当教員			
山田麻貴子			
ナンバリング：E22C12	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業は集中講義となる。 TOEIC® L&R Testに挑戦してその結果に満足できなかった学生は多いと思われる。本授業ではPractical English A/B から継続してTOEICテストの特徴理解と解法の修得に焦点をあてさらなるスコアアップのための集中的に実践演習を行う。TOEIC®テストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現をPart 1～7までの問題演習を数多くこなすことで学ぶ。適宜、模試も実施する。 (授業目標) TOEIC®テストのスコアアップを目指し、各パートの特徴理解や専門的な解法を習得し、各人の目標に向けて計画的に実践・検証・改善を繰り返す力を養う。 (学習成果) ○C：TOEIC®テストのPart 1から7の問題の特徴と解法のポイントを理解し、計画的に学習することができる。 ◎E：TOEIC®テストのPart 1から7を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 Introduction (PBL型学習) (プレゼンテーション) これまでのTOEICで苦戦した、あるいは成功した過去の経験をクラス全体で共有し、履修者個人の反省点と目標を設定する。 2 Test 1 (Single 2 Question + Single 3 Question) (ペアワーク) 一つの長文につき二つの設問型問題と三つの設問型問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 3 Test 1 (Single 4 Question + Double) (ペアワーク) 一つの長文につき四つの設問型問題と二つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 4 Test 1 (Triple) (ペアワーク) 三つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。 5 Test (模試①) (オンデマンド回①) 模試形式でここまでのまとめを実施し、スコアを確認する。 6 Test 2 (Single 2 Question + Single 3 Question) (ペアワーク) 一つの長文につき二つの設問型問題と三つの設問型問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。 7 Test 2 (Single 4 Question + Double) (ペアワーク) 一つの長文につき四つの設問型問題と二つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 8 Test 2 (Triple) (ペアワーク) 三つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 9 Test 3 (Single 2 Question + Single 3 Question) (ペアワーク) 一つの長文につき二つの設問型問題と三つの設問型問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。 10 Test 3 (Single 4 Question + Double) (ペアワーク) 一つの長文につき四つの設問型問題と二つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。 11 Test (模試②) (オンデマンド回②) 模試形式でここまでのまとめを実施し、スコアを確認する。 12 Test 3 (Triple) (ペアワーク) 三つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 13 Test 4 (Single 2 Question + Single 3 Question) (ペアワーク) 一つの長文につき二つの設問型問題と三つの設問型問題を中心に練習を行う。併せて文法問題演習も実施する。 14 Test 4 (Single 4 Question + Double) (ペアワーク) 一つの長文につき四つの設問型問題と二つの長文に関する問題を中心に練習を行う。併せてリスニングパート、Part 3, 4の演習も実施する。
------	--

	15	Test (模試③) (オンデマンド回③) 模試形式でここまでのまとめを実施し、スコアを確認する。
到達目標・基準 C評価になる基準		○C : TOEIC®テストで出題される語彙、最低200ワードを理解することができる。 ◎E : TOEIC®テストのリーディングセクションの構成、特にPar7の構成を理解することができる。
事前・事後学習		事前学習 : 単語テストの勉強と、次回の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。(約60分) 事後学習 : 単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。授業で行った単語、フレーズの書写作業。(約60分)
指導方法		実戦形式の問題演習を通して、TOEIC®テストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開する。一方的な講義でなくペアワーク、グループワークなども積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方 : 単語テストの実施及び、学生からのコメントに対し随時フィードバックを行う。学生の学習の状況を把握し、フィードバックをおこなうためGoogle Classroomを利用する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準		○C : TOEIC® IPテスト、確認テストで評価する。 ◎E : 授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習、確認テストで評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20% TOEIC® IP 20% 授業内実施の確認テスト 30%
テキスト		テキストは適宜印刷したものを配布する。
参考書		授業時に紹介します。
履修上の注意		【注意事項】 受講者は学内TOEIC® IP希望者受験を原則必ず受験していただきます。 この授業は集中講義です。毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。スコアアップのためにも毎回宿題を出しますので、60分程度の事前・事後学習は必須です。また自費にて公式TOEIC®テストを受験することを勧めます。受験した場合は教員に結果を報告すること。連絡はすべてGoogle Classroomで行うので必ず確認をすること。
アクティブ・ラー ニング、PBL		ペアワーク、PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev、高橋大樹			
ナンバリング：E12C14			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>[contents] This course will primarily examine ‘The Picturebook,’ as a genre of literature, an artform and a representation of societies, cultures and history. Picturebooks combine visual text-pictures, and verbal text-words, and have their own peritext-which are the individual parts of the book, e.g., the front and back cover, dedication or endpapers. We will explore the work of a variety of author/illustrators, and through the picturebooks selected, will also discuss a range of themes, such as friendship, pride, identity, resilience and embracing diversity. Also, we will plan and practice read-alouds in class.</p> <p>[learning targets] Developing deeper knowledge of Children’s Literature in English.</p> <p>[achivements] ◎C: Observed, planned, and practiced doing interactive picturebook read-alouds following the pre-reading, during-reading and post-reading framework. ○E: Written two short reflection reports, done a short presentation and written a Final Report/given a Presentation.</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 Introduction to Picturebooks and Course Overview Introduction to the course structure and objectives. What is a picturebook? Understanding the combination of visual and verbal texts. Exploration of peritext (cover, endpapers, dedication, etc.). Instructor read-aloud: A Bus Called Heaven (Bob Graham) Themes: community, belonging, and hope.</p> <p>2 Picturebooks and Social Issues Examining how picturebooks address social movements and activism. The power of storytelling in fostering change. Instructor read-aloud: The Streets Are Free (Kurusa) Themes: social justice, children’s empowerment, activism.</p> <p>3 Classic Stories with a Twist Exploring variations of well-known stories and their messages. Understanding the impact of illustration and narrative choices. Instructor read-aloud: The Three Little Wolves and the Big Bad Pig (Eugene Trivizas) Themes: reimagining traditional tales, non-violence, and creativity.</p> <p>4 Environmental Change and Storytelling How picturebooks depict environmental and societal transformations. Instructor read-aloud: The Changing Countryside (Nicola Barber) Themes: urbanization, human impact.</p> <p>5 Student Read-Alouds Begin - Selecting and Analyzing Picturebooks Students bring and introduce their own picturebooks. Discussion on themes: friendship, identity, resilience. First student read-aloud session.</p> <p>6 Wordless Picturebooks and Visual Storytelling How do illustrations alone tell a story? Instructor read-aloud: Belonging (Jeannie Baker) Themes: urban transformation, community. Student read-aloud session.</p> <p>7 Picturebooks and Identity Exploring how picturebooks help children understand identity and belonging. Student read-aloud session.</p> <p>8 Animal Stories and Fables The role of anthropomorphism in children’s literature. Student read-aloud session.</p> <p>9 Friendship and Social Relationships in Picturebooks Understanding how picturebooks teach social skills. Student read-aloud session.</p>
------	---

	<p>10 Resilience and Emotional Growth through Storytelling How picturebooks help children face challenges. Student read-aloud session.</p> <p>11 Exploring Social Themes in Picturebooks Discussion on how picturebooks address social issues such as community, migration, and environmental awareness. Student read-aloud session.</p> <p>12 Final Face-to-Face Session - Student Presentations & Discussion Students present their reflections on their chosen picturebooks. Discuss how picturebooks can be used in different educational and professional settings. Peer feedback session to encourage discussion and engagement.</p> <p>13 On-Demand - Creating a Read-Aloud Lesson Plan Task: Students develop a lesson plan using one picturebook they selected. Submission: Upload lesson plan to Google Classroom.</p> <p>14 On-Demand - Final Read-Aloud Presentations Task: Students record and submit a video of their final read-aloud presentation, including pre-reading, during-reading, and post-reading activities. Submission: Upload video to Google Classroom.</p> <p>15 On-Demand - Course Reflection and Self-Assessment Task: Students submit a short reflection on their learning experience. Submission: Upload to Google Classroom.</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	By the end of the course, students will have: ◎C: Observed, planned, and practiced doing interactive picturebook read-alouds following the pre-reading, during-reading and post-reading framework. ○E: Written two short reflection reports, done a short presentation and written a Final Report/given a Presentation.
事前・事後学習	Reading background materials, writing two short reflection papers, making a short presentation about a picturebook, writing a Final Report on a book of your choice. (90 mins)
指導方法	Classes will be taught primarily in English. Video and other materials will be used to demonstrate skills and provide examples of the type of presentation required. Instructors will provide continuous personal feedback about progress and participation in class to all students. Progress will be checked and evaluated throughout the semester. A series of three presentations will be given by all students. Each presentation will be assessed and graded by the teacher. The results and comments will be shared with each student. Advice will be given for areas for improvement.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C: Observed, planned, and practiced doing interactive picturebook read-alouds following the pre-reading, during-reading and post-reading framework. ○E: Written two short reflection reports, done a short presentation and written a Final Report/given a Presentation. Active participation & discussion in class 20% Read-aloud, planning, presentation and reflection 20% Reflection paper/Report 20% Final Report/Presentation 40%
テキスト	No textbook required for this course.
参考書	Jim Trelease's Read-Aloud Handbook: Eighth Edition. Penguin Books; 8th edition, 2019. 978-0143133797
履修上の注意	Late submissions can only receive max. 75% of the score for that assignment.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Pair work, group work, presentation.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：選択
担当教員			
Todd William、東祥子			
ナンバリング：E12C15			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	ビジネス上の英文ライティングに関してトピック別を書く力を充実すべく授業を展開していく。文書の目的に合った書式と文面上の表現を学んでいく。とくにビジネスに必要な語彙を修得することも目指す。 (授業目標) グローバル社会におけるビジネスの現場で使われる英語表現を学び、各人の課題に沿った英語によるプレゼンテーション力を養う。 (学習成果) ◎C：相手の気持ちを考慮に入れて一段落以上のメールを作成することができる。 ○D：適切なEmailの書式にのっとって書くことができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 Introduction・Unit 1 Pleased to meet you テキストの説明および授業概要の説明 自分自身を紹介したり、情報を確認する表現を学ぶ 2 Unit 2 Getting to know you 自分と相手に関する情報のやりとりを行う表現やスケジュールに関する表現を学ぶ 3 Unit 3 In the city どこに何があるのか説明する表現やEメールの書き方を学ぶ 4 Unit 4 Ready to go 自らが何を所持しているのかに関する表現や日程調整に関する表現を学ぶ 5 Unit 5 Trains & boats & planes 電話で使用する表現や自らの好きなことを紹介する表現、提案の表現を学ぶ 6 Unit 6 The good life 金額にかかわる表現や注文の際に使用する表現を学ぶ 7 Unit 7 Talk about projects 自らの希望を伝える表現を学ぶ 8 Unit 8 Living in the past 過去に行ったことを伝える表現と情報の確認と伝達に関する表現を学ぶ 9 Unit 9 All around the world 訪問客をもてなす表現やを学ぶ 10 Unit 10 Making plans 予定に関する表現や感謝の気持ちを伝える表現を学ぶ 11 Eメール作成練習①（ペアワーク：互いに原稿を見直してコメントする） 実際にEメールを作成する。指示を書いたり、情報を依頼する一文を含むメールを作成する 12 Eメール作成練習②（ペアワーク：互いに原稿を見直してコメントする） 過去に行ったことやある問題について報告を行うEメールを作成する 13 プレゼンテーション①（オンデマンド） 自分の長所と短所についてプレゼンテーションを行うために、スライドや原稿を準備する 14 プレゼンテーション②・カバーレター作成①（オンデマンド） 自分の長所と短所について、プレゼンテーションを実施する。また英文履歴書のためのカバーレターを作成する。 15 カバーレター作成②（オンデマンド） 英文履歴書のためのカバーレターを作成し、提出する。
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：英文Emailにふさわしい表現を使用し、毎時間新たな一文を書くことができる。 ○D：目的を的確に伝えられるように、内容にあった適切なタイトルをつけ、スペルミスなく、自分の言いたいことを3行程度の英文にまとめることができる。
---------------------	---

事前・事後学習	事前学習：各 Unit冒頭の単語リストの意味調べをし、授業に備えること。(30分) 事後学習：授業で取り上げたメールを読み返し、文表現・書式を再確認する。(60分)
---------	---

指導方法	ビジネス文書、特にeメールを作成するためには、その書き方をきちんと理解しなければならない。音読などを通じて、その形式を身につけ、各種の文書を自分で実際に作成する機会をもうけていく。
------	--

	フィードバック方法：①授業内提出課題へ担当教員がコメント書き入れを行う。 ②授業内で個別の質問に回答する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：英文を作成し、その正確性を問う提出物・最終課題で評価する。 ○D：メールを作成し、書式の正確性を問う提出物・最終課題で評価する。 授業への貢献度 30% 提出物 30% 最終課題・プレゼンテーション 40%
テキスト	Bryan Stephens and Angela Buckingham, International Express Beginner, Oxford, 2013. ISBN 978-0194418287.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	授業には必ず辞書を持ってくること。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E12C14			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、英語圏の留学の際に必要な英語技能試験であるTOEFLテストの対策を通して、総合的な英語力の向上を図る。幅広い分野の文章の読解や聴解を通して、英文を正確に理解する力を養う。また、重要な文法知識を習得して、基本的な英文構造を理解し、英文読解力の向上を目指す。さらに、模擬試験や過去問題の演習を行うことにより、TOEFLテストの傾向や対策を学び、各自が目標とするスコアの到達を目指す。 (授業目標) TOEFLの傾向を学び、その対策を身に付けることを通じて、グローバルな視点と海外大学留学のために必要な知識を身に付ける。 (学習成果) ☐ C：留学に必要なTOEFLの目標スコアを設定し、そのスコアに到達するために必要な準備を自ら行うことができる。 ☒ E：英文を正確に理解するために必要な語彙や文法知識を習得し、TOEFLテストの各パートを時間内に正確に解答することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 Introduction (PBL型学習) 授業形式および内容、到達目標、学習方法の説明を行う。TOEFLをはじめとする留学に必要な英語技能試験の種類、概要についてPBL型学習を通じて報告を行う。 2 Lesson 3 環境問題① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) 環境問題に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。 3 Lesson 3 環境問題② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 仮定法や分詞について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。 4 Lesson 4 アメリカ文化① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) アメリカ文化に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。 5 Lesson 4 アメリカ文化② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 時制や受け身について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。 6 Lesson 5 進化論① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) 進化論に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。 7 Lesson 5 進化論② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 助動詞について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。 8 Lesson 6 アメリカ史① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) アメリカ史に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。 9 Lesson 6 アメリカ史② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 関係代名詞について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。 10 Lesson 7 経済① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) 経済に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。 11 Lesson 7 経済② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 接続詞や前置詞について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。 12 総合問題演習 TOEFL形式の問題に取り組み、長文の内容把握を行う。 履修前と比較し、長文を読む速度が向上したかを確認する。 13 ライティング演習① (オンデマンド) TOEFLのライティングパートと同様のライティング課題を出題する。 指定された単語数以上で、エッセイのフォーマットに則って作成する。 14 ライティング演習② (オンデマンド)
------	--

	<p>TOEFLのライティングパートと同様のライティング課題を出題する。 指定された単語数以上で、エッセイのフォーマットに則って作成する。</p> <p>15 ライティング演習③（オンデマンド）</p> <p>TOEFLのライティングパートと同様のライティング課題を出題する。 指定された単語数以上で、エッセイのフォーマットに則って作成する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○C：留学に必要なTOEFLの目標スコアを自分で判断し設定することができる。</p> <p>◎E：「仮定法」「分詞」「時制」などの重要な文法項目を理解し、長文読解力を向上させ、TOEFLテストの各パートを時間内に解答することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：テキストの問題に取り組む。分からない語句を辞書で調べる。(30分)</p> <p>事後学習：授業で扱った問題を再度解き直す。特に不正解だった問題に関して間違えた原因を分析し、正解のために必要な学習（語彙や文法、スクリプトの確認など）を行う。(60分)</p>
指導方法	<p>幅広い分野の文章の通読、精読、速読を通して文章を正確に読む力を養います。黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使える力を身につける。重要な文法項目を学習して理解を深め、問題演習を通して知識の定着を図る。学習の進捗状況を確認するために、定期的に小テストを実施し、課題の提出を求める。</p> <p>フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③課題の提出と課題に対するコメント</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○C：小テスト、課題、最終課題で評価</p> <p>◎E：小テストや課題で評価</p> <p>授業への貢献度30% 小テスト・課題 30% 最終課題 40%</p>
テキスト	阿部友直『スコアアップの土台を完全構築する TOEFLテストiBT&ITP基礎演習』（第2版）、テイエス企画、2019。ISBN:9784887842311
参考書	神部孝『TOEFLテスト英単語3800』、旺文社、2014。
履修上の注意	この授業は留学を希望する学生を対象としています。目的意識をしっかりとって積極的に授業に参加するだけでなく、授業外でも主体的に英語学習に取り組み、英語力向上に努めてください。内容がやや難解な文章を読むことがメインとなります。文章を読むのが苦ではないことが大切です。授業の際には英和辞典を必ず持参してください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、ペアワーク、PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
石田毅			
ナンバリング：E12C17			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) この授業では、Preparation for Studying Abroad Aに続き、英語圏の留学の際に必要な英語技能試験であるTOEFLテストの対策を通して、総合的な英語力の向上を図る。幅広い分野の文章の読解や聴解を通して、英文を正確に理解する力を養う。また、重要な文法知識を習得して、基本的な英文構造を理解し、英文読解力の向上を目指す。さらに、模擬試験や過去問題の演習を行うことにより、TOEFLテストの傾向や対策を学び、各自が目標とするスコアの到達を目指す。</p> <p>(授業目標) TOEFLの傾向を学び、その対策を身に付けることを通じて、グローバルな視点と海外大学留学のために必要な知識を身に付ける。</p> <p>(学習成果) ○C：留学に必要なTOEFLの目標スコアを設定し、そのスコアに到達するために必要な準備を自ら行うことができる。 ◎E：英文を正確に理解するために必要な語彙や文法知識を習得し、TOEFLテストの各パートを時間内に正確に解答することができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	<p>1 Introduction (PBL型学習) 授業形式および内容、到達目標、学習方法の説明を行う。TOEFLをはじめとする留学に必要な英語技能試験の種類、概要についてPBL型学習を通じて報告を行う。</p> <p>2 Lesson 3 環境問題① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) 環境問題に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。</p> <p>3 Lesson 3 環境問題② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 仮定法や分詞について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。</p> <p>4 Lesson 4 アメリカ文化① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) アメリカ文化に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。</p> <p>5 Lesson 4 アメリカ文化② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 時制や受け身について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。</p> <p>6 Lesson 5 進化論① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) 進化論に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。</p> <p>7 Lesson 5 進化論② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 助動詞について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。</p> <p>8 Lesson 6 アメリカ史① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) アメリカ史に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。</p> <p>9 Lesson 6 アメリカ史② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 関係代名詞について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。</p> <p>10 Lesson 7 経済① (グループワーク：授業のトピックについて話し合う) 経済に関するReading問題およびListening問題の演習を行う。通読、精読、速読を通して文章を正確に理解する。また、黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使えるようにする。</p> <p>11 Lesson 7 経済② (ペアワーク：書いた英文をお互いに添削する) 接続詞や前置詞について理解する。また学んだ文法を用いて文法的な英文を書けるようにする。</p> <p>12 総合問題演習 TOEFL形式の問題に取り組み、長文の内容把握を行う。 履修前と比較し、長文を読む速度が向上したかを確認する。</p> <p>13 ライティング演習① (オンデマンド) TOEFLのライティングパートと同様のライティング課題を出題する。 指定された単語数以上で、エッセイのフォーマットに則って作成する。</p>
------	---

	<p>14 ライティング演習② (オンデマンド) TOEFLのライティングパートと同様のライティング課題を出題する。 指定された単語数以上で、エッセイのフォーマットに則って作成する。</p> <p>15 ライティング演習③ (オンデマンド) TOEFLのライティングパートと同様のライティング課題を出題する。 指定された単語数以上で、エッセイのフォーマットに則って作成する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○C：留学に必要なTOEFLの目標スコアを自分で判断し設定することができる。</p> <p>◎E：「仮定法」「分詞」「時制」などの重要な文法項目を理解し、長文読解力を向上させ、TOEFLテストの各パートを時間内に解答することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：テキストの問題に取り組む。分からない語句を辞書で調べる。(30分)</p> <p>事後学習：授業で扱った問題を再度解き直す。特に不正解だった問題に関して間違えた原因を分析し、正解のために必要な学習（語彙や文法、スクリプトの確認など）を行う。(60分)</p>
指導方法	<p>幅広い分野の文章の通読、精読、速読を通して文章を正確に読む力を養います。黙読、音読、シャドーイングを通して英文を使える力を身につける。重要な文法項目を学習して理解を深め、問題演習を通して知識の定着を図る。学習の進捗状況を確認するために、定期的に小テストを実施し、課題の提出を求める。</p> <p>フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③課題の提出と課題に対するコメント</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○C：小テスト、課題、最終課題で評価</p> <p>◎E：小テストや課題で評価</p> <p>授業への貢献度30% 小テスト・課題 30% 最終課題 40%</p>
テキスト	阿部友直『スコアアップの土台を完全構築する TOEFLテストiBT&ITP基礎演習』（第2版）、テイエス企画、2019。ISBN:9784887842311
参考書	神部孝『TOEFLテスト英単語3800』、旺文社、2014。
履修上の注意	この授業は留学を希望する学生を対象としています。目的意識をしっかりとって積極的に授業に参加するだけでなく、授業外でも主体的に英語学習に取り組み、英語力向上に努めてください。内容がやや難解な文章を読むことがメインとなります。文章を読むのが苦ではないことが大事です。授業の際には英和辞典を必ず持参してください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、ペアワーク、PBL型学習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
Rossi Erika			
ナンバリング：E13C15 (1年生)	ナンバリング：E13C18 (2年生)	実務家教員による授業	授業方法：対面 (み)
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) イタリアの地理・歴史をベースに学びます。また、イタリア人講師による日本では知られていないイタリアの素顔に迫る話を交え、イタリアで生まれた宗教・芸術・食生活・ファッションや国民性など、イタリア文化についての知識を深めヨーロッパ地域に対する理解を高める。 (授業の目標) イタリア文化について知識を得ることによって実践的に異文化を知り国際コミュニケーションに取り組む。 (学習成果) ◎C：異文化コミュニケーションの課題を自ら見つけその解決に向けて説得力のある提案を提示することができる。 ○D：提示された課題に対して、適切な情報を収集し、知識を活かして新しい視点から物事を考えることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 地理 (グループディスカッション) イタリアの国土・気候の特徴と主な農作物の関係について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 2 歴史 古代ローマ帝国からキリスト教の誕生を経て、現在のイタリアが共和国として統一されるまでを学ぶ 3 宗教 1 (グループディスカッション) キリスト教の誕生とローマカトリックの歴史。現在の宗教儀式についてを学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 4 宗教 2 (グループディスカッション) 宗教的な年間行事と季節ごとの習慣についてを学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 5 教育 (グループディスカッション) イタリアの教育 (学校) 制度と日本との相違を学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 6 食習慣 現在のイタリア料理が確立されるまでの歴史について学ぶ：イタリアの食文化とイタリア人の食生活 7 芸術 1 (グループディスカッション) イタリア絵画の歴史。古代ローマからルネッサンスまで代表作品を紹介し、理解するための世界観・概念を説明する 各グループでグループディスカッションを行う 8 芸術 2 (グループディスカッション) イタリア絵画の歴史の続き。バロックから現代まで：各都市にある主要な歴史的建築物と代表的な彫刻作品について考察する 各グループでグループディスカッションを行う 9 オペラ (グループワーク) 世界中の人々を魅了するオペラの誕生と歴史について学ぶ。最終回に提出するオペラから着想を得たプロジェクト企画を考える 各グループでグループディスカッションを行う 10 経済 (グループディスカッション) イタリアの就業状況、伝統的職人技術と現在の生産物の関係、地方格差について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 11 国民性 (グループワーク) イタリア人の特徴と日本人との比較、人付き合いや家族との関係性について学ぶ 各グループで異文化コミュニケーションのシミュレーションを実施する 12 ファッション イタリアの服飾の歴史。有名なファッションブランドの奥深さについて考察する グループワークでそれぞれのブランドの特徴を引き出し文化との関連性において考える 13 映画 (オンライン) イタリア映画の誕生と歴史。代表的な作品の紹介 オンラインで鑑賞した映像に対する感想を求めグループディスカッションを行う
------	---

	14 15	<p>復習（オンライン） グループで復習し、ゲーム化で知識確認を行う</p> <p>プロジェクト発表（オンライン） 第9回で取り上げたオペラの鑑賞（一部・映像）に基づいたプロジェクトの提出 各グループからコメントをもらう</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	◎C：事実と主観を区分し、異文化に対する共感を磨くことができる。 ○D：異文化に対して、自ら学び理解を深めることができる。	
事前・事後学習	事前学習：授業時に指示された資料を振り返って感想文をまとめる。（約90分） 事後学習：授業の始めに、前回の授業内容から出題するグループワークを行うため、前回の授業の復習を行うこと。（約90分）	
指導方法	イタリアをはじめとするヨーロッパ地域に行ったことのない学生にも分かり易くする為、写真・動画等の資料を多く活用する。 一方的な講義ではなく、グループワーク、討論などを積極的に取り入れる。 授業の始めに、グループワークとして前回の授業内容から出題する復習を行う。 フィードバックとして、提出した課題にコメントをする。それに質疑応答の時間を儲けて講義内容に対する疑問や不明点をその場で解く。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎C：課題提出を評価する。 ○D：プレゼンを評価する。 事前課題40%、プレゼン30%、授業態度・貢献度30% *異文化コミュニケーションの基盤としているのでグループワークとグループディスカッションへの積極的参加を評価する。 プレゼンは一枚による。自分のアイデアを明確にまとめられるかを評価する。	
テキスト	テキスト：『古代ローマ人の24時間よみがえる帝都ローマの民衆生活』アルベルト・アンジェラ 著関口 英子 訳、河出文庫 ISBN-10. 4309225314 と授業でPPTのスライドや視覚資料を使用する。	
参考書	必要に応じて授業内でアナウンスする。	
履修上の注意	イタリア文化をはじめとするヨーロッパ地域に興味がある方に受講して頂きたい。初回の授業で受講に必要なテキストを配布し、この授業に関する重要な説明も行います。必ず初回の授業から参加して下さい。 度重なる欠席・授業中の居眠りやお喋りなどは、成績評価に反映される。 受講者の問題意識の程度等により、授業計画が一部変更される場合がある	
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、グループディスカッション	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
張景泰			
ナンバリング：E13C16（1年生）	ナンバリング：E13C19（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 近年、様々な韓国ドラマや映画、音楽などの影響で、韓国は日本人にとってより身近な存在となっており、一連の流れで韓国を観光地として選択するなど、その注目度は増す一方である。本講では、韓国の歴史・自然・社会などを中心に韓国の地誌的な知識の理解を深めると同時に、日韓文化の相違点・共通点について学ぶ。さらに観光資源に関する基礎的な知識と専門的な知識を修得することを目的とする。
	（授業目標） 韓国文化を深く理解し、韓国を取り巻く環境を自分の視点で整理する。
	（学習成果） ☒ C：主題に相応しい内容を整理・分析して体系的に書くことができる。 ☒ D：韓国文化全般について幅広い教養と専門知識を用いて自ら学んだ内容を理論的に説明することができる。

授業計画	1 ガイダンス、韓国に関する全体概要 授業内容、授業の進め方、授業評価に関する説明 2 異文化の理解について 韓国文化を事例として①：異文化を理解する「理解力」を基にし、自分の考えを伝える「コミュニケーション能力」を養う 3 異文化の理解について 韓国文化を事例として②：DVD視聴、韓国社会と文化について知識や理解を深めていく 4 朝鮮半島の自然環境と暮らし 自然環境による人間の暮らしについて考察する 5 韓国と北朝鮮、朝鮮戦争について 同じ民族でありながら、別の国になった歴史的経緯について考察する 6 韓国の産業構造と地域性（オンデマンド） 資本主義を取り入れて発展している韓国について学習する。 7 朝鮮半島の歴史と地域性（オンデマンド） 古朝鮮・三国時代・高麗・朝鮮、そして近代・現代までの流れ。 8 韓国の行政区域と世界遺産について 日韓の行政区域の共通点・相違点について学んだうえ、区域別の世界遺産について学習する。 9 「韓流」について① 韓流の始まりや関連政策について、映画：DVD視聴 10 「韓流」について② 韓流の戦略や日本での流れについて、映画：DVD視聴 11 日本と韓国の文化の差異・共通点について① 日・韓の結婚式について 12 韓国の観光地①について 大都会を中心に 13 韓国の観光地②について 韓国における交通網 14 韓国の観光地③について（オンデマンド） リゾート地を中心に 15 日本と韓国の文化の差異・共通点について②（PBL）、韓国における観光資源の総括 韓流文化についてPBL（Project Based Learning）を試みる。授業の総括、期末レポートの提出
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	☒ C：主題に相応しい内容を整理・分析して体系的に書くことができる。 ☒ D：①韓国の歴史・自然・社会などを中心に地誌的に解説することができる。 ②日本と韓国の文化の差異・共通点について理解し、説明することができる。 ③韓国の観光資源に関する知識を理解でき、説明することができる。
---------------------	---

事前・事後学習	事前学習：新聞や雑誌などで韓国関連の記事やコラムなどを調べて、疑問など感想を書いて提出すること。（60分）事前にGoogle Classroomの資料や文書を予め読んでおくこと。（30分） 事後学習：授業で学んだことを振り返りながら、その要点などを整理して書いておくこと。（90分）
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。適宜DVDなど、視聴覚資料を利用する。 毎回の授業において作成・提出される授業課題レポートに対し、次回の授業で講評と質問に対する回答を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：主題に相応しい内容を整理・分析し期末レポートで評価する。期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。 ◎D：韓国文化全般について幅広い教養と専門知識を用いて自ら学んだ内容を理論的に説明することを毎回の授業内レポートで評価する。70 点(各回 5 点×14 回)
テキスト	特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料をグーグルクラスルームにアップする。
参考書	
履修上の注意	受講生の問題意識の程度等により、授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	PBL (Project Based Learning) : 「問題解決型学習」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
姜瑢嬉			
ナンバリング：E13C17			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 韓国の伝統文化・現代文化について幅広く学び、韓国文化に対する理解を深めることを目的とする。韓国の衣食住、韓国料理、伝統芸能などをテーマに、講義・ディスカッション・実践的な活動を交えながら学習を進める。 (授業目標) 韓国の文化の基本的な知識、韓国社会における価値観や生活様式が習得できる。韓国文化と日本の文化の比較ができ、多文化理解を深める。 (学習成果) ○C：韓国文化に関する課題に対し、適切な資料を集め、比較分析することができる。 ◎D：韓国文化に関連するプレゼンやディスカッションを通じ、日韓文化の共通点や違いについて話すことができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス、韓国に関する全体概要 授業内容・授業進行・成績評価に関する説明 韓国の国旗、建国神話、通貨、宗教など韓国の基本情報を学ぶ (ICT活用：クイズで授業内容の理解度を確認する) 2 韓国の文字 ハングル学習：構造、特徴、発音、書き方を学ぶ 基本挨拶文の練習・実演 (ICT活用：クイズで授業内容の理解度を確認する) 3 韓国の伝統衣装 韓服の種類、韓服の着方など伝統衣装について学ぶ 日韓ファッションの特徴などを分析し比較する 日韓の衣文化についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む。) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用) 4 韓国の食文化 韓国の伝統料理、季節料理、キムチ、韓定食、食器など食文化について学ぶ 人気間食、ご当地グルメ、出前文化など現代の食文化について学ぶ 日韓の食文化についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用) 5 韓国の住居文化 オンドル、住宅スタイル、家電など居住文化について学ぶ 日韓の居住文化についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用) 6 韓国の名節 韓国の正月(ソルナル)、韓国のお盆(チュソク)など代表的な名節文化について学ぶ 誕生日、結婚式、葬式など冠婚葬祭文化について学ぶ 日韓の名節文化についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用) 7 韓国の生活文化 韓国独特の生活文化やタブー、マナー、エチケットについて学ぶ 挨拶や上下関係に基づくビジネスマナーを含め、韓国の礼儀作法について学ぶ 日韓の生活文化についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用) 8 韓国の余暇文化 健康ランド(チムジルバン)、ネットカフェ、行楽文化など韓国人の余暇の過ごし方について学ぶ 日韓の余暇文化についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用)
------	---

	9	<p>韓国の観光地 韓国の地理、有名観光地、地域祭り、特産物、人気スポットなど韓国の観光地について学ぶ 日韓の観光特色についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用)</p>
	10	<p>韓国の若者 韓国の教育、受験文化、キャンパスライフ、就活、出会いと恋愛、美容、流行など韓国の若者文化について学ぶ 日韓の若者文化についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用)</p>
	11	<p>韓国の大衆文化 韓流ブーム、韓国映画、韓国ドラマ、K-popなど韓国大衆文化について学ぶ 日韓の大衆文化についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用)</p>
	12	<p>韓国の伝統芸能 伝統舞踊、伝統楽器、伝統音楽、伝統遊び、テコンド、民謡など韓国の伝統芸能について学ぶ 日韓の伝統芸能についてPBL (Project Based Learning) を試みる (グループワーク、プレゼンテーション：4～5人のチームを作り、課題解決に取り組む) 小テストで授業内容の理解度を確認する。(ICT活用)</p>
	13	<p>オンデマンド：旅行に役立つ韓国語① 韓国旅行で使えるフレーズや単語を学ぶ 空港やホテル、道案内や場所を聞く表現について</p>
	14	<p>オンデマンド：旅行に役立つ韓国語② 韓国旅行で使えるフレーズや単語を学ぶ 買い物、飲食店で使える表現について</p>
	15	<p>オンデマンド：韓国料理と伝統工芸品 韓国料理と工芸品作り体験 授業の総括 期末レポートの提出</p>
到達目標・基準 C評価になる基準		<p>○C：グループ活動をしながら協力して課題を完成・達成することができる。 ◎D：韓国文化に関する調査・紹介を行い、それを基に異文化について説明ができる。</p>
事前・事後学習		<p>事前学習：予告された授業内容について調べて予習する。(30分程度) 授業内容の疑問・質問などを用意する。(30分程度) 日本と韓国の文化のついて説明できるよう予め比較・整理する。(30分程度)</p> <p>事後学習：Google Classroomの資料を参考にしながら、授業内容を振り返る。(30分程度) 授業内容をノートに整理し、理解する。(30分程度) 小テストで間違った問題を確認し、復習しながら覚える。(30分程度)</p>
指導方法		<p>パワーポイント、映像資料などを使用し説明する。 一方的な講義ではなくグループワーク、プレゼンテーション、教育用プラットフォームを積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却の際に個別対応する。 小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準		<p>○C：グループワーク、授業態度及び授業貢献度によって評価する。 ◎D：課題、小テスト、提出物によって評価する。</p> <p>課題30%、小テスト・グループワーク50%、授業態度・貢献度20%</p>
テキスト		<p>適宜必要なプリント等の資料を配布する。 授業後、授業内容が復習できるよう授業資料をGoogle Classroomに掲載する。</p>
参考書		
履修上の注意		<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外は出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 授業に積極的に参加してください。 課題は必ず期限内に提出してください。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL		<p>グループワーク、プレゼンテーション、PBL型授業</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
竹原文代			
ナンバリング：E13C18 (1年生)	ナンバリング：E13C20 (2年生)		授業方法：対面 (み)
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) アメリカの歴史と文化史について概説し基礎知識を学びます。文化的、人種的、政治的背景をふまえて様々な問題を多角的に分析します。受講者には、毎回の講義内容についてリアクションペーパーや課題を提出してもらいます。また、授業では関連のアメリカに関連のある作品、アメリカの歴史・文化史がどのように視覚的に表現されているかを学び、クラスで意見・考察・疑問点等を共有します。 (授業目標) アメリカ史における、歴史的・文化的背景の学びを深め、グローバル社会で必要な知識を理解し考える力を養います。 (学習成果) ◎D：アメリカ史の重要な出来事や現代の問題点を理解することができる。 ○E：アメリカ史における重要な出来事について自分の言葉で説明し自分の見解を述べるができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション・アメリカンスタディーズへの導入(ディスカッション) オリエンテーション・アメリカンスタディーズへの導入 2 「新世界」とイギリス植民地社会 (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション) 植民地時代について 3 「新世界」とイギリス植民地社会の発展 (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション) 植民地時代から独立戦争について 4 新興国アメリカの建設 (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション) アメリカの建設 5 南北の対立・内戦・再建① (オンデマンド) 動画を観ながらワークシートに取り組み、授業課題を期限までに提出すること。 6 南北の対立・内戦・再建② (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション) 再建について 7 産業化するアメリカ ① (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション) アメリカの産業化 8 産業化するアメリカ② (オンデマンド) 動画を観ながらワークシートに取り組み、授業課題を期限までに提出すること。 9 現代のアメリカの形成① (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション) アメリカの形成の基礎知識 10 現代のアメリカの形成② (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、PBL型授業) アメリカの出来事について初めて聞く相手に説明するにはどうしたらよいか。 11 現代のアメリカの形成③ (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、PBL型授業) アメリカが抱える問題について自分がリーダーだとしたらどのような解決方法を導き出すか。 12 現代のアメリカ① (オンデマンド) 動画を観ながらワークシートに取り組み、授業課題を期限までに提出すること。 13 現代のアメリカ② (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション) 移民問題や人種問題 (Black Lives Matter等) アイデンティティ、セクシャリティー (トランスジェンダー、LGBT) について 14 アメリカの歴史・文化 (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション) プレゼンテーションおよびディスカッション 15 アメリカの歴史・文化 (ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション) プレゼンテーションおよびディスカッション
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：アメリカ史の重要な出来事を理解することができる。 ○E：アメリカ史における重要な出来事について自分の言葉で説明することができる。

事前・事後学習	事前学習:アメリカの歴史に関心を持ち、アメリカ関連記事を読んで準備をする。また小テストや課題の準備をする。(約90分) 事後学習:授業内で学んだアメリカの歴史や文化について毎回復習する。授業で扱った内容を記載したノートを必ず一度は再読する。(約90分)
指導方法	講義だけではなく、随時動画なども使用して、視覚的にも理解を深められるよう指導します。また、授業課題や小テストなども随時導入します。学生の理解度に沿ったペースで授業を進めていきます。 授業のフィードバックの方法:①授業課題、②授業における質疑応答 ③授業で行う振りかえりシート
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D:授業への貢献度、授業課題で評価します。 ○E:クイズ、プレゼンテーションで評価します。 授業貢献度 40% 講義内確認クイズ 30% プレゼンテーション30%
テキスト	授業内で資料を配布
参考書	よくわかるアメリカの歴史 梅崎 透、坂下史子、宮田伊知郎著 (ミネルヴァ書房 2021年)
履修上の注意	授業内で発表することが多いため、主体的に学ぶ意欲があり計画的に課題を進めることが必要となります。オンデマンドの授業回は期限までの課題提出により出欠および評価をします。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、PBL型授業

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E23C21			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では社会での女性の立場や家庭における女性の役割の変遷を女性主人公に焦点を当てて講義を行います。たとえば『アナと雪の女王』や『千と千尋の神隠し』といった映像作品だけでなく『ブリジットジョーンズの日記』といった映像化された小説に触れながら、現代女性が置かれた状況について講義を行います。物語の背景となっている女性の労働や貧困といった現代的なテーマについて理解を深めます。
	(授業目標) ジェンダーの基本的な概念を身に付けるだけでなく、実際の作品へのジェンダー論的な解釈方法を学ぶことにより、問題意識を身に付け、グローバルな社会で当然の知識を身に付ける。
	(学習成果) ◎D：文学作品や映画作品を通して現代社会を形作る諸要素がどのように女性の生活、とりわけ働くことに影響を与えてきたのかを理解し、物語を歴史や文化と接続し理解することができる。 ○E：文学作品や映像作品について書かれた文章を自ら読んだり、関連性のあるキーワードなど調べたことをまとめ、わかりやすく説明することができる。

授業計画	1 イントロダクション (PBL) 授業の進め方、教科書の使用方法（読み方、キーワード）の説明後、「フェミニズム」「ポストフェミニズム」「第二波フェミニズム」「第三波フェミニズム」などのキーワードから一つ選択し、どのような特徴があるのかを報告する。
	2 ヒロインと働くこと① 『アナと雪の女王』を通じてヒロインの労働を考える
	3 ヒロインと働くこと② 『アナと雪の女王』を通じてヒロインの労働を考える
	4 ヒロインと働くこと③ 『アナと雪の女王』を通じてヒロインの労働を考える
	5 ヒロインと成長① (オンデマンド) 「成長」物語というジャンルを知り、成長とヒロインの関係を考える テキストの該当部分に関する動画を視聴し、成長物語に関する課題を期限までに提出する
	6 ヒロインと成長② 「成長」物語というジャンルを知り、成長とヒロインの関係を考える
	7 ヒロインと成長③ 「成長」物語というジャンルを知り、成長とヒロインの関係を考える
	8 ヒロインと家事① ヒロインが家事という労働に従事する物語を考える
	9 ヒロインと家事② ヒロインが家事という労働に従事する物語を考える
	10 ヒロインと家事③ (オンデマンド) ヒロインが家事という労働に従事する物語を考える テキストの該当部分に関する動画を視聴し、女性と家事労働に関する課題を期限までに提出する
	11 ヒロインと現代① 物語の中に描かれる現代のヒロインについて考える
	12 ヒロインと現代② 物語の中に描かれる現代のヒロインについて考える
	13 ヒロインと現代③ 物語の中に描かれる現代のヒロインについて考える
	14 ポストフェミニズムとヒロイン① 現代の労働とポストフェミニズム状況について考える
	15 ポストフェミニズムとヒロイン② (オンデマンド) 現代の労働とポストフェミニズム状況について考える

	テキストの該当部分に関する動画を視聴し、ポストフェミニズムに関する課題を期限までに提出する
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：物語の背景となっている時代や文化を知り、社会でのジェンダー問題について理解することができる。 ○E：授業中に出てきたキーワードを使い、物語の問題点を指摘することができる。
事前・事後学習	事前学習：資料のあらかじめ指示された部分を精読し、わからない用語、キーワードは各自調べておく。 (90分) 事後学習：授業中に出てきた用語の復習を行い、授業で扱った文章を再読しておく。 (90分)
指導方法	授業では扱う作品に関連する批評を読むことが中心となります。単純に文字を追うだけでは意味を理解したこととはならないため、理解を促進するために毎回の確認クイズを行っていきます。授業で使用する資料はGoogle Classroomを通じて配布します。 フィードバックの方法：①提出したコメントシートを次回の授業冒頭で講評する。②授業後の質疑応答
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：最終課題で評価する。 ○E：授業への貢献度、課題・提出物で評価する。 授業への貢献度 30% 課題・提出物 30% 最終課題 40%
テキスト	河野真太郎『戦う姫、働く少女』（ちくま文庫、2023）
参考書	①日本ヴァージニア・ウルフ協会編『終わらないフェミニズム 「働く」女たちの言葉と欲望』（研究社、2016） ②北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』（書肆侃侃房、2019） ③清水晶子『フェミニズムってなんですか』（文春新書、2022）
履修上の注意	授業中は文章を読み、考えることが中心となります。ジェンダーやフェミニズムについて知的好奇心のある学生さんに履修してもらいたい授業です。みなさんが積極的に授業に参加し、一緒に思考してくれることを期待しています。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
新垣修			
ナンバリング：E23C22			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>【授業内容】 本講義では、国際関係にまつわる理念や理論を整理し、ファッションやAIなどの様々な観点から個別の事象を考えます。また、マザー・テレサやフローレンス・ナイチンゲールといった人物の生き方に触れ、彼らの思考・行動とイメージというレンズを通じ、国際関係論の意味を探ります。</p> <p>【授業目標】 人間の考え方や行動、それに対する批判を主体的に学ぶことにより、国際関係論を探求する姿勢を身につけることをめざします。</p> <p>【学習成果】 ☒A：グループ・ディスカッションや教員との対話などを通じ、既存の見方を批判的に考え、新たなアイデアを創り出すことができる。 ☐E：基本的な概念や理論を把握することで国際関係の現象を理解することができる。</p> <p>成績評価基準は次です。 期末試験（60%） 授業内クイズ（40%）</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>第1回 プロローグ & 「国際関係論」とは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・授業概要の説明 ・国際関係論とは何か？ ・国家と国際社会 ・戦争と国際社会 ・国際関係と暴力 ・国際関係と平和 ・おわりに <p>第2回 人間から国際関係を考えよう：リアリズムとリベラリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・リアリズムとは何か？ ・リアリズムがみる人間 ・リアリズムがみる国際関係 ・リベラリズムとは何か？ ・リベラリズムがみる人間 ・リベラリズムがみる国際関係 ・リアリズムとリベラリズムの比較 ・おわりに <p>第3回 感情と文化から国際関係を考えよう：社会構築主義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・社会構築主義とは何か？ ・社会構築主義登場の歴史的背景 ・要素と概念 ・見解 ・社会構築主義がみる国際関係：思考で生まれる平和 ・まとめ <p>第4回 人間と安全保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・変化する人間の概念 ・人間の安全保障の登場 ・人間の安全保障の概念 ・おわりに <p>第5回 人道危機：ルワンダの経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・ルワンダ略史 ・ルワンダと植民地政策 ・ウガンダにおけるツチ難民 ・ルワンダ危機 ・おわりに
------	---

第6回	<p>貧困を哲学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・貧困の世界的現状 ・倫理上の義務について ・ピーター・シンガーの義務論 ・トマス・ボグゲの義務論 ・国民優先論について ・まとめ
第7回	<p>ファッションから見る国際関係論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・なぜ、ファッションから国際関係を学べるのか？ ・グローバル経済とファッション ・冷戦期における国際社会・国連での取り組み ・SDGsへのパラダイムシフト ・持続可能ファッションのための国連アライアンス ・おわりに
第8回	<p>地球環境：ツバルから考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・気候変動・海面上昇と適応策 ・ツバル ・国外移住政策と外交 ・開発と適応策 ・日本は何をすべきか？ ・おわりに
第9回	<p>グローバル・ヘルス：感染症との闘い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・前史 ・コレラとペスト：19世紀の欧州を中心に ・戦争と感染症 ・冷戦と感染症 ・HIV/AIDS ・COVID-19（新型コロナウイルス感染症） ・おわりに
第10回	<p>AIから考える国際関係論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・AIの概要 ・AIと平和 ・AIと人間、そして宗教 ・おわりに
第11回	<p>ジェンダーと人権：FGM</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・FGMとは何か？ ・文化はFGMを正当化できるか？：倫理からの議論 ・おわりに
第12回	<p>フリチョフ・ナンセン：前へ!、平和へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・幼少期・青年期 ・探検家・科学者として ・ノルウェー独立・外交・国際連盟 ・戦争捕虜の帰還 ・無国籍者・難民支援 ・ロシア飢餓と支援 ・住民交換 ・ナンセン平和観の両義性と普遍性 ・おわりに
第13回	<p>フローレンス・ナイチンゲール：統計の闘士（オンデマンド）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・フローレンス・ナイチンゲールとは？ ・恵まれた少女時代と看護師への目覚め ・人々との出会い ・クリミアの天使 ・後悔からの再出発：クリミアの天使から統計の闘志へ ・赤十字・デュナンにもたらした影響 ・平和への貢献：看護の概念と制度の確立 ・おわりに
第14回	<p>マザー・テレサ：見捨てられた人々に捧げた愛（オンデマンド）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・マザー・テレサとは？ ・修道女としてインドへ ・バルカン戦争：民族・宗教対立 ・インド情勢 ・スラムへ ・宗教と平和：異教の民に愛された人 ・マザー・テレサの平和観：暴力について ・ノーベル平和賞受賞 ・おわりに
第15回	<p>杉原千畝：「命のビザ」を発給した外交官 & エピローグ（オンデマンド）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・難民の国際法 ・時代背景と国際関係 ・命のビザ発給：苦悩と決断

	<ul style="list-style-type: none"> ・杉原の思想と行動：国際秩序と平和 ・おわりに
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎A：グループ・ディスカッションに積極的に参加し、教員との対話を成立させることができる。</p> <p>○E：基本的な概念や理論を理解することができる。</p>
事前・事後学習	<p>【事前学習】開講後に配布される授業アウトライン集に沿って予習してください。その際、授業アウトライン集に列挙されている参考文献などを参照してください。（90分程度）</p> <p>【事後学習】パワーポイントなどを使って授業内容をまとめ、再度その理解を深めてください。（90分程度）</p>
指導方法	授業アウトライン集を事前配布します。それに沿って、パワーポイントを使用しながら授業を行います。また受講生間、受講生・教員間の対話を積極的に導入します。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎A：新たなアイデアを創出する力をクイズや試験で試します。</p> <p>○E：概念や理論に対する理解度をクイズや試験で試します。</p> <p>成績評価基準は次です。</p> <p>期末試験（60%）</p> <p>授業内クイズ（40%）</p>
テキスト	教科書指定なし。
参考書	<p>山田高敬・大矢根聡（編）『グローバル社会の国際関係論（新版）』有斐閣（2011）</p> <p>新垣修『時を漂う感染症：国際法とグローバル・ 이슈の系譜』慶應義塾大学出版会（2021）</p> <p>新垣修『フリチョフ・ナンセン 極北探検家から「難民の父」へ』太郎次郎社エディタス（2022）</p>
履修上の注意	<p>*講義内容の理解度を高めるために、日ごろから世界の出来事や社会問題などに関心を持ち、SNSなどで情報を収集し、内容を理解するようにしてください。また、グループ・ディスカッションや講師との対話の機会を多く取り入れているので、積極的に議論に参加し発言することを期待しています。</p> <p>*授業では世界で起きている最近の話題を多く取り入れるため、授業内容やスケジュールに変更が生ずる場合があります。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループ・ディスカッションや講師との対話の機会を頻繁に導入します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
石田毅、竹原文代			
ナンバリング：E23C21（1年生）	ナンバリング：E23C23（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この授業では、日本のさまざまな文化事象に関する知識を身につけ、日本について英語で発信する力を培うことを目指します。指定教材は英日対訳となっていますので、和訳することが目的ではありません。英語で発信する際に使える表現を拾い集めるために英文を読んでいます。毎週、ある程度の量の英文をカバーしますので、安定的に取り組む姿勢が大切です。
	(授業目標) 日本国内の観光地や日本文化について英語で発信するための表現力を広げる
	(学習成果) ☒ A：グループメンバーと効果的に協働して日本の魅力を英語で紹介することができる ☒ E：日本文化や観光地について英語で説明することができる

授業計画	#01 オリエンテーション／日本の文化と基本情報①（ペアまたはグループワーク） 授業の進め方や評価方法、テキストの活用法などについて説明する 読み物「東京」／ワークシート① #02 日本の文化と基本情報②（ペアまたはグループワーク） 復習テスト① 読み物「侍」／ワークシート② #03 日本の文化と基本情報③（ペアまたはグループワーク） 復習テスト② 読み物「着物」／ワークシート③ #04 日本の文化と基本情報④（ペアまたはグループワーク） 復習テスト③ 読み物「漫画」／ワークシート④ #05 日本の文化と基本情報⑤（ペアまたはグループワーク） 復習テスト④ 読み物「秋葉原」／ワークシート⑤ #06 観光地と食①（ペアまたはグループワーク） 復習テスト⑤ 読み物「皇居」／ワークシート⑥ #07 観光地と食②（ペアまたはグループワーク） 復習テスト⑥ 読み物「明治神宮」／ワークシート⑦ #08 観光地と食③（ペアまたはグループワーク） 復習テスト⑦ 読み物「京都」／ワークシート⑧ #09 観光地と食④（ペアまたはグループワーク） 復習テスト⑧ 読み物「麺類」／ワークシート⑨ #10 観光地と食⑤（ペアまたはグループワーク） 復習テスト⑨ 読み物「富士山」／ワークシート⑩ #11 プレゼンテーション準備①（グループワーク、PBL） 復習テスト⑩／グループ分け／テーマ策定／原稿作成 #12 プレゼンテーション準備②（遠隔、PBL） 原稿作成／発表準備 #13 プレゼンテーション発表（グループワーク、PBL） 発表およびピアレビュー（相互評価） #14 日本の文化と基本情報⑥（遠隔） 読み物「新幹線」／ワークシート⑪ 復習テスト⑪ #15 観光地と食⑤（遠隔）
------	--

	読み物「寿司とてんぷら」／ワークシート⑫ 復習テスト⑫
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：グループメンバーと一緒に英語でのプレゼンテーションを完了できる ◎E：日本文化や観光地について書かれた英文の大意を理解することができる
事前・事後学習	事前学習：指定された教科書の箇所を読み、予備知識や背景情報について把握しておく。(60分) 事後学習：授業の中で扱った英文を音読筆写し、さらに作文で使えそうな／使ってみたい表現を抜粋して表現集を作成する。(120分)
指導方法	授業では毎週1つテーマを扱い、どうして対訳の日本語になるかを英文の構造を中心に解説する。あわせて前週に扱った文章の穴埋め課題を小テストして実施する。学期末にはグループで3分程度の日本紹介のプレゼンテーションをすべて英語で実施し、そのピア評価をもって期末試験に代える。 フィードバックの方法：①授業内での質疑応答 ②ワークシートの提出&添削 ③小テストの採点&添削 ④学期末プロジェクトのピア評価
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A：学期末のプレゼンテーションで評価する ◎E：授業内の復習テストならびにワークシートの提出状況によって評価する 授業への貢献度 20% 復習テスト 10% ワークシート 20% 最終発表課題 50%
テキスト	ロックリートーマス『英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史』（東京書籍、2019）（ISBN：978-4-487-81288-2）
参考書	必要に応じて授業内で指示する。
履修上の注意	本文の細かい解説は行いません。読解のコツやストラテジー紹介が講義の中心となります。授業前のある程度予習しておかないと学びが薄くなります。英語の得意不得意は問いませんが、自分で英文を読み進める覚悟がない人の履修はオススメできません。主述の呼応や並列関係、挿入や言い換えなど、文章の組み立てに注意しながら英文を読む練習、英語らしい表現のストックを増やす取り組みを優先しますので、大学編入を目指す人や英語の表現力を強化したい人の履修を望みます。
アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、PBL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E14C22	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 ・多種多様な業種が関わりあうエアラインビジネスの仕組みや、その業務内容を学ぶ。 ・具体的なサービス事例をもとにディスカッションを行い、エアライン業界におけるホスピタリティマインドを理解する。 ・キャビンアテンダント・グランドスタッフに求められる素養を学び、基礎的な自己分析を実施する。 【授業目標】 ・エアライン業界を代表する職種の特性や求められる素養、ホスピタリティマインド、仕事のやりがいを理解する。 【学習成果】 ○B：サービス事例に関するディスカッションにて、自身の考えを積極的に発表することができる。 ○D：キャビンアテンダント・グランドスタッフの業務について理解し説明することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明を行う 毎週実施する企業研究課題について説明を行い、今後、自宅で行う課題の取り組み方を学ぶ 2 航空業界に従事する者に求められる素養 航空業界に従事する者に求められる素養についてディスカッションする 学生時代に自身が取り組むべき事柄を選択する 3 航空業界の業務経験に向けて 航空業界で行われる各種インターンを紹介し、学びたい事例を理解する 自己分析の手法を学び、実践する 4 【オンデマンド】ホスピタリティマインドの醸成 自身が大切にしているホスピタリティマインドを探し、それを軸にした人との関わり方について振り返る 「人と関わる際に大切にしていること」について、文章にまとめ発表する 5 航空産業の黎明期 航空産業が欧米でどのように成立したかを理解する 6 【オンデマンド】日本における航空産業の発展 我が国において航空産業がどのように発展してきたか理解する 7 フルサービスキャリアとローコストキャリア ビジネスモデルの概要 大手航空会社（FSC）と格安航空会社（LCC）の収益構造・サービス内容を、具体的事例を用いて比較する PBL「FSCユーザーをLCCユーザーにするためのPR方法は？」についてグループワークを行い、プレゼンテーションする 8 【オンデマンド】アライアンス 航空業界のアライアンスについて学び、理解を深める アライアンスを使って、世界一周をするフライトプラン作りにチャレンジする 9 これからのエアラインビジネス 航空業界の社会貢献や今後の航空産業について学ぶ 10 サービス要員としてのキャビンアテンダント業務 サービス事例から、サービス要員としてのキャビンアテンダント業務を理解する（グループワーク） 11 保安要員としてのキャビンアテンダント業務 保安事例から、保安要員としてのキャビンアテンダント業務を理解する（グループワーク） 12 定時性、安全運航に貢献するグランドスタッフ業務 具体的な業務の流れから、定時性や安全運航に貢献するグランドスタッフ業務を理解する（グループワーク） 13 サービス要員としてのグランドスタッフ業務 サービス事例から、サービス要員としてのキャビンアテンダント業務を理解する 14 グランドスタッフ職のグランドハンドリング業務とオペレーション業務 グランドハンドリング業務・オペレーション業務の内容を学び、求められる素養についてディスカッションを行う（ディスカッション）
------	---

	15 エアラインホスピタリティ エアライン業界でのサービス実例をもとに、どのようなホスピタリティを実施したいか各自プレゼンテーションを行う
到達目標・基準 C評価になる基準	エアライン業界を代表する職種の特性や求められる素養を理解する。 ◎B：サービス事例をもとに、エアライン業界におけるホスピタリティマインドを理解することができる。 ◎D：エアライン業界内の複数の業種を学び、その特性を理解することができる。
事前・事後学習	【事前学習】事前に告知したテーマにかかわるニュース報道などの情報収集（100分） 【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しとエアライン業界用語・キーワードの確認（80分）
指導方法	パワーポイント・資料配布（クラスルーム）を使って講義形式で行う。 理解を深めるために適宜グループワークを実施し、アウトプットを促す。 毎週の小レポートから学生間で共有すべき内容を講師が選び、当該学生に発表をさせ、ディスカッションを行う。 エアライン業界従事者を招いて具体的な業務内容を聞き、エアラインホスピタリティに関する質疑応答の機会を持ち、教科書や講義で学んだ内容の理解を一層深める。 授業の最後に毎回小レポートを記入・提出。 レポートなどの提出物は、Google Classroomを通じ個別コメントでフィードバックをし、授業内での全体講評を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業内レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ◎B：授業での取り組み姿勢と発言を評価する ◎D：知識確認テストや課題を評価する 授業への貢献度 20% 小レポート・課題 40% 最終レポート 40%
テキスト	晃洋書房『エアライン・ビジネス入門 第2版』稲本恵子編著 2021年 ISBN 4771034710
参考書	適宜資料を配布する。 航空に関する新聞記事なども使用する。
履修上の注意	この時期に業界・企業の情報収集能力を身につけることが将来大いに役立ちます。 地道な事前学習ですが積極的に取り組み、習慣化していきましょう。 授業内で紹介する業種にて、自分がどのようなおもてなしが提供できるのか、また、どのような点にやりがいを見いだせるかを考え、自主的に授業に取り組んでください。 JAL ANA のアニュアルレポート(無料) を各自取り寄せてください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションを用いて、各課題やPBLを実施する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E24C23	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 多種多様な職種によって成り立っている航空会社の中で、顧客満足を左右する大きな役割を担うキャビンアテンダント・グラウンドスタッフの事例を取り上げ、様々な客層に高品質なもてなしを提供するために必要な知識（国際理解・マナー）を学ぶ。 キャビンアテンダント・グラウンドスタッフの接遇の基本を社会生活におけるコミュニケーションのツールとして利用し、豊かな人間関係の創造と自分への自信に繋げていくことをテーマとする。 【授業目標】 航空業界に求められるコミュニケーション能力・接客スキル・知識を習得すること 【学習成果】 ○B：マナー5原則（表情・挨拶・身だしなみ・話し方・態度）を身につけ、学校生活など日常のコミュニケーションで役立てることができる ◎D：エアライン・サービスを提供する上で必要な構成要素と業務に携わる人々、必要とされる人材・そのホスピタリティについて説明できる
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス・事前課題に関する発表 授業の内容説明を行う 事前に提示した課題について、各自スピーチを行う 2 尊敬語・謙譲語・言葉掛けの工夫 接遇にふさわしい言葉を学ぶ 学んだ言葉をもとに、各種ワーク、ロールプレイングを実施する 3 グラウンドスタッフの接遇 定時性・安全性と接遇を両立させるグラウンドスタッフの接遇について学ぶ ロールプレイングを実施し、学びを深める 4 キャビンアテンダントの接遇 保安要員としての役割を持つキャビンアテンダントの接遇について学ぶ ロールプレイングを実施し、学びを深める 5 アナウンスと接遇 接遇に適した発声・声のトーンを学ぶ 各種ワーク、ロールプレイングを実施する 6 キャビンアテンダントの安全業務 キャビンアテンダントが実施する保安の取り組みについて学ぶ セーフティデモを体験し、保安要員としての業務について学びを深める 7 身近な手話 身近な生活で実践できる手話について学ぶ（グループワーク） 8 身近な接客手話 身近な生活で実践できる手話についてプレゼンテーションを行い、クラス全体で知識の共有を行う 9 ユニバーサルサービス 障がいを取り巻く社会の現状を、ゲスト講話から学ぶ ゲスト講師と共に、空港・機内にてどのような対応ができるかディスカッションを行う PBL「すべての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」に対してディスカッションを行い、学びを深める 10 キャビンアテンダント講話 現役のキャビンアテンダントをゲストとして招聘し、サービスや安全に関するこだわり・最新の取り組みを学ぶ PBL「すべての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」に対してディスカッションを行い、学びを深める 11 グラウンドスタッフ講話 現役のグラウンドスタッフをゲストとして招聘し、サービスや安全に関するこだわり・最新の取り組みを学ぶ PBL「すべての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」に対してディスカッションを行い、学びを深める 12 【オンデマンド】ボランティア実践 PBL「全ての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」ボランティア実践により、リサーチを行う
------	--

	<p>13 【オンデマンド】ボランティア実践 PBL「全ての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」ボランティア実践により、リサーチを行う</p> <p>14 【オンデマンド】ボランティア実践 PBL「全ての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」ボランティア実践により、リサーチを行う</p> <p>15 PBL成果発表 PBL「全ての人にとって、空の旅がより身近になるために、航空会社は何ができるだろうか」リサーチ・体験してきたことをもとにプレゼンテーションを行う</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>航空業界で実践されるコミュニケーション能力・接客スキルを学び、その必要性を理解する</p> <p>○B：相手の意見を尊重しながら、他者に合わせるべきところと主張すべきところを押さえて、多様な人と関わるができる</p> <p>◎D：航空業界の概要を知り、仕事の仕組みや航空会社の接客・顧客とのコミュニケーションスキルについて理解できる航空業界に求められるコミュニケーション能力や積極スキル・知識の土台を培う</p>
事前・事後学習	<p>【事前学習】事前に告知したテーマに関わるニュース報道などの情報収集・課題レポート（100分）</p> <p>【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しと課題レポート 毎回の演習内容のリプレイ（80分）</p>
指導方法	<p>配布資料・パワーポイントを使って講義形式で行う。必要に応じ、映像も使いながら進めていく。</p> <p>ゲストスピーカーを招き、キャビンアテンダントやグラウンドスタッフに必要な素養をディスカッションする</p> <p>授業の最後必要に応じ、サービスやマナーに関する映像も使用する。</p> <p>事例研究やマナーは実践を取り入れ、体感することで理解を深めるよう進めていく。</p> <p>毎回Google Classroomでの小レポートを記入、提出。個別フィードバックを加え返却。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○B：成果物作成やグループワークでのチームへの関わり方を評価する</p> <p>◎D：最終レポートと授業内での質疑応答の内容を評価する</p> <p>レポート・課題物提出状況、平常点（授業貢献度など）を総合的に判断する。</p> <p>授業への貢献度20% 小レポート・課題提出物40% 最終レポート40%</p> <p>レポートなどの提出物は、授業内での全体講評と個別コメントでフィードバックする</p>
テキスト	<p>特になし。</p> <p>適宜必要な資料をGoogle Classroomに掲載する。</p>
参考書	<p>アートヴィレッジ『後悔しない JAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著</p>
履修上の注意	<p>航空業界への就職を検討する学生に対する授業である。Airline Hospitality (A)を前期に受講すること。</p> <p>演習を多く取り入れた授業であり、積極的に動く姿勢を強く希望する。</p> <p>サービスをテーマにすることから、常に他者のことを考えた行動を心がけることが必要。</p> <p>ボランティア実践を授業に含む。ボランティア先は講師推薦の他、各自選んで決める場合もある。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	<p>プレゼンテーション、グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイングを用いて各回の課題やPBLを実施する</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E14C24	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>【授業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港業務、航空制度、約款、アライアンス、運賃、ダイヤ等、エアラインビジネス特有の知識を習得する。 ・個別発表、グループディスカッション、レポートの書き方を通して、コミュニケーション能力、コーディネーション能力、プレゼン能力、共感力、傾聴力、課題展開力を高める。 ・エアライン業界の就職に備えた筆記試験対策も行う。 <p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業理念、経営戦略、マーケティング戦略などの経営学基礎を習得するとともに、エアラインビジネスにおける経営の特徴を理解する。 <p>【学習成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○A：参加型の授業やケースを通して、能動的に考え、意見交換を通して、高いコミュニケーション能力が発揮できる。 ◎C：エアラインビジネスを実感的に理解し、実例を用いて企業の特徴を説明することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション 授業概要説明 SPI① 2 世界に広がるネットワーク 航空ネットワーク構築の重要性、ハブ&スポークの考え方と効果、乗り継ぎ需要について学ぶ SPI①の解説 3 アライアンスビジネス グローバルアライアンス結成の背景と歴史、アライアンスの意義と効果について学ぶ SPI② 4 【オンデマンド】マイレージ戦略 顧客向けマイレージプログラム<FFP>の概要、ロイヤリティマーケティングについて学ぶ SPI②の解説 5 CSとホスピタリティ CS<顧客満足>・CX<顧客体験価値>、ホスピタリティの考え方について学ぶ SPI③ 6 【オンデマンド】CSとES(従業員満足) CS<顧客満足>・ES<従業員満足>、「人財」育成システムについて学ぶ SPI③の解説 7 ブランド戦略 航空会社の価値創造、ブランド戦略について学ぶ SPI④ 8 【オンデマンド】ノンエア事業 航空会社が取り組む非航空事業について学ぶ SPI④の解説 9 航空会社との課題解決型学習①（講話） PBL「20代・30代の女性が購入したくなるような国内線機内販売品の提案」に取り組む 航空会社の方から販売要員としてのキャビンアテンダントの役割や販売商品企画に関する様々な 取り組みについて講話を伺い、課題に関する説明を受ける 10 航空会社との課題解決型学習②（比較検討） 他社・他業種はどのような取り組みを行っているのか、比較検討する 11 航空会社との課題解決型学習③（アイデア出し） アンケート作成、中間発表に向けた資料作成を行う 12 航空会社との課題解決型学習④（中間発表） 企業の方に、中間発表を行う 13 航空会社との課題解決型学習⑤（最終発表準備） 中間発表で得た指摘をもとに、さらにアイデアを深める 試作品を作成する 14 航空会社との課題解決型学習⑥（最終発表） 企業の方に、最終発表を行う
------	---

	15 課題解決型学習を行ったグループメンバーと振り返りを行う エアラインビジネス・今後の展望 エアラインビジネスの今後の展望についてディスカッションを行い、学びを深める
到達目標・基準 C評価になる基準	エアラインビジネスにおける経営の特徴を理解する。 ○A：意見交換を通して他者の考えを傾聴し、自分の考えを深めてアウトプットすることができる。 ◎C：エアラインビジネスの仕組みや使用される用語を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習： ・SPIの準備をすること（15分） ・航空会社のホームページで指定した箇所を読むこと（15分） ・航空会社に関するニュースを取り上げ、疑問や考えを纏める（20分） ・課題レポートやプレゼンの準備（80分） 事後学習 ・授業時に出された指示、レポートへのコメントや解説を聞いて改善し、完成度を上げること（30分） ・SPIの見直し（20分）
指導方法	・基本的な理論や知識を習得した後、参加型のディスカッションや相互チェックコメントを通して、複眼的なものを見方を養い、表現できるようにする。 ・フィードバックとして課題レポートは全員にコメントを付けて返却する。授業で課題の捉え方、物の見方、考え方を解説するとともに、学生の中から模範解答を披露する。小テストは回答が自動で返却され、授業で解説する ・ゲスト講師を招き、現業の実際を肌で感じられるようにする
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業内レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ○A：授業での取り組み姿勢と発言を評価する ◎C：知識確認テストや課題を評価する 授業への貢献度 20% 小レポート・課題 40% 最終レポート 40%
テキスト	講談社『これが本当のSPI3テストセンターだ!』SPIノートの会 （最新年度版が後期授業開始前に出版されるため、出版年やISBNは追って周知する）
参考書	適宜、授業内で紹介する
履修上の注意	・エアライン関係への就職を念頭に置いていること ・参加型の授業で、課題を克服する努力とその過程を評価対象とするため、積極的な姿勢で臨むこと ・授業の進捗や変化するニーズに対応するため、授業計画の変更を行う場合もある
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを用いて、各課題やPBLを実施する

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E24C27	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>【授業内容】 アジアを中心とした国々の成長に伴い、中長期的に成長する産業であるエアライン産業について、その特徴や最新の動向、幅広い関連事業について学ぶ。加えて、エアライン産業に影響を与える感染症や災害、政治や経済情勢などのイベントリスクに関する理解を深める。なお、エアライン産業に期待される、CO2排出量削減や地域活性化などの社会への貢献や価値創造への取り組みを検証する。</p> <p>【授業目標】 エアライン産業の現状と課題について説明できる。エアライン産業のマネジメントの取り組み、期待されることについて見解を述べることができる。</p> <p>【学習成果】 ◎A：インプットした知識をもとに課題解決学習にて積極的に意見を出し、グループに貢献することができる。 ○C：授業で得た学びをもとに自身で考えを深め、今後のキャリア構築に役立てることができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 授業の概要、進め方、課題や最終レポート、評価基準について 春期休暇中に課した事前課題の振り返り 2 HPにみる国内フルサービスキャリア 国内フルサービスキャリアを例に、ホームページを用いて企業研究を行い、特色の比較をディスカッションする 3 統合レポートにみる国内フルサービスキャリア 国内フルサービスキャリアを例に、統合レポートを用いて企業研究を行い、特色の比較をディスカッションする 4 リージョナルエアラインの企業理念 地方を結ぶ航空会社の企業理念や特色あるサービスを比較し、「企業の知名度を高めユーザーを増やす」施策をディスカッションする 5 【オンデマンド】 創業者の理念や特色ある取り組み 課題図書内から書籍を選んでレポートにまとめる 創業者の理念や各社の取り組みについてクラス内で発表し、ディスカッションを行う 6 【オンデマンド】 航空図書館見学と社史 航空図書館に足を運び、社史などを元に根幹にある企業理念を学ぶ 航空図書館の方から航空業界に関して講話をしていただき、講話後はディスカッションを行う 7 航空会社の経営計画と最新動向 航空会社の中期経営計画と、プレスリリースの最新動向から、10年後の航空業界にどのように貢献するか考える 8 航空会社のESG経営（環境） 航空会社が行う様々なESG経営を学ぶ 特にEnvironment（環境）を大切にしている取り組みについて学ぶ 9 航空会社のESG経営（多様性） 航空会社が行う様々なESG経営を学ぶ 特にD&I（多様性）を大切にしている対お客さまへの取り組み、対社員の取り組みについて学ぶ 10 航空会社との課題解決型学習①（講話） PBL「機内備品のアップサイクル商品」を企画する 航空会社の方から企業価値推進に関する様々な取り組みについて講話を伺い、課題に関する説明を受ける 11 航空会社との課題解決型学習②（比較検討） 他社・他業種はどのような取り組みを行っているのか、比較検討する 12 航空会社との課題解決型学習③（アイデア出し） アンケート作成、中間発表に向けた資料作成を行う 13 航空会社との課題解決型学習④（中間発表） 企業の方に、中間発表を行う
------	--

	14 【オンデマンド】航空会社との課題解決型学習⑤（最終発表準備） 中間発表で得た指摘をもとに、さらにアイデアを深める。 15 航空会社との課題解決型学習⑥（最終発表） 企業の方に、最終発表を行う 課題解決型学習を行ったグループメンバーと振り返りを行う
到達目標・基準 C評価になる基準	エアライン業界の基本的なビジネスの仕組みを理解し、関心をもって最新動向の情報収集ができるようになる。 ◎A：グループでの課題達成に向けて、授業での学びに基づいた意見を述べるができる。 ◎C：授業で学んだ学びを体系的に理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：航空会社の企業研究をおこなう（60分） 自分自身を見つめ、自分の強み、航空会社などへの志望動機をまとめる（60分） 事後学習：エアラインビジネスやマネジメントについて復習する（60分）
指導方法	適宜資料（プリント）を配布するので、資料内容を確認し授業内容を理解する。パワーポイントや適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。エアラインの講師、空港業務に従事する方をゲストスピーカーとして招き、指導してもらう予定。 フィードバックの方法：グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスをおこなう。自分の強み、志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業内レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ◎A：グループで作成した成果物の内容や態度を評価する。 ◎C：個人に課した成果物の内容を評価する。 授業への貢献度 20% 小レポート・課題 40% 最終レポート 40%
テキスト	特になし。授業資料（プリント等）を適宜配布する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・航空業界への就職を志望する学生に向けた授業である。 ・1年次にエアラインホスピタリティA/B、エアラインビジネスを受講していることを前提とする。 ・当科目の履修生同士、お互いに切磋琢磨する姿勢を持つこと。 ・自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイングなどを用いて、講義内の課題やPBLを実施する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
山田麻貴子			
ナンバリング：E14C27	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) テキストに沿って機内、空港で役立つ英語表現を習得する。 頻出フレーズを用いてロールプレイングの練習を強化し、実践に備える。 実際に航空会社で使用されている機内アナウンスを用いて聞きやすいアナウンスを練習する。 航空業界での就職に求められるTOEICの語彙・リスニング力を強化する。 毎回、ボキャブラリーやフレーズの確認テストを行う。 (授業目標) エアライン業界で使われる英語から、現場で役立つ英語表現・英会話力を習得する。 (学習成果) ○D：航空業界で使用する単語やフレーズを理解し、場面に応じて活用することができる。 ◎E：人前で堂々と英語の接客ロールプレイングやアナウンスができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 オリエンテーション 授業概略説明 Self-introduction 2 Unit1 Ticketing for a Domestic Flight 航空券の手配、必要書類に関する英語表現を学ぶ 3 Unit1 Ticketing for a Domestic Flight Vocabulary Test 航空券の手配、必要書類に関する英語表現を学び、実践する 4 Unit2 Domestic Flight Check-in Vocabulary Test 国内線チェックインに必要な英語表現を学ぶ 5 Unit2 Domestic Flight Check-in Vocabulary Test 国内線チェックインに必要な英語表現を学び、実践する 6 Unit4 Airport Lounge Service Vocabulary Test ラウンジサービスに関する英語表現を学ぶ 7 Unit4 Airport Lounge Service Vocabulary Test ラウンジサービスに関する英語表現を学び、実践する 8 Unit7 Welcome Aboard Vocabulary Test 旅客搭乗案内に必要な英語表現を学ぶ 9 Unit7 Welcome Aboard Vocabulary Test 旅客搭乗案内に必要な英語表現を学び、実践する 10 Unit8 Before Takeoff Vocabulary Test 離陸前業務に必要な英語表現を学び、実践する 11 Unit12 Before Landing Vocabulary Test 到着前業務に必要な英語表現を学び、実践する 12 Presentation 機内アナウンス（プレゼンテーション） 筆記確認テスト 13 オンデマンド 音声課題の提出 14 オンデマンド 筆記課題の提出 15 オンデマンド 筆記課題の提出
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	○D：航空業界で役立つ英語表現を100程度理解し使用することができる。 ◎E：英語の接客ロールプレイングやアナウンスを、正確に、感じよく実施することができる。
事前・事後学習	事前の学習：授業時に出された指示に従い行うこと。 翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べること。(30分) 事後の学習：毎週の小テストの勉強とアサインメントをきちんと行うこと。 ロールプレイングで使用するフレーズは暗記をすること。(60分)
指導方法	ほぼ毎回小テスト（オーラルか筆記）を行う。航空業界で使う特殊な用語もしっかりと身につくよう指導する。 人前でロールプレイングをする機会を多く設け、発音や所作についてもフィードバックする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：毎回の小テスト、最終課題で評価する ◎E：授業時における機内アナウンスとロールプレイングで評価する 授業への貢献度・積極性 30% 小テスト 30% 機内アナウンス最終プレゼンテーション 20% 筆記課題 20%
テキスト	『Hospitality English』ANA総合研究所 2020年
参考書	授業内で適宜紹介する
履修上の注意	エアラインモデル希望の学生は必ず履修すること。 毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。
アクティブ・ラー ニング、PBL	プレゼンテーション ロールプレイング

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
折茂広也			
ナンバリング：E15C28	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 本授業では、ホテル業界の基礎知識、ホスピタリティ業の本質、ホテルの運営に関する実践的スキルを学びます。理論と実践を融合し、グループワークやケーススタディを通じて、ホテル業界のプロフェッショナルとしての基礎を身につけることを目的とします。
	(授業目標) 1. ホテル業界の歴史や現在のトレンドについて理解を深める 2. ホスピタリティの概念を学び、実際の業務に活かせる洞察を得る 3. カスタマージャーニーを把握し、顧客視点でのサービス設計を考える 4. 実際のホテル企画を通じて、理想的なホテル運営の方法を模索する
	(学習成果) ○C：明確な目標設定：課題や演習のゴールを具体的に定義し、実現可能な計画を立案できる。計画の遂行と柔軟な対応：進捗管理を行い、予想外の問題が発生しても臨機応変に対処しながら、最終的に高い完成度の成果を導き出すことができる。 ◎D：深い理解と応用：授業で学んだ理論や事例を的確に活用し、独自の視点や工夫を加えて課題を解決することができる。論理的かつ創造的な提案：根拠となるデータや事例を示しつつ、斬新かつ実現性のあるアイデアを提示し、説得力あるプレゼンテーションができる。

授業計画	1 第1回 授業オリエンテーション【対面】 ・講師自己紹介 ・授業の目的と目標の共有 ・授業カリキュラムと進行方法 ・グループ分け/授業ガイドラインの作成 ・授業の振り返りについて（毎回、同じアンケートの実施） ・ホテルの利用動機 顧客視点で課題に取り組む（グループワーク）Ⅰ ・グループワーク課題：「皆さんにとってのホテルとはどんな場所？どのような時に利用する？」
	2 第2回 顧客支店で課題に取り組むⅡ【対面】 ・グループワーク課題：「ホテルの機能と顧客視点で考える利用シーン」
	3 第3回 ホテルの分類とビジネスモデルⅠ【オンデマンド（9月26日）】 ・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルの分類 ・課題：「ホテルの分類を考え、自分の知っているホテルを当てはめる」 備考：スライド配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠
	4 第4回 ホテルの種類とビジネスモデルⅡ【対面】 ・フランチャイズ、チェーン、独立系ホテルの違い ・ホテルの分類とホテルの新規開業の流れ
	5 第5回 ホテル業の歴史と新たなホテル業態【オンデマンド（10月3日）】 ・海外と日本のホテルの歴史 ・新しいホテル業態と未来の展望 ・課題： ①「海外と日本のホテル史を比べて、どのような違いや共通点があると感じましたか？」 ②「新しいホテル業態が今後どのように発展していくと思いますか？自分の体験や身近な例を交えながら考察してください。」 備考：動画配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠
	6 第6回 ホテル選びの基準【対面】 ・グループワーク課題：「お客様はどんな宿泊施設をどう選ぶか？」 ・宿泊者の心理と期待
	7 第7回 ホスピタリティとは【対面】

	<ul style="list-style-type: none"> ・「サービス」と「ホスピタリティ」の違い ・グループワーク課題：「お客様が感動するおもてなしの実例を考える」 <p>8 第8回 ホスピタリティ業のビジネスモデル【オンデマンド（10月17日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場シェアと顧客シェア ・ホスピタリティ業の特徴 <p>備考：スライド配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠</p> <p>9 第9回 カスタマージャーニーとホテルの職種 I【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カスタマージャーニーと顧客タッチポイント ・カスタマージャーニーマップ <p>10 第10回 カスタマージャーニーとホテルの職種 II【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク課題：「マップにホテルの職種を当てはめる」 ・宿泊、料飲、マーケティング部門の役割 <p>11 第11回 演習オリエンテーション【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画課題：「自分たちが宿泊したくなるホテルを企画する」 ・企画アイデア出し、グループメンバーの企画書作成分担決定 ・グループワークにて企画書の作成開始 <p>12 第12回 演習：私たちの理想のホテル I【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画書担当部分の作成 <p>13 第13回 演習：私たちの理想のホテルプレゼンテーション準備【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション準備 ・企画書の最終確認 <p>14 第14回 演習：私たちの理想のホテルプレゼンテーション I【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表：企画書およびホテルオペレーションの一部を実演（前半グループ） <p>15 第15回 演習：私たちの理想のホテルプレゼンテーション II【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表：企画書およびホテルオペレーションの一部を実演（後半グループ） ・授業全体の振り返り
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○C：与えられた枠組みを踏まえ、最低限の計画を立てて遂行できる。また、トラブルや変更があった際にも、必要な対応を行い、課題を基本的な水準で上げることができる。</p> <p>◎D：学んだ内容をまとめ、基本的なデータや事例を示すことができる。また、授業やオンデマンド動画で得た知識を理解し、レポートや発表で具体的な根拠を提示できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指定資料・教書書の予習：ホテルの歴史や分類、基本的なマネジメント手法などを参考資料で確認しておく。 オンデマンド授業の配信がある回は、事前に配信される概要やキーワードを把握しておく。 2. 関連情報のリサーチ：ホテル業界に関する最新のニュースやSNS投稿をチェックし、授業でのディスカッションに活かせる話題を準備する。 実際にホテルを利用した経験や、友人・家族から聞いたエピソードを思い出し、授業内で共有できるようにしておく。 3. 課題の下調べ：グループワークや演習のテーマが事前に提示されている場合、関連する用語や事例をインターネットや書籍で簡単に調べておく。 <p>事後学習：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の整理・復習：対面授業・オンデマンド授業で学んだ内容をまとめる。不明点や興味を持った点を洗い出し、次回授業での質問につなげる。 2. 追加リサーチと情報収集：授業で取り上げられたトピックや専門用語を、ウェブサイトなどでさらに詳しく調べる。 実務的な視点を得るため、ホテル公式サイトや観光関連のレポートなども積極的に閲覧する。 3. フィードバックの活用：講師やクラスメイトからの意見・アドバイスを参考に、次回以降の学習やプレゼン内容を改善する。
指導方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義（対面） ホテル業界の基礎知識や事例をスライドや板書を用いて解説します。随時、学生との質疑応答を行い、理解度を確認しながら進めます。 2. オンデマンド授業 指定した回では、事前に動画やスライドを配信し、学生が各自のペースで学習します。Classroomなどのオンラインプラットフォームを用いて、課題提出や質問対応を実施します。 3. グループワーク・ディスカッション 授業中にグループで課題に取り組み、意見交換や役割分担を行います。学生同士のコミュニケーションを通じて、問題解決力や協働力を養います。 4. 演習・プレゼンテーション ホテルの企画やカスタマージャーニー分析などの演習課題を設定し、チームでアイデアをまとめます。最終的には企画書や

	<p>プレゼン資料を作成し、クラス全体に向けて発表を行います。</p> <p>5. フィードバックと振り返り 各回の授業やグループワーク後には、学生が自己評価・相互評価を行い、講師からも口頭やコメントでフィードバックを提供します。アンケートや簡易レポートを活用し、学習内容の定着や今後の改善点を明確にします。</p>
<p>アセスメント・成績評価の方法・基準</p>	<p>○C： 目標設定の明確さ：課題のゴールや目的をどれだけ具体的に定義できているか。 計画立案・実行力：演習スケジュールを整理し、優先順位を付け、進捗を管理し、問題が生じた際に柔軟に修正できるか。 成果と振り返り：課題成果物（レポートやプレゼン）の完成度。プロセス全体を振り返り、改善点を抽出して次につなげようとしているか。 評価方法：グループワーク観察：計画や進行管理の様子を講師が観察。自己評価レポート：学生自身が目標と計画の達成度を振り返り、改善点を記述。</p> <p>○D： 基礎知識の理解度：授業や参考資料で得た知識を正しく把握し、用語や理論を適切に使えるか。 応用・発展的な思考：学んだ内容を新たな状況や課題に結びつけられるか。論理的な根拠やデータを示しつつ、説得力のある提案ができるか。 独創性と論理性の両立：既存の枠組みを超えたアイデアを生み出せるか。そのアイデアを論理的に説明し、相手を納得させることができるか。 評価方法：レポート・プレゼンテーション：提案内容や使用データの妥当性、論理構成を評価。 質疑応答：専門用語や理論を理解し、臨機応変に回答できるか。 演習課題・プロジェクト：実践的な課題を通じて、知識の活用度合いを確認。</p> <p>レポート・プレゼンテーション（40%）、質疑応答（30%）、課題・プロジェクト（30%）</p>
テキスト	授業資料を配布（テキストの指定はなし）
参考書	必要に応じて授業内で紹介
履修上の注意	<p>1. 事前学習の徹底 対面・オンデマンド問わず、授業前には配布資料や参考資料を確認し、基本的な用語や概念を理解しておいてください。</p> <p>2. オンデマンド授業の視聴と課題提出 指定された期間内にスライドや動画を視聴し、Classroomなどのシステムを通じて課題を提出してください。視聴や提出の遅れは出席・成績評価に影響を及ぼす場合があります。</p> <p>3. グループワークへの積極参加 本授業では、ディスカッションや演習が評価の大きなウェイトを占めています。チームメンバーとのコミュニケーションを大切に、自ら意見を出すだけでなく、他の意見を引き出す姿勢も評価対象となります。</p> <p>4. 演習課題のスケジュール管理 各回の演習課題や最終プレゼンテーションに向け、チーム内で役割分担を行い、スケジュールを管理してください。</p> <p>5. フィードバックの活用 授業中や課題提出後に得られる講師やクラスメイトからのフィードバックは、学習を深める貴重な機会です。指摘やアドバイスを受け入れ、次の課題や発表に反映させるよう努めてください。</p> <p>6. 学外リソースの活用 ホテル業界に関するニュースサイトや企業ホームページ、専門書などを自主的に調べることで、より実践的な知識が身につきます。実際のホテル見学も、時間や機会があれば積極的に行ってみてください。</p> <p>7. 授業の進捗 授業内容は履修者数やグループ課題の進捗により変更の可能性もあります。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E15C30			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容）社会行動・社会現象である観光の全体像ならびに、観光と社会の関わり、観光を支える社会システムなど、複合的・学際的な領域をもつ観光学の基礎的な知見について学ぶ。 （授業目標） ①観光学に関する基本的な用語を説明できる ②現代社会への「観光」の関わりについて自ら関心を持つことができる （学習成果） ☐ C：将来の観光ビジネスのあり方を考えることができる ☒ E：観光学のキーワードを理解し、自分の言葉で説明できるようになる
----------------------------------	--

授業計画	1 観光を学ぶ意味 ①現代社会において、豊かで、充実した人生を送るために、観光が果たす役割とその重要性について理解する ②観光に関わる人々、観光することで得られるもの、観光を充実させるために必要なことがらなどについて考え、「観光学とはなにか」を理解する 2 観光の様々な効果 ①観光が人間にもたらす効果について確認する ②観光が企業にもたらす効果について理解を深める ③観光関係の企業が消費者に提供する「サービス」と「財」の違いについて理解する ④観光が地域や国際経済・社会にもたらす効果について理解する 3 【オンデマンド】観光に関わる言葉 ①「旅行」や「旅」と「観光」の違いを理解する ②「観光」という言葉の語源や意味を理解する ③「レジャー」（余暇）や「レクリエーション」と観光の関係を理解する ④ホスピタリティなど、観光に関わる英語の言葉について理解を深める 4 観光資源と観光対象 ①「観光資源」という言葉の意味を理解する ②「観光対象」という言葉の意味を理解し、「観光資源」との違いと、その特徴を学ぶ 5 港区の観光資源と観光対象 大学が所在する港区の観光資源と活用の施策について、ゲストスピーカの講話から理解を深める 6 観光と情報 ①観光行動に求められる情報を理解する ②観光情報を発信・提供するためのさまざまな媒体（ツール）を理解する ③効果的な情報発信・提供の考え方について理解する 7 港区の新たな観光資源① PBL「Z世代を惹きつける“みなとく散歩”」を提案する（グループワーク） 8 【オンデマンド】港区の新たな観光資源② PBL「Z世代を惹きつける“みなとく散歩”」を提案する（フィールドワーク） 9 港区の新たな観光資源③ PBL「Z世代を惹きつける“みなとく散歩”」を提案する（プレゼンテーション） 10 観光産業の構成と特徴 ①観光産業の意味と観光産業を構成する業種を理解する ②観光産業の様々な特徴を理解する ③観光産業の経営を左右する課題と対応策を学ぶ 11 様々な観光ビジネス—旅行業 ①旅行業がなぜ必要とされるのか、人々にとって旅行業のどのような「働き」が役に立つのかをまず理解する ②旅をすることが困難であった時代から、海外・国内を問わず生活の一部として一般大衆が旅行にでかけるようになった現代までの旅行業の歴史を学ぶ ③旅行業の商品とは何か、商品を企画、販売するためにはどのようなことが必要となるのか理解する 12 様々な観光ビジネス—宿泊産業 ①社会の発展とともに宿泊産業が発展・分化してきた過程を理解する
------	--

	<p>②さまざまな用途に合わせて分化した宿泊施設の名称や内容を覚える ③都市ホテルの機能とサービス、業務に就いて理解する</p> <p>様々な観光ビジネス—交通運輸業</p> <p>①交通手段の発達が旅行や観光地にもたらす影響について理解する ②交通手段の分類・特徴や、交通手段と交通運輸業の関係を理解する ③交通運輸業における観光交通ビジネスの特性について理解する ④観光交通に対する新たな要請とその対応について理解する</p> <p>様々な観光とビジネス—テーマパークほか</p> <p>①テーマパークの歴史と特徴、そのビジネスの特性について理解する ②スキー場ビジネスの動向と、そのビジネスの特性について理解する ③「展示・観賞施設」の事業特性について認識を深める ④土産品業の動向と、その販売ビジネスの特徴について理解する</p> <p>【オンデマンド】港区の観光資源を体験する 港区観光大使と観光資源を見て回り、活用に関する理解を深める</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○C：観光産業の歴史・現状を学ぶことができる ◎E：観光学とはどのような学問なのか全体的に理解できるようになる</p>
事前・事後学習	<p>(事前学習) 観光に関するニュースに目を通す…60分 (事後学習) 授業内容の振り返り、課題の実施…120分</p>
指導方法	<p>講義、個人ワーク、グループワークを交えた授業を実施する。 提出された課題や質問に対して適宜コメントを行い、双方向の授業を行う。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○C：授業態度や課題提出により評価する ◎E：授業態度や課題提出により評価する</p> <p>授業への貢献度：20% 各種課題：40% 最終課題：40%</p>
テキスト	特になし
参考書	授業中に適宜紹介する
履修上の注意	<p>ゲスト講師招聘の都合により、カリキュラム内容が前後することがあります。講師からスケジュールに関する告知を行いますので、しっかり把握してください。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーションなどを用いてPBLを実施する

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
折茂広也			
ナンバリング：E25C31	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 本授業では、ホテル業界の基礎知識から実践的な経営手法、マーケティング戦略、未来のホテル像までを体系的に学びます。特に、グループワークを活用し、実践的な課題解決能力やチームワークを養うことを目的とします。
	(授業目標) 1. ホテルの基本構造と役割を理解する 2. ホテル経営における主要な指標と戦略を学ぶ 3. サービス品質向上やリスク管理の手法を習得する 4. ホテルマーケティングの基礎と実践を学ぶ 5. 未来のホテル業界のトレンドを考察し、ビジネスプランを作成する
	(学習成果) ◎A：チームメンバーの考えを引き出しながら役割分担をリードし、衝突を調整しつつ最適な方向性を導くことで、各自の強みを結集して共同成果を最大化することができる。 ○D：授業で得た知識や理論を基に問題を論理的に分析し、主体的に情報を収集・活用して複数の解決策を提示することで、説得力のある企画やプレゼンを実現することができる。

授業計画	1 第1回 授業オリエンテーション【対面】 ・講師自己紹介 ・授業の目的と目標の共有 ・授業カリキュラムと進行方法 ・グループ分け/授業ガイドラインの作成 ・授業の振り返りについて（アンケートの実施） ・グループワーク課題：ホテルの分類を考える
	2 第2回 ホテルの歴史と分類、ビジネスモデル【オンデマンド（4月18日）】 ・ホテルの歴史的背景 ・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルなどの分類 ・フランチャイズ、チェーン、独立系ホテルの違い ・課題：自分が泊まりたいホテルの特徴を考える、理由をまとめる 備考：動画配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠
	3 第3回 ホテルの組織とマネジメントの役割【対面】 ・ホテルの基本構造（宿泊・料飲・マーケティング・管理部門など） ・カスタマージャーニーに基づくホテル運営の考え方 ・グループワーク課題：宿泊客のカスタマージャーニーを分析
	4 第4回 リーダーシップとチームマネジメント【対面】 ・ホテルマネジャーの仕事 ・チームマネジメントの重要性 ・グループワーク課題：理想のホテルマネジャー像を考える
	5 第5回 ホテルの経営指標と基本的な数値管理【対面】 ・ホテルの収益構造 ・レベニューマネジメントの基礎 ・客室単価と稼働率の管理 ・グループワーク課題：異なる客室料金の理由を考察し、レベニューマネジメントの意義を理解
	6 第6回 人材管理とスタッフ育成【オンデマンド（5月16日）】 ・ホテル業界の人材不足の現状を理解 ・チームビルディングとスタッフ育成 ・課題：スタッフのモチベーションを上げる方法 備考：スライド配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠

	<p>7 第7回 サービス品質と業務改善/危機管理とリスクマネジメント【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CS (Customer Satisfaction) の基本概念 ・グループワーク課題：お客様満足度を向上させるための施策 ・犯罪、災害、パンデミック、テロ、経営不振などのリスク管理 <p>8 第8回 ホテルのマーケティング戦略【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルマーケティングの基礎 -マーケティングとセールスの違い- ・OTA (オンライン旅行代理店) とホテル直販の違い ・ターゲット市場の分析 (ビジネス客・観光客・長期滞在など) ・デジタルマーケティング (SNS・ロコミ・SEO) を活用する方法 ・グループワーク課題：SNS活用による集客戦略を考える <p>9 第9回 新規ホテル開発【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいホテル業態と未来の展望 ・ホテルの差別化戦略 ・AI、自動化、サステナビリティなど、ホテル業界の最新トレンド ・ブティック ホテルとラグジュアリーホテルの将来性 ・最新テクノロジーの活用 (DX・AI・無人化ホテル) ・デジタル化の進展と課題 ・演習オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> - 企画課題「私たちの考える未来のホテル」 - 与件 ・企画アイデア出し ・グループメンバーの企画書作成分担決定 <p>10 第10回 演習：私たちの考える未来のホテル I【オンデマンド (6月6日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画書担当部分の作成 <p>備考：ワークシート配信+Classroomで質疑応答+課題提出により出欠</p> <p>11 第11回 私たちの考える未来のホテル I</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークにて企画書の作成 <p>12 第12回 私たちの考える未来のホテル II</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークにて企画書の作成 <p>13 第13回 私たちの考える未来のホテル IV</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン資料作成/プレゼンテーション準備 ・企画書の最終確認 <p>14 第14回 私たちの考える未来のホテル V</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画書プレゼンテーション (前半グループ) <p>15 第15回 私たちの考える未来のホテル VI</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画書プレゼンテーション (後半グループ) ・授業全体の振り返り
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎A：基本的なチームワークに参加し、役割を果たすことができる。さらに、積極的な提案や深掘り、問題解決を行う姿勢がある。</p> <p>○D：授業内容を一通り理解し、基本的な提案や論拠を示すことができる。また、プレゼンや企画書に説得力がある。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習： 基礎知識の確認：インターネットなどでホテルの歴史・分類などの基本を把握。 最新動向の把握：関連ニュースやSNSをチェックし、業界のトレンドを簡単に調べる。 課題テーマの下調べ：グループワークや企画課題に備え、用語や背景情報を事前に確認。</p> <p>事後学習： 振り返りと整理：授業内容やグループワークのポイントをまとめ、不明点を洗い出す。 追加リサーチ：専門用語や事例をさらに調べ、理解を深める。</p>
指導方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 (対面) 教室での対面授業では、基礎的な理論や概念、ホテル業界の最新動向などをスライドや資料を用いて解説します。授業内で 随時、質疑応答を行い、学生の理解度を確認します。 2. オンデマンド授業 指定した回では、スライドや動画を事前に配信し、受講後にオンライン上で質疑応答や課題提出を行います。学生は自分の ペースで視聴し、質問やコメントをClassroomなどの学習管理システムを通じて行います。 3. グループワークと演習 対面授業でのグループワークを中心に、学生同士が協力して課題に取り組む時間を設けます。 カスタマージャーニー分析やホテルの企画書作成など、実践的な演習課題を通じて、理論を応用する力を養います。 4. プレゼンテーション 最終的な成果物 (ホテル企画書など) をグループ単位でプレゼンテーションし、相互評価やフィードバックを行います。 プレゼンテーションの進め方や資料作成方法も指導し、学生の表現力・コミュニケーション力を高めます。 5. 振り返りとフィードバック 各授業後や課題提出後に、講師・学生双方が学習内容を振り返り、アンケートやコメントを通じてフィードバックを共有します。

	<p>学生の理解度や興味に応じて、追加資料や補足説明を行い、学習の定着を促します。</p> <p>6. 自主学習サポート 授業外でもテキストや参考文献、関連ニュースの情報源を提示し、学生が主体的に学習できるようサポートします。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：</p> <p>1. グループワーク評価 観点：役割分担、積極的な意見交換、他メンバーの意見を引き出す姿勢 手法：授業内のグループ演習やプロジェクト作業を観察し、ルーブリック（評価基準表）に基づいて評価</p> <p>2. ピア・レビュー（相互評価） 観点：チーム内での貢献度、コミュニケーションの質、問題解決への取り組み方 手法：チームメンバー同士が、互いの取り組みや態度を評価し合うアンケートを実施</p> <p>○D：</p> <p>1. 講義内容を踏まえた課題・レポート 観点：授業で学んだ理論や事例を活用した問題分析、具体的な提案の妥当性 手法：課題提出（オンデマンド授業後など）で確認 補足：レポートの中で「なぜそう考えるのか」という根拠や論拠を示すよう指示し、論理性を評価</p> <p>2. 期末プロジェクト（未来のホテル企画書など）の評価 観点：講義で学んだ知識（歴史、マーケティング、収益管理、人材育成など）を総合的に活かし、説得力ある企画を作成できているか 手法：企画書の内容・構成、根拠の明確さ、実現可能性などをルーブリック（評価基準表）で評価</p> <p>グループワーク及び課題の完成度（40%）・授業への参加・貢献度（30%）・プレゼンテーション（30%）</p>
テキスト	授業資料を配布（テキストの指定はなし）
参考書	必要に応じて授業内で紹介
履修上の注意	<p>1. 事前学習の徹底： 対面・オンデマンドいずれの回でも、テキストや参考資料の内容を事前に確認してください。事前学習を行うことで授業の理解が深まり、グループワークでも積極的に発言しやすくなります。</p> <p>2. オンデマンド授業の視聴期限： 指定された配信期間内に必ず動画を視聴し、Classroomなどで提示される課題の提出を行ってください。視聴や課題提出の遅延は出欠に影響する場合があります。</p> <p>3. グループワークへの積極参加： 本授業ではグループワークが多く含まれます。互いに意見を出し合い、チームとして協力する姿勢が評価対象となるので、積極的なコミュニケーションを心がけてください。</p> <p>4. 演習・プレゼンテーションの準備： 期末に向けて「未来のホテル企画」などの演習やプレゼンを行います。授業外でもチームメンバーと連絡を取り合い、スケジュール管理や資料作成を進めてください。</p> <p>5. フィードバックの活用： 授業内外で講師やクラスメイトから得たフィードバックは、次回以降の学習やプレゼンテーションに活かすようにしてください。継続的な改善が成績にも反映されます。</p> <p>6. 学外リソースの活用： ホテル業界に関するニュースや専門サイトなど、授業以外の情報源も積極的に活用してください。最新事例を学ぶことで、議論や企画により具体性と説得力を持たせることができます。</p> <p>7. 著作権・引用ルールへの遵守： プレゼンや企画書に外部資料や画像を使用する場合は、出典を明記し、著作権を尊重してください。適切な引用が行われな い場合は評価に影響する可能性があります。</p> <p>8. 授業の進捗： 授業内容は履修者数やグループ課題の進捗により変更する可能性もあります。</p> <p>9. 「ホテル業界の基礎と実務」の受講のすすめ 「ホテルマネジメント」を受講する場合は、「ホテル業界の基礎と実務」を受講することが、より授業を理解できるので、望ましいです。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E25C33			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 日本における観光の現状を把握した上で、観光関連産業、観光地形成やサービスなど幅広く知識をつける。旅行商品が生み出されていく手順を、特定の国内観光地を取り扱いながら、コンセプトづくり、ディスプレイ・マーケティング等の視点からレディメイド型旅行商品の作成される行程と成り立ちを学ぶ。さらに旅行プランを作成して、旅行商品を自分で作成する事で、観光地の観光資源や地方自治体の取り組みを理解する。
	(授業目標) 観光に関する知識を身に付け、観光プランの作成ができるようになる。
	(学習成果) ◎D：観光産業が持つ諸問題を理解し、実社会でのツアー造成により課題解決を行うことができる ○E：観光学の主要なキーワードを理解し、説明することができる

授業計画	1 ガイダンス・マスツーリズムからサステナブルツーリズムへ ガイダンス 観光地側の視点から～量から質へのシフト～ 2 ニューツーリズムの諸形態 グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、ダークツーリズムといった諸形態を学ぶ 3 【オンデマンド】課題提出 訪れてみたい地域、深く知りたい地域固有の風習や特徴を選び、観光コンテンツとして提案する 4 PBL：地域での学びから、関係・つながりを創造する 旅と学びの地域体験プログラムの形成① 旅における「地域での学び」「地域体験」「つながり」をZ世代のニーズをもとに検討する 5 PBL：地域での学びから、関係・つながりを創造する 旅と学びの地域体験プログラムの形成② ゲスト講話から、関係・つながりを創造する旅の需要や経済効果を理解する Z世代のニーズに合致する「旅と学び」の地域体験プログラムについてアドバイスをもとに検討を重ねる 6 PBL：地域での学びから、関係・つながりを創造する 旅と学びの地域体験プログラムの形成③ グループディスカッションにて、「旅と学びの地域体験 事前プログラム」を絞り込む 7 PBL：地域での学びから、関係・つながりを創造する 旅と学びの地域体験プログラムの形成④ グループディスカッションにて、「旅と学びの地域体験 現地プログラム」を絞り込む 8 PBL：地域での学びから、関係・つながりを創造する 旅と学びの地域体験プログラムの形成⑤ グループディスカッションにて、ツアー効果検証を行い修正を重ねる 9 PBL：地域での学びから、関係・つながりを創造する 旅と学びの地域体験プログラムの形成⑥ 先行調査からニーズを調査する アンケート乗せ臭い方法を学び、自身でもニーズを調査する 10 【オンデマンド】課題提出 ツアーの造成方法・ターゲットを意識したパンフレット作成を学び、実践する 11 PBL：地域での学びから、関係・つながりを創造する 旅と学びの地域体験プログラムの形成⑦ 下書きを元にした最終提出資料の作成 12 【オンデマンド】課題提出 ツアーの販売方法・ターゲットを意識したパンフレット作成を学び、実践する 13 PBL：地域での学びから、関係・つながりを創造する 旅と学びの地域体験プログラムの形成⑧ 下書きを元にした最終提出資料の作成 14 最終発表 旅行商品発表と評価（プレゼンテーション） 15 振り返り 旅行会社の幅広い職務・販売商品と販売方法について、ケーススタディで理解を深める
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：観光産業が持つ諸問題を理解することができる ○E：観光学の主要なキーワードを理解することができる
事前・事後学習	事前学習：国内、海外の観光資源を知り、具体的な観光プランニングができるように、観光ガイドブック・観光パンフレット・インターネット上の情報などを収集する（60分） 増加するインバウンド旅行者について調べる（30分） 事後学習：授業内容を復習すること。授業で学んだ観光資源や観光現象などを国や地域などを地図などでまとめる（60分） 観光関連産業それぞれの特徴や取り組みについてまとめる（30分）
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの方法：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、ディベート、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：授業態度や課題により評価する ○E：授業態度や課題により評価する 授業への貢献度：20% 授業内の課題：40% 最終課題：40%
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	授業中は他の人の迷惑にならないように、授業態度に注意すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E15C32	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 日本の全産業に占める7割はサービス業である。お客様に目に見えない品質の行き届いた気配りや信頼性は、質の高いサービスは日本の文化であり、そのサービスを提供する際に大切な「心」の所作はホテルには欠かすことのできない目に見えない資産となっている。 そのホテルの部門の一つである「ブライダル」の業務に就くことは、ホテルエでもあり同時に結婚式・披露宴のみならず、お客様のニーズを汲み取り、文化や慣習の担い手として各種分業の壁を越えて幅広い関係者をコーディネートし、さらにはお客様にあったブライダルサービス・商品等を提供するエキスパートでなければならない。 (授業目標) この講義では、ブライダルの仕事の内容を学びながら、ホテルの仕組みと仕事を理解し、自分のイメージを形にするまでのプロセスの方法を身につけ、第三者に表現できることを目指す。 (学習成果) ○C：ホテルの仕組みを理解し、ホテルの特性を活かした1日の過ごし方を提案することができる。 ○D：ホテルの仕組みと特性を理解し、ホテルの生涯顧客を獲得できるブライダル企画・提案をおこなうことができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ブライダルとは 結婚が決まったお客様（カップル）に対し、専門的知識をもとに結婚式・披露宴・アフターパーティーの企画・提案・施行を行う※ブライダル・ウェディング・マリッジの定義の違いについて 2 ブライダルの業種を知る ホテル、ゲストハウス、専門式場、レストラン、旅館・料亭、神社・寺院・教会 会場、衣装、装花、ジュエリー、音楽、美容、写真、映像、演出、印刷、引出物の種類を知る 3 ブライダルの職業からブライダルアイテムを知る プランナー、ドレススタイリスト、ヘアメイク、フォトグラファ、ビデオグラファー、エスコート、フローリスト、キャンプテン、オペレーター、司会、シェフ、ソムリエ、パティシエ、演奏者、牧師 4 ブライダルマーケティングと集客の方法 ホテルブライダルについて、エージェント、雑誌などの印刷媒体、WEB上にあるホームページ、口コミ、SNSや広告を各自調べる 5 ホテルブライダルとは ホテルブライダルの特性によるスタイルの差別化と顧客特性 ラグジュアリーホテル、シティホテル、リゾートホテルなどのホテルブライダルとSDGSの取り組みについて 6 ホテルブライダルの準備段階と習熟度確認テスト 新規申込みのホテルブライダルの打ち合わせ内容など、結婚式までのプロセスを理解する 7 ホテルブライダル当日の流れ ホテルブライダルにおける新郎新婦の一日の流れを具体的に見ていき、当日のスタッフの役割を理解する。またアニバーサリー式についても取り上げる 8 ホテルブライダルのテーマとカラージュコンCEPTの設定(グループワーク) ホテルでどんな結婚式をしたいかを考え、合わせて自分自身がプランナーとなり、披露宴を組み立て、打ち合わせスケジュールを作成する 9 ホテルブライダルのプロセス① 結婚式スタイルと披露宴の進行を考える(グループワーク) 要望に合わせた結婚式スタイルと披露宴進行について考察する 10 ホテルブライダルのプロセス② 招待状作成と進行・演出(グループワーク) 招待状の作成とホテルブライダルの司会や演出について考察する 11 ホテルブライダルのプロセス③ 装花、ドレスとメイク(グループワーク) 新郎新婦を華やかに演出するドレスとメイク、合わせて結婚式全体を華やかに演出する装花を想定することで会場の雰囲気などイメージする 12 ホテルブライダルのプロセス④ 料理とドリンク(グループワーク) 結婚式の披露宴やパーティーで、ゲストへのおもてなしとしても重要な存在である料理とドリンク類について考察する
------	--

	13 14 15	<p>コーラージュ作成(グループワーク) ホテルブライダルのプロセスで検討した内容を踏まえて、コーラージュ（コンセプトシート）を作成する</p> <p>コーラージュ発表①(グループワーク・プレゼンテーション) 作成したコーラージュについてのプレゼンテーションとその評価をおこなう。</p> <p>コーラージュ発表②(グループワーク・プレゼンテーション) 作成したコーラージュについてのプレゼンテーションとその評価をおこなう。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準		<p>○C：ホテルの仕組みを理解し、ホテルの特性を活かした提案を1つ以上説明できる。</p> <p>◎D：ホテルの仕組みと特性を理解し、ブライダル企画・提案をおこなうことができる。</p>
事前・事後学習		<p>事前学習：ホテルブライダルについてのホテルの取組みをWEBページから収集する（90分）</p> <p>事後学習：授業内容を復習すること。授業で学んだホテルブライダルについての情報を整理する（60分）</p> <p>テーマに沿ったコーラージュをプレゼンテーションができるように準備する（30分）</p>
指導方法		<p>講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。</p> <p>ホテルブライダルの現場で働く方をゲスト講師として授業に参加してもらう。</p> <p>フィードバックの方法：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員・ゲスト講師からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準		<p>○C：ホテルの仕組みについての理解を、記述回答で評価する。</p> <p>◎D：ホテルの仕組みと特性を活かしたブライダル企画・提案のプレゼンテーションを評価する。</p> <p>講義中の習熟度確認テストの成績（30%）、授業への積極性・態度・取組み姿勢（30%）、授業内課題（40%）の総合評価</p>
テキスト		授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書		授業内で指示する
履修上の注意		<p>1. 授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。</p> <p>2. 自分が観光産業でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL		プレゼンテーション、グループワーク

講義科目名称： ラグジュアリーホテル・ブライダルスタディー 授業コード： 2471
ズ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：E25C33	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>☐A：他者と協力して共に創り上げる力</p> <p>☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力</p> <p>☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力</p> <p>☒D：知識を活かして考える力</p> <p>☐E：学んで理解する力</p>
------	---

<p>授業内容</p> <p>授業目標</p> <p>学習成果</p> <p>S評価になる基準</p>	<p>(授業内容)</p> <p>数多くのホテルの中でも、ラグジュアリーホテルと呼ばれるホテルの位置づけと特徴を知り、さらに、どんなお客様が何の目的で利用しているのかを多方面から学ぶ。また、ラグジュアリーホテルならではの結婚式のカップル像を細かく分析し、その対応に必要な幅広い知識と教養の重要性を学ぶ。</p> <p>(授業目標)</p> <p>どんなお客様の前でも、スマートで最上級のおもてなしができるマインドと自信を身に付ける。</p> <p>(学習成果)</p> <p>○C：ラグジュアリーホテルの顧客に適した接客対応、提案に必要な情報を取得し、顧客にあった提案ができる。</p> <p>◎D：ラグジュアリーホテルの結婚式顧客像の知識を身につけ、主体性をもってチームを巻き込みプレゼンができる。</p>
---	--

授業計画	<p>1 オリエンテーション・ホテルの分類 授業の進め方、学習方法など。またホテル業界の全体像を捉え、ラグジュアリーホテルの概要を把握する。</p> <p>2 ラグジュアリーホテルの魅力とは 宿泊、レストラン、スパ、宴会など、結婚式以外のホテルとの接点を知る。また、どんなサービスがあるのかを調べてみる。</p> <p>3 ウエディングプランナーの業務を知る 3大業務（新規接客業務・打ち合わせ接客業務・当日の運営業務）の内容を理解する。</p> <p>4 ラグジュアリーホテルで結婚式を挙げるお客様（カップル）の特徴 新郎/男性編（職種、会社、持ち物など、価値観を知る） 新婦/女性編（ファッション、ブランド、ジュエリーなど、価値観を知る）</p> <p>5 ラグジュアリーホテルのウエディングプランナーに求められる知識・教養 結婚式の知識だけではなく、幅広い知識や教養を身に付ける重要性を発見する。</p> <p>6 「自分を知る」ための自己分析① お客様にとってのウエディングプランナーとはを考え、お客様にファンになってもらうための基本的な要素を身に付ける。</p> <p>7 「自分を知る」ための自己分析② 第一印象の重要性と魅せる力の磨き方。プロフェッショナルのマナーを身に付ける。</p> <p>8 「相手を理解する」ための共感力 傾聴力、質問力、リアクションで共感力を身に付ける。</p> <p>9 組織（チーム）で働くということ 男性脳女性脳を理解して、カップルへの接客、他セクションを巻き込む力をつける。</p> <p>10 就職活動対策 企業はどのような人材を採用したいのか。企業側の採用戦略を知って最終面接までの流れとポイントを把握する。</p> <p>11 ブライダルマーケティング①集客するための方法を考える 雑誌・ホームページ・SNS・ロコミ・エージェントなどから調べ、独自の集客方法を考える（グループワーク）</p> <p>12 ブライダルマーケティング②成約するための方法を考える 来館したカップルを成約に導くためのイベント企画・コンテンツ内容・接客方法・ホスピタリティを考える（グループワーク）</p> <p>13 ホテルブライダルのマーケティング&チームビルディング発表会 ホテルならではの強みを活かした企画力とチーム力で、結婚式を販売するプレゼンテーションを行う。</p> <p>14 総まとめと総合確認テスト ラグジュアリーホテルに求められる必要な知識を整理。総合確認テストの実施。</p>
------	---

	15 テストのフィードバックと今後の授業の活かし方 テスト内容の解説と自己分析で得た「自分の強み」を就職活動や仕事でどう活かすか。共感力やプロフェッショナルなマナーを日常業務にどう応用するか等の解説。
到達目標・基準 C評価になる基準	○C：ラグジュアリーホテルの顧客に適した接客対応、提案に必要な情報を取得できる。 ◎D：ラグジュアリーホテルの結婚式顧客像の知識を理解し、プレゼンテーションで相手に伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：自身が直接対面サービスを受け、感じたことをまとめておく（90分） 事後学習：ホスピタリティ業界の取り組みをWEBページから収集する（30分） 授業内容を復習し、テーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする（60分）
指導方法	パワーポイントを使用し、適宜関係する資料を作成して授業を行う。また動画も使用して、結婚式を利用したお客様の声や働くスタッフの様子を見て、リアルな現場をイメージしながら感じたことをディスカッションし、聴く力と伝える力を授業内で身に付けてもらう。また、グループワークやプレゼンテーションでホスピタリティマインドを発揮してもらう。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○C：授業で知り得たラグジュアリーホテルの顧客に適した接客対応について、毎回のレポートで評価する。 ◎D：結婚式顧客像の知識を理解し、プライダルマーケティングとチームビルディングをプレゼンテーションで評価する。 授業への貢献度(20%)、レポート内容（20%）、プレゼンテーション(30%)、講義中の習熟度テスト(30%)の総合評価
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21
参考書	授業内で適宜案内する。
履修上の注意	1. 授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 2. 自分がラグジュアリーホテルでどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク・プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子（契約講師：河田淳鼓）、吉川尚志			
ナンバリング：E15C34			授業方法：対面
添付ファイル	-----		

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。 （授業目標） 模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 （学習成果） ◎A: グループワークにおいてリーダーシップを発揮し、主体性と協調性と責任感を持って最後までグループでのワークをチームでやり遂げることができる。 ○E: 結婚式の基礎を学び、自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢 2 結婚式の意味と意義 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ 3 結婚式の歴史とハード 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ 4 キリスト教式の結婚式 ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ 5 神前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ 6 人前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ 7 人前式の企画手法 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える 8 コンセプト立案 グループワーク 1（ゲスト講師：2名）（グループワーク、実習） 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る （スマートフォン：HPよりアイデアの拾い出し） 9 進行の決定/BGMの演出 グループワーク 2（ゲスト講師：2名）（グループワーク、実習） コンセプトに基づいた進行を創る（音楽演出手法を学ぶ） （スマートフォン：HPよりアイデアの拾い出し） 10 進行の決定/進行表の作成 グループワーク 3（ゲスト講師：2名）（グループワーク、実習） コンセプトに基づいた進行を創る （スマートフォン：HPよりアイデアの拾い出し） 11 進行の決定/ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク 4（ゲスト講師：2名） （グループワーク、実習） コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する （スマートフォン：HPよりアイデアの拾い出し） 12 進行の確認 グループワーク 5（ゲスト講師：2名）（グループワーク、実習） 進行を再確認し、本番会場での動線確認、『場当たり』を行う （スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証） 13 進行の確認とリハーサル グループワーク 6（ゲスト講師：2名）（グループワーク、実習） 進行表に基づいてリハーサルを行う （スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証） 14 進行の確認と最終リハーサル グループワーク 7（ゲスト講師：2名）（グループワーク、実習） 最終進行表に基づいてリハーサルを行う （スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証） 15 模擬結婚式（夏期休暇中に実施）（ゲスト講師：2名）（グループワーク、実習、プレゼンテーション）
------	--

	結婚式当日の流れを模擬挙式の実施から学ぶ 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げ を実施 (スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証、記録動画の作成)
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A: グループワークにおいてリーダーシップを発揮し、主体性と協調性と責任感を持って最後までグループでのワークをチームでやり遂げることができる。 ◎E: 結婚式の基礎を学び、自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイデアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。(30分) 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。(60分)
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った講義形式で行う。毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、各自のノートが一つの教材になるように進める。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、具体的な事例も挙げながら進めることで興味を持って授業に臨める環境を作る。第8回目から第12回目までは、グループワークになるため、毎回の授業のテーマや目標などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。 フィードバックの方法：ワークシートにより行う。これにより担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。また、授業の最後に目標とした作業が完了しているか否かも確認可能となり、毎回の授業までの課題が明確になる。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎ A：模擬結婚式を主体性・協調性・責任感を持って実施しているかの観点、模擬結婚式準備貢献度 ◎ E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点、第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式の完成度：20%、模擬結婚式準備貢献度：20%、模擬結婚式実施貢献度：20%、振り返りシート：20%、ミニテスト：20% (合計100%)
テキスト	ブライダルコーディネーターテキスト (スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダル業界就活ブック ブライダルのお仕事 ウエディングジョブ
履修上の注意	夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディング ナビゲーション」の履修が望ましい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
Todd William、玉川明日美			
ナンバリング：E15C35			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) In each lesson, we will take up conversation examples similar to those actually used in hotels, learn how to respond appropriately in each situation, and learn vocabulary and expressions specific to the hotel and tourism industry. Confirmation quizzes might be conducted as appropriate. We also aim to complete specific dialogues on our own based on the examples of conversations we have practiced. (Goals) Students familiarize themselves to English vocabulary and expressions specific to the tourism and hospitality industry. (Achievements) ☐ B：Be able to properly guide guests at hotel facilities in English. ☒ D：Can express themselves using 30 different types of vocabulary and phrases used at the front desk of a hotel or in a restaurant in English.
----------------------------------	---

授業計画	1 Introduction / Unit 1 May I have your name, please? (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) Greeting guests Asking for personal information 2 Unit 2 I get to travel a lot. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、プレゼンテーション) Talking about occupations Expressing likes and dislikes 3 Unit 3 It's on the third floor. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) Asking about facilities Describing locations 4 Unit 4 We're open from 7:00 a.m. to 11:00 p.m. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) Asking about schedules Telling time 5 Unit 5 We're fully booked on Monday. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、オンデマンド) Talking about days and dates Asking about availability 6 Unit 6 I'll repeat your reservation. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) Asking about preferences Checking and confirming information 7 Unit 7 Are you checking in? (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) Checking in at a hotel Asking and offering 8 Unit 8 I'll transfer your call. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、PBL) Listening to requests Directing calls Giving information 9 Unit 9 We'll be stopping for lunch at 12:00. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習、オンデマンド) Talking about plans and itineraries Discussing tour activities 10 Unit 10 What can I get for you? (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習) Taking food and drink orders Confirming information 11 Unit 11 I'll send someone to check it. (グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習)
------	--

	<p>Listening and responding to complaints Expressing intentions</p> <p>12 Unit 13 I'll show you on the map. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習, オンデマンド) Talking about locations Giving directions Map reading skills</p> <p>13 Unit 14 How much would you like to change? (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) Talking about prices Changing money</p> <p>14 Unit 15 The service is included. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) Paying for goods and services Dealing with bill inquiries</p> <p>15 Final Examination Students will take a final examination based on what they have learned in class.</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○B: Be able to properly guide guests at hotel facilities in English. ◎D: Can express themselves using 30 different types of vocabulary and phrases used at the front desk of a hotel or in a restaurant in English.</p>
事前・事後学習	<p>Before class: Look up the meanings of the words and idioms in units that will be covered in next class. (30分) After class: Review vocabulary and expressions, and practice memorizing text conversations. (60分)</p>
指導方法	<p>In order to be able to use English in real situations, it is necessary to acquire listening skills to understand what the other person is saying, as well as business-specific vocabulary. In this class, we aim to cultivate practical conversational skills by conducting exercises using conversations that are used in situations at the hotel. Feedback method: (1) Implementation of quiz and evaluation, (2) Answering questions about quiz evaluation, (3) Comments on conversation exercises in pairs or groups.</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○B: Students will be evaluated on the degree of completion of presentations in pairs / groups, and the results of quizzes and final exam. ◎D: Evaluation will be based on the results of quizzes and regular exams, and the degree of completion of presentations in pairs / groups.</p> <p>In-class exercises / pair (group) presentations: 30% Quiz: 30% Final exam: 40%</p>
テキスト	<p>Stephen Hall and Troy Blappert. First Class Service 1: English for the Tourism and Hospitality Industry, Cengage Learning, 2009. ISBN 978-9814319430.</p>
参考書	<p>Instructions will be given during class.</p>
履修上の注意	<p>Since classes are centered around exercises in pairs and groups, students are expected to always participate actively. Confirmation quizzes will be conducted as appropriate. Also, an English-Japanese dictionary will be necessary in class.</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	<p>Pair work, group work, presentations, PBL.</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
布施梓			
ナンバリング：E16C36（1年生）	ナンバリング：E16C38（2年生）		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） ITに関する国家資格であるITパスポートの合格に必要な学習を行う。出題分野である、経営戦略、管理、情報技術の内容について、資格合格に必要な知識を身に付けると共に、自分の学習計画を着実に実行できる自律的な実践力を養う。 （授業目標） ITパスポート合格または同等のITビジネスに関する知識を自己調整学習で身に付ける。 （学習成果） ☐ C：ITパスポート受験に向けて、自身の目標と計画を立てて、9割程度達成できる。 ☒ E：ITパスポートレベルの問題に9割以上正答できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス ITビジネス論各項の概観と環境構築、受験申込 2 学習計画の立案（PBL） 自分なりの資格取得の意義を考える 合格方法を調査し、学習計画を立てる 3 企業と法務（ICT PC・e-Learning教材の活用） 企業活動 法務 4 経営戦略（ICT PC・e-Learning教材の活用） 経営戦略マネジメント 技術戦略マネジメント 5 システム戦略（ICT PC・e-Learning教材の活用） システム戦略 システム企画 6 開発技術（ICT PC・e-Learning教材の活用） システム開発技術 ソフトウェア開発管理技術 7 プロジェクトマネジメント（ICT PC・e-Learning教材の活用） プロセス、手法 8 サービスマネジメント（ICT PC・e-Learning教材の活用） サービスマネジメント システム監査 9 情報技術の基礎理論（ICT PC・e-Learning教材の活用） 基礎理論 アルゴリズムとプログラミング 10 コンピュータシステム（ICT PC・e-Learning教材の活用） コンピュータ構成要素 システム構成要素 ソフト/ハード 11 技術要素（ICT PC・e-Learning教材の活用） インターフェース関連、データベース関連、ネットワーク関連、セキュリティ関連 12 合格者中間報告と学習計画の修正（PBL） 情報デザイン関連 既に合格した学生から学習方法や本番試験の様子を共有し、これから受験する学生は、自身の学習計画について見直す 13 試験対策学習①（オンデマンド） 資格試験本番に向けた学習課題を用いて実践的な問題演習を行う 14 試験対策学習②（オンデマンド） 資格試験本番に向けた学習課題を用いて実践的な問題演習を行う 15 試験対策学習③（オンデマンド） 資格試験本番に向けた学習課題を用いて実践的な問題演習を行う
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	☐ C：ITパスポート受験について、自身の目標と計画を立て、6割程度達成できる。 ☒ E：ITパスポートレベルの問題に6割以上正答できる。
---------------------	---

事前・事後学習	事前：次回の範囲の資料・テキストを読み込み、自身にとっての新出用語は意味を把握しておく。（90分） 事後：授業で扱った資料を復習し、確認テストに備える。（90分）
---------	--

指導方法	ICT機器、映像資料、Webの学習資料等を最大限活用し、資格試験本番を意識した課題演習を効率的に行う。 フィードバックの方法：適宜確認テストを行い学習の達成度を客観的に把握させる。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：学習計画の内容とその達成度 ◎E：毎回の確認テストの得点率 学習計画に関する課題30%、確認テスト70%
テキスト	令和7年度] ITパスポート超効率の教科書+よく出る問題集（インプレス）（ISBN-13 978-4295020578） ※ITビジネス論A, Bで共通
参考書	
履修上の注意	受講者はITパスポート試験を受験するため、受験料が必要となります。 資格試験対策の授業であることを理解し、ITパスポートの資格について事前に調べた上で、自分なりの明確な 受験意思がある場合に受講してください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業 プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	国専：選択
担当教員			
布施梓			
ナンバリング：E16C37 (1年生)	ナンバリング：E16C39 (2年生)		授業方法：対面 (み)
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) ITに関する国家資格であるITパスポートの合格に必要な学習を行う。出題分野である、経営戦略、管理、情報技術の内容について、ITビジネス論Aで扱った内容をさらに深めて、合格に必要な学習方法と知識を身に付ける共に、自分の学習計画を着実に実行できる自律的な実践力を養う。 (授業目標) ITパスポート合格または同等のITビジネスに関する知識を自己調整学習で身に付ける。 (学習成果) ☐ C：ITパスポート受験に向けて、自身の目標と計画を立てて、9割程度達成できる。 ☒ E：ITパスポートレベルの問題に9割以上正答できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス ITビジネス論各項の概観と環境構築、受験申込 2 合格計画の立案 (PBL) 自分なりの資格取得の意義を考える 合格方法を調査し、学習計画を立てる 3 企業と法務 (ICT PC・e-Learning教材の活用) 企業活動 法務 問題演習 4 経営戦略 (ICT PC・e-Learning教材の活用) 経営戦略マネジメント 技術戦略マネジメント 5 システム戦略 (ICT PC・e-Learning教材の活用) システム戦略 システム企画 問題演習 6 開発技術 (ICT PC・e-Learning教材の活用) システム開発技術 ソフトウェア開発管理技術 問題演習 7 プロジェクトマネジメント (ICT PC・e-Learning教材の活用) プロセス、手法 問題演習 8 サービスマネジメント (ICT PC・e-Learning教材の活用) サービスマネジメント システム監査 問題演習 9 情報技術の基礎理論 (ICT PC・e-Learning教材の活用) 基礎理論 アルゴリズムとプログラミング 問題演習 10 コンピュータシステム (ICT PC・e-Learning教材の活用) コンピュータ構成要素 システム構成要素 ソフト/ハード 11 技術要素 (ICT PC・e-Learning教材の活用) 情報デザイン関連 インターフェース関連 データベース関連ネットワーク関連 セキュリティ 関連 問題演習 12 合格者中間報告と学習計画の修正 (PBL) 既に合格した学生から学習方法や本番試験の様子を共有し、 これから受験する学生は、自身の学習計画について見直す 13 試験対策学習① (オンデマンド) 資格試験本番に向けた学習課題を用いて実践的な問題演習を行う 14 試験対策学習② (オンデマンド) 資格試験本番に向けた学習課題を用いて実践的な問題演習を行う 15 試験対策学習③ (オンデマンド) 資格試験本番に向けた学習課題を用いて実践的な問題演習を行う
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	☐ C：ITパスポート受験について、自身の目標と計画を立て、6割程度達成できる。 ☒ E：ITパスポートレベルの問題に6割以上正答できる。
事前・事後学習	事前：次回の範囲の資料・テキストを読み込み、自身にとっての新出用語は意味を把握しておく。(90分) 事後：授業で扱った資料を復習し、確認テストに備える。(90分)
指導方法	ICT機器、映像資料、Webの学習資料等を最大限活用し、資格試験本番を意識した課題演習を効率的に行う。 フィードバックの方法：適宜確認テストを行い学習の達成度を客観的に把握させる。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C：学習計画の内容とその達成度 ◎E：毎回の確認テストの得点率 学習計画に関する課題30%、確認テスト70%
テキスト	[令和7年度] ITパスポート超効率の教科書+よく出る問題集（インプレス）（ISBN-13 978-4295020578） ※ITビジネス論A, Bで共通
参考書	
履修上の注意	受講者はITパスポート試験を受験するため、受験料が必要となります。 資格試験対策の授業であることを理解し、ITパスポートの資格について事前に調べた上で、自分なりの明確な 受験意思がある場合に受講してください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業 プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子（契約講師：田中仁史）			
ナンバリング：E26C38	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 高度な動画編集ソフトを使い映像作品制作を行い動画マーケティングの基礎的な理論と方法を学ぶ。個人やグループでの制作活動を通じて、企画の立案力と計画力や協働力などのプロジェクト実施する上での汎用的な能力を養う。 （授業目標） 映像企画や映像制作の知識を深め、考える方法と伝える方法を身につける。 （学習成果） ☒ A：他者と協働して、作品制作を行うことができる。 ☒ C：マーケティングの考え方と動画編集ソフトを使って映像制作ができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス 授業の概要 学習方法や必要物の説明、動画制作の全体像の把握 環境構築 2 動画編集ソフトの練習（ICT 動画編集ソフト）（PBL） 基本操作 基本機能の説明と体験 動画編集ソフトアドビプレミアの基礎的な使い方を実際に触りながら体験します。 3 動画編集ソフトの実習（ICT 動画編集ソフト）（PBL） ショートムービーの制作練習 動画アドビプレミアを使用用意された素材で簡単なショートムービーを制作し基礎を身につける。 4 課題①動画制作自習（オンデマンド） 課題動画を完成させてYOUTUBEにアップロードをする 5 動画企画立案の方法を講義 企画とプロトタイプを作成（絵コンテ等） 企画提案の方法を学ぶ。モノやコトの魅力を発見。考え方や伝え方を実践的に身につける。 6 動画企画のワークショップ 企画を自分たちで考えるワークショップ ディスカッションしながら戸板女子短大のPR動画の企画を考え コンテ化する。 7 企画のコンテを仕上げ（プレゼンテーション）（PBL） 企画コンテを自分で仕上げプレゼンテーション フィードバックをする力 理解する力を養う 8 課題②企画のブラッシュアップ（オンデマンド） 企画をブラッシュアップしオンラインで提出 9 撮影方法の講義 スマホを使った基本的な撮影方法や戸板女子短大PRビデオの素材を撮影する方法を講義 10 ロケーションハンティング 学校内でロケハンをして撮影体験をするワークショップ型授業 素材撮影の仕方をより実地的に行う 11 素材撮影（PBL）（オンデマンド） 自分たちで学校生活を撮影 戸板女子PRビデオを作るための必要なものを集める準備をする。 12 課題「学校のPR動画の制作①」（PBL）（ICT 動画編集ソフト） 素材集め 撮影 編集作業 テーマに沿った素材の選び方 カット編集をして 動画の全体がわかるようにする 13 課題「学校のPR動画の制作②」（PBL）（ICT 動画編集ソフト） 応用的な動画編集 編集方法 テロップの入れ方 音楽、効果音、ナレーションなど具体的な演出方法を実践しながら学ぶ 14 課題「学校のPR動画の制作②」（PBL）（ICT 動画編集ソフト） 動画をブラッシュアップしYOUTUBEへのアップロードの仕方を学ぶ 15 動画の発表（プレゼンテーション）
------	---

	完成品の発表とフィードバックを全員で行う。レビューの仕方などを学ぶ
到達目標・基準 C評価になる基準	○A：他者と協働して制作に取り組むことができる ◎C：計画的に映像作品を制作することができる
事前・事後学習	事前：作品の企画を検討し、必要な素材を用意する。 事後：作品の企画・制作・編集作業等をブラッシュアップ
指導方法	基礎的な動画を自分で制作していく中で、動画制作の考え方とスキルを身に付ける。 フィードバックは、制作物／発表に対して適宜授業中に行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	制作物70%、授業への参加・貢献度30% ○A：授業の参加度・グループ制作への貢献度で評価する ◎C：制作物及び発表資料で評価する
テキスト	なし。必要な資料は適宜配布する。
参考書	
履修上の注意	Adobeアカウント料が必要となります。（他の授業でもAdobeアカウントを購入する場合はそれと兼用で可） 動画作品の制作活動を行う授業であり、ものづくりに対して主体的な意思や構想を持ち、授業外でも自主的に 新しい技術を調べて学んだり、制作を行ったりする必要があることを理解した上で、受講するようにしてくだ さい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業 プレゼンテーション グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
ナンバリング：E16C39	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」、webページ作成サイト「Wix」を用いて、WEBデザイン&設計を中心としたデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 (授業目標) WEBデザインのトレンドとユーザビリティを重視し、使いやすく魅力的なデザイン制作を目指す。 (学習成果) ◎D：色の調和、文字と画像との構成がバランスよくレイアウトできる。 ◎E：ユーザーインターフェイスはどうあるべきか理解し誰もが使いやすいwebサイトがデザインできる。
----------------------------------	--

授業計画	1 Wix基礎 (1) WEBデザインサービス「wix」の基本機能を学びます。 2 Wix基礎 (2) ヘッダー フッター セクションなどのWEBデザイン特有の機能や知識を学びます。 3 Wix応用 文字の扱い方や図形の作成、写真の挿入、グループ化、整列方法など実践します。 4 構図構成 枠の中にどのように配置すれば、意図した事を伝えられるか学びます。 5 色彩、色調補正 色の調和や活用の仕方を、デザインを行いながら研究します。 Adobe Photoshopを活用して写真を意図したイメージに加工します。 6 アニメーション WEBサイト表示時のアニメーションを活用し演出を学びます。 7 ロゴデザイン (1) Adobe Illustratorを使いギャラリーサイトに使用するタイトルロゴの作成の仕方を学びます。 8 ロゴデザイン (2) ギャラリーサイトに使用するタイトルロゴをデザインします。 9 情報設計 伝えるべき優先順位を決めて、どのようにレイアウトすべきか学びます。 10 ギャラリーサイトデザイン制作課題 (1) (実習) ギャラリーサイトの基本的な要素を研究しサイト構成を考え、レイアウトします。 11 ギャラリーサイトデザイン制作課題 (2) (実習) マーケティングを考慮しリアリティのあるデザインにします。 12 ギャラリーサイトデザイン制作課題 (3) (実習) スマートフォンでも閲覧できるように、レスポンスデザインを学びます 13 ギャラリーサイトデザイン制作課題 (オンデマンド) 授業で習得した技術を活用してオリジナルギャラリーサイトをデザインしていきます。 進捗をクラスルームにて該当URLを提出 14 ギャラリーサイトデザイン制作課題 (オンデマンド) 授業で習得した技術を活用してオリジナルギャラリーサイトをデザインしていきます。 進捗をクラスルームにて該当URLを提出 15 ギャラリーサイトデザイン制作課題 (オンデマンド) オリジナルギャラリーサイトデザインを完成、提出します。 完成課題をクラスルームにて該当URLを提出
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」、webページ作成サイト「Wix」が使えるオリジナルの表現ができる。 ◎E：身の回りにあるデザインされているものを「作り手の目線」と「消費者の目線」の両端の考えを意識して、自らの表現に反映できる。
---------------------	--

事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。(30分) 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティーアップのための考察を行う。(30分)
指導方法	実習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：提出課題のクオリティで評価する。 ○E：課題で提示した条件がクリアされているかで評価する。 複数の課題を提出 80% 授業態度 20%
テキスト	資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラーニング、PBL	実習 発表

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
江原数彦			
ナンバリング：E26C40			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) より視覚面に訴えかける資料の作成を目指して、デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や「Adobe Photoshop」の機能を習得を目指した演習である。基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得し、ビジネス上で豊かな情報表現ができるようにする (授業目標) AdobeグラフィックソフトであるIllustratorとPhotoshopの機能を習得し、目的に応じた素材制作ができるようになる。 (学習成果) ◎D:IllustratorやPhotoshopの各機能を掛け合わせ、より魅力的でわかりやすい情報デザインを実現できるとともに、目的に応じて機能を自主的に学習し、さらなる操作方法と表現ができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 授業の目的理解 デザインの役割 ポートフォリオの土台制作 ・ 授業の目的理解 ・ Adobeの登録準備を行う ・ デザインの役割と価値を理解する ・ ポートフォリオ用Googleサイトを構築する 2 Illustrator操作技術を習得する1/アイコンを制作する ・ Illustratorの操作画面を理解する ・ 図形の描画と編集の操作方法を理解する ・ 色のしくみと着色の仕方を理解する 3 Illustrator操作技術を習得する2/キャラクターを制作する ・ 複雑な図形の描画と編集について理解する ・ 文字の入力と編集の操作を理解する 4 Illustrator操作技術を習得する3/名刺・グリーティングカードを制作する ・ 文字の入力と編集の操作を理解する ・ Illustratorの「効果」機能について基本を理解する 5 【オンデマンド授業】課題制作：オリジナルグリーティングカードをデザイン・制作し、送付する 課題テーマに従って、オリジナルグリーティングカードを制作し、特定の人物へ送付する グリーティングカードのデータは、指定の期日までにclassroomから提出すること 6 Illustrator操作技術を習得する4/ロゴマークを制作・Tシャツをデザインする ・ ロゴマークの意味を理解する ・ オリジナルロゴマークを制作する ・ Tシャツのプリント柄をデザインする 7 Illustrator操作技術を習得する5/フライヤー・ポスターを制作する ・ 画像の配置や切り抜く方法を理解する ・ ペジエ曲線の基礎を理解する ・ 広告販促物であるフライヤーやポスターを制作する 8 【オンデマンド授業】Illustrator操作技術を習得する6/カタログを制作する ・ 見本に従ってカタログを制作し、紙面編集の方法について操作方法の完全習得を目指す 9 Photoshop操作技術を習得する1/画像の仕組みを理解する ・ Photoshop操作画面を理解する ・ Photoshopの役割について理解する ・ 画像のサイズ変更や解像度について理解する 10 Photoshop操作技術を習得する2/フォトタッチに詳しくなる ・ 画像から選択した物を消したり、別の画像に置き換えたりする方法を理解する ・ 画像の色味を変更する方法を理解する ・ 選択範囲の作成の仕方を理解する 11 Photoshop操作技術を習得する3/合成写真を制作する ・ 複数の写真を合成する方法を理解する ・ レイヤーについて詳しくなる ・ レイヤーマスクについて詳しくなる
------	---

	12	Photoshop操作技術を習得する4／複雑な合成写真を制作する ・より複雑な合成写真の作り方について理解する
	13	IllustratorとPhotoshopの両方を使用して課題制作に取り組む1 ・指定されたテーマに則り、ポスターを制作する。
	14	Illustrator操作技術を習得する7／パンフレットの1ページを制作する① ・各個人が画像を用意し、戸板女子短期大学国際コミュニケーション学科の学校生活を紹介するパンフレットを制作する（1人2ページ担当予定）
	15	【オンデマンド授業】課題制作：パンフレットの1ページを制作する② ・第14回の課題を継続して制作し、classroomより提出する。オンデマンド授業ではあるが、操作方法等に不安がある学生は、登校して教員からサポートを受けることができる。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D:IllustratorやPhotoshopの各機能を掛け合わせ、わかりやすい情報デザインを実現できる。	
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にある販売促進物をより意識してデザイン上の情報を集め、表現の材料にする。 (30分) 事後学習：自身の制作物の意図を言葉で表現し、ポートフォリオにまとめる。また、他者の制作物に対して意見や感想を伝える。(30分)	
指導方法	実習形式の授業。数種類の制作課題を提示し、見本に沿いながら制作を進めることによって機能修得を行う。さらに課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行い、自ら修正・再制作に取り組むことでスキルのアップを狙う。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D:課題で求められた表現手法が再現できている。また自由課題においては、自由に各種機能を駆使した情報伝達デザインがなされている。 ・課題提出の頻度と内容の充実度 80% ・授業への参加姿勢 20% ただし、(特別な理由なく)極端に欠席が多い場合は、課題をすべて提出しても単位取得ができない場合があるので、積極的に授業に参加すること。	
テキスト	授業時にプリントを配布する。 ※Adobeソフト(Creative Cloud)の購入が必要となる。	
参考書	特になし	
履修上の注意	コンピュータでの操作に抵抗のない人に向いている(操作機能に長けている必要はない)。「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「情報を図やイラストで表現することが好き」といった人に向いている。1回の授業の進度が早いため、継続的に出席できる方。特別な理由を以て欠席した場合を除き、欠席者への後日個別フォローは行わない。	
アクティブ・ラーニング、PBL	実技中心	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
布施梓			
ナンバリング：E36C41			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) デジタル技術に関する最新のハードウェア、ソフトウェア、マーケティング等を紹介し、受講生の関心やスキルに合わせた課題を設定し、デジタルコンテンツの制作実習を行う。個人作業やグループ作業で制作に取り組むことで、プログラミング的思考や開発方法などの具体的なITスキルを身に付けると共に、課題発見力、協働能力などの汎用的な能力を養う。 (授業目標) デジタルコンテンツ制作に必要な基礎的な知識とスキルを身に付ける。 (学習成果) ☒ A：他者と効果的に協働して、高度な開発に取り組むことができる ☒ C：計画的に高品質のデジタルコンテンツを制作・開発することができる
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス デジタルプロジェクト実習の概観 受講者のIT知識・スキル・関心の確認 2 IT技術の紹介と体験 (ICT 機器やソフトの体験) 最新・話題のハードウェア・ソフトウェアなど 3 IT技術の紹介と体験 (ICT 機器やソフトの体験) 最新・話題のハードウェア・ソフトウェアなど 4 共通課題の制作・開発 (ICT 開発ツール) (PBL) (グループワーク) 企画、制作・開発計画の立案 5 共通課題の制作・開発 (ICT 開発ツール) (PBL) (グループワーク) 制作・開発作業 6 共通課題の制作・開発 (ICT 開発ツール) (PBL) (グループワーク) 制作・開発作業 発表資料の作成 7 中間発表 (プレゼンテーション) 他者とフィードバックを行い、開発課題・修正点を整理する。 8 発表準備 (プレゼンテーション) (オンデマンド) 共通課題の最終的な制作作業、発表/展示準備 9 発表 (プレゼンテーション) (オンデマンド) TOITAフェスでの制作物の発表と運営 10 発表 (プレゼンテーション) (オンデマンド) TOITAフェスでの制作物の発表と運営 11 発表のふりかえり 制作過程や発表について、ふりかえりを行う 12 個別課題の制作・開発 (ICT 開発ツール) (PBL) 企画 要件定義等、制作・開発作業 13 個別課題の制作・開発 (ICT 開発ツール) (PBL) 制作・開発作業 14 個別課題の制作・開発 (ICT 開発ツール) (PBL) 制作・開発作業 15 最終発表 (プレゼンテーション) 制作したコンテンツを発表し、ふりかえりを行う
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	☒ A：他者と協働して開発に取り組むことができる ☒ C：デジタルコンテンツを制作・開発することができる
事前・事後学習	事前：必要な資料・素材等を準備し、操作法を予習する。(30分) 事後：授業時間内では取らなかった部分を仕上げる。(30分)
指導方法	ハード・ソフトウェア開発ツールを段階的に学習し、具体的な制作作業を、ICT機器を利用して実践的に行う。

	フィードバックの方法：制作物に対して、適宜コメントを返す。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	制作物60%、発表内容40% ○A：発表の準備と発表方法によって評価する ◎C：制作物によって評価する
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	デジタル作品の制作・開発活動を行う授業であるため、ものづくりに対して主体的な意思や構想を持ち、授業外でも自主的に新しい技術を調べて学んだり、制作を行ったりする必要があることを理解した上で、受講するようになしてください。また、TOITAフェスで成果発表を行うため、自身のスケジュールを確認し、参加可能な方のみ受講してください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	PBL型授業 プレゼンテーション グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
大澤康太郎			
ナンバリング：E16C42			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) データサイエンスとは、データから有益な知見を引き出す方法論である。この授業では、データを読み解き思考する方法を習得することを目指す。 PCを使った課題を行うことはあるが、コンピューターの使い方に習熟するためのトレーニングは行う授業ではないので注意。 (授業目標) データを与えられたとき、その読み方を考え冷静に対応するためのリテラシーを身に着ける。また、初歩的な計算を(エクセル等を用いて)行うことができる。 (学習成果) ☐ D：データを自分なりに考察し、答えのない問題に対して、他者を説得できるような暫定的な回答を出すことができる。 ☒ E：教示された計算方法や思考方法を使いこなし、問題を解決することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス 本授業の目的 2 確率に親しむ① 確率を経験的に捉える考え方を、練習問題を通して習得する(一部グループワーク) 3 確率に親しむ② 確率を図形的に捉える考え方を習得する。(一部グループワーク) 4 確率に親しむ③ / 確認テストⅠ 前回の授業の内容を用いて、「感度」「特異度」という考え方を習得する。(一部グループワーク) 確率の内容を基に確認テストを実施する。(40分程度を予定) 5 【オンデマンド】さまざまなグラフ① さまざまなグラフの種類について学び、描けるようになる。 6 さまざまなグラフ② グラフを描くことを通して、「詐欺グラフ」の特徴をつかむ。(一部グループワーク) 7 さまざまなグラフ③ 「詐欺グラフ」と「正しいグラフ」を描き分けられるようになる。(一部グループワーク) 8 【オンデマンド】データを扱う基本① データを扱う基本について、代表値に注目して学ぶ。 9 データを扱う基本② 計算演習を通してデータを扱う基本を身に着ける。 10 確認テストⅡ / 因果推論① 「グラフ」と「データの扱い」を範囲に、確認テストを行う。 因果推論の初歩について学ぶ。 11 因果推論② 因果推論について、クイズを通して学ぶ。 12 因果推論③ 因果推論について、クイズを通して学ぶ。 13 因果推論④ / 確認テストⅢ 因果推論について、クイズを通して学ぶ。 因果推論を範囲に、確認テストを行う。 14 【オンデマンド】生成AIについて 生成AIの原理と使い方について概説する。 15 生成AIを使ってみる 生成AIを用いた課題を作成し、提出する。
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	○D：データを自分なりに考察し、暫定的な回答を出すことができる。 ◎E：教示された計算方法や思考方法を使って問題に取り組むことができる。
事前・事後学習	事前：classroom等で予告された内容を予習する（90分） 事後：授業の復習を行う（90分）
指導方法	できるだけ数式を用いず、言語的に理解することを目指して解説する。 一部グループワークも取り入れる。 課題や確認テストに関するフィードバックを適宜授業中に行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：授業内課題＋確認テスト ◎E：授業内課題＋確認テスト 授業内課題を毎回行う。また、学期内に3回、確認テスト等を行う。 授業内課題60% 大き目の課題30% 授業態度(出席率や課題の提出率)10%
テキスト	なし
参考書	適宜指示する。
履修上の注意	Excelが使用できる状態のPCが必要。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
宮川昭義			
ナンバリング：E16C43	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 簿記は、企業の経済活動という「取引」に関する資産や負債の変動を記録し、それらの変動の「原因」と「結果」という二つの側面から貨幣額をもって表現する計算技法である。この授業の目的は、簿記の基本的な仕組みを理解すること、また、簿記の学習を通して会計学を学ぶ上での基礎知識を修得することである。
	(授業目標) 企業活動の基本的な取引の理解と簡単な財務諸表の読み方から企業分析ができるようになること。
	(学習成果) 中小零細企業の取引について簿記を利用して記録・理解ができるようになること。
	(S評価になる基準) 日商簿記検定3級に合格できるレベルに到達すること。 (ディプロマ・ポリシー) C：日商簿記検定3級の合格へ向けた計画的な学修が十分にできる。 D：日商簿記検定3級の合格へ向けた発展的問題演習を継続的にこなえる。

授業計画	1 簿記の基礎【オンデマンド授業】 (1) 簿記について (2) 財務諸表と簿記の5要素 2 商品売買Ⅰ (1) 商品売買取引 (2) 分記法による商品売買取引の記帳 (3) 三分法による商品売買取引の記帳 (4) 掛けによる売買 (5) 手付金や内金の処理 (6) 商品券 3 現金・預金 (1) 現金 (2) 当座預金 (3) 当座借越契約 (4) 普通預金と定期預金 (5) 複数の銀行口座を所有する場合 4 クレジット売掛金 (1) クレジット売掛金 5 電子記録債権・債務 (1) 電子記録債権・債務 6 その他の取引Ⅰ（貸付金・借入金） (1) 貸付金・借入金 (2) 利息について (3) 役員貸付金・役員借入金 (4) 手形貸付金・手形借入金 7 その他の取引Ⅲ（仮払金・仮受金，給与，諸会費） (1) 仮払金・仮受金 (2) 給与 (3) 諸会費 8 試算表【オンデマンド授業】 (1) 試算表とは 9 決算整理Ⅰ（現金過不足） (1) 現金過不足の処理（期中取引） (2) 現金過不足の整理（決算整理） (3) 決算日の現金実査にもとづく現金過不足の処理（決算整理） 10 決算整理Ⅲ（売上原価） (1) 三分法の記帳
------	---

	<p>(2) 売上原価および売上総利益の計算 (3) 売上原価を算定するための仕訳 (決算整理)</p> <p>11 決算整理V (減価償却)</p> <p>(1) 有形固定資産の減価償却 (決算整理) (2) 減価償却費の月次計上 (3) 減価償却している有形固定資産の売却 (期中取引)</p> <p>12 決算整理整理後残高試算表 (1) 決算整理後残高試算表</p> <p>13 帳簿の締め切り (英米式決算) (1) 帳簿 (勘定) の締め切り</p> <p>14 株式の発行【オンデマンド授業】 (1) 株式会社とは (2) 資本 (純資産) とは (3) 株式の発行</p> <p>15 税金 (1) 税金の分類 (2) 法人税等 (3) 消費税</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>(到達目標・基準) 日商簿記検定3級に合格できるレベルに到達すること。</p> <p>(C評価になる基準) 日商簿記検定3級に合格に向けた基本的項目に関する理解ができるレベルに到達すること。 (ディプロマ・ポリシー) C: 日商簿記検定3級の合格へ向けた最低限の計画的な学修ができる。 D: 日商簿記検定3級の合格へ向けた基礎的問題演習に取り組める。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習: 授業計画に沿って対応するテーマについてテキストを通読し、疑問点の整理をおこなう。(90分) 事後学習: 授業内容についての問題演習をおこない、理解できない箇所については、次回の授業において質問ができるように整理をおこなう。(90分)</p>
指導方法	<p>講義は基本的にテキストによる解説の後、問題演習をおこなうことで内容に関する習熟度を上げる方法による。 適宜、課題などを用意し、自宅学習ができるように配慮する。 演習問題や課題についてのフィードバックは授業内で行う。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>平常点50% 確認試験50%</p>
テキスト	<p>滝澤ななみ (2025) 『みんなが欲しかった! 簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第13版』TAC出版、ISBN:978-4300115763 TAC簿記検定講座 (2025) 『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 15.0』TAC出版、ISBN:978-4300115831</p>
参考書	
履修上の注意	<p>この授業は「ビジネス会計B」(同日開講)との同時履修を前提として進行する。そのため、この講義「ビジネス会計A」のみを履修することは、授業内容の理解が難しくなることに留意すること。なお、受講者の理解度によって授業計画が一部変更される場合がある。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
宮川昭義			
ナンバリング：E16C44	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 簿記は、企業の経済活動という「取引」に関する資産や負債の変動を記録し、それらの変動の「原因」と「結果」という二つの側面から貨幣額をもって表現する計算技法である。この授業の目的は、簿記の基本的な仕組みを理解すること、また、簿記の学習を通して会計学を学ぶ上での基礎知識を修得することである。 (授業目標) 企業活動の基本的な取引の理解と簡単な財務諸表の読み方から企業分析ができるようになること。 (学習成果) 中小零細企業の取引について簿記を利用して記録・理解ができるようになること。 (S評価になる基準) 日商簿記検定3級に合格できるレベルに到達すること。 (ディプロマ・ポリシー) C：日商簿記検定3級の合格へ向けた計画的な学修が十分にできる。 D：日商簿記検定3級の合格へ向けた発展的問題演習を継続的にこなえる。
----------------------------------	--

授業計画	1 簿記の基礎【オンデマンド授業】 (1) 簿記について (2) 財務諸表と簿記の5要素 2 商品売買Ⅰ (1) 商品売買取引 (2) 分記法による商品売買取引の記帳 (3) 三分法による商品売買取引の記帳 (4) 掛けによる売買 (5) 手付金や内金の処理 (6) 商品券 3 現金・預金 (1) 現金 (2) 当座預金 (3) 当座借越契約 (4) 普通預金と定期預金 (5) 複数の銀行口座を所有する場合 4 クレジット売掛金 (1) クレジット売掛金 5 電子記録債権・債務 (1) 電子記録債権・債務 6 その他の取引Ⅰ（貸付金・借入金） (1) 貸付金・借入金 (2) 利息について (3) 役員貸付金・役員借入金 (4) 手形貸付金・手形借入金 7 その他の取引Ⅲ（仮払金・仮受金，給与，諸会費） (1) 仮払金・仮受金 (2) 給与 (3) 諸会費 8 試算表【オンデマンド授業】 (1) 試算表とは 9 決算整理Ⅰ（現金過不足） (1) 現金過不足の処理（期中取引） (2) 現金過不足の整理（決算整理） (3) 決算日の現金実査にもとづく現金過不足の処理（決算整理） 10 決算整理Ⅲ（売上原価） (1) 三分法の記帳
------	---

	<p>(2) 売上原価および売上総利益の計算 (3) 売上原価を算定するための仕訳 (決算整理)</p> <p>11 決算整理V (減価償却)</p> <p>(1) 有形固定資産の減価償却 (決算整理) (2) 減価償却費の月次計上 (3) 減価償却している有形固定資産の売却 (期中取引)</p> <p>12 決算整理整理後残高試算表 (1) 決算整理後残高試算表</p> <p>13 帳簿の締め切り (英米式決算) (1) 帳簿 (勘定) の締め切り</p> <p>14 株式の発行【オンデマンド授業】 (1) 株式会社とは (2) 資本 (純資産) とは (3) 株式の発行</p> <p>15 税金 (1) 税金の分類 (2) 法人税等 (3) 消費税</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>(到達目標・基準) 日商簿記検定3級に合格できるレベルに到達すること。</p> <p>(C評価になる基準) 日商簿記検定3級に合格に向けた基本的項目に関する理解ができるレベルに到達すること。 (ディプロマ・ポリシー) C: 日商簿記検定3級の合格へ向けた最低限の計画的な学修ができる。 D: 日商簿記検定3級の合格へ向けた基礎的問題演習に取り組める。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習: 授業計画に沿って対応するテーマについてテキストを通読し、疑問点の整理をおこなう。(90分) 事後学習: 授業内容についての問題演習をおこない、理解できない箇所については、次回の授業において質問ができるように整理をおこなう。(90分)</p>
指導方法	<p>講義は基本的にテキストによる解説の後、問題演習をおこなうことで内容に関する習熟度を上げる方法による。 適宜、課題などを用意し、自宅学習ができるように配慮する。 演習問題や課題についてのフィードバックは授業内で行う。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>平常点50% 確認試験50%</p>
テキスト	<p>滝澤ななみ (2025) 『みんなが欲しかった! 簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第13版』TAC出版、ISBN:978-4300115763 TAC簿記検定講座 (2025) 『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 15.0』TAC出版、ISBN:978-4300115831</p>
参考書	
履修上の注意	<p>この授業は「ビジネス会計A」(同日開講)との同時履修を前提として進行する。そのため、この講義「ビジネス会計B」のみを履修することは、授業内容の理解が難しくなることに留意すること。なお、受講者の理解度によって授業計画が一部変更される場合がある。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E26C48	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 本講義では日本のみならず世界中を席卷する「韓流」(ハンリュウ)ブームに着目し、韓国のドラマ、映画、音楽、マンガなどのK-コンテンツに触れながら知識を深め、理解していくことを目的とします。同時にファッションやメイク、K-foodなどについても触れ、比較文化論的な視点からも「韓流」ブームを考察していきます。 (授業目標) K-コンテンツの知識を深め、理解できるようになる。 (学習成果) ◎D： ○E：
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス 講義計画、講義の進め方、成績評価に関する説明 2 韓流5.0時代 (Google Classroom：ノート作成) ・ヒット作品が次々に生まれる韓流ドラマ ・第4次韓流ブームとは。 ・韓流ドラマのグローバル市場での認知拡大について 3 コンテンツ大国を目指す韓国 (Google Classroom：ノート作成) ・韓国のコンテンツ産業振興政策の現在 ・IMF危機からの戦略転換 ・デジタルメディアシティ (DMC) ・コンテンツ振興院の設立などについて 4 韓流ドラマ成長期の時代 (Google Classroom：ノート作成) (グループワーク) ・韓流は「冬のソナタ」から始まった ・マクチャンドラマの世界などについて 5 韓流ドラマ安定期の時代 (Google Classroom：ノート作成) ・地上波の失速 ・3大ケーブル局 (tvN、JTBC、OCN) の台頭などについて 6 韓流ドラマ破壊期の時代 (Google Classroom：ノート作成) ・ドラマ制作スタジオの誕生 ・スタジオドラゴンの快進撃 ・Netflixの進出 ・イカゲームの世界的成功などについて 7 韓流ドラマの制作手法 (Google Classroom：ノート作成) (グループワーク) ・企画と脚本 ・PD主導制作スタイル ・キャスティング ・スタジオの登場とウェブトゥーンなどについて 8 日本人が韓流ドラマにハマる理由 (Google Classroom：ノート作成) ・韓国文化への関心 ・日本のドラマにはないもの ・エンタメの中の感動 ・日本にはない多種多様なドラマ・ジャンルなどについて 9 韓国ドラマのなにが凄いのか① (Google Classroom：ノート作成) ・「愛の不時着」「梨泰院クラス」を徹底分析 ・「イカゲーム」が何故、世界で評価されるのか、などについて 10 韓国ドラマのなにが凄いのか② (Google Classroom：ノート作成) (グループワーク) ・各名作ドラマを文化的、政治的背景から掘り下げていく ・その他の韓国ドラマ紹介。 ・迷った時はどんな韓流ドラマを視聴すれば良いのか、などについて 11 韓国の映画及びコンテンツ産業の海外戦略 (Google Classroom：ノート作成) ・映画『パラサイト 半地下の家族』が果たした奇跡 ・韓国のクリエイター人材育成術などについて 12 K-POPの隆盛 (Google Classroom：ノート作成) (グループワーク) ・BTSの国家戦略
------	---

	<p>13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K-POPと韓流ドラマの密接な関係 ・ドラマに先行したK-POPの海外展開などについて <p>韓流ブームとDX (Google Classroom: ノート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・K-コンテンツを下支えするSNSや動画共有サイト ・ノンナレーションまち歩き動画 ・韓国生活動画 ・韓流チャンネル ・驚異のSNSの利用率 <p>14</p> <p>東京に比べて卓越したソウルのイメージ形成などについて</p> <p>ゲスト講義 (Google Classroom: ノート作成) (プレゼンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細は未定。韓流コンテンツ関わっているキーマンに特別講義 ・これまでの講義のまとめ <p>15</p> <p>私の一押しK-コンテンツ発表 (課題発表) (Google Classroom: ノート作成) (プレゼンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表 一押しのK-コンテンツについてプレゼンする ・いま、日本は韓国に何を学ぶべきなのか。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D : ○E :
事前・事後学習	事前学習：次回の講義で扱う課題についてネットで検索しておく (120分程度)。また、可能な限り、指示するドラマや映画などの映像コンテンツを視聴しておく。 事後学習：講義で扱った映像コンテンツは、次回の講義までに可能な限り視聴する。(120分程度)
指導方法	講義は基本、パワーポイントを使用して進める。適宜、DVDなど視聴覚資料を利用する。一方通行な講義にならないよう適宜、グループワークや討論などを積極的に取り入れる。第15回の講義中に各学生が一押しするK-コンテンツをA4判にまとめ、プレゼンを1~2分で行う。筆記試験の代わりにレポート提出 (1200字程度) を課題とする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D : ○E :
テキスト	『韓国コンテンツはなぜ世界を席卷するのか〜ドラマから映画、K-POPまで知られざる最強戦略〜』増淵敏之 (徳間書店)
参考書	『人生を変えた韓国ドラマ』藤脇邦夫 (光文社) 『韓国エンタメはなぜ世界で成功したのか』菅野明子 (文春新書)
履修上の注意	基本的に講義は、指示した映像や音楽コンテンツを視聴していることを前提に講義を進める。スマートフォンなどでK-コンテンツの視聴環境があることが最低限、望まれる。講義は、理解を深めるためにパソコンを使って課題を実施する。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E36C49	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 本講義では、新たな成長産業として期待され、注目を集めているコンテンツビジネスについて学び、今後の動向について知り、最新事情を自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。映像・音楽・書籍・アニメ・新聞・WEBなどのコンテンツを活用した各ビジネスの概要や実例などについて解説していきます。また、各メディアとコンテンツの関係や歴史、仕組みなど、抱えている問題などについても考察していきます。 (授業目標) コンテンツビジネスについての最新事情を自分の言葉で説明できる。 (学習成果) ☐ C： ☒ D：
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス ・授業の目標と進め方 ・最終課題のテーマ発表 2 コンテンツとメディア① (Google Classroom：ノート作成) ・コンテンツとは何か ・コンテンツの市場 ・なぜいまコンテンツなのか。 ・コンテンツツーリズムとは 3 コンテンツメディア② (Google Classroom：ノート作成) ・コンテンツの歴史 ・クールジャパン政策 ・韓国を事例にしたソフトパワー 4 放送業界① (Google Classroom：ノート作成) ・民間放送局のビジネスモデル ・番組の制作方法 5 放送業界② (Google Classroom：ノート作成) ・NHKのビジネスモデル ・番組の制作方法 6 放送業界③ (Google Classroom：ノート作成) ・テレビ視聴者の変化 ・民間放送局及びNHKの動画配信サービス ・テレビ業界の今後 7 配信系コンテンツ業界 (Google Classroom：ノート作成) ・Netflix ・Amazonプライム・ビデオ ・Disney+ ・テレビ局との関係性について 8 映画業界① (Google Classroom：ノート作成) ・映画業界のビジネスモデル ・映画の興行収入 ・映画製作委員会の一般化 9 映画業界② (Google Classroom：ノート作成) ・映画業界のこれから ・地域映画 ・日本フィルムコミッションの未来 10 アニメ&マンガ業界 (Google Classroom：ノート作成) ・アニメーションのビジネスモデル ・日本アニメの海外市場 ・アニメーションの歴史 ・漫画雑誌の市場 ・WEBトゥーン (韓国) の進出 11 ゲーム業界 (Google Classroom：ノート作成) ・ゲーム業界のビジネスモデル ・ゲームの歴史
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・大手ゲーム会社の動向 ・eスポーツの今後 <p>12 音楽業界 (Google Classroom: ノート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽業界のビジネスモデル ・レコード会社の戦略 ・音楽出版社の未来 ・今後の展望について <p>13 ネットコンテンツ (Google Classroom: ノート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乱立するニュースサイト ・新聞業界のデジタル化 ・大手出版社が取り組むDX <p>14 コンテンツと著作権 (Google Classroom: ノート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権について ・著作権侵害とは ・マンガ村の事例など <p>15 課題発表と講義総括 (Google Classroom: ノート作成) (プレゼンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が興味を持ったコンテンツビジネスに対する新企画提案 (ジャンル・タイトル・コンテンツの内容・ターゲット・制作費などA4判一枚にまとめる)
到達目標・基準 C評価になる基準	○C : ◎D :
事前・事後学習	事前学習 : コンテンツビジネスに関するニュースを日々調べる。(120分) 事後学習 : 毎週の講義を振り返り、口頭での質問にも対応できるように自分の言葉で整理し、まとめる。(120分)
指導方法	講義は基本、パワーポイントを使用して進める。適宜、DVDなど視聴覚資料を利用する。一方通行な講義にならないよう適宜、グループワークや討論などを積極的に取り入れる。第15回の講義中に、各々が興味を持ったコンテンツビジネスで実施可能な企画をA4判にまとめ1~2分でプレゼンする。また、コンテンツビジネスを理解しているかどうか、定期試験またはレポートで評価する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C : ◎D :
テキスト	テキストは使用しない。都度、講義において簡単なレジュメを配布する。
参考書	『メディア論』水越伸・飯田豊(放送大学教育振興会)、『アニメマンガで地域振興』山村高淑(一般社団法人地域発新力研究支援センター)
履修上の注意	日常的な情報収集が必要な授業である。 特に自分が好きなコンテンツについては自信を持って説明ができるよう常に準備をし、積極的に授業に参加することを期待する。
アクティブ・ラー ニング、PBL	プレゼンテーション、日本のコンテンツビジネスにおける問題点を理解し、解決策を導くPBLの実践

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
高木良子			
ナンバリング：E16C47			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容）エンターテインメント業界におけるさまざまな業種や仕組みについて学ぶとともに、観光人類学の観点からテーマパークやキャラクタービジネスがもたらす影響や相互関係について考える。また各業界の専門家によるゲスト回では、ゲストから現場の生の声を聞き座学と実践とを接続する。尚、授業には個別ワーク、グループワークを含む。 （授業目標）テーマパークやキャラクタービジネスについての知識を深め、観光人類学などの多角的視点から理解できるようになる。 （学習成果） ◎D：エンターテインメント業界の概要について知り、テーマパークやキャラクタービジネスがもつ経済的、文化的影響を理解することができる。 ○E：グループディスカッションやワークを通じて、ビジネス視点でキャラクターに関するプレゼンができる。
----------------------------------	---

授業計画	第1回 授業に関するガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法、使用する道具に関する説明を行う。 テーマパークとキャラクターが、なぜ観光人類学に関連するのかについて導入。 第2回 エンターテインメント業界全体の俯瞰（オンデマンド） エンターテインメント業界（観光ビジネス、エンターテインメント、出版ビジネス、テーマパーク、キャラクターの関係性）の業種を知る。テーマパークの歴史と市場について学ぶ。 第3回 テーマパーク①ジブリパークについてのケーススタディ ジブリ美術館、ジブリパークについて学ぶ。 映像を視聴し、テーマパークを作り運営するにはどのような問題があり、表舞台の裏側で働く人々がどのように絡み合っているのかを考える。 第4回 テーマパーク②：テーマパークと観光人類学 ジブリ美術館はなぜ三鷹市にできたのか？ ジブリスタジオの成り立ちから三鷹市との協働までの背景を学び、ジブリ美術館ができたことにより、三鷹市民はどのように影響を受け変化してきたかを観光人類学の視点から学ぶ。 第5回 テーマパーク③：ゲスト回【1】 前半は、テーマパーク関係者（富士急ハイランド）によるゲスト授業。 後半は、ゲストと講師によるワークショップを行う。 第6回 キャラクタービジネス① キャラクターの定義や、キャラクターを使ったビジネスの仕組みについて学ぶ。 グループワーク：実際の公募情報に基づきご当地キャラクターを考える。 第7回 出版① 書籍から派生するキャラクタービジネス 書籍制作の過程の紹介。書籍原作から派生するドラマ化、映画化、グッズ化によって発生する業種、職種の紹介。 グループワーク：特定の作品を選択しグッズ化の企画。 第8回 出版② コミックエッセイという個人的体験の表現 コミックエッセイの成り立ちとこれまでのトレンドの変化、書き手の変化について学ぶ。 グループワーク：体験からコミックエッセイの内容を考えてみる。 課題：コミックエッセイの原作企画を考える。 第9回 映画①：映画業界の仕組み 映画業界の仕組みと業務（ヒト・モノ・カネ）の流れを学ぶ。 グループワーク：地域創生のための映画上映会を企画する。 第10回 映画②：ゲスト回【2】 前半は、やまなしフィルム・コミッションの方のゲスト講義。 後半は、ゲストと講師によるワークショップと前回課題の発表。 第11回 映画③：聖地巡礼と観光人類学（オンデマンド） 本来の聖地巡礼からアニメツーリズムまで、作品からうまれる観光と人の関係について観光人類学の視点から事例を学ぶ。 第12回 アニメ① アニメ業界の仕組みとクールジャパンの中のアニメ アニメ業界の仕組みと業務（ヒト・モノ・カネ）の流れや、
------	--

	<p>海外でのアニメイベント、アニメビジネスの動向を学ぶ。</p> <p>第13回 アニメ②ゲスト回【3】 前半は、アニメ制作関係者による制作現場に関するゲスト講義。 後半は、ゲストと講師によるワークショップを行う。</p> <p>第14回 観光①：観光人類学から見る日本のインバウンド政策（オンデマンド） 日本のインバウンド政策の移り変わりとこれから求められる人材や観光資源について観光人類学の視点から学ぶ。</p> <p>第15回 観光②：ゲスト回【4】 前半は、北欧旅行社フィンツアーによるツアー企画に関するゲスト講義。 北欧の代表的キャラクターであるムーミンを絡めたツアーについて聞く。 後半は、ゲストと講師によるワークショップを行う。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎D：エンターテインメント業界の概要について知り、テーマパークやキャラクタービジネスの仕組みについて理解することができる。</p> <p>○E：グループディスカッションやワークを通じ、共同してアイデアをまとめることができる。</p>
事前・事後学習	<p>【事前学習】各回の授業テーマに応じて、メディアなどで情報収集する。(90分程度) *発表回は、アイデアだけでなく課題テーマの背景を知るため、自らも調べ準備する。</p> <p>【事後学習】授業内容をまとめて、自らの言葉で再度表現し理解を深める。(90分程度) *発表回は、その日の別グループから発表されたテーマについても自らも調べて理解を深める。</p>
指導方法	<p>講義は基本パワーポイントを使用して進める。適宜DVDなど視聴覚資料を利用する。 一方通行な講義にならないよう、適宜グループワークや討論などを積極的に取り入れる。</p> <p>また、毎回の授業の後半には、自由様式のコメントペーパーの提出を条件とする。 各回のコメントや質問については、次回の授業の冒頭に解説（フィードバック）する。</p> <p>第15回の講義中にキャラクターの作品グッズ企画、コミックエッセイ企画のグループワーク、個人ワークを行い、プレゼンテーションを各1～2分で行う。 筆記試験の代わりに最終課題としてレポート提出（1200字程度）を課題とする。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎D：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。</p> <p>○E：定期試験で評価する。課題の提出物を評価する。</p> <p>リアクションペーパー30%、授業内課題20%、授業貢献度20%、最終課題30%。</p>
テキスト	特になし
参考書	授業内で随時紹介する
履修上の注意	授業はグループワークや発表を多く取り入れているため、積極的な参加が求められる。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：E16C48	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 秘書検定3級合格を目指す。 秘書の役割と資質、一般知識と基本的技能について理解し、実社会で必要な知識や能力について主体的に取り組みながら習得していく。 自己能力を高め、それらを発揮出来る職業選択の幅と可能性を広げていく。 【授業目標】 秘書の役割、資質、一般知識、接遇技能について知識を習得し、実社会で生かせる実践力を養う。 【学習成果】 ◎D：秘書の資質、技能を理解するとともに、社会人として必要な資質と能力を習得していくことができる。 ○E：学習した秘書に必要な知識・能力を、社会での諸活動で臨機応変に発揮できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション/社会人としての自覚と心構え【対面】 授業概要説明（到達目標の確認、授業での心構え、評価方法） 秘書検定3級試験に関する説明（秘書検定審査基準、受験の際の注意点） 社会人・秘書の心構えを習得する。 2 秘書としての心構え【対面】 社会人としての自覚と心構え 上司の補佐役としての秘書 指示を受ける時の留意点 機密を守る 3 秘書に必要な条件【対面】 判断力・記憶力・表現力・行動力 秘書に適した人柄と性格 秘書にふさわしい身だしなみ 4 秘書の役割と機能【対面】 秘書の分類を理解する 上司と秘書の機能と役割の違いを理解する 定型業務と非定型業務 5 秘書の職務【対面】 定型業務 非定型業務 効率的な仕事の進め方 6 企業の基礎知識【オンデマンド】 企業の目的 企業形態と会社の種類 企業の組織と機能 経営管理 企業の組織と活動 社会常識 7 人間関係と話し方【対面】 人間関係と重要性 人間関係をつくるあいさつ 話し方と人間関係 敬語の使い方 8 話し方・聞き方の応用【対面】 情報伝達の仕方 報告の仕方 依頼と断り方 指示の受け方 注意・忠告の受け方 9 電話の対応【対面】 電話のマナーと話し方の注意点 電話のかけ方・受け方 電話の取次ぎ 10 接遇【対面】 接遇の心構え
------	---

	<p>アポイントメントと調整 受付のマナー 来客取次のマナー 受付・取次の接遇用語 案内のマナー 茶菓の接待と紹介のマナー 見送りのマナーと席次</p> <p>11 交際【対面】 慶事の知識とマナー 食事のマナー 弔事のマナー 弔事への対応 贈答のしきたり</p> <p>12 会議と秘書【対面】 会議の目的と種類 会議の準備 会議中の秘書の仕事</p> <p>13 ビジネス文書と秘書【対面】 社内文書の種類と形式 社外文書の慣用表現 ビジネス文書と敬語</p> <p>14 文書管理【オンデマンド】 郵便の基礎知識・郵便小包と特殊扱い郵便物 資料管理ビジネス文書の受信・発信</p> <p>15 資料管理・日程管理・オフィス管理【オンデマンド】 ファイリングの基礎知識 日程管理と予定表 机の使い方と事務用品の種類 快適な環境を作るための基礎知識</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎D：秘書検定3級合格レベルの実力を身につける。 ◎E：学習した秘書の資質、知識、技能を日常生活から実践することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：今回の講義内容に関するテキストの該当章と事前配布資料を読んでおくこと。(約60分) 事後学習：毎回の授業で学習した内容、理解度チェックを必ず復習すること。(約60分) Google classroomで提示した課題に取り組み、必要事項に解答し、期限内に提出すること。(約60分)</p>
指導方法	<p>・講義は主にパワーポイントを用いて進め、視聴覚教材も適宜利用する。 ・課題はGoogle Formsを用いる。テーマごとに学んだ内容を教室で再確認することにより、理解した知識を定着させる。 ・ペアワークを中心として、考えることと対話を重視した授業を行う。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。Google Classroomを活用する。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎D：試験、課題、授業態度を評価する。 ◎E：試験、課題、授業態度・授業中の発言力等を評価する。 試験 60%、課題 30%、授業に取り組む姿勢・貢献度10%（総合的に評価する）</p>
テキスト	『秘書検定3級クイックマスター』改訂2版(2024出版) 実務技能検定協会 早稲田教育出版 ISBN:978-4-7766-1030-4
参考書	『秘書検定集中講義3級』実務技能検定協会 早稲田教育出版 『秘書検定3級実問題集』実務技能検定協会 早稲田教育出版
履修上の注意	<p>履修学生は秘書検定を受験すること。 知識を習得するだけではなく、それらを実際に活かせる力にすることが大切である。その為には、自己管理・身だしなみ・言葉遣い・マナー・知識を深めるなどを日頃から実践し日々の生活や授業で習慣化することが、自己能力と社会人としての自覚を高め、就職内定と将来の可能性の向上にも大きく繋がることを自覚してほしい。 学習したことを自分の日常生活や今後のインターンシップなどでの体験で落とし込み自主的に考え行動するなど、学習内容を深く習得していく能動的な態度が必要となる。 毎回の授業の積み重ねが大切であるため、欠席、遅刻をしないこと。 課題提出は必ず提出期限を厳守すること。 なお、受講者の理解度、参加意識などに応じて、授業内容を一部変更する場合がある。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：E26C49	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】 ・秘書技能検定2級合格に必要な知識と技能を習得する。 ・問題演習を行いながら、テキストを用いて確認し、知識を深める。 ・秘書検定取得を就職活動開始時の自信につなげることを「授業のねらい」とする。 【授業目標】 ・卒業後も必要となるビジネスマナーを体系的・理論的に学ぶことで、その証明となる資格取得を目標とする。 【学習成果】 ◎D：秘書としての資質、技能を理解し、必要な場面で得た知識を使って考え、行動することができる。 ○E：秘書としての資質、技能を理解し、秘書に必要な知識・能力を身につけることができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 オリエンテーション【対面】 授業概要説明（到達目標の確認、授業での心構え、評価方法） 秘書検定2級試験に関する説明（秘書検定審査基準、受験の際の注意点） 秘書の心構え／秘書に必要な条件 2 秘書の心構え【対面】 職業人としての自覚と心構え 常氏の補佐役としての秘書 秘書の人柄 3 秘書に必要な条件【対面】 秘書の役割と機能 処理能力・行動力、判断力、理解力・洞察力 人間関係処理能力 4 秘書の役割と機能【対面】 秘書の分類と組織の中の秘書 上司の機能と秘書の機能 秘書の職務における心構え 5 秘書の職務【対面】 定型業務 非定型業務 効率的な仕事の進め方 6 企業と経営【オンデマンド】 資本と経営 企業の組織形態 経営管理 7 企業の活動【オンデマンド】 人事・労務／会計・財務 手形・小切手と金融／税務 生産管理／マーケティング／会社をめぐる法律 8 社会常識【オンデマンド】 情報処理とニューメディア 常識としての基礎用語と略語 常識としてのカタカナ語 9 人間関係と話し方・聞き方【対面】 人間関係の重要性／秘書と人間関係 話し方の基本知識／効果的な話し方 真意をつかむ聞き方 敬語の用法／注意したい敬語 10 電話対応と接遇【対面】 電話対応の基本／実際 約束のない客への対応／上司が不在・多忙時の対応 紹介状を持っている客への対応 接遇用語の使い方 11 交際【対面】 慶事の対応／パーティー・会食の知識
------	--

	<p>12 弔事の対応／弔事の心得とマナー 贈答のしきたり／贈答のマナー 会議と秘書【対面】 会議の知識 会議の準備 会場の設営 会議中の秘書の仕事</p> <p>13 ビジネス文書の作成【対面】 社内文書の種類と形式 社外文書の種類と形式 社交文書／ビジネス文書の慣用語句／敬語 メモと簡単な口述筆記</p> <p>14 文書の取り扱い【対面】 文書の受信・発信 郵便の基礎知識 適切な郵送方法とさまざまな通信</p> <p>15 文書・資料管理／日程管理とオフィス管理【対面】 ファイリングの基本／資料・書類の貸し出しと保管 名刺の整理と活用法 予定表の種類と記入方法／予定変更の対処と出張事務 機の使い方と事務用品の種類／快適な環境づくり</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎D：秘書検定2級合格レベルの実力を身につける。 ◎E：学習した秘書の資質、知識、技能を日常生活でも実践することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：課題が与えられている場合には取り組む。(60分) 次回講義内容に該当するテキストを読み込む。(60分) 事後学習：小テスト、テキストの問題、過去問に取り組むなどして、知識の定着をはかる。(60分)</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は主にパワーポイントを用いて進め、視聴覚教材も適宜利用する。 ・課題はGoogle Formsを用いる。テーマごとに学んだ内容を教室で再確認することにより、理解した知識を定着させる。 ・ペアワークを中心として、考えることと対話を重視した授業を行う。 <p>フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。Google Classroomを活用する。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎D：試験、課題、授業態度を評価する。 ◎E：試験、課題、授業態度・授業中の発言力等を評価する。 試験 60%、課題 30%、授業に取り組む姿勢・貢献度10% (総合的に評価する)</p>
テキスト	『秘書検定2級クイックマスター』改訂2版(2024出版) 実務技能検定協会編 早稲田教育出版 ISBN:978-4-7766-1031-1
参考書	『秘書検定実問題集2級 2024年度版』実務技能検定協会編 早稲田教育出版 『秘書検定集中講義3級 改訂新版』実務技能検定協会編 早稲田教育出版
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・履修生は秘書検定を受験すること。 ・就職活動において2級取得者は社会人としての基礎知識の習得ができていとみなされるので、検定試験にチャレンジすることのメリットは大きい。なお、検定実施日や資格取得状況、受講者の参加意識などにより、授業計画が一部変更される場合があるので注意すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ペアワーク、グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E26C52	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>【授業内容】 ビジネスシーンに必要な基本的マナーの学習を通してコミュニケーション力の向上を図るとともに、実社会で即戦力となりうる人材の育成を目指す。社会人に求められる身だしなみ、言葉遣いや話し方、立ち居振る舞いなどを習得する。</p> <p>【授業目標】 業界によって異なるマナーと、業界が違って共通するマナーを理解する</p> <p>【学習成果】 ◎B：社会人として周囲と良好な関係を築く力を養う ○C：課題を設定し、解決のために積極的に行動することができる</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 ガイダンス・社会人として求められる身だしなみ 授業の進め方や授業内課題、最終課題、評価方法について説明を行う 社会人として求められる身だしなみについて、講義後にグループワークを実施する</p> <p>2 出会いの場でのビジネスマナー 感じがよくスマートな挨拶、紹介の仕方について学び、体得する</p> <p>3 【オンデマンド】 文書作成とビジネスマナー 就職活動を通して頻繁に使う文言やメール文について学習する</p> <p>4 電話対応のビジネスマナー 電話対応業務に就くゲストを招き、ビジネスで必要な電話対応マナーについて学ぶ 講演後は学んだことに基づき、グループでディスカッションを行う</p> <p>5 名刺交換のビジネスマナー 1対1の名刺交換、大人数での名刺交換について学び、体得する</p> <p>6 ビジネスマナーと話の「聴き方」 話を「聴く」仕事に就くゲストを招き、ビジネスで必要な話の聴き方を学ぶ 講演後は学んだことに基づき、グループでディスカッションを行う</p> <p>7 今後求められるマナー① (PBL) グループワークにてPBL「今後も必要とされるマナー・時代遅れだと感じるマナー」について議論する 「時代遅れだと感じるマナー」は、どのような経緯で現在のマナーになったか調査を行う</p> <p>8 【オンデマンド】 ビジネスマナーに関する書籍に触れる ビジネスマナーに関する書籍から、知識を広げる オンライン上で発表し、クラスメイトの意見に対してコメントを記入する</p> <p>9 今後求められるマナー② (PBL) PBL「今後も必要とされるマナー・時代遅れだと感じるマナー」について、その実態を示す資料をもとに議論を深める 必要に応じ、アンケート調査を企画・実施し、分析を行う</p> <p>10 海外で仕事をする際のビジネスマナー 海外で外国籍のスタッフと仕事をする際のビジネスマナーについて学びを深める</p> <p>11 相手・業種に合わせた言葉の選び方 看護の場と接遇の場の対比を例に、客層に合わせた対応の仕方や言葉の選び方の違いなどのビジネスマナーについて、ディスカッションを行う ゲスト講話により、学びを深める</p> <p>12 観光地で人をもてなす際のビジネスマナー 観光施設で老若男女、世界中の旅行客をもてなす際のビジネスマナーについて学びを深める</p> <p>13 【オンデマンド】 失敗から学ぶビジネスマナー 説明をもとに、課題を作成する</p> <p>14 今後求められるマナー③ (PBL) 「時代遅れだと感じるマナー」について、諸外国ではどのような対応がとられているか調査する 世界のビジネスマナーに目を向け学びを深める</p> <p>15 今後求められるマナー④ (PBL) 今後求められるマナー、時代遅れだと感じるマナーについてグループでまとめた意見を発表し、</p>
------	--

意見交換を行う	
到達目標・基準 C評価になる基準	自分が志望する業界に必要なマナーを理解する ◎B：社会人としての最低限のマナーを理解することができる ○C：自分に身近な課題を、アドバイスをもとに解決することができる
事前・事後学習	【事前学習】：前回の授業で出された課題について、自己学習を行う60分 【事後学習】：次回までに与えられた課題を行う60分 授業内で完成できなかった課題や課題の復習を行う60分
指導方法	講義には積極的にグループワークを取り入れ、アウトプットの機会を多く設ける。担当講師の指導のほか、各企業で活躍するゲスト講師の講話を聴き、知見を深める。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	授業内レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ◎B：知識確認テストや課題を評価する ○C：授業での取り組み姿勢と発言を評価する 授業への貢献度 20% 小レポート・課題 40% 最終レポート 40%
テキスト	特になし
参考書	授業内で随時紹介する。
履修上の注意	授業を受ける姿勢などもマナーの大切な一部である。グループワークでの配慮や態度、授業を通しての姿勢などにも意識して授業に臨むこと。ゲスト講師招聘の都合により授業内容が入れ替わることがあるため、講師からの告知をしっかりと把握すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループディスカッションやプレゼンテーションなどを用いて、各課題やPBLを実施する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
江原数彦			
ナンバリング：E16C50			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) この科目では大きく分けて「経済」と「ビジネス（経営）」について学ぶ。さらに、国際社会で生きていく皆さんにとって必須とされる国際的知識と世界の見方についてお伝えする。その後は、経済分野としては、「経済のしくみ」から学び、経済を回すためにどんな人たちがどのような工夫をして動いているのかを学ぶ。ビジネス分野としては、ビジネスの役割の理解から始まり、競争社会で生き残るために必要な経営の基礎知識を習得する。両分野においては、さらに国際的な話題も取り上げ、将来留学や海外企業との関係を持つ際に活用できるようにする。 (授業目標) 国際舞台で活躍するための基礎的な社会知識を養い、後期以降に学ぶ「ビジネス系科目」の土台作りを行う。 (学習成果) ○D：得られた知識を活用して、現在の企業の努力の理由や経済事情を深く理解し、想定されたビジネスの場面で根拠のある行動や言動を取ることができる。 ◎E：社会人として必要な経済のしくみ・社会のしくみについて理解し、世の中の動向に詳しくなり、目指すキャリアに向けて、現実的な実行計画が立案できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 授業ガイダンス／自分の知識を確認しよう 「経済と経営と世界」 ・ 授業の目的を理解する。 ・ 経済の仕組みを知る。 ・ 経営とは何かを知る。 ・ 世界の基礎知識 2 モノの「値段」について知る ・ 価格の内訳を知る。 ・ 経済を測る「ものさし」について知る（GDPに詳しくなる）。 3 GDP（数値データ）から、日本のこれからを考える ・ 世界各国のGDPと日本のGDPの推移と予測を比較し、日本のこれからの、それに対する「自身の力の付け方」「日本が進むべき方向」を知る。 4 複数の数値データを活用して、世界の経済のバランスを探る ・ ビックデータから、複数の項目に渡りデータを抜き出し、世界経済の動向を探る。 ・ Web上のデータを活用して、簡単な「世界のこれから」と「日本の進むべき方向」を示すブチ資料を作成する。 5 世界の経済の動向を測る、様々なものさしについて知る ・ 経済の動向を測る「ものさし」が多数ある事を知り、多角的に世界を理解する基礎知識を付ける。 ・ 「あなたの幸せは何によってきまるか」、経済的側面から、自分のものさしの価値基準を探る。 6 経済の主人公とその関連図を理解する ・ 経済に登場する「3つの主人公」とその相関関係を知る。 ・ 経済という舞台上で繰り広げられる、好ましいストーリーと、好まないストーリーを理解する（インフレ・デフレ・スタグフレを理解する） ・ 国が私たちに働きかけることを理解する 7 【オンデマンド授業】銀行の役割について理解する ・ 銀行の業務内容について理解する ・ 銀行が経済に与える影響を理解する 8 ビジネス成立の方程式を知る ・ ビジネスはどのようにして発生するのか。ビジネスは何のためにあるのか。ビジネスを学ぶのはなぜかを解き明かしながら、ビジネスの基礎概念を理解する。 ・ ビジネスツリーの作成 9 【オンデマンド授業】「何をやるかが大切」。企業の方向性を決める「事業」と「経営資源」について理解する ・ 事業とは何かを、事例を元に知る。 ・ 経営資源とは何かを知る。 ・ ビジネスツリーを活用して、空想カンパニーを作る。 10 計画的にビジネスを続けていくための目標設定について理解する ・ 企業の事業計画・経営計画（経営戦略）の立て方について学ぶ
------	--

	<p>11 ・日々の業務を計画的に行う、WBSについて理解を深める 【オンデマンド授業】WBSワーク</p> <p>12 ・テーマに基づいて、WBS方式で計画を立案する</p> <p>13 ビジネス上における、コミュニケーションの取り方について学ぶ① ・企業における、社員間の関係の在り方について、現状を理解する。 ・報連相の必要性について考える。</p> <p>14 ビジネス上における、コミュニケーションの取り方について学ぶ② ・職場における多様性とは何かを知る。 ・多様性のある職場における、コミュニケーションのあり方について学ぶ</p> <p>15 経営者が意識をすべき、ビジネスの5つの相手を知る ・経営者（社長）の仕事を知る。 ・企業を取り巻く5つの砦（とりで）について学ぶ。</p> <p>16 学びのまとめ ・空想カンパニー運営ワークに取り組みながら、企業経営に必要な知識を、「自分事」として捉える。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○D：得られた知識を活用して、自身の興味のある企業取り組みについて理解したり、経済ニュースの内容を理解できるようになる。</p> <p>◎E：社会人として必要な経済のしくみ・社会のしくみについて理解し、他者に説明できるようになる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：前の週に出された調査事項を調べておくこと（90分程度）</p> <p>事後学習：学んだ知識によって、ビジネスの側面から日本や世界がどのように見えたかをまとめるようにすること（90分程度）</p>
指導方法	<p>講義・個人ワーク・グループワークなど、様々な手法を用いての授業となる。Webツールとアナログ式プリントを併用するため、パソコンでのデータ管理とプリントのファイル管理を徹底する事を求める。</p> <p>フィードバック法：適宜、総括フィードバック・グループフィードバック・個別フィードバックを場面に応じて実施する。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○D：授業時（あるいはオンデマンド時）に提示した都度のテーマから反ることなく、得られた知識を活用して、レポートや企画書を作成することができる。</p> <p>◎E：提出された課題において、学んだ言葉や事象を、正しい文脈で使用・紹介することができる。</p> <p>定期知識小テスト30%、課題提出物40%、授業における課題への取り組む姿勢（積極的にグループワーク・個人ワークに取り組むか）30%</p>
テキスト	<p>適宜プリント等の教材を配布する。ファイリングするための専用ファイルを各自購入すること。（A4サイズがファイルでき、いつでも簡単に閲覧できるものであれば形式は問わない）</p>
参考書	<p>特になし。授業時にWeb上での参考データの閲覧を指示する。</p>
履修上の注意	<p>ビジネスを学ぶ授業であるが、同時に「考える力」を伸ばすための授業であるため、常に考えることを求める授業であることを理解して履修すること。得意・不得意は関係なく、考える力を伸ばしたい人であれば受講可能。またWebツールも活用するため、パソコンの持参を求めることが多い。毎回パソコンを持参できる人を原則とする。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	<p>適宜、グループワークやPBL型課題学習を行う。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
江原数彦			
ナンバリング：E16C51			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) マーケティングとは「利益をより多く上げるための仕組み作り」であり、会社の経営存続には欠くことのできない知識である。前半では、将来どんな仕事に就いてもビジネスの場面で必要となる「マーケティング」の基礎概念を学習する。後半では、実際に調査活動を行い情報を集めたいうで、授業で得たマーケティングの知識を活かして、課題発見・解決のための企画立案を行っていく。 (授業目標) マーケティングの理論を学ぶことによって、課題発見や解決策の立案ができるようになる。 (学習成果) ◎D：マーケティングの理論を用いながら、複数の情報を掛け合わせて思考を進め、課題解決のための企画を論理的に立案・説明できる。 ○E：マーケティングフレームワークの基礎を習得し、他者に説明できる。各種の課題に活用することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 9/15, 18 授業ガイダンス／マーケティングとは何かを理解しよう ・授業の目的を理解する。 ・マーケティングとは何かを理解する。 ・マーケティングの成功事例を知る。 2 9/22, 25 マーケティングの流れを知ろう ・マーケティングに必要な「考え方」に触れる ・マーケティングの大きな流れを理解する。 ・フレームワークについて理解する。 3 9/29, 10/2 『世の中全体を見る目を養え！』環境の変化と商品（サービス）の売れ行きを知ろう。 ・実際の企業の例を元に、PEST分析について理解する。 4 10/6, 9 『世の中全体を見る目を養え！』PEST分析を体験する（個人ワーク・意見交換） ・自身の好きな商品（業界）を選び、PEST分析を実践し、商品は業界の売上に影響を与える様々な要因を探る。 ・ワークを通して得た知識を、他者に説明し、理解を深める。 ・他社の説明を聞くことによって、自らの見聞を広める。 5 10/13, 16 『近くのライバルを意識しろ！』市場調査の方法を知ろう①（個人ワーク） 実際の企業の例を元に、3C分析について理解し、模擬演習も行う。 ※時間外の調査活動あり。 6 10/20, 23 『近くのライバルを意識しろ！』市場調査の方法を知ろう②（グループワーク） ・実際の企業の例を元に、個人ワークで集めた3C分析の情報分類をグループワークを通して体験する。 ・分類された情報の中から、売上が「上げることのできる成功要因」や「あげることができない失敗要因」を発見できるようにする。 ・情報整理の結果をポスター化する。 7 10/27, 30 【オンデマンド授業】3C分析ワークを振り返る（個人ワーク） ・3C分析ワークのフィードバックと、再分析を個人で行う。 8 10/27, 30 『情報の掛け算で、アイデアのヒントをつかめ！』調査で集まった情報を整理しよう① ・実際の企業の例を元に、SWOT分析及びクロスSWOT分析の手法を覚える。 ・3C分析の情報を、SWOT分析のフレームワークに落とし込む。（ポスター化する） 9 11/3, 6 『情報の掛け算で、アイデアのヒントをつかめ！』調査で集まった情報を整理しよう② ・前回まとめたSWOT分析情報を使ってクロスSWOT分析に取り組み、企画の方向性を定め、発表する。 10 11/17, 13 『いよいよ戦略！誰にどんな強みで売り込むかを考えよ！』STP戦略について知ろう① ・STP戦略について理解する。 ・そのうち、セグメンテーションとターゲティングを深く掘り下げ、ターゲットとするお客様はどの程度存在するのか、その探り方を理解する。 11 11/17, 13 【オンデマンド授業】『人気は長続きしない！』商品の需要における寿命と、ターゲットの決め方について知ろう ・プロダクトライフサイクルについて理解する。
------	--

	12	11/24, 20『いよいよ戦略！誰にどんな強みで売り込むかを考えよ！』STP戦略について知ろう② ・STP戦略について理解する。 ・そのうち、ポジショニングについて深く掘り下げ、商品に関してお客様が何を基準に購入するのかを探る大切さを理解し、その基準を軸とした競合商品との差別化を明確にし、自社の商品の強みを決める手法を理解する。
	13	12/11, 1/27『戦略はストーリーを作る事が大切！』マーケティングミックスについて知ろう ・実際の企業の例を元に、マーケティングミックスについて理解する。 ・自身の興味のある商品におけるマーケティングミックスを評価する。 ・知識総確認テストについての案内
	14	12/11, 1/27【オンデマンド授業】『タイミングを図れ！』消費者購買行動モデルについて学ぶ ・実際のお客様の商品に対する購買行動を調べ、どのように商品に接していくのかを探り明確化していく。また、その際Webをどう活用しているかも注目する。
	15	12/8, 4『企画は細部が命！』具体的な実行策の立て方を知ろう。 ・企画案を具体的な実行にうつすために必要な6W2Hについて理解する。 ・知識の総確認テストを行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：マーケティングフレームワークを活用して、集めた情報を元に課題を発見し、戦略を立案できる。 ○E：マーケティングフレームワークの基礎を習得し、他者に説明することができる。	
事前・事後学習	事前学習：直前の授業で指定された市場調査を実行し、その傾向を分析しておくこと。（90分） 事後学習：提示された知識確認テスト及び応用レポートに取り組むこと。（90分）	
指導方法	講義が中心となるが、適宜個人ワークやグループワークを取り入れ、知識の活用や応用ができるように指導する。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：集めた情報をフレームワークに従い、正しく分類し、かつ情報と情報をかけ合わせて戦略や企画立案に結び付けているか、各種課題を通して評価する ○E：適宜、知識テストを行い、各種フレームワークの役割について説明ができるかを評価する 毎時の授業課題の提出 50%、 定期的な知識説明テスト 50%	
テキスト	適宜プリント等の教材を配布する。ファイリングするための専用ファイルを各自購入すること（A4サイズがファイルでき、いつでも簡単に閲覧できるものであれば形式は問わない）	
参考書	特になし。授業時にWeb等にて参考資料閲覧を求める。	
履修上の注意	授業では座学（講義）が中心となるが、授業外で調査をしたり、思考を繰り返してもらうことも多いため、考えることが好きな学生に向いている。特に市場調査は行動する力を求められる。調査のために、自主的な都内近隣の移動が発生する場合があるため、少額の交通費が必要となる（自費）。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	適宜、グループワークやPBL型学習を取り入れる。	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
宮崎真弓、玉川明日美			
ナンバリング：E16C52			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course is a basic introduction to English used in a variety of work, office, and medical situations. The students will also learn vocabulary words used in sales, marketing, and the medical field. It follows a set pattern of exercises of classwork, pair work, listening, reading and writing. Students must be prepared to engage in role play activities. To attain an S grade students have to show a high level of participation, understanding and use of language in each lesson. Students will be able to choose appropriate words on a business situation. Students must also attain a final test score in the top 10% of the class. (Goals) Students can use key expressions, asking and answering questions, reading comprehension, and listening for details. (Achievements) ◎D: Students will learn vocabulary and grammar to communicate with each other in pairs and in groups. ○E: Students will be able to use expressions, questions and vocabulary used in office environments.
----------------------------------	---

授業計画	1 Introduction・Unit 1 Pleased to meet you (Pair work and role play) Introducing oneself and confirming information. 2 Unit 2 Getting to know you (Pair work, role play, and PBL) Exchanging information about oneself and others, as well as discussing schedules. 3 Unit 3 In the city (Pair work and role play) Describing the location of objects and how to write emails. 4 Medical information (Pair work and role play) Asking and answering questions about medical history and other related information. 5 Unit 4 Ready to go (Pair work and role play) Talking about personal possessions and scheduling arrangements. 6 Unit 5 Trains & boats & planes (Pair work and role play) Calling on the phone, how to introduce personal interests, and how to make suggestions. 7 Unit 6 The good life (Pair work and role play) Using expressions related to money and phrases used when placing orders. 8 What are your symptoms? (Pair work and role play) Telling a doctor about symptoms. 9 Unit 7 Talk about projects (Pair work and role play) Expressing personal desires and requests. 10 Unit 8 Living in the past (Pair work and role play) Talking about past experiences and how to confirm and convey information. 11 Unit 9 All around the world (Pair work and role play) Welcoming and hosting visitors. 12 You should rest (Pair work, role play, and PBL) Giving advice for various medical problems. 13 Unit 10 Making plans (Pair work, role play, and PBL) Making plans and expressing gratitude. 14 Take this twice a day (Pair work and role play) Talking about medicine and adverbs of frequency 15 Final examination Taking the final examination covering medical worksheets and units 1 - 10.
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	Students will have to participate to the best of their abilities and show a basic understanding of the language and grammar use in each class. ◎D: Students will learn vocabulary and grammar to communicate with each other in pairs and in groups. ○E: Students will be able to use key expressions, questions and vocabulary used in office environment.
事前・事後学習	Students will be expected to keep a vocabulary notebook and review the vocabulary words. (60 mins)
指導方法	Each unit should take 90 minutes to complete. All classes will be taught primarily in English. Students will work in pairs or groups each week. Continuous personal feedback will be made based on participation, assignments and comments from the students.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: Reading, writing and listening components of each unit to be tested with regular reviews. ○E: Students will be evaluated by small tests and assignments. Participation 30% Quizzes 30% Final test 40%
テキスト	Bryan Stephens and Angela Buckingham, International Express Beginner, Oxford, 2013. ISBN 978-0194418287.
参考書	
履修上の注意	Students will be expected to work in pairs and in groups. They will practice communicating in English each week. Every student is expected to keep a notebook for vocabulary words and homework assignments. Announcements will be made through Google Classroom. Be sure to check your messages.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Pair work. Role play. Presentation. PBL.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
中島雅美			
ナンバリング：E17C53			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 病気やケガをして医療機関を受診する際に提示する保険証やマイナ保険証。治療費のほとんどはこれらを提示することで全額を支払わずにすんでおり、治療費は決められたルールに基づいて点数で計算されている。正しい計算を行うことは患者さんからの信用を得るだけでなく、病院経営を担うことにもなる。医療保険制度・治療費の計算やルールを習得し、医療機関において正しい請求方法と診療報酬明細書を作成する技術を身につける。 医療秘書技能検定の第Ⅰ領域と第Ⅲ領域に対応する講義であり、3級の検定取得を目指す。 (授業目標) 1. 医療秘書技能検定3級の合格を目指す。 2. 医療保障制度等の基礎知識を身につける。 3. 治療費の計算方法・ルールを理解し、診療報酬明細書を作成する技術を身につける。 (学習成果) ☒ D：医療保険制度を学び、保険のしくみや種類について理解できる。 ☒ E：算定方法・算定ルールを学習し、外来診療カルテから初診・再診・医学管理・投薬を読み取り、正しい点数計算と診療報酬明細書が作成できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス ・授業内容、授業の進め方、資格試験、評価方法に関する説明 ・社会保障制度、医療保険制度の概要 2 医療保険制度の基礎知識 ・医療保険の種類、保険証の見方、マイナ保険証 ・カルテとレセプトの基礎知識 3 保険給付の概要 ・給付の範囲と現金給付の種類 ・保険外併用療養費、高額療養費 4 日本の医療① ・医療の歴史、医療制度、現代医療の特徴、現代医学の課題 5 日本の医療② ・病院医療の形態と組織、診療報酬支払い方式、医療とICT 6 初診料 ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 7 再診料・外来診療料 ・再診料と外来診療料の違い ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 8 医学管理等① ・医学管理の種類 ・算定方法と算定ルール及びレセプト作成 9 医学管理等② ・算定方法と算定ルール及びレセプト作成 10 在宅医療 ・往診と訪問診療 ・算定方法と算定ルール及びレセプト作成 11 投薬料① ・院内処方と院外処方 ・薬剤料の計算方法 12 投薬料② ・薬剤料の計算方法及びレセプト作成 13 投薬料③ ・処方箋料の算定方法と算定ルール及びレセプト作成 14 講義の振り返り・期末試験
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義の総まとめと、期末筆記試験（50分）を行う（医療保険制度等についての学科問題、カルテをもとにレセプト作成の実技問題） <p>15</p> <p>総まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末筆記試験の返却およびフィードバック ・前期の総まとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○D：医療保険制度等の基礎知識が理解できる。</p> <p>◎E：外来診療カルテから、基本的な初診・再診・医学管理・投薬の点数計算と診療報酬明細書が作成できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読む。（30分）</p> <p>事後学習：授業内容の復習をし、まとめる。医療保険制度等に関する学科問題の課題またはカルテ問題からレセプト作成の課題に取り組む。（150分）</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや資料プリントを中心に講義形式で進める。 ・実技の実施中は机間巡回し、個別に質疑対応する。 ・医療費計算で電卓を使用するため、電卓の使用方法を指導する。 ・主に授業では講義・解説が中心となるため、事後学習として医療保険制度等に関する学科問題またはレセプト作成は課題提出とし、課題のフィードバックは授業内で実施する。 ・理解・習熟状況により、授業展開を変更する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・期末筆記試験：50% ○D：「医療保険制度のしくみ、医療保険の種類」の習熟度について評価する ◎E：外来診療カルテを読み取り、「点数計算と診療報酬明細書の記載」について評価する ・課題：30% ・授業態度、授業の参加状況：20%
テキスト	<p>『'24ー'25年版 これならわかる医療事務』（ナツメ社）（出版年：2024年、ISBN：978-4-8163-7619-1）</p> <p>『2025年4月増補版 診療点数早見表〔医科〕2025年度版改定準拠の診療報酬点数表』（医学通信社）</p> <p>『2025年度版 医療秘書技能検定実問題集3級（1）』（つちや書店）</p> <p>『2025年度版 医療秘書技能検定実問題集3級（2）』（つちや書店）</p>
参考書	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関に従事することを意識した授業展開を行う。 ・治療費計算やルール等、医療に関する専門的なことを段階的に学習するため毎回の授業が大切となる。したがって遅刻や欠席をしないよう検定取得を目標に履修して欲しい。 ・テキスト、配布したプリント、電卓（携帯電話・スマートフォンは使用禁止）は忘れずに持参する。 ・「医療秘書技能検定3級」の取得を目標とした授業内容であり、取得希望者は「医療事務（医学）1」後期の「医療事務（運営・レセプト）2」と「医療事務（医学）2」、および2年次の「医療事務（運営・レセプト）3」も履修する必要がある。 ・「検定対策春期講座」は原則、出席する必要がある。（1年次の2月～3月に15回程度を予定）
アクティブ・ラーニング、PBL	ライト

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
中島雅美			
ナンバリング：E17C54			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 前期「医療事務（運営・レセプト）1」の授業に引き続き、治療費の算定方法・ルールやレセプトについて学習し、医療機関において正しい請求方法と診療報酬明細書を作成する技術を身につける。 医療秘書技能検定の第Ⅰ領域と第Ⅲ領域に対応する講義であり、3級の検定取得を目指す。 (授業目標) 1. 医療秘書技能検定3級の合格。 2. カルテを読み取り治療費の各項目の計算知識を習得し、正しい診療報酬明細書を作成する技術を身につける。 (授業成果) ☐ D：算定方法・算定ルールを理解し、外来診療カルテを正確に読み取ることができる。 ☒ E：外来診療カルテをもとに、正確な注射・処置・手術・検査・画像診断の診療報酬明細書が作成できる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス・注射料① ・授業内容、授業の進め方、資格試験、評価方法に関する説明 ・注射の種類、算定ルール 2 注射料② ・算定方法と加算、及びレセプト作成 3 処置料① ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 4 処置料② ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 5 手術料① ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 6 手術料②・麻酔料 ・麻酔の算定方法、算定ルール及びレセプト作成 7 検査料① ・検体検査の種類 ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 8 検査料② ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 9 検査料③ ・生体検査の種類 ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 10 検体検査④ ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 11 病理診断 ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 12 画像診断① ・写真診断の種類 ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 13 画像診断② ・コンピューター断層撮影の種類 ・算定方法と加算、算定ルール及びレセプト作成 14 講義の振り返り・期末試験 ・これまでの講義の総まとめと、期末筆記試験（50分）を行う （カルテ症例からのレセプト作成問題） 15 総まとめ ・期末筆記試験の返却およびフィードバック
------	--

	・1年間の総まとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：外来診療カルテを読み取って、治療行為に対する点数を算定できる。 ◎E：算定点数をもとに、基本的な注射・処置・手術・検査・画像診断の診療報酬明細書が作成できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読む。(30分) 事後学習：授業内容の復習をし、まとめる。医療の法律等に関する学科問題の課題またはカルテ問題のレセプト作成の課題に取り組む。(150分)
指導方法	・テキストや資料プリントを中心に授業形式で進める。 ・実技の実施中は机間巡回し、個別に質疑対応する。 ・主に授業では講義・解説が中心となるため、事後学習として医療の法律等に関する学科問題またはカルテ問題のレセプト作成は課題提出とし、課題のフィードバックは授業内で実施する。 ・理解、習熟状況により授業展開を変更する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	・期末筆記試験：50% ○D：外来診療カルテを読み取り、「点数の計算方法」について評価する ◎E：外来診療カルテを読み取り、計算した点数をもとに「診療報酬明細書の記載」について評価する ・課題：30% ・授業態度、授業の参加状況：20%
テキスト	『'24-'25年版 これならわかる医療事務』（ナツメ社）（出版年：2024年、ISBN：978-4-8163-7619-1） 『2025年4月増補版 診療点数早見表 [医科]2025年改定準拠の診療報酬点数表』（医学通信社） 『2025年度版 医療秘書技能検定実問題集3級（1）』（つちや書店） 『2025年度版 医療秘書技能検定実問題集3級（2）』（つちや書店）
参考書	
履修上の注意	・医療機関に従事することを意識した授業展開を行う。 ・治療費計算やルール等、医療に関する専門的なことを段階的に学習するため毎回の授業が大切となる。したがって遅刻や欠席をしないよう検定取得を目標に履修して欲しい。 ・テキスト、配布したプリント(前期の授業で配布したものを含む)、電卓(携帯電話・スマートフォンは使用禁止)は忘れずに持参する。 ・「医療秘書技能検定3級」の取得を目標とした授業内容であり、取得希望者は「医療事務(医学)1」後期の「医療事務(運営・レセプト)2」と「医療事務(医学)2」、および2年次の「医療事務(運営・レセプト)3」も履修する必要がある。 ・「検定対策春期講座」は原則、出席する必要がある。(1年次の2月～3月に15回程度を予定)
アクティブ・ラーニング、PBL	ライト

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
中島雅美			
ナンバリング：E57C58			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 1年次の「医療事務（運営・レセプト）A，B」の授業に引き続き、学習した治療費の算定方法・ルールやレセプト作成の知識をもとに、さまざまなカルテ問題や過去問題に取り組み6月に実施される医療秘書技能検定3級の資格取得を目指すための講義である。また、医療事務員として基本的な医療に関する知識を習得する。 (授業目標) 1. 医療秘書技能検定3級の合格。 2. 医療にかかわる法規・知識を身につける。 3. カルテを読み取り治療費の各項目の点数計算の知識を習得し、正しい診療報酬明細書を作成する技術を身につける。 ☐ D：医療の関連法規・知識について理解できる。 ☒ E：カルテから、正しい点数計算と診療報酬明細書が作成できる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス ・授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 ・1年次の復習 2 検定対策① ・検定過去問題 ・解答とポイント解説 3 検定対策② ・検定過去問題 ・解答とポイント解説 4 検定対策③ ・検定過去問題 ・解答とポイント解説 5 検定対策④ ・検定過去問題 ・解答とポイント解説 6 検定対策⑤ ・検定過去問題 ・解答とポイント解説 7 検定対策⑥ ・検定過去問題 ・解答とポイント解説 8 入院料① ・外来の算定方法との違い ・入院基本料の算定方法と算定ルール 9 入院料② ・入院食事療養費の計算 ・レセプト作成 10 入院料③ ・入院カルテの算定、レセプト作成 11 医療関連知識① ・医療保険制度、高額療養費制度 ・介護保険の基礎知識 12 医療関連知識② ・公費負担医療制度①（国の法律によるもの） 13 医療関連知識③ ・公費負担医療制度②（地方自治体によるもの） 14 講義の振り返り・期末試験 ・これまでの講義のまとめと、期末筆記試験（50分）を行う （医療関連知識に関する学科問題、レセプト作成の実技問題）
------	---

	15 総まとめ ・期末筆記試験の返却およびフィードバック ・これまでの学習内容の総まとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	○D：医療の関連法規・知識についての基礎が理解できる。 ◎E：カルテから、基本的な点数計算と診療報酬明細書が作成できる。
事前・事後学習	事前学習：前回の授業内容に関する疑問点や理解点を確認し、まとめる。(30分) 事後学習：授業内容の復習と、医療関連の学科問題の課題、またはカルテ問題のレセプト作成の課題に取り組む(150分)
指導方法	・テキストや資料プリントを中心に授業形式で進める。 ・実技の実施中は机間巡回し、個別に質疑対応する。 ・主に授業では解説が中心となるため、事後学習として検定試験の過去問題は課題提出とし、フィードバックは授業内で実施する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	・期末筆記試験：50% ○D：「医療関連法規の基礎知識」の習熟度について評価する ◎E：カルテを読み取り、「点数計算と診療報酬明細書の記載方法」について評価する ・課題：30% ・授業態度：20%
テキスト	1年次に使用したテキスト一式および資料プリント (診療点数早見表・テキスト・検定過去問題集①②)
参考書	
履修上の注意	・医療機関に従事することを意識した授業展開を行う。 ・検定取得に向け、過去問題を解いた上で解答解説を中心に授業を進めていくため毎回の授業が大切となる。したがって遅刻や欠席をしないよう検定合格を目標に履修することが望ましい。 ・指示された課題は、しっかりと取り組んで欲しい。 ・テキスト、配布したプリント(1年次の授業で配布したものを含む)、電卓(携帯電話・スマートフォンは使用禁止)は忘れずに持参する。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ライト

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
岡田ひとみ			
ナンバリング：E17C56			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 病院・医院のスタッフとして、カルテの管理、レセプトの処理、患者接遇などの医療事務に携わる際に必要となる基礎的な医学知識を習得する授業科目である。この分野で重視される資格である医療秘書技能検定3級に合格できることを目標としている。 人体の基本単位である細胞のしくみに始まり、呼吸器、循環器、血液、消化器、骨・関節のそれぞれについて、臓器の構造とそのはたらきを学び、さらに代表的な疾患やそれに対して行われる検査・治療についてもふれる。 (授業目標) 1. 医療秘書技能検定3級に合格できる知識を身につける。 2. カルテやレセプトで使用される医療用語や略語が理解でき、正確・適切な対応ができる。 3. 患者さんの病気をより深く理解でき、検査や治療の内容も理解した上で医療事務業務を進められる。 (学習成果) ◎A：医師などの医療職と円滑にコミュニケーションを取りながら業務を進めることができる。 ○D：人体の構造やはたらきを理解した上で、患者さんが受ける検査や治療の意味を考慮することができる
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス、人体の部位 なぜ医学的基礎知識を学ぶのかを理解する 医療秘書技能検定について知る 人体の部位の表現法の基礎を説明できる 2 細胞のしくみ、染色体 細胞の構造、細胞内小器官のはたらきがわかる 染色体や性別決定のしくみについて説明できる 染色体の異常について知る 3 呼吸器（1）（ライト） 呼吸器の構造の概要がわかる 上気道と下気道の分類を説明できる 気管支と肺胞の構造を理解する 4 呼吸器（2） 外呼吸、内呼吸の意味を理解する おもな呼吸器疾患がわかる 呼吸器に関する検査を説明できる 5 循環器（1）（ライト） 心臓の構造を説明できる 動脈と静脈について理解する 体循環と肺循環のしくみを理解する 6 循環器（2） 心臓の刺激伝導系を説明できる おもな動脈と静脈の名称を覚える 7 循環器（3） 血圧について理解する おもな心臓・循環器疾患がわかる 心臓・循環器に関する検査を説明できる 8 血液（1）（ライト） 赤血球、白血球、血小板を説明できる 血漿の成分とそのはたらきがわかる 血球を産生する骨髄について理解する 9 血液（2） 血液凝固のしくみを理解する おもな血液疾患がわかる 血液に関する検査を説明できる 10 消化器（1）（ライト） 消化管と消化腺のしくみを理解する 口腔、食道、胃の構造を説明できる おもな食道・胃の疾患がわかる
------	--

	<p>11 消化器（2） 小腸、大腸の構造を説明できる 三大栄養素の消化と吸収について説明できる おもな小腸・大腸の疾患がわかる</p> <p>12 消化器（3） 肝臓、胆嚢・胆管、膵臓の構造とはたらきを理解する おもな肝・胆・膵の疾患がわかる 消化器に関する検査を説明できる</p> <p>13 骨・筋肉（1）（ライト） 骨、関節の構造とはたらきを理解する おもな骨の名称を覚える</p> <p>14 骨・筋肉（2） 筋肉の構造と収縮のしくみを理解する おもな筋肉の名称を覚える 人体の部位の表現法の詳細を説明できる</p> <p>15 振り返り これまでに学んだ内容をまとめ、知識を確実にする 確認テスト</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎A：難解な部分は互いに教え合いながら、医学的基礎知識の全体をもれなく身につけることができる。</p> <p>○D：人体がどのように構成され、どのようにして生命・健康が維持されているのかが理解することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の関連する章を熟読しておく。（90分）</p> <p>事後学習：授業内容の整理（90分）</p>
指導方法	<p>テキストや資料プリントを中心に講義形式で進める。</p> <p>適宜、机間巡回して個別に理解状況を確認し、質疑応答を行う。</p> <p>理解・習熟状況により、授業展開を変更する。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>◎A：人体の構造・機能に関する知識を正確に共有できているかを評価する</p> <p>○D：授業で学んだ医学知識を実際の問題に応用する力を評価する</p> <p>授業内での確認テスト：50%</p> <p>課題：30%</p> <p>授業態度、授業の参加状況：20%</p>
テキスト	<p>『改訂 基礎医学』（新 医療秘書医学シリーズ 2） 医療秘書教育全国協議会（編）、井上 肇（責任編集）、小泉憲司、矢澤華子（共著） 建帛社、2022年（ISBN 978-4-7679-3744-1）</p> <p>『三訂 医療用語』（新 医療秘書医学シリーズ 7） 医療秘書教育全国協議会（編）、井上 肇、瀧本美也（共著） 建帛社、2021年（ISBN 978-4-7679-3736-6）</p>
参考書	<p>『ぜんぶわかる人体解剖図』 坂井建雄、橋本尚詞（著） 成美堂出版、2010年（ISBN 978-4-415-30619-3）</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の「医療事務（医学的基礎知識）2」と連続して医学的基礎知識の全範囲をカバーする構成になっているので、後期に同科目を必ず履修すること。 ・医療秘書技能検定3級の取得を目標とした授業内容であり、資格取得希望者は「医療事務（運営、レセプト）1」（1年前期）と「医療事務（運営、レセプト）2」（1年後期）も併せて履修すること。 ・医学に関する専門的なことを段階的に学習するため、毎回の授業が大切となる。遅刻や欠席をしないよう、検定合格を目標として履修してほしい。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ライト

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
岡田ひとみ			
ナンバリング：E17C57			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 前期の「医療事務（医学的基礎知識）1」に引き続き、病院・医院のスタッフとして医療事務に携わる際に必要となる基礎的な医学知識を習得する授業科目である。この分野で重視される資格である医療秘書技能検定3級に合格できることを目標としている。 後期は、腎・泌尿器、内分泌、生殖器、脳・神経、感覚器のそれぞれについて、臓器の構造とそのはたらきを学び、さらに代表的な疾患やそれに対して行われる検査・治療についてもふれる。授業の後半では検定試験を想定した問題演習を行い、それまでに学んだ内容を再確認し、確実な知識として定着させることを目指す。 (授業目標) 1. 医療秘書技能検定3級に合格できる知識を身につける。 2. カルテやレセプトで使用される医療用語や略語が理解でき、正確・適切な対応ができる。 3. 患者さんの病気をより深く理解でき、検査や治療の内容も理解した上で医療事務業務を進められる。 (学習成果) A：医師などの医療職と円滑にコミュニケーションを取りながら業務を進めることができる。 D：人体の構造やはたらきを理解した上で、患者さんが受ける検査や治療の意味を考えることができる
----------------------------------	---

授業計画	1 腎・泌尿器（1）（ライト） 腎・泌尿器の構造を理解する ネフロンの構造と尿生成のしくみを説明できる 2 腎・泌尿器（2） 尿量の調節とその異常について理解する おもな腎・泌尿器の疾患がわかる 腎・泌尿器に関する検査を説明できる 3 内分泌（1）（ライト） 内分泌のしくみを理解する 内分泌臓器と、それが分泌するホルモンがわかる それぞれのホルモンのはたらきを説明できる 4 内分泌（2） おもな内分泌の疾患がわかる 内分泌に関する検査を説明できる 5 生殖器（ライト） 男性・女性の生殖器の構造がわかる 女性の性周期について説明できる 6 脳・神経（1）（ライト） 中枢神経と末梢神経について理解する 神経細胞（ニューロン）の構造を説明できる 脳の構造とはたらきの概要がわかる 7 脳・神経（2） 自律神経とのはたらきを説明できる おもな脳・神経の疾患がわかる 脳・神経に関する検査を説明できる 8 感覚器（1）（ライト） 眼の構造と、視覚のしくみを説明できる 耳の構造と、聴覚のしくみを説明できる 9 感覚器（2） 嗅覚、味覚のしくみを説明できる 皮膚の構造と、皮膚の感覚にしくみがわかる 10 医学英語、略語（ライト） これまでの講義で学んだ医療用語を振り返る カルテ記述に頻用される略語がわかる 基本的な医学英語を覚える 11 検査 検体検査、生理機能検査、画像検査について説明できる おもな検査法とその略語を覚える
------	--

	12	医学的基礎知識演習（１） これまでに学んだ知識を整理し、問題演習を行う
	13	医学的基礎知識演習（２） これまでに学んだ知識を整理し、問題演習を行う
	14	医学的基礎知識演習（３） これまでに学んだ知識を整理し、問題演習を行う
	15	振り返り これまでに学んだ内容をまとめ、知識を確実にする 検定試験受験までの間に自学すべき内容を内容を知る
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：難解な部分は互いに教え合いながら、医学的基礎知識の全体をもれなく身につけることができる ○D：人体がどのように構成され、どのようにして生命・健康が維持されているのかが理解することができる	
事前・事後学習	事前学習：教科書の関連する章を熟読しておく。（90分） 事後学習：授業内容の整理（90分）	
指導方法	テキストや資料プリントを中心に講義形式で進める。 適宜、机間巡回して個別に理解状況を確認し、質疑応答を行う。 理解・習熟状況により、授業展開を変更する。	
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎A：人体の構造・機能に関する知識を正確に共有できているかを評価する ○D：授業で学んだ医学知識を実際の問題に応用する力を評価する 授業内での確認テスト：50% 課題：30% 授業態度、授業の参加状況：20%	
テキスト	『改訂 基礎医学』（新 医療秘書医学シリーズ 2） 医療秘書教育全国協議会（編）、井上 肇（責任編集）、小泉憲司、矢澤華子（共著） 建帛社、2022年（ISBN 978-4-7679-3744-1） 『三訂 医療用語』（新 医療秘書医学シリーズ 7） 医療秘書教育全国協議会（編）、井上 肇、瀧本美也（共著） 建帛社、2021年（ISBN 978-4-7679-3736-6）	
参考書	『ぜんぶわかる人体解剖図』 坂井建雄、橋本尚詞（著） 成美堂出版、2010年（ISBN 978-4-415-30619-3）	
履修上の注意	・前期の「医療事務（医学的基礎知識）1」を履修済みであることを前提とする。（履修したが単位を取得できなかった場合でも、本科目を履修することは可能。） ・医療秘書技能検定3級の取得を目標とした授業内容であり、資格取得希望者は「医療事務（運営、レセプト）2」も併せて履修すること。	
アクティブ・ラー ニング、PBL	ライト	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
中島雅美			
ナンバリング：E17C58			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 医療機関にて医師から発行される処方箋。処方箋は調剤薬局に提示することで薬として受け取ることができる。調剤薬局では患者さんに薬の代金を請求する際、決められたルールに基づいて計算を行っている。正しい計算で請求することは患者さんからの信用を得るだけでなく、薬局経営を担うことにもなる。医療保険や薬の基礎知識、薬の計算やルールを習得し、調剤薬局において正しい請求方法と調剤報酬明細書を作成する技術を身につける。「調剤薬局事務検定試験」の資格取得を目指す。
	(授業目標) 1. 調剤薬局事務検定試験の合格。 2. 医療保険のしくみ、調剤費の算定知識を理解する。 3. 処方箋をもとに、正しい調剤録を作成できる。
	(学習成果) ◎D：学習した算定方法・算定ルールをもとに、調剤費の各項目の計算が正確にできる。 ○E：医療保険制度を学び、保険のしくみや種類について理解できる。

授業計画	1 ガイダンス ・ 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 ・ 医療保険制度の概要 2 保険調剤 ・ 保険調剤のしくみと実務、処方箋の見方 3 薬局と薬の基礎知識 ・ 医薬分業、薬局と医薬品販売、医薬品医療機器等法、医薬品の開発 ・ 薬物治療、薬形の形状、薬の用量、薬理作用 4 調剤報酬の構成、薬剤料① ・ 薬価基準、薬の分類 ・ 薬剤料の計算方法（内服薬） ・ 調剤録の作成 5 薬剤料② ・ 薬剤料の計算方法（屯服薬・外用薬・内服用滴剤） ・ 調剤録の作成 6 薬剤料③ ・ 薬剤料の計算方法（漢方薬・注射薬） ・ 調剤録の作成 7 薬剤調製料① ・ 算定方法と算定ルール ・ 調剤録の作成 8 薬剤調製料② ・ 加算の種類と算定ルール ・ 調剤録の作成 9 調剤管理料 ・ 算定方法と算定ルール、加算の種類 ・ 調剤録の作成 10 調剤基本料 ・ 算定方法と算定ルール、加算の種類 ・ 調剤録の作成 11 薬学管理料① ・ 服薬管理指導料の算定方法と算定ルール ・ 調剤録の作成 12 薬学管理料② ・ 加算の種類と算定方法 ・ 調剤録の作成
------	--

	<p>1 3 レセプトの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レセプト記入の基礎知識 ・レセプトの上書き <p>1 4 講義の振り返り・期末試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義の総まとめと、期末筆記試験（45分）を行う （医療保障制度についての学科問題、処方箋をもとに調剤録作成の実技問題） <p>1 5 総まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末筆記試験の返却およびフィードバック ・前期の総まとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎D：調剤基本料・薬学管理料・薬剤料の各項目の計算ができ、調剤録を作成することができる。</p> <p>○E：医療保険の基礎知識をもとに、保険証の見方と調剤費の患者一部負担金の計算方法を理解することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読む。小テストのための学習（90分）</p> <p>事後学習：授業内容の復習とまとめ（90分）</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや資料プリントを中心に講義形式で進める。 ・実技の実施中は机間巡回し、個別に質疑対応する。 ・薬剤計算で電卓を使用するため、電卓の使用方法を指導する。 ・授業の習熟度を図るため、授業内にて小テストとフィードバックを実施する。 ・理解、習熟状況により授業展開を変更する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・期末筆記試験：50% ◎D：処方箋から「調剤録の作成」について評価する ○E：「医療保険制度と医療保険の種類」の習熟度について評価する ・授業内小テスト：20% ・授業態度、授業の参加状況、提出物：30%
テキスト	<p>『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 テキスト』（日本医療事務協会）</p> <p>『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋問題集』（日本医療事務協会）</p> <p>『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋解答集』（日本医療事務協会）</p> <p>『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 模擬問題集』（日本医療事務協会）</p>
参考書	授業時に使用するテキスト
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤計算やルール等、調剤費に関する専門的なことを段階的に学習するため毎回の授業が大切となる。したがって、遅刻や欠席をしないよう検定取得を目標に履修して欲しい。 ・テキスト、配布したプリント、電卓(携帯電話・スマートフォンは使用禁止)は忘れずに持参する。 ・「調剤薬局事務検定試験」の取得を目標とした授業内容のため、取得希望者は後期の「調剤事務2」も履修する必要あり。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ライト

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
中島雅美			
ナンバリング：E17C59			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 前期「調剤事務1」の授業に引き続き、処方箋問題集や模擬問題集にて調剤費の算定ルールとレセプト記入方法について学習し、調剤薬局において正しい請求方法と調剤報酬明細書を作成する技術を身につける。「調剤薬局事務検定試験」の資格取得を目指す。 (授業目標) 1. 調剤薬局事務検定試験の合格。 2. 算定方法・算定ルールを学習し、処方箋を読み取って調剤録と調剤報酬明細書が作成できる。 (授業成果) ◎D：処方箋と調剤録から正確な調剤報酬明細書が作成できる。 ○E：調剤費の算定知識を理解し、処方箋から正確に調剤録を作成することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス ・ 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 ・ 前期の振り返りと復習 2 処方箋問題① ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 3 処方箋問題② ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 4 処方箋問題③ ・ かかりつけ薬剤師指導料の算定方法 ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 5 処方箋問題④ ・ 漸減療法の算定方法 ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 6 処方箋問題⑤ ・ 同日・同時受付の算定方法 ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 7 処方箋問題⑥ ・ 一包化の算定方法 ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 8 処方箋問題⑦ ・ 処方箋問題集から調剤録とレセプトを作成 9 処方箋問題⑧ ・ 処方箋問題集から調剤録とレセプトを作成 10 検定模擬問題① ・ 検定試験時のポイント解説 ・ 模擬問題集から調剤録とレセプトを作成 11 検定模擬問題② ・ 模擬問題集から調剤録とレセプトを作成 12 検定模擬問題③ ・ 模擬問題集から調剤録とレセプトを作成 13 講義の振り返り・期末試験 ・ これまでの講義の総まとめと、期末筆記試験（60分）を行う （検定試験を見据えた問題を実施） 14 総まとめ・検定対策① ・ 期末筆記試験の返却およびフィードバック ・ 検定試験予想問題例から学科問題と実技問題を実施 15 検定対策② ・ 検定試験予想問題例から学科問題と実技問題を実施
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：調剤費に関する基本的な算定項目・加算項目の計算ができ、調剤録と調剤報酬明細書を作成することができる。 ○E：処方箋から、基本的な調剤録を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読む。小テストのための学習（90分） 事後学習：授業内容の復習とまとめ（90分）
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや資料プリントを中心に講義形式で進める。 ・実技の実施中は机間巡回し、個別に質疑対応する。 ・授業の習熟度を図るため、授業内にて小テストとフィードバックを実施する。 ・理解、習熟状況により授業展開を変更する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・期末筆記試験：50% ◎D：「調剤録と調剤報酬明細書の作成」について評価する ○E：処方箋からの「調剤費の計算」について評価する ・授業内小テスト：20% ・授業態度、授業の参加状況、提出物：30%
テキスト	『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 テキスト』（日本医療事務協会） 『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋問題集』（日本医療事務協会） 『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋解答集』（日本医療事務協会） 『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 模擬問題集』（日本医療事務協会）
参考書	授業時に使用するテキスト
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤計算やルール等、調剤費に関する専門的なことを段階的に学習するため毎回の授業が大切となる。したがって、遅刻や欠席をしないよう検定取得を目標に履修して欲しい。 ・テキスト、配布したプリント(前期の授業で配布したものを含む)、電卓(携帯電話・スマートフォンは使用禁止)は忘れずに持参する。 ・「調剤薬局事務検定試験」の取得を目標とした授業内容のため、取得希望者は前期の「調剤事務1」も履修する必要あり。
アクティブ・ラーニング、PBL	ライト

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
中島雅美			
ナンバリング：E17C61			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 医療機関にて医師から発行される処方箋。処方箋は調剤薬局に提示することで薬として受け取ることができる。調剤薬局では患者さんに薬の代金を請求する際、決められたルールに基づいて計算を行っている。正しい計算で請求することは患者さんからの信用を得るだけでなく、薬局経営を担うことにもなる。医療保険や薬の基礎知識、薬の計算やルールを習得し、調剤薬局において正しい請求方法と調剤報酬明細書を作成する技術を身につける。「調剤薬局事務検定試験」の資格取得を目指す。
	(授業目標) 1. 調剤薬局事務検定試験の合格。 2. 医療保険のしくみ、調剤費の算定知識を理解する。 3. 処方箋をもとに、正しい調剤録を作成できる。
	(学習成果) ◎D：学習した算定方法・算定ルールをもとに、調剤費の各項目の計算が正確にできる。 ○E：医療保険制度を学び、保険のしくみや種類について理解できる。

授業計画	1 ガイダンス ・ 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 ・ 医療保険制度の概要 2 保険調剤 ・ 保険調剤のしくみと実務、処方箋の見方 3 薬局と薬の基礎知識 ・ 医薬分業、薬局と医薬品販売、医薬品医療機器等法、医薬品の開発 ・ 薬物治療、薬形の形状、薬の用量、薬理作用 4 調剤報酬の構成、薬剤料① ・ 薬価基準、薬の分類 ・ 薬剤料の計算方法（内服薬） ・ 調剤録の作成 5 薬剤料② ・ 薬剤料の計算方法（屯服薬・外用薬・内服用滴剤） ・ 調剤録の作成 6 薬剤料③ ・ 薬剤料の計算方法（漢方薬・注射薬） ・ 調剤録の作成 7 薬剤調製料① ・ 算定方法と算定ルール ・ 調剤録の作成 8 薬剤調製料② ・ 加算の種類と算定ルール ・ 調剤録の作成 9 調剤管理料 ・ 算定方法と算定ルール、加算の種類 ・ 調剤録の作成 10 調剤基本料 ・ 算定方法と算定ルール、加算の種類 ・ 調剤録の作成 11 薬学管理料① ・ 服薬管理指導料の算定方法と算定ルール ・ 調剤録の作成 12 薬学管理料② ・ 加算の種類と算定方法 ・ 調剤録の作成
------	--

	<p>1 3 レセプトの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レセプト記入の基礎知識 ・レセプトの上書き <p>1 4 講義の振り返り・期末試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義の総まとめと、期末筆記試験（45分）を行う （医療保障制度についての学科問題、処方箋をもとに調剤録作成の実技問題） <p>1 5 総まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末筆記試験の返却およびフィードバック ・前期の総まとめ
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎D：調剤基本料・薬学管理料・薬剤料の各項目の計算ができ、調剤録を作成することができる。</p> <p>○E：医療保険の基礎知識をもとに、保険証の見方と調剤費の患者一部負担金の計算方法を理解することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読む。小テストのための学習（90分）</p> <p>事後学習：授業内容の復習とまとめ（90分）</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや資料プリントを中心に講義形式で進める。 ・実技の実施中は机間巡回し、個別に質疑対応する。 ・薬剤計算で電卓を使用するため、電卓の使用方法を指導する。 ・授業の習熟度を図るため、授業内にて小テストとフィードバックを実施する。 ・理解、習熟状況により授業展開を変更する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・期末筆記試験：50% ◎D：処方箋から「調剤録の作成」について評価する ○E：「医療保険制度と医療保険の種類」の習熟度について評価する ・授業内小テスト：20% ・授業態度、授業の参加状況、提出物：30%
テキスト	<p>『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 テキスト』（日本医療事務協会）</p> <p>『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋問題集』（日本医療事務協会）</p> <p>『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋解答集』（日本医療事務協会）</p> <p>『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 模擬問題集』（日本医療事務協会）</p>
参考書	授業時に使用するテキスト
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤計算やルール等、調剤費に関する専門的なことを段階的に学習するため毎回の授業が大切となる。したがって、遅刻や欠席をしないよう検定取得を目標に履修して欲しい。 ・テキスト、配布したプリント、電卓(携帯電話・スマートフォンは使用禁止)は忘れずに持参する。 ・「調剤薬局事務検定試験」の取得を目標とした授業内容のため、取得希望者は後期の「調剤事務2」も履修する必要あり。
アクティブ・ラー ニング、PBL	ライト

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
中島雅美			
ナンバリング：E17C62			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 前期「調剤事務1」の授業に引き続き、処方箋問題集や模擬問題集にて調剤費の算定ルールとレセプト記入方法について学習し、調剤薬局において正しい請求方法と調剤報酬明細書を作成する技術を身につける。「調剤薬局事務検定試験」の資格取得を目指す。 (授業目標) 1. 調剤薬局事務検定試験の合格。 2. 算定方法・算定ルールを学習し、処方箋を読み取って調剤録と調剤報酬明細書が作成できる。 (授業成果) ◎D：処方箋と調剤録から正確な調剤報酬明細書が作成できる。 ○E：調剤費の算定知識を理解し、処方箋から正確に調剤録を作成することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 ガイダンス ・ 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 ・ 前期の振り返りと復習 2 処方箋問題① ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 3 処方箋問題② ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 4 処方箋問題③ ・ かかりつけ薬剤師指導料の算定方法 ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 5 処方箋問題④ ・ 漸減療法の算定方法 ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 6 処方箋問題⑤ ・ 同日・同時受付の算定方法 ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 7 処方箋問題⑥ ・ 一包化の算定方法 ・ 処方箋問題集をもとに、調剤録とレセプト作成 8 処方箋問題⑦ ・ 処方箋問題集から調剤録とレセプトを作成 9 処方箋問題⑧ ・ 処方箋問題集から調剤録とレセプトを作成 10 検定模擬問題① ・ 検定試験時のポイント解説 ・ 模擬問題集から調剤録とレセプトを作成 11 検定模擬問題② ・ 模擬問題集から調剤録とレセプトを作成 12 検定模擬問題③ ・ 模擬問題集から調剤録とレセプトを作成 13 講義の振り返り・期末試験 ・ これまでの講義の総まとめと、期末筆記試験（60分）を行う （検定試験を見据えた問題を実施） 14 総まとめ・検定対策① ・ 期末筆記試験の返却およびフィードバック ・ 検定試験予想問題例から学科問題と実技問題を実施 15 検定対策② ・ 検定試験予想問題例から学科問題と実技問題を実施
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：調剤費に関する基本的な算定項目・加算項目の計算ができ、調剤録と調剤報酬明細書を作成することができる。 ○E：処方箋から、基本的な調剤録を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読む。小テストのための学習（90分） 事後学習：授業内容の復習とまとめ（90分）
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや資料プリントを中心に講義形式で進める。 ・実技の実施中は机間巡回し、個別に質疑対応する。 ・授業の習熟度を図るため、授業内にて小テストとフィードバックを実施する。 ・理解、習熟状況により授業展開を変更する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験：50% ◎D：「調剤録と調剤報酬明細書の作成」について評価する ○E：処方箋からの「調剤費の計算」について評価する ・授業内小テスト：20% ・授業態度、授業の参加状況、提出物：30%
テキスト	『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 テキスト』（日本医療事務協会） 『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋問題集』（日本医療事務協会） 『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 処方箋解答集』（日本医療事務協会） 『令和6年度4月版 調剤薬局事務講座 模擬問題集』（日本医療事務協会）
参考書	授業時に使用するテキスト
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤計算やルール等、調剤費に関する専門的なことを段階的に学習するため毎回の授業が大切となる。したがって、遅刻や欠席をしないよう検定取得を目標に履修して欲しい。 ・テキスト、配布したプリント(前期の授業で配布したものを含む)、電卓(携帯電話・スマートフォンは使用禁止)は忘れずに持参する。 ・「調剤薬局事務検定試験」の取得を目標とした授業内容のため、取得希望者は前期の「調剤事務1」も履修する必要がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	ライト

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
Todd William			
ナンバリング：E17C60			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(Course Description) This course is a basic introduction to English used in a variety of work, office, and medical situations. The students will also learn vocabulary words used in sales, marketing, and the medical field. It follows a set pattern of exercises of classwork, pair work, listening, reading and writing. Students must be prepared to engage in role play activities. To attain an S grade students have to show a high level of participation, understanding and use of language in each lesson. Students will be able to choose appropriate words on a business situation. Students must also attain a final test score in the top 10% of the class. (Goals) Students can use key expressions, asking and answering questions, reading comprehension, and listening for details. (Achievements) ☒ D: Students will learn vocabulary and grammar to communicate with each other in pairs and in groups. ☐ E: Students will be able to use expressions, questions and vocabulary used in office environments.
----------------------------------	--

授業計画	1 Introduction・Unit 1 Pleased to meet you (Pair work and role play) Introducing oneself and confirming information. 2 Unit 2 Getting to know you (Pair work, role play, and PBL) Exchanging information about oneself and others, as well as discussing schedules. 3 Unit 3 In the city (Pair work and role play) Describing the location of objects and how to write emails. 4 Medical information (Pair work and role play) Asking and answering questions about medical history and other related information. 5 Unit 4 Ready to go (Pair work and role play) Talking about personal possessions and scheduling arrangements. 6 Unit 5 Trains & boats & planes (Pair work and role play) Calling on the phone, how to introduce personal interests, and how to make suggestions. 7 Unit 6 The good life (Pair work and role play) Using expressions related to money and phrases used when placing orders. 8 What are your symptoms? (Pair work and role play) Telling a doctor about symptoms. 9 Unit 7 Talk about projects (Pair work and role play) Expressing personal desires and requests. 10 Unit 8 Living in the past (Pair work and role play) Talking about past experiences and how to confirm and convey information. 11 Unit 9 All around the world (Pair work and role play) Welcoming and hosting visitors. 12 You should rest (Pair work, role play, and PBL) Giving advice for various medical problems. 13 Unit 10 Making plans (Pair work, role play, and PBL) Making plans and expressing gratitude. 14 Take this twice a day (Pair work and role play) Talking about medicine and adverbs of frequency 15 Final examination Taking the final examination covering medical worksheets and units 1 - 10.
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	Students will have to participate to the best of their abilities and show a basic understanding of the language and grammar use in each class. ◎D: Students will learn vocabulary and grammar to communicate with each other in pairs and in groups. ○E: Students will be able to use key expressions, questions and vocabulary used in office environment.
事前・事後学習	Students will be expected to keep a vocabulary notebook and review the vocabulary words. (60 mins)
指導方法	Each unit should take 90 minutes to complete. All classes will be taught primarily in English. Students will work in pairs or groups each week. Continuous personal feedback will be made based on participation, assignments and comments from the students.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: Reading, writing and listening components of each unit to be tested with regular reviews. ○E: Students will be evaluated by small tests and assignments. Participation 30% Quizzes 30% Final test 40%
テキスト	Bryan Stephens and Angela Buckingham, International Express Beginner, Oxford, 2013. ISBN 978-0194418287.
参考書	
履修上の注意	Students will be expected to work in pairs and in groups. They will practice communicating in English each week. Every student is expected to keep a notebook for vocabulary words and homework assignments. Announcements will be made through Google Classroom. Be sure to check your messages.
アクティブ・ラー ニング、PBL	Pair work. Role play. Presentation. PBL.

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
高橋大樹、Ivan Botev、布施梓、姜璐嬉			
ナンバリング：E18B61			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	（授業内容） 一般企業のマーケティング・営業支援・事務・秘書・販売・美容医療／医療事務などを目指して社会に出るために必要となる基本的な知識を学習する。この知識には、社会や企業の仕組み、働き方のヒントが含まれる。また、企業研究、エントリーシートの書き方、面接の方法など、実践的な就職活動対策を行う。ショールームの案内や販売・接客などの業務を行い、戸板の学生を採用の対象とする企業の講演や会社訪問も適宜行うので、各自の就職活動の具体的な糸口を作ることができる。 （授業目標） 就職に必要な基礎的な考え方や具体的なスキルを身に付ける。 （学習成果） ◎D：希望業界に関する知識や、エントリーシートの記入方法などのスキルを活用した就職活動を行うことができる。 ○E：各業界に沿った資格等の取得に必要な知識を身に付け、活用することができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション ゼミの概要・スケジュールなどの説明 2 個別就職試験対策（グループワーク） 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 3 個別就職試験対策（グループワーク） 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 4 個別就職試験対策（グループワーク） 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 5 個別就職試験対策（グループワーク） 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 6 オリエンテーション（キャリアセンター） キャリアセンターより就職活動の進め方についての講義を受講し、27卒のポイントを理解する。 7 就職活動の基本を知る（キャリアセンター） 自己分析と企業研究の方法について学ぶ。 8 履歴書の書き方（1）（キャリアセンター） 前回の復習、志望動機の作り方について学ぶ。 9 履歴書の書き方（2）（キャリアセンター） 実際に履歴書を作成して、その書き方について学ぶ。 10 面接のポイント（1）（キャリアセンター） 人事が見ている面接のポイントを知る。 11 面接のポイント（2）（キャリアセンター） 面接の基本を体験する。 12 履歴書の書き方と面接のポイントのまとめ 履歴書の書き方と面接のポイントを振り返り、就職活動に向けての方針をまとめる 13 学内就職イベント①（オンデマンド） 学内の就職イベントに参加することで、実際の就職活動への準備を行う。 14 学内就職イベント②（オンデマンド） 学内の就職イベントに参加することで、実際の就職活動への準備を行う。 15 学内就職イベント③（オンデマンド）
------	---

	学内の就職イベントに参加することで、実際の就職活動への準備を行う。
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：希望業界に関する知識や、エントリーシートの記入方法などのスキルを理解することができる。 ○E：各業界に沿った資格等の取得に必要な知識を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業で取り上げる、就職活動の取り組み方について何を知っているか、何を知る必要があるか整理し、授業中の質疑応答やグループワークに積極的に参加できるよう準備する。指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習（30分程度）。 事後学習：授業で提示された外部のリクルート関連会社の支援を積極的に活用して、就職活動に取り組む。毎回のテーマ振り返り、就職活動に役にたてるように資料をまとめておく（30分程度）。
指導方法	キャリアセンターと連携した、キャリア教育専門講師による授業のほか、接客に関わる一般企業への訪問などを状況に応じて実施する。また、学生の積極的な参加を必要とする授業中の質疑応答や、対話・討議・課題発表の機会を多く設ける。履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実戦形式で授業を展開する。 フィードバックの方法：アンケート結果などに基づき、個別面談により就活への理解を深める。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：課題で評価する。 ○E：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）：30% 提出課題：30% 最終課題：40%
テキスト	授業の要点を資料として配布する。
参考書	授業中に適宜指示する。
履修上の注意	すべての連絡はGoogle Classroom で行うので必ず確認をしてください。火曜日3限の授業ですが、曜日時限が異なる場合もあります。欠席が増えてしまわないように注意するようにしてください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク

講義科目名称： キャリアゼミ（ホテル・ブライダル・ツーリズム 授業コード： 2301ム）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
石田毅、Todd William			
ナンバリング：E18B62			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>☐A：他者と協力して共に創り上げる力</p> <p>☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力</p> <p>☒C：目標と計画を立てて課題を解決する力</p> <p>☒D：知識を活かして考える力</p> <p>☐E：学んで理解する力</p>
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>（授業内容）</p> <p>広義のホテル業界（ホテル、ブライダル、ツーリズムを含む）についての理解を深めながら、就職活動に向けたレディネスを高める</p> <p>（授業目標）</p> <p>業界研究と自己分析、面接練習等を通して、就職活動において適切な判断と能動的な行動ができるように準備する</p> <p>（学習成果）</p> <p>○C：ホテル業界で必要とされる資格等を取得する</p> <p>◎D：エントリーシート(ES)の記入方法を学ぶとともに、ホテル業界への理解を深める</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 オリエンテーション（ペアまたはグループワーク） キャリアゼミのねらいを共有する</p> <p>2-3 ホテル・ブライダル業界研究（1）：事例研究（ペアまたはグループワーク） ゲスト講師から実際の現場での話を伺う *オンデマンド授業1回を含む</p> <p>5-7 ホテル・ブライダル業界研究（2）：書類作成（ペアまたはグループワーク） 履歴書、エントリーシート、自己PRの書き方を学ぶ *オンデマンド授業1回を含む</p> <p>8-12 ホテル・ブライダル業界研究（3）：H検対策（ペアまたはグループワーク） ホテルビジネス実務検定試験（H検）受験に向けた準備を行う</p> <p>12-15 ホテル・ブライダル業界研究（4）：求められる人物像（ペアまたはグループワーク） ホテルブライダル業界で求められる人物像をゲストスピーカーの話を交えて考察する *オンデマンド授業1回を含む</p>
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	<p>○C：就職活動のための資格取得準備を遂行できる</p> <p>◎D：就職活動に必要な知識の体系を大まかに把握できる</p>
---------------------	--

事前・事後学習	<p>事前学習：授業内での指示に従って業界研究やエントリーシートの作成準備を行う（45分）</p> <p>事後学習：授業内で学んだ知識を整理し、より深い業界研究やエントリーシートの改善を行う（45分）</p>
---------	--

指導方法	<p>専任教員またはゲスト講師が講義形式あるいは演習形式で授業を進める</p> <p>フィードバックの方法： ①授業内での質疑応答、②提出課題の添削</p>
------	--

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>○C：資格試験への取り組み状況および結果で評価する</p> <p>◎D：授業態度や提出課題によって総合的に評価する</p> <p>授業への貢献度 40%</p> <p>課題の提出状況 40%</p> <p>資格試験の対策 20%</p>
---------------------------	---

テキスト	なし
------	----

参考書	必要に応じて授業内で指示する
-----	----------------

履修上の注意	<p>必修科目かつ主要科目なので無断欠席は許されない。原則、毎回必ず出席すること。</p> <p>重要な連絡事項が配信されるので、メール、Google Classroom、Active Portal等のメディアを毎日確認すること。</p>
--------	---

アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、PBL
-----------------	-------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E18B63	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>【授業内容】 エアライン業界に関する専門知識を身につけ、企業研究、職種研究を通して理解を深める。ホスピタリティ産業で提供されるサービス、接客マナーを客観的に評価することで判断力を身につける。グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力を養う。ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。</p> <p>【授業目標】 企業研究を行い志望企業の魅力を理解し伝えられるようになること。また、自己分析を行い自身の魅力を理解し伝えられるようになること。</p> <p>【学習成果】 ◎B：自己分析を通して自らの強みを認識し、自己や他者への肯定感を保ちながらディスカッションすることができる。 ○D：エアライン業界内の業種や企業に関する知識を、自身に関連付けて整理することができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション・自己紹介 授業概略説明、自己PRを踏まえた自己紹介（1人1分） 2 エアラインに求められる身だしなみについて① エアラインに求められるメイクアップ方法を知る 3 エアラインに求められる身だしなみについて② エアラインに求められるメイクアップ方法及び、ヘアスタイルを習得する 4 面接基礎 美しい立居振舞を習得する（お辞儀、歩き方、座り方、入室方法） 5 【オンデマンド】 採用で求められるもの エアラインの採用面接で問われる質問、採用フローを理解する 6 面接実践 面接で問われる頻出質問をもとに、面接練習の実践を行う 7 キャビンアテンダント講話 キャビンアテンダントの基本業務について理解を深める 企業ごとに実践されるサービスの特徴を学ぶ 8 ハンドリング業務につくグランドスタッフ講話 グランドスタッフの基本業務について理解を深める 企業ごとに実践されるサービスの特徴を学ぶ 9 旅客業務につくグランドスタッフ講話 グランドスタッフの基本業務について理解を深める 企業ごとに実践されるサービスの特徴を学ぶ 10 海外のエアライン研究（グループワーク） グループごとに海外のエアラインの企業研究をおこない、就航地、文化を反映したユニフォーム、提供されるサービスなど具体的に理解する 11 エアライン分析結果発表（PBL：プレゼンテーション） 「日本らしさを発信するおもてなしとは（PBL）」キャビンアテンダント、グランドスタッフとして実践できる日本らしさを発信するおもてなしについてグループで討議し、発表する 12 グループディスカッション基礎 エアライン業界の採用で実施されるグループディスカッションについて対策を行う 13 グループディスカッション応用 エアライン業界の採用で実施されるグループディスカッションについて対策を行う 14 【オンデマンド】 エントリーシート対策：キャビンアテンダント キャビンアテンダントのエントリーシートで頻出の質問や書き方のポイントについて理解を深める。自身のアイデアを書き出し、エントリーシートを作成する 15 【オンデマンド】 エントリーシート対策：グランドスタッフ グランドスタッフのエントリーシートで頻出の質問や書き方のポイントについて理解を深める。自身のアイデアを書き出し、エントリーシートを作成する
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	企業研究ができ、感心のあるニュースについて言及できるようになること。自身の自己分析を進めていること。 ◎B：エアライン業界の就職活動に必要な自己分析をエントリーシートや面接に反映できる。 ○D：エアライン業界の就職活動に必要な知識をエントリーシートや面接に反映できる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。業界研究やエントリーシートの準備をすること。（約50分） 事後学習：授業内で学んだ知識をまとめ、今後の就職活動に役立てる準備をすること。（約40分）
指導方法	エアライン業界、企業研究、職種研究の方法について指導し、エアライン業界全体を理解できるよう指導する。 また、グループディスカッション、プレゼンテーションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法：①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応、③定期的に面談をおこなう。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	グループディスカッションでの行動を評価する。 ◎B：自己分析のレポート、課題で評価する。 ○D：職種理解のレポート、課題で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性） 40% 最終レポート 30% 小レポート 30%
テキスト	無し。必要な教材は適宜Google Classroomに掲載する。
参考書	アートヴィレッジ『後悔しないJAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著を参考に自学習することが望ましい。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、グループディスカッション、PBL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E28C64	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	【授業内容】エアライン業界内における企業の動向や指針を様々な角度から比較・分析を重ねる。志望する企業のサービスビジョン、安全への取り組み、社会貢献活動、販促方法を理解し、自身の考えをもとにディスカッション・プレゼンテーションを行う。 【授業目標】航空業界の社会貢献、非エアライン事業への理解も深め、幅広いキャリアビジョンを描くことができる。 【学習成果】 ○B：キャリアビジョンについて理解を深め、自己分析をもとに自身の5年後・10年後の姿をイメージできる。 ◎D：エアライン業界に関する知識や理解をさらに深め、企業ごとの強みについてプレゼンテーションすることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション・志望理由発表 志望エアラインの企業理念と志望理由を結びつけて発表する(プレゼンテーション) 2 FSCが注力するサービス ビジネスユーザーの顧客が多いフルサービスキャリアのサービスビジョンと提供サービスについてディスカッションを行う 3 LCCが注力するサービス 家族連れ・若年層の顧客が多いLCCのサービスビジョンと提供サービスについてディスカッションを行う 4 リージョナルエアラインが注力するサービス 地元の翼として活躍するリージョナルエアラインのサービスビジョンと提供サービスについて講義を受け、調査を行う 5 中・長距離国際線LCC、外資航空会社が注力するサービス 中・長距離LCCや日本への乗り入れが多い外資航空会社のサービスビジョンと提供サービスについてディスカッションを行う 6 成田のグランドスタッフ業務 成田空港のグランドスタッフに求められる役割を理解し、羽田空港で働く魅力と成田空港で働く魅力についてディスカッションを行う 7 【オンデマンド】空港・航空会社コードと時差計算 航空業界で勤務する際に必須となる航空関連用語や時差計算を理解する 8 羽田空港のグランドスタッフ業務 羽田空港で勤務するグランドスタッフに求められる職務の魅力について、与えられた資料などをもとに調査する 9 地方空港の特色安全への取り組み 地方空港ごとの客層や旅客のニーズ、注力するサービスについて学び、理解を深める 10 グランドハンドリング業務 航空機の誘導、機材の点検などに携わるグランドハンドリング業務について学ぶ ゲスト講話にて理解を深める 11 接遇スキルコンテスト① 各社の接遇スキルコンテストについて学ぶ 履修学生が行う「接遇スキルコンテスト」について概要を説明し、各自準備を行う 12 接遇スキルコンテスト② チェックシートを用いて、接遇のロールプレイング練習を行う 13 接遇スキルコンテスト③ 見て感じよく、受けて心地よい接遇を目指してコンテストを実施する 14 【オンデマンド】航空会社の格付けとロコミ① 複数ある航空会社の格付けと受賞理由、ロコミをもとに、昨今の航空会社が何を求められているか調査する 15 【オンデマンド】航空会社の格付けとロコミ② 格付けの受賞や世界中の旅客のロコミをもとに、自身が選んだ2社について各種比較を行い、今後求められるサービスを提案する
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	航空業界の社会貢献、非エアライン事業への理解も深め、企業研究が進んでいること。 ○B：第一希望の職種について、接客に携わる業務でのキャリアビジョン、チャレンジしたい社会貢献活動、提案したいサービスや取り組みを述べることができる。 ◎D：第一志望の企業のサービスビジョン、安全への取り組み、社会貢献活動について理解し、自身の意見を述べることができる。
事前・事後学習	事前学習として業界研究やエントリーシートの準備をする。(40分) 事後学習として、宿題として出された調査やプレゼンテーションの準備をする。(45分)
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について企業理解をふかめられるよう指導する。また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法：①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応、③定期的に面談をおこなう。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○B：プレゼンテーション、模擬面接練習、提出物を評価する。 ◎D：プレゼンテーション、模擬面接練習、提出物を評価する。 授業への貢献度：40% 課題・最終レポート：60%
テキスト	特になし。適宜レジュメ、授業参考資料を配布する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
石田毅、Todd William			
ナンバリング：E28C65			授業方法：対面（み）
添付ファイル	-----		

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 広義でのホテル業界（ホテル、ブライダル、ツーリズムを含む）についての理解を深めながら、就職活動に向けたレディネスを高める (授業目標) 業界研究と自己分析、面接練習等を通して、就職活動において適切な判断と能動的な行動ができるように指導する (学習成果) ◎B：自身の特性を理解し、未来を考えたキャリアの一步を踏み出すことができる ○C：ホテル業界で必要とされる資格等を取得する
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション（ペアまたはグループワーク） ホテル業界におけるキャリアの考え方を講じる 2-5 ホテル・ブライダル業界研究（1）：カテゴリー別のホテル研究（ペアまたはグループワーク） 外資系ホテル、日系ホテル、ライフデザインホテル、スモールラグジュアリーホテルなど、カテゴリー別にホテルの可能性を検討する ＊オンデマンド授業1回を含む 6-9 ホテル・ブライダル業界研究（2）：ホテル内の事業部門研究（ペアまたはグループワーク） 宿泊、料飲、宴会、営業、管理など、事業部門別にホテルの可能性を検討する ＊オンデマンド授業1回を含む 10-11 ホテル・ブライダル業界研究（3）：人事システムとキャリアデザイン（ペアまたはグループワーク） 将来を見通したキャリアパスの可能性を検討する ＊オンデマンド授業1回を含む 12-15 就職活動支援：応募書類作成および面接練習（ペアまたはグループワーク） 応募書類の作成方法や面接での留意点等を学ぶ
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：自分事として就職活動に取り組むことができる ○C：就職活動のための資格取得準備を遂行できる
---------------------	---

事前・事後学習	事前学習：授業内での指示に従って業界研究やエントリーシートの作成準備を行う（45分） 事後学習：授業内で学んだ知識を整理し、より深い業界研究やエントリーシートの改善を行う（45分）
---------	---

指導方法	専任教員またはゲスト講師が講義形式あるいは演習形式で授業を進める フィードバックの方法： ①授業内での質疑応答、②提出課題（エントリーシート・履歴書など）の添削
------	--

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎B：授業態度や提出課題によって総合的に評価する ○C：資格試験への取り組み状況および結果で評価する 授業への貢献度 40% 課題の提出状況 40% 資格試験の対策 20%
-------------------	--

テキスト	なし
------	----

参考書	必要に応じて授業内で指示する
-----	----------------

履修上の注意	主要科目かつ必修科目なので、理由なき欠席は許されない。原則、毎回必ず出席すること。 重要な連絡事項が配信されるので、メール、Google Classroom、ActivePortal等のメディアを毎日確認すること。
--------	--

アクティブ・ラーニング、PBL	ペアワーク、グループワーク、PBL
-----------------	-------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
松井恵美子、布施梓、姜瑢嬉			
ナンバリング：E28C66			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☒ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 一般企業のマーケティング・営業支援・事務・受付・秘書・販売などを旨とする就職活動に必須の、履歴書・エントリーシートの作成法、自分のアピールポイントの掘り起し方、面接の対処法、業界・企業の調査法、などを学習する。また、それらの方法を実践した結果をグループで討議し、コミュニケーション能力など就職活動に必要な能力を養成する。 (授業目標) 自分のキャリア形成について、明確な考えと具体的な準備を行うことができる。 (学習成果) ◎B：自身の進路について、自己肯定感をもって最後までやり遂げることができる。 ○C：自身の進路について、目標と計画を立てて課題を解決することができる。
----------------------------------	--

授業計画	1 ガイダンス ゼミの概要・スケジュールなどの説明 2 個別就職試験対策 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 3 個別就職試験対策 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 4 個別就職試験対策 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 5 個別就職試験対策 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 6 個別就職試験対策 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 7 個別就職試験対策 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 8 個別就職試験対策 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 9 個別就職試験対策 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 10 個別面談 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 11 個別面談 進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。 12 個別面談
------	---

	<p>進路別活動：応募書類対策、面接対策、適性試験対策、資格試験対策、個別面談などグループに分かれて、効果的な活動を集中的に行う。 ※ゲスト講師による様々な業界の紹介と質疑応答の時間に変更になることがある。</p> <p>13 内定した企業と就職活動の資料作成（オンデマンド） 自身が就職予定の企業の事業内容や特色を紹介し、内定を得られたポイント等を客観的に整理してレポートを作成する。 ※進路未決定者は、活動計画・進捗報告についてのレポートを作成。</p> <p>14 内定した企業と就職活動の資料作成（オンデマンド） 自身が就職予定の企業の事業内容や特色を紹介し、内定を得られたポイント等を客観的に整理してレポートを作成する。 ※進路未決定者は、活動計画・進捗報告についてのレポートを作成。</p> <p>15 今後の就職活動及びキャリアプランについて（オンデマンド） これまでの就職活動、卒業までの学習活動と、卒業後のキャリアプランについて整理してまとめたレポートを作成。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	◎B：自身の進路について、自己肯定感をもってやり遂げようと取り組むことができる。 ○C：自身の進路について、目標と計画を立てて課題を解決しようと取り組むことができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業で取り上げる、就職活動の取り組み方について何を知っているか、何を知る必要があるか整理し、授業中の質疑応答やグループワークに積極的に参加できるよう準備（30分程度）。 事後学習：授業で提示された就活情報収集方法を積極的に活用して、就職活動に取り組む（30分程度）
指導方法	キャリアセンターやキャリア教育専門講師による授業などを状況に応じて実施する。また、就職に関する個別面談、質疑応答、グループ討議の機会を設けるので、積極的に参加してください。企業見学なども積極的に行います。 フィードバックの方法：個別面談により、就活への理解を深める。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎B：課題で評価する。 ○C：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）：30% プレゼンテーション:30% 課題：40%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	すべての連絡はGoogleClassroomで行うので必ず確認をするようにしてください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E28C67			授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 一年後期に続き、病院、クリニック、薬局等で働きたい学生に向けて、プレゼンテーションや時事問題についての考察を通して社会人としての知識や技術を身につける授業である。専任教員が毎回の計画に則り、ゼミ形式で授業を進める。 (授業目標) 内定までにいたるプロセスを意識し、また自らのコミュニケーションスキルの向上を目指して、社会人としてふさわしい力を主体的に向上させることを目指す。 (学習成果) ◎D：グループワークを通じて、社会人にふさわしい、または医療の現場に適した知識を身につけることができる。 ○E：グループワークを通じて、社会人にふさわしい、または医療の現場に必要な技能を身につけることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション 就職活動の現状報告をする 2 資格試験対策講座① 医療秘書技能検定3級の合格を目指し、対策講座を実施する 3 資格試験対策講座② 医療秘書技能検定3級の合格を目指し、対策講座を実施する 4 資格試験対策講座③ 医療秘書技能検定3級の合格を目指し、対策講座を実施する 5 資格試験対策講座④ 医療秘書技能検定3級の合格を目指し、対策講座を実施する 6 資格試験対策講座⑤ 医療秘書技能検定3級の合格を目指し、対策講座を実施する 7 エントリーシート指導① 志望する企業へのエントリーシートや提出書類のアップデートを行う 8 エントリーシート指導② 志望する企業へのエントリーシートや提出書類のアップデートを行う 9 就職活動カウンセリング① 就職活動の現状についての報告を行う 10 就職活動カウンセリング② 就職活動の現状についての報告を行う 11 進路面談① 進路に関する面談を行い、状況を確認したり今後の活動方針を決定する 12 進路面談② 進路に関する面談を行い、状況を確認したり今後の活動方針を決定する 13 内定を得た病院に関する資料作成（オンデマンド） 内定を得た病院に関する情報をあらためてまとめ、就職活動で何がポイントになったのかを振り返りレポートを作成する。 未内定者は就職活動の現状と予定をまとめ、レポートを作成する。 14 内定を得た病院に関する資料作成（オンデマンド） 内定を得た病院に関する情報をあらためてまとめ、就職活動で何がポイントになったのかを振り返りレポートを作成する。 未内定者は就職活動の現状と予定をまとめ、レポートを作成する。 15 卒業後のキャリアプランについての資料作成（オンデマンド） これまでの就職活動と卒業後のキャリアプランについてまとめ、レポートを提出する。
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：職場で使用される用語や指示（とくに医療現場での用語）について説明することができる。 ○E：職場で使用される医療現場における技能や技術について説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業前半においては検定対策のための準備を行い、その後は業界研究やエントリーシートの準備などを行う。（45分） 事後学習：エントリーシートの仕上げおよび業界研究の発表の準備を行う。（45分）
指導方法	グループワークなどの他者と連携することを通じて、他者の考えを理解し、さらに自らの主張を展開できるような指導を行う。フィードバックの方法：授業内で提出したコメントシートに教員コメントを記載の上、返却する。また個別相談を行い、コメントを伝える。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：授業中の提出物に書かれた文章で評価する。 ○E：授業中の提出物に書かれた文章で評価する。 授業への貢献度30% 授業中の課題・提出物40% 最終課題30%
テキスト	プリントを適宜配布する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	ゼミで使用する教室や日程が変わることがあります。 重要な伝達や情報があるので、教員・助手室からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認してください。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修 主要科目：○
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E28C68	実務家教員による授業		授業方法：対面（み）
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☐ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☒ D：知識を活かして考える力 ☒ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	このゼミは、大学への編入学及び留学を志す学生を対象とする。留学を希望する学生は、基礎的な英語力や留学に必要なノウハウを身に付け、留学を希望する国の文化や習慣について学ぶ。編入学を希望する学生は、編入学入試に必要な小論文や面接の練習の他、過去の入試問題の分析を行う。留学や編入学をするのに必要な試験の対策は授業以外でも進めることが必要となる。授業においてより具体的な学習計画を立て、実践することを目指す。また、このゼミを履修する学生は、留学先や編入学における専攻が異なることが予測されるため、面談を定期的に行い、一人一人に合わせた学習計画を立てる。 (授業目標) ☒ D：異文化理解を深め、様々な思想や文化的差異を説明することができる。 ☒ E：自らの主張を論理的に伝えることができる。
----------------------------------	---

授業計画	1 オリエンテーション（編入学・留学） 英語力確認 学習計画書の作成 2 進学準備カウンセリング①（編入学）・留学準備カウンセリング①（留学） 編入学先についての個別相談および希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習を行う。（編入学） 留学についての個別面談、英会話表現①（食事①）（留学） 3 進学準備カウンセリング②（編入学）・留学準備カウンセリング②（留学） 編入学先についての個別相談および希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習を行う。（編入学） 留学についての個別面談、英会話表現②（買い物）（留学） 4 小論文および英語問題対策①（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の傾向を研究する。（編入学） 英会話表現③（娯楽）（留学） 5 小論文および過去問対策②（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の傾向を研究し対策を講じる。（編入学） 英会話表現④（観光・ツアー）（留学） 6 小論文および過去問対策③（編入学）／英語（留学） 引き続き希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の傾向を研究し対策を講じる。（編入学） 英会話表現⑤（トラブル対策）（留学） 7 小論文および過去問演習①（編入学）／英語（留学）グループディスカッション 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学）グループディスカッション TOEFL対策①（留学）グループディスカッション 8 小論文および過去問演習②（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学） TOEFL対策(Reading)①（アカデミックな長文読解問題）（留学） 9 小論文および過去問演習③（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学） TOEFL対策(Reading)②（アカデミックな長文読解問題）（留学） 10 小論文および過去問演習④（編入学）／英語（留学） 引き続き希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学） TOEFL対策(Reading)③（アカデミックな長文読解問題）（留学） 11 小論文および過去問演習⑤（編入学）／英語（留学）グループワーク 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学）グループワーク TOEFL対策(Reading)④（アカデミックな長文読解問題）（留学）グループワーク 12 小論文および過去問演習⑥（編入学）／英語（留学） 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学） TOEFL対策(Listening)⑤（講義形式の問題）（留学） 13 小論文および過去問演習⑦（編入学）／英語（留学）グループディスカッション 希望編入学先大学の過去問の小論文および英語問題の実践演習を行う。（編入学）グループディ
------	--

	スカッション TOEFL対策(Listening)⑥ (講義形式の問題) (留学) グループディスカッション 14 入試面接対策① (編入学) / 英語 (留学) グループワーク 希望編入学先大学の入試面接対策を行う。(編入学) グループワーク TOEFL対策(Listening)⑦ (会話形式の問題) (留学) グループワーク 15 入試面接対策② (編入学) / 英語 (留学) 希望編入学先大学の入試面接対策を行う。(編入学) TOEFL対策(Listening)⑧ (会話形式の問題) (留学)
到達目標・基準 C評価になる基準	◎D：異文化や自分の興味のある話題について説明することができる。 ○E：自らの主張の概要を伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：学校研究を進める。(約60分) 事後学習：評論を読み直す。英語学習の復習をする。授業時に出された指示に従い行う。(約60分)
指導方法	さまざまな演習を通して、編入及び留学に必要な英語力、文章表現力及び論理的思考力を養う。 フィードバックの仕方：各自から提出された小論文および課題を添削し、コメントと共に返却する。また定期的に英語実力試験を実施する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：評論文読解および個別面談で評価する。 ○E：レポート、小論文作成、面接の準備で評価する。 授業への貢献度・積極性 40% レポート・小論文・課題 60%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。また英和辞書を持参すること。
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意	授業に出席するだけでなく、積極的な態度で取り組むことを求める。また授業外学習も不可欠となる。学びたいという強い意欲のある学生の履修を求める。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク・グループディスカッション

講義科目名称： 国際コミュニケーション学科プロジェクト演習 授業コード： 2981
B（東京島企画）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：E39C70			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
------	--

<p>授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準</p>	<p>(授業内容) 企業（自治体）等の今日的課題解決を通じ「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。指定するプロジェクトに参加して連携先の課題解決のためにグループで活動し、所定の成果を出すことで単位修得ができる。開講期間内に限らず夏期もしくは春期休暇期間中にも実施することがある。</p> <p>(授業目標) 社会で活躍する企業人等と出会い、実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、より専門分野の学びを深め、ジェネリックスキルを高める必要性に気づく場をつくることで、社会でリーダーとして活躍できる人材となることを目標とする。</p> <p>(学習成果) ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
--	---

授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修（ゲスト講師） プログラムの意義、目的についての説明をおこなう。 （課題の理解・探究、課題に纏わる調査・理解、企業・地域理解） 参加メンバー紹介、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する。</p> <p>2 訪問企業の発表、訪問順序の決定（ゲスト講師） 訪問先を確認し、自分たちが先方に尋ねてみたいこと（働くこととはどういうことか、進路を決めるときにどのようなことを軸としたのか、学生時代の過ごし方など）を考え、今後の取り組みに備える。</p> <p>3 質問内容の作成（個人作業→グループワーク）（ゲスト講師） 企業に聞きたいことを整理し、まとめ、尋ねかたについて話し合う。</p> <p>4 質問内容の作成（グループワーク）（ゲスト講師） 課題解決案の初期案を作成する。 講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する。 自分たちで訪問先にアポイントを取る（話し方、何を尋ねるべきなのか、確認すべきことがらは何か）。 名刺交換の練習をする。 経路の確認等をおこなう。</p> <p>5 企業訪問①（ゲスト講師） 案をもとに、実際に現地へ赴く。 企業を訪問&インタビューする。</p> <p>6 企業訪問②（ゲスト講師） 案をもとに、実際に現地へ赴く。 企業を訪問&インタビューする。</p> <p>7 振り返り①（ゲスト講師） 実際に初めて訪問して感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。 何ができて、何ができなかったのかを確認する。 講師からアドバイスを受け、次回に向けてすべきことは何か、討議する。</p> <p>8 キャリアとは何か（ゲスト講師） 講師の講義（キャリアについて）を聞き、学んだことを活かして今後の取り組みに備える。 次の企業訪問に向けて、質問を考える。 現地調査や確認をおこなう。</p> <p>9 企業訪問③（ゲスト講師） 案をもとに、実際に現地へ赴く。 企業を訪問&インタビューする。</p> <p>10 企業訪問④（ゲスト講師） 案をもとに、実際に現地へ赴く。 企業を訪問&インタビューする。</p> <p>11 振り返り②（ゲスト講師） 3、4回目の企業訪問で感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。</p>
------	---

	<p>12 成長した点があったか、今後の課題を確認する。 今後に向けてすべきことは何か討議し、ブラッシュアップをはかる。 講師からアドバイスを受け、今後のプレゼンテーションに向けての準備をする。 振り返り③（ゲスト講師）</p> <p>13 企業訪問で感じたこと、学び得たことを整理し、掘り下げる。 計画案をまとめ、実現し、結果についての調査・分析をまとめる。 講師からアドバイスを受け、この後の取り組みに備え、プレゼンテーションの準備をする。 プレゼンテーション実施①（ゲスト講師）</p> <p>14 課題の解決案を企業や自治体に対して発表する。</p> <p>15 プレゼンテーション実施②（ゲスト講師） 課題の解決案を学内や来校者に対して発表する。</p> <p>16 報告会（授業内・外にて実施予定）とふりかえり（ゲスト講師） 活動の結果を分析し、感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。 活動全体のふりかえりを行い、あらためて自分たちのキャリア、生き方について考えをまとめ、整理する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、成果実現のために最後までチームに貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）</p>
指導方法	<p>産学（官）連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告（発表）までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等に実際に足を運んで活動する日もある。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。</p> <p>授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用し、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し決められたプログラムを修了することで、評価する。 ◎A：平常点および成果発表で評価する。 ◎C：平常点および成果発表で評価する。</p> <p>平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど）50%</p>
テキスト	必要に応じて提示する
参考書	それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する
履修上の注意	<p>*参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会がある日には必ず参加すること。 *放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もあるので注意すること。 *プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる場合がある。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

講義科目名称： 国際コミュニケーション学科プロジェクト演習 授業コード： 2982
B (ホテル企画)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
澁木祥子、吉田涼平			
ナンバリング：E39C70			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) この授業は、企業の課題解決を目的としたPBL型授業である。大学の一般的な授業では得られない「実社会での実践的な経験」を提供する。受講者は、企業が直面する課題に対する解決策を提案するため、グループで活動を行い、一般的な企業が行う営利目的のプロジェクトがどのように進行するかを体験する。所定の成果を達成することで、単位を修得できる授業である。</p> <p>(授業目標) 企業の担当者と直接コミュニケーションをとり、実社会の現実を体感することで、社会人としての第一歩を踏み出す基盤を築く。 グループ活動を通じて、自身の得意分野や改善すべき課題に気付き、自己認識を深める。 チームでの活動を通じて協働スキルや問題解決力を向上させる。</p> <p>(学習成果) ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、自発的な行動力を発揮してプロジェクトを成功に導くことができる。 ○C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的に役割を全うする。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修 プログラムの意義、目的についての説明をおこなう。 (課題の理解・探究、課題に纏わる調査・理解、企業・地域理解) 参加メンバー紹介、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する。</p> <p>2 企業(自治体)より、揭示された課題の説明 企業が抱える問題(現状把握)とそれに伴う課題を担当者から直接お話しいただくことで、自分事として捉えて今後の取り組みに備える。</p> <p>3 企業(自治体)より、揭示された課題の検討(グループワーク) 企業が抱える問題(現状把握)とそれに伴う課題について、グループで討論し、課題解決の為に解決策を出し合う。</p> <p>4 課題解決案の作成(グループワーク) 課題解決案の初期案を作成する。 講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する。</p> <p>5 課題解決案の発表 課題解決案の初期案を発表する。</p> <p>6 フィールドワーク・実施1 課題解決初期案をもとに、実際に現地調査をする。</p> <p>7 課題解決案の検討1(グループワーク) 現地調査の内容をまとめ、ディスカッションを通じて、課題解決策をブラッシュアップする。</p> <p>8 中間報告会1 各自取組中の状況報告を行い、取り組むべき方向性について企業からアドバイスをいただく。</p> <p>9 課題解決案の見直し(グループワーク) 講義、資料検索やディスカッションなどを通して課題解決案の目的、内容等を見直す。</p> <p>10 フィールドワーク・実施2 課題解決案が実際に実現可能な解決案となるか、現地調査や確認を行う。</p> <p>11 課題解決案の検討2(グループワーク) 現地調査の内容をまとめ、ディスカッションを通じて、課題解決案をブラッシュアップする。</p> <p>12 中間報告会2 進捗確認、必要に応じて企業からアドバイスをいただく。</p> <p>13 課題解決案の実現(グループワーク) 課題解決案をまとめ、それを実現し、結果についての調査・分析をまとめる。</p> <p>14 プレゼンテーション・フィールドワーク・実施 課題の解決案を企業に対して発表する。</p>
------	--

	15 報告会（授業内・外にて実施予定）とふりかえり 結果を調査・分析し、報告書を産学（官）連携先へ提出・評価を受ける。 活動全体のふりかえりをする。
到達目標・基準 C評価になる基準	実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ◎A：課題内容とチーム全体の状況を理解し、自発的な行動力を発揮してプロジェクト成功に貢献する。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けて役割を全うする。
事前・事後学習	事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）
指導方法	産学（官）連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等に伺っての活動もある。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。 授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで、評価する。 ◎A：平常点および成果発表で評価する ◎C：平常点および成果発表で評価する 平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト	必要に応じて提示する
参考書	授業時に、必要に応じて提示する
履修上の注意	*参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 *放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 *プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる場合がある。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる場合がある。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

講義科目名称： 国際コミュニケーション学科プロジェクト演習 授業コード： 2984
B（韓国PBL）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
中村公子、石田毅、松井恵美子、姜瑢嬉			
ナンバリング：E39C70			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>（授業内容）課題解決に向けて「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。ホスピタリティをテーマに、夏期休暇を利用して韓国を舞台にプロジェクトを展開する。両国の違いを検証し、グローバルなホスピタリティを提供できる提案を行う。前期における日本での事前学習を経て、韓国では誠信女子大学で語学やK-Beauty等の様々な研修を受けたり、実際に各自のテーマに沿ったホスピタリティを体験したりすることによって学びを深める。さらに、韓国人学生との交流を通して考え方や求めているものの違いを知り、課題解決のための糸口を探る。</p> <p>（授業目標） グローバルな視点からのホスピタリティ提供するためのティップスを提案することを目標に、まずは自国および韓国の事例を探り、そこから垣間見られる違いを検証する。韓国人学生の協力を得ながら、多角的かつ現実的な解決案を提示する。</p> <p>（学習成果） ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。 ○C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
----------------------------------	--

授業計画	<p>1 オリエンテーション、課題理解 プログラムの意義・目標の共有、課題の理解、グループ作り、スケジュール説明、注意事項 他</p> <p>2 テーマ策定（グループワーク）、韓国事情理解 テーマ策定、韓国語・韓国事情について学びを進める</p> <p>3 現状分析（グループワーク）、韓国事情理解 グループごとに各テーマにおける日本と韓国の現状を分析する</p> <p>4 現状分析、提案内容の作成（グループワーク） 引き続き現状分析を行い、各グループごとに日本から見た提案を作成する</p> <p>5 中間報告会（プレゼンテーション）、渡航準備 各グループごとに取組中の状況報告を行い、関連各署からアドバイスをいただきながら、提案内容をブラッシュアップする</p> <p>6 現地研修（2週間）、課題解決案作成・発表（グループワーク・プレゼンテーション） フィールドワークやアウトティングを通して現地の実態を調査する。現地の学生と課題解決に向けたディスカッションを行い、協働で最終案を作成・発表する</p> <p>7 提案の実践 日韓交流ボランティアに参加し、解決案として提案したホスピタリティを実践する</p> <p>8 振り返り、TOITA Fes発表準備 これまでの経過を振り返り、プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回しながら進められたかどうかを検証する。Fesでの発表（展示）の準備をおこなう</p> <p>9 TOITA Fes発表</p> <p>※プロジェクトの内容によって変更することがある</p>
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	<p>課題解決に向けて多くの事例を検証し、多様で複雑な価値観に触れることに努める。国の垣根を超えた協働の学びに積極的に参加し、自らの課題解決案を提案することができる。</p> <p>◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、チームで協力し合いながら成果実現にむけて最後まで貢献することができる。</p> <p>○C：現地での研修がより成果の高いものになるよう、自らの事前学習目標やスケジュールを計画・立案し実行できる。</p>
---------------------	--

事前・事後学習	<p>事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。</p> <p>事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの情報収集を行う。定期的な韓国語学習は必須。</p>
---------	---

指導方法	<p>連携先大学および企業、団体等の協力のもと実施するPBL型授業である。個人およびグループでの活動が基本。課題解決案の提示に向けて、韓国語や韓国事情とともに各自のテーマに沿った事例を収集し検証する。夏期の韓国での研修に向けて、前期には学内で事前の学習を行う。帰国後はTOITA Fesで成果を発表する。</p>
------	--

	フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜フィードバックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで評価する ◎A：平常点および成果発表で評価する。 ○C：平常点および成果発表で評価する。 平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト	なし
参考書	プロジェクトによって異なるため、それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する。
履修上の注意	*「プロジェクト演習」の授業名で複数のプロジェクトが展開する。それぞれの実施概要は、開講期間中に都度説明会内で発表する。参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 *放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 *プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる。 *履修登録はプロジェクト終了後に登録となる。担当教員の指示にしたがうこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：E39C64			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
------	--

<p>授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準</p>	<p>(授業内容) 企業（自治体）等の今日的課題解決を通じ「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。指定するプロジェクトに参加して連携先の課題解決のためにグループで活動し、所定の成果を出すことで単位修得ができる。開講期間内に限らず夏期もしくは春期休暇期間中にも実施することがある。</p> <p>(授業目標) 社会で活躍する企業人等と出会い、実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、より専門分野の学びを深め、ジェネリックスキルを高める必要性に気づく場をつくることで、社会でリーダーとして活躍できる人材となることを目標とする。</p> <p>(学習成果) ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
--	---

授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修（ゲスト講師） プログラムの意義、目的についての説明をおこなう。 （課題の理解・探究、課題に纏わる調査・理解、企業・地域理解） 参加メンバー紹介、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する。</p> <p>2 訪問企業の発表、訪問順序の決定（ゲスト講師） 訪問先を確認し、自分たちが先方に尋ねてみたいこと（働くこととはどういうことか、進路を決めるときにどのようなことを軸としたのか、学生時代の過ごし方など）を考え、今後の取り組みに備える。</p> <p>3 質問内容の作成（個人作業→グループワーク）（ゲスト講師） 企業に聞きたいことを整理し、まとめ、尋ねかたについて話し合う。</p> <p>4 質問内容の作成（グループワーク）（ゲスト講師） 課題解決案の初期案を作成する。 講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する。 自分たちで訪問先にアポイントを取る（話し方、何を尋ねるべきなのか、確認すべきことがらは何か）。 名刺交換の練習をする。 経路の確認等をおこなう。</p> <p>5 企業訪問①（ゲスト講師） 案をもとに、実際に現地へ赴く。 企業を訪問&インタビューする。</p> <p>6 企業訪問②（ゲスト講師） 案をもとに、実際に現地へ赴く。 企業を訪問&インタビューする。</p> <p>7 振り返り①（ゲスト講師） 実際に初めて訪問して感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。 何ができて、何ができなかったのかを確認する。 講師からアドバイスを受け、次回に向けてすべきことは何か、討議する。</p> <p>8 キャリアとは何か（ゲスト講師） 講師の講義（キャリアについて）を聞き、学んだことを活かして今後の取り組みに備える。 次の企業訪問に向けて、質問を考える。 現地調査や確認をおこなう。</p> <p>9 企業訪問③（ゲスト講師） 案をもとに、実際に現地へ赴く。 企業を訪問&インタビューする。</p> <p>10 企業訪問④（ゲスト講師） 案をもとに、実際に現地へ赴く。 企業を訪問&インタビューする。</p> <p>11 振り返り②（ゲスト講師） 3、4回目の企業訪問で感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。</p>
------	---

	<p>12 成長した点があったか、今後の課題を確認する。 今後に向けてすべきことは何か討議し、ブラッシュアップをはかる。 講師からアドバイスを受け、今後のプレゼンテーションに向けての準備をする。 振り返り③（ゲスト講師） 企業訪問で感じたこと、学び得たことを整理し、掘り下げる。 計画案をまとめ、実現し、結果についての調査・分析をまとめる。 講師からアドバイスを受け、この後の取り組みに備え、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>13 プレゼンテーション実施①（ゲスト講師） 課題の解決案を企業や自治体に対して発表する。</p> <p>14 プレゼンテーション実施②（ゲスト講師） 課題の解決案を学内や来校者に対して発表する。</p> <p>15 報告会（授業内・外にて実施予定）とふりかえり（ゲスト講師） 活動の結果を分析し、感じたこと、学び得たことをお互いに発表し合う。 活動全体のふりかえりを行い、あらためて自分たちのキャリア、生き方について考えをまとめ、整理する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、成果実現のために最後までチームに貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）</p>
指導方法	<p>産学（官）連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告（発表）までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等に実際に足を運んで活動する日もある。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。</p> <p>授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。</p>
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	<p>事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し決められたプログラムを修了することで、評価する。 ◎A：平常点および成果発表で評価する。 ◎C：平常点および成果発表で評価する。</p> <p>平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど）50%</p>
テキスト	必要に応じて提示する
参考書	それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する
履修上の注意	<p>*参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会がある日には必ず参加すること。 *放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もあるので注意すること。 *プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる場合がある。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる場合がある。</p>
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	国専：選択
担当教員			
澁木祥子、吉田涼平			
ナンバリング：E38C64			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
------	--

<p>授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準</p>	<p>(授業内容) この授業は、企業の課題解決を目的としたPBL型授業である。大学の一般的な授業では得られない「実社会での実践的な経験」を提供する。受講者は、企業が直面する課題に対する解決策を提案するため、グループで活動を行い、一般的な企業が行う営利目的のプロジェクトがどのように進行するかを体験する。所定の成果を達成することで、単位を修得できる授業である。</p> <p>(授業目標) 企業の担当者と直接コミュニケーションをとり、実社会の現実を体感することで、社会人としての第一歩を踏み出す基盤を築く。 グループ活動を通じて、自身の得意分野や改善すべき課題に気付き、自己認識を深める。 チームでの活動を通じて協働スキルや問題解決力を向上させる。</p> <p>(学習成果) ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、自発的な行動力を発揮してプロジェクトを成功に導くことができる。 ○C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的に役割を全うする。</p>
--	---

授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修 プログラムの意義、目的についての説明をおこなう。 (課題の理解・探究、課題に纏わる調査・理解、企業・地域理解) 参加メンバー紹介、プログラムスケジュール、具体的なゴールのイメージを共有する。</p> <p>2 企業（自治体）より、揭示された課題の説明 企業が抱える問題（現状把握）とそれに伴う課題を担当者から直接お話しいただくことで、自分事として捉えて今後の取り組みに備える。</p> <p>3 企業（自治体）より、揭示された課題の検討（グループワーク） 企業が抱える問題（現状把握）とそれに伴う課題について、グループで討論し、課題解決の為に解決策を出し合う。</p> <p>4 課題解決案の作成（グループワーク） 課題解決案の初期案を作成する。 講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する。</p> <p>5 課題解決案の発表 課題解決案の初期案を発表する。</p> <p>6 フィールドワーク・実施1 課題解決初期案をもとに、実際に現地調査をする。</p> <p>7 課題解決案の検討1（グループワーク） 現地調査の内容をまとめ、ディスカッションを通じて、課題解決策をブラッシュアップする。</p> <p>8 中間報告会1 各自取組中の状況報告を行い、取り組むべき方向性について企業からアドバイスをいただく。</p> <p>9 課題解決案の見直し（グループワーク） 講義、資料検索やディスカッションなどを通して課題解決案の目的、内容等を見直す。</p> <p>10 フィールドワーク・実施2 課題解決案が実際に実現可能な解決案となるか、現地調査や確認を行う。</p> <p>11 課題解決案の検討2（グループワーク） 現地調査の内容をまとめ、ディスカッションを通じて、課題解決案をブラッシュアップする。</p> <p>12 中間報告会2 進捗確認、必要に応じて企業からアドバイスをいただく。</p> <p>13 課題解決案の実現（グループワーク） 課題解決案をまとめ、それを実現し、結果についての調査・分析をまとめる。</p> <p>14 プレゼンテーション・フィールドワーク・実施 課題の解決案を企業に対して発表する。</p>
------	--

	15 報告会（授業内・外にて実施予定）とふりかえり 結果を調査・分析し、報告書を産学（官）連携先へ提出・評価を受ける。 活動全体のふりかえりをする。
到達目標・基準 C評価になる基準	実社会での多様で複雑な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ◎A：課題内容とチーム全体の状況を理解し、自発的な行動力を発揮してプロジェクト成功に貢献する。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けて役割を全うする。
事前・事後学習	事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。（30分） 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。（30分）
指導方法	産学（官）連携によるPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施する。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等に伺っての活動もある。 フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。 授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れである。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで、評価する。 ◎A：平常点および成果発表で評価する ◎C：平常点および成果発表で評価する 平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト	必要に応じて提示する
参考書	授業時に、必要に応じて提示する
履修上の注意	*参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 *放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 *プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる場合がある。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

講義科目名称： 国際コミュニケーション学科TOITAプロジェクト 授業コード： 2903
ト演習A（オーベルジュ）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
安東徳子、松井恵美子、中村晴菜、狩野恭子			
ナンバリング：E38C64			授業方法：対面
添付ファイル	-----		

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 企業（ホテル業界）（自治体）等の課題解決を通じ「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。指定するプロジェクトに参加して連携先の課題解決のためにグループで活動し、所定の成果を出すことで単位修得ができる。開講期間内に限らず夏期もしくは春期休暇期間中にも実施することがある。</p> <p>(授業目標) ラグジュアリーホテル業界と一緒にプロジェクトを実施する授業である。ラグジュアリーホテルのホスピタリティを学ぶだけでなく周辺地域についても学びを深める。社会で活躍する企業人等と出会い、実社会での多様な複雑な課題や価値観に触れ、より専門分野の学びを深める。チームでの活動を通して協働スキルや課題解決力を向上させる。</p> <p>(学習成果) ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修 プロジェクトマネジメントについて</p> <p>2 オリエンテーション グループワーク、ディスカッション、PBL型授業 プログラムの意義・目的について、参加メンバー紹介とグループ作り、スケジュール説明、注意事項 他</p> <p>3 課題の理解①（グループワーク、ディスカッション、PBL型授業） スモールラグジュアリーについて</p> <p>4 課題の理解②（グループワーク、ディスカッション、PBL型授業） スモールラグジュアリーのホスピタリティについて</p> <p>5 課題の理解③（グループワーク、ディスカッション、PBL型授業） スモールラグジュアリーにかかわる仕事について</p> <p>6-9 課題解決案の作成（グループワーク） 講義、資料検索や現地調査、ディスカッションなどを通して課題解決案を作成する（5回）</p> <p>10 中間報告会（プレゼンテーション） 各自取組中の状況報告を行い、取り組むべき方向性について連携先からアドバイスをいただき、解決案をブラッシュアップする</p> <p>11-14 課題解決案の実現（グループワーク） 課題解決案をブラッシュアップし、実現をめざすため、さらに調査・分析をまとめる（5回）</p> <p>15 結果報告会とふりかえり（プレゼンテーション） 結果の報告、連携先の評価を受ける。活動全体の振り返りをする。</p>
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	<p>実社会での多様な課題や価値観に触れ、学び成長し続けることの大切さを自覚し、社会で活躍できる人材となることを目標とする。 ◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、成果実現のために最後まで貢献することができる。 ◎C：プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる</p>
---------------------	--

事前・事後学習	<p>事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。 事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの学習、進捗状況によってはグループ活動など。</p>
---------	--

指導方法	<p>ラグジュアリーホテル業界の企業担当者と一緒に実施するPBL型授業である。連携先企業、自治体等の協力のもと実施することを常に忘れないようにすること。グループ活動が基本となり、課題解決案の提示からその実現、成果の分析・報告までが原則のプログラムとなる。学内だけでなく、連携先等に伺った活動もある。フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックする。</p>
------	--

アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで、2段階で評価（Passもしくは、Drop）する。 ◎A：平常点および成果発表で評価する ◎C：平常点および成果発表で評価する</p>
-------------------	---

	平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> *放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 *学内選考がある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる。 *履修登録はプロジェクト終了後に登録となる。担当教員の指示にしたがうこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

講義科目名称： 国際コミュニケーション学科TOITAプロジェクト 授業コード： 2904
ト演習A（沖縄名産1）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
川嶋比野、有田りな、江原数彦、中村和由			
ナンバリング：E38C64			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
------	--

<p>授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準</p>	<p>(授業内容) TOITAプロジェクト演習は、定型授業外での事前調査・自主活動・グループ活動が学習上の重要な要素となる。このプロジェクトは、沖縄本部町の地域創生+SDGsの問題を現地の高校と交流を持って一緒に課題解決に取り組む産官学・高大連携PBL授業である。その過程を通して、商品開発・マーケティング手順を学び、販売促進に取り組む。具体的には沖縄本部町の観光客がそれを目的に来てくれるような名物料理やお土産を開発し、広報・販売戦略を考える。採用チームは「国際コミュニケーション学科TOITAプロジェクト演習A（沖縄名産2）」へ進み、夏休み期間中に実際に沖縄で販売をする。</p> <p>(授業目標) メニュー開発・販売促進の一連の流れを体験することで手順と進め方を理解する。</p> <p>(学習成果) ◎A：クラスメイトや高校生の意見に耳を傾け、より良い高い目標を設定することができ、それを達成するために自分がどのように貢献すべきか考え行動することが出来る。 ◎B：困難なことや失敗にめげることなく、主体的かつ前向きに行動して最後までやり遂げることが出来る。 ◎C：地域の課題を理解し、それを解決するマーケティング戦略を練ることが出来る。</p>
--	---

授業計画	<p>1 プロジェクトマネジメント研修 (授業開始前に説明会を実施し、面談により履修者を選出する) (事前にキックオフ式をZOOMにて開催。学内ではSNS戦略を練る) ・産官学連携に臨む姿勢、チームビルディング、企業・自治体と接する際のマナーを学ぶ ・メンバー内の自己紹介などを実施し、共にチームビルディング研修に臨む</p> <p>2 4/22 販売促進手法を計画する ・今後マーケティング戦略を進めるにあたり必須で取り組むべき要素を洗い出し、何から始めるのか決定する ・高校生とのZOOM打ち合わせ①「現地沖縄の情報に関する報告依頼」ほか ・沖縄アンテナショップへ見学に行き、沖縄の名産や特徴について学ぶ ・次回までに、現地沖縄の情報（魅力・客層・ライバルなど）を調査</p> <p>3 SWOT分析・クロスSWOT分析により条件を整理する ・本学の学生が調査した現地の情報と、現地高校生が調査した情報をもとにSWOT分析を行う ・クロスSWOT分析により条件を整理し、現地高校にデータで報告する</p> <p>4 SNS戦略を練る ・多くの人に閲覧され、支持を得るSNSの傾向を分析する ・SNSを利用した販売促進戦略方法を練る</p> <p>5 商品提案1回目・意見交換（レシピ考案チームと合同） ・提案理由と共に発表された商品提案を聞く ・調査した客層や現地の現状、販売促進案を発表し、意見交換を行う ・SNSを利用した販売促進戦略強化（振り返りや見直しなど）</p> <p>6 商品提案をふまえた販売促進案の企画 ・商品に込められた思いや特性を生かした販売戦略を企画する ・高校生とのZOOM打ち合わせ②「販売促進案提示と現地高校生による販売促進依頼」など</p> <p>7 商品提案2回目・意見交換（レシピ考案チームと合同） ・提案理由と共に発表された商品提案を聞き、意見交換を行う ・SNSを利用した販売促進戦略強化（振り返りや見直しなど）</p> <p>8 販売実行案の確定と4P分析 ・6W2Hで販売実行案を作る ・4P分析を実施し、売り方のストーリー作りを行う</p> <p>9 SNS戦略の見直し ・SNS戦略について見直しを行い、改善策を練る</p> <p>10 試作品をもとにした販売実行案の修正 ・試作過程の撮影 ・試作品をもとに、販売実行案の修正を行う ・高校生とのZOOM打ち合わせ③「販売促進実行案の報告」ほか ・企業に対するプレゼンテーション資料作成</p>
------	--

	<p>11 製品のビジュアル画を検討する ・商品名やキャッチコピー、パッケージ、書体など、製品化に向けてのビジュアル画を検討する</p> <p>12 企業に対する販売実行案のプレゼンテーション ・産官学ZOOM打ち合わせに参加し、販売実行案を発表する ・いただいたコメントをもとに、修正を行う</p> <p>13 最終試作会における撮影 ・最終試作会の様子を撮影し、SNS戦略にいかす ・修正した販売実行案を企業に対して発表する</p> <p>14 販促物制作 ・決定した販売商品をもとに、販促物の制作を行う</p> <p>15 前期まとめ ・プロジェクトを通して学んだこと、成長したことを意見交換 ・沖縄現地研修へ進む学生は、役割分担やスケジュールの確認を行う ・高校生とのZOOM打ち合わせ④</p> <p>その他 TOITAFes成果発表 TOITAFesでは成果をまとめ、発表するので、「国際コミュニケーション学科TOITAプロジェクト演習A（沖縄名産2）」に進まなかった学生も手伝う</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：クラスメイトや高校生の意見に耳を傾け、より良い目標を設定することができ、自分が貢献しようとする姿勢がある。 ○B：途中で投げ出すことなく、最後までやり遂げる姿勢がある。 ○C：地域の課題を理解し、それを解決するマーケティング戦略に取り組む姿勢がある。
事前・事後学習	事前学習：沖縄の食文化・観光の特徴について事前に情報を集めておくこと（30分）。 事後学習：毎回の授業後には、課せられた課題に取り組み、期限までに提出すること。課題がない場合は、授業内容を整理しておくこと（30分）。
指導方法	産官学・高大連携によるPBL型授業である。本部町役場・本部町観光協会・もとぷらす（企業）・沖縄県立本部高校・その他企業様協力のもと実施する。Zoomを活用し、実際に商品化できるよう、遠隔会議で話し合いながら進めていく。グループ活動が基本となり、とチームでメニュー開発・商品開発を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎A：授業態度およびチームへの貢献度で評価する。 ○B：課題提出状況で評価する。 ○C：授業態度およびチームへの貢献度および提案された商品や販売戦略案等の内容で評価する。 課題提出 70% 授業態度と貢献度（発表・プレゼンを含む） 30%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	・販売促進案が採用された優勝チームのみ沖縄現地研修に進み、販売や広報活動を実際に行います（国際コミュニケーション学科TOITAプロジェクト演習A（沖縄名産2）の単位となる）。夏休み期間中の沖縄現地研修（12泊13日）となりますので、選出されたら参加できる方が履修してください。沖縄現地研修の航空券の代金は学校で負担しますが、宿泊（約72000円）や食費とその他交通費などは学生の自己負担となります。 ・グループワークでは相手の意見を尊重し、人格を否定するような言動は慎むこと。 ・積極的に発言し、行動することを心がけてください。 ・後期に実施するTOITAFesでは各PJの成果発表を行うため、「国際コミュニケーション学科TOITAプロジェクト演習A（沖縄名産2）」に進まなかった学生も手伝うこと。 ・TOITAプロジェクト演習は、定型授業外での事前調査・自主活動・グループ活動が学習上の重要な要素となる。
アクティブ・ラー ニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、PBL

講義科目名称： 国際コミュニケーション学科TOITAプロジェクト 授業コード： 2905
ト演習A（沖縄名産2）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
川嶋比野、有田りな、江原数彦、中村和由			
ナンバリング：E38C64			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 沖縄本部町の地域創生+SDGsの問題を現地の高校と交流を持って一緒に課題解決に取り組む産官学・高大連携PBL授業である。その過程を通して、商品開発やマーケティングの手順・進め方を体験する。具体的には沖縄本部町の観光客がそれを目的に来てくれるような名物料理やお土産を開発し、広報・販売戦略を考え、実際に沖縄で販売をする。「国際コミュニケーション学科TOITAプロジェクト演習A（沖縄名産1）」の提案内容を採用されたチームのみがこの授業に進み、現地研修を実施する。</p> <p>(授業目標) 商品開発の一連の流れを体験し、販売促進の戦略を練ることで手順と進め方を理解する。</p> <p>(学習成果) ◎A：クラスメイトや高校生の意見に耳を傾け、より良い高い目標を設定することができ、それを達成するために自分がどのように貢献すべきか考え行動することが出来る。 ○B：困難なことや失敗にめげることなく、主体的かつ前向きに行動して最後までやり遂げることが出来る。 ○C：地域の課題を理解し、それを解決する商品開発・販売促進案を進めることが出来る。</p>
----------------------------------	--

授業計画	<p>1 オリエンテーション 現地沖縄研修の説明を聞き、準備する</p> <p>2 - 7 沖縄現地研修 ・実際の店舗にて、調理の手伝い、販売を体験する ・買って行く顧客のコメントや客層を分析し、マーケティング戦略を考える ・広報活動を行い、より多くの方に買っていただけるようにどうすべきか考える ・高校生と共に協力して、今後の協力店を増やしていくための活動を行う ・各自の学んだこと・反省をまとめておき、後日課題提出する</p> <p>8・9 研修報告会および販売戦略会議 ・各自の学んだ事・反省を発表 ・販売実績をまとめ、何が足りなかったかなど分析を行う ・売上をさらに伸ばすためのアイデアを考え、提案書を作成する ・クライアントへ提案書をお渡しする</p> <p>10・11 プレゼン資料作成 ・活動報告および成果を発表するための資料を作成する ・プレゼンテーションの練習を行う ・沖縄アンテナショップでの販売ができれば、現地での反省を活かして、期間限定販売を実施する ※ショップでの販売については都合により中止することがあります</p> <p>12・13 後期のまとめ ・活動全体を振り返っての意見交換 ・産官学と高校の打ち合わせ</p> <p>14・15 TOITA Fes準備と当日の成果発表 ・沖縄PJの活動報告および成果発表の準備と当日プレゼンテーションを行う</p>
------	--

到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎A：クラスメイトや高校生の意見に耳を傾け、より良い目標を設定することができ、自分が貢献しようとする姿勢がある。 ○B：途中で投げ出すことなく、最後までやり遂げる姿勢がある。 ○C：地域の課題を理解し、それを解決する商品開発・販売促進に取り組む姿勢がある。</p>
---------------------	---

事前・事後学習	<p>事前学習：沖縄の食文化・観光の特徴について事前に情報を集めておくこと（30分）。 事後学習：現地研修や授業後には、課せられた課題に取り組み、期限までに提出すること。課題がない場合は、授業内容を整理しておくこと（30分）。</p>
---------	---

指導方法	<p>産官学・高大連携によるPBL型授業である。本部町役場・本部町観光協会・もとぶらす（企業）・沖縄県立本部高校・その他企業様協力のもと実施する。現地での研修が主となり、教員や連携先の指導の元、実際に調理手伝いや販売・広報活動を行う。</p> <p>フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜、個別あるいはグループ、履修者全体に対してフィードバックをする。</p>
------	---

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：授業・研修参加態度およびチームへの貢献度で評価する。 ○B：課題提出状況で評価する。 ○C：授業・研修態度およびチームへの貢献度および提案された案等の内容で評価する。 課題提出 50% 授業・研修態度と貢献度（発表・プレゼンを含む） 50%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・採用された優勝チームは夏休み期間中の沖縄現地研修（12泊13日）がありますので、参加できる方が履修してください。 ・沖縄現地研修の航空券の代金は学校で負担しますが、宿泊（約72000円）や食費とその他交通費などは学生の自己負担となります。 ・グループワークでは相手の意見を尊重し、人格を否定するような言動は慎むこと。 ・積極的に発言し、行動することを心がけてください。 ・後期に実施するTOITAFesでは各PJの成果発表を行うため、代表者に選出された場合はプレゼンテーションを行うこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

講義科目名称： 国際コミュニケーション学科TOITAプロジェクト 授業コード： 2931
ト演習 X（韓国PBL）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
中村公子、石田毅、松井恵美子、姜瑢嬉			
ナンバリング：E38C65			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 □B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
------	--

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 課題解決に向けて「大学での一般的授業では体験できない機会」を経験するPBL型授業である。ホスピタリティをテーマに、夏期休暇を利用して韓国を舞台にプロジェクトを展開する。両国の違いを検証し、グローバルなホスピタリティを提供できる提案を行う。前期における日本での事前学習を経て、韓国では誠信女子大学で語学やK-Beauty等の様々な研修を受けたり、実際に各自のテーマに沿ったホスピタリティを体験したりすることによって学びを深める。さらに、韓国人学生との交流を通して考え方や求めているものの違いを知り、課題解決のための糸口を探る。</p> <p>(授業目標) グローバルな視点からのホスピタリティ提供するためのティップスを提案することを目標に、まずは自国および韓国の事例を探り、そこから垣間見られる違いを検証する。韓国人学生の協力を得ながら、多角的かつ現実的な解決案を提示する。</p> <p>(学習成果) ◎A：課題内容とチーム全体の状況をよく理解し、成果実現のために臨機応変に最後まで貢献することができる。 ○C：プロジェクトの目標達成に向けて主体的にPDCAを回し、チーム活動の推進に貢献することができる。</p>
----------------------------------	---

授業計画	<p>1 オリエンテーション、課題理解 プログラムの意義・目標の共有、課題の理解、グループ作り、スケジュール説明、注意事項 他</p> <p>2 テーマ策定（グループワーク）、韓国事情理解 テーマ策定、韓国語・韓国事情について学びを進める</p> <p>3 現状分析（グループワーク）、韓国事情理解 グループごとに各テーマにおける日本と韓国の現状を分析する</p> <p>4 現状分析、提案内容の作成（グループワーク） 引き続き現状分析を行い、各グループごとに日本から見た提案を作成する</p> <p>5 中間報告会（プレゼンテーション）、渡航準備 各グループごとに取組中の状況報告を行い、関連各署からアドバイスをいただきながら、提案内容をブラッシュアップする</p> <p>6 現地研修（2週間）、課題解決案作成・発表（グループワーク・プレゼンテーション） フィールドワークやアウトティングを通して現地の実態を調査する。現地の学生と課題解決に向けたディスカッションを行い、協働で最終案を作成・発表する</p> <p>7 提案の実践 日韓交流ボランティアに参加し、解決案として提案したホスピタリティを実践する</p> <p>8 振り返り、TOITA Fes発表準備 これまでの経過を振り返り、プロジェクトの目標達成に向けてPDCAを回しながら進められたかどうかを検証する。Fesでの発表（展示）の準備をおこなう</p> <p>9 TOITA Fes発表</p> <p>※プロジェクトの内容によって変更することがある</p>
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	<p>課題解決に向けて多くの事例を検証し、多様で複雑な価値観に触れることに努める。国の垣根を超えた協働の学びに積極的に参加し、自らの課題解決案を提案することができる。</p> <p>◎A：課題内容と自らの役割をよく理解し、チームで協力し合いながら成果実現にむけて最後まで貢献することができる。</p> <p>○C：現地での研修がより成果の高いものになるよう、自らの事前学習目標やスケジュールを計画・立案し実行できる。</p>
---------------------	--

事前・事後学習	<p>事前学習：情報収集や提案内容のまとめなど、次回授業に向けて必要な準備をする。</p> <p>事後学習：事後のふりかえり、関連する社会課題などの情報収集を行う。定期的な韓国語学習は必須。</p>
---------	---

指導方法	<p>連携先大学および企業、団体等の協力のもと実施するPBL型授業である。個人およびグループでの活動が基本。課題解決案の提示に向けて、韓国語や韓国事情とともに各自のテーマに沿った事例を収集し検証する。夏期の韓国での研修に向けて、前期には学内で事前の学習を行う。帰国後はTOITA Fesで成果を発表する。</p>
------	--

	フィードバックの方法：連携先や担当教員から、適宜フィードバックする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含めて活動し、一定の成果を出し所定のプログラムを修了することで評価する ◎A：平常点および成果発表で評価する。 ○C：平常点および成果発表で評価する。 平常点（課題提出、貢献度）50%、 成果発表（最終成果物、プレゼンテーション、報告レポートなど） 50%
テキスト	なし
参考書	プロジェクトによって異なるため、それぞれのプロジェクトの授業時に、必要に応じて提示する。
履修上の注意	*「プロジェクト演習」の授業名で複数のプロジェクトが展開する。それぞれの実施概要は、開講期間中に都度説明会内で発表する。参加希望者は学内連絡をよく確認し、説明会に必ず参加すること。 *放課後の活動だけでなく、休日の活動、夏期休暇、春期休暇の活動が含まれる場合もある。 *プロジェクト内容によっては履修条件が設けられることがある。 *プロジェクト演習に係る交通費・食費・宿泊費等は参加者の負担となる。 *グループの進捗状況に応じて、事前事後のグループ活動を授業外で行う必要が生じる。 *履修登録はプロジェクト終了後に登録となる。担当教員の指示にしたがうこと。
アクティブ・ラーニング、PBL	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、PBL

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E310C66（1年生）	ナンバリング：E310C71（2年生）	実務家教員による授業	授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 ☐B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ■C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐D：知識を活かして考える力 ☐E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>（授業内容） 国内インターンシップは、国際コミュニケーション学科が指定するインターンシッププログラムに参加し所定の成果を出すことで「国内インターンシップ」1単位が取得できるプログラムである。 インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。 インターンシップ先は、適宜学生に告知する。</p> <p>（授業目標） 現地に赴いて専門的な見聞を深め、職員や顧客と直接関わることで、明確なキャリアビジョンを持つことを目標とする。</p> <p>（学習成果） ○A：グループワークを共に行う学生や関わってくださる職員の方々と円滑なコミュニケーションを取ることが出来る。 ◎C：入念な事前学習をもとに、インターンシップ中は積極的に質問・発言を行い、インターン先の企業について理解を深める。</p>
授業計画	<p>1 説明会 インターンシップの意義、目的との意義と目的について、 また日程・参加費用・研修先案内等の説明を行う</p> <p>2 個別相談 担当教員との個人面談を実施する</p> <p>3 事前学習 訪問先の企業に関する事前学習を進める</p> <p>4 インターン 訪問先での実習を行う</p> <p>5 事後報告 見聞、体験したことをまとめ、プレゼンテーションを行う</p> <p>6</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたり下記の能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ○A：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。 ◎C：事前学習・インターンシップ後を含め、主体的に学習・行動できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：訪問先企業の特徴について多角的に情報を集め、質問事項・提案事項をまとめる。</p> <p>事後学習：インターンシップ実施後は研修内容をプレゼンテーションする。その内容は、就職活動の面接等でも活かせるよう準備すること。</p>
指導方法	担当教員の他、インターンシップ前から訪問先企業の社員の方もご協力いただき、実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>所定の事前・事後研修、実習を修了し、報告会及び面談により総合的に2段階で評価（Passもしくは、Drop）する。</p> <p>なお、履修登録はインターンシップ修了後に登録する。従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 また、以下項目を基準に評価する。 A：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。 C：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。</p>
テキスト	必要資料は適宜配布する。
参考書	特になし。
履修上の注意	<p>*令和7年度の実施概要は、説明会を実施し、発表する。 *研修・実習に係る交通費、滞在費、食費、保険、プログラム実習費は参加者の負担となる。 *インターンシップは無報酬となる。</p>

	*インターンシップ先の都合で変更の場合がある。
アクティブ・ラーニング、PBL	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子、中村公子、石田毅			
ナンバリング：E310C67（1年生）	ナンバリング：E310C72（2年生）		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 ■B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 本科目は、海外大学編入学・留学支援センターが指定する2週間以上の海外インターンシップに参加して所定の成果を上げた者に単位認定（P評価）するものである。海外インターンシップは、夏期休暇期間もしくは春期休暇期間に実施される。</p> <p>(授業目標) 海外での就業経験を通じて、異文化への寛容さ、他者と協働する力、自己効力感、計画性や行動力など、社会人として必要な基礎力を身に付けることを目指す。</p> <p>(学習成果) ◎A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる（P評価の基準） ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）</p>
授業計画	<p>1 説明会（課外時間に実施） 海外インターンシップの意義、目的、研修内容、日程、費用などを説明する。</p> <p>2 海外研修申込書・渡航届の提出 必要書類を提出し、渡航に向けた準備を進める。</p> <p>3 オンライン面談および事前研修 電子渡航認証の取得やインターンシップ先の選定、滞在先や注意事項などの説明などを通じて渡航準備を完了する。</p> <p>4 インターンシップ（2週間以上） 派遣先でインターンとして業務に従事する。</p> <p>5 事後研修・成果発表 帰国報告書を提出し、インターンシップでの学びを総括する。合わせて海外での就業体験を学内で発表する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎A：本学および提携先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる（P評価の基準） ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）</p>
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 海外大学編入学・留学支援センター主催の事前研修が設定されるので、必ず参加すること。 提携先機関主催のオンライン面談や事前研修が設定されることがある。その場合も必ず参加すること。 帰国後は海外インターンシップの経験を何らかの形で発表する機会を設ける。ガクチカとして活かせるように十分に準備して臨むこと。
指導方法	提携先機関のスタッフが中心的に指導を行うが、海外大学編入学・留学支援センターの教職員もともに支援する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる（P評価の基準） ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）</p> <p>以下の取り組みをもとに総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書類の提出（海外研修申込書、同意書、渡航届、帰国報告書） 事前研修会への参加 事後研修会への参加 インターンシップ先からの評価 成果報告
テキスト	特になし
参考書	
履修上の注意	海外インターンシップの詳細については海外大学編入学・留学支援センターへ問い合わせること。
アクティブ・ラーニング、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子、中村公子、石田毅			
ナンバリング：E310C68 (1年生)	ナンバリング：E310C73 (2年生)		授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>■A：他者と協力して共に創り上げる力 ■B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 □C：目標と計画を立てて課題を解決する力 □D：知識を活かして考える力 □E：学んで理解する力</p>
授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	<p>(授業内容) 本科目は、海外大学編入学・留学支援センターが指定する2週間以上の短期留学プログラムに参加して所定の成果を上げた者に単位認定 (P評価) するものである。海外短期研修は、夏期休暇期間もしくは春期休暇期間に実施される。</p> <p>(授業目標) 提携機関での研修を通じて、異文化への寛容さ、他者と協働する力、自己効力感、計画性や行動力など、社会人として必要な基礎力を身に付けることを目指す。</p> <p>(学習成果) ◎A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる (P評価の基準) ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる (P評価の基準)</p>
授業計画	<p>1 説明会 (課外時間にて実施予定) 短期海外研修の意義、目的、日程、費用等について説明する。</p> <p>2 海外研修申込書・渡航届の提出 必要書類を提出し、渡航に向けた準備を進める。</p> <p>3 事前研修 (複数回あり) 電子渡航認証の取得やプレイスメントテストの受験、研修先・滞在先の説明や注意点の確認を通じて渡航準備を完了する。</p> <p>4 実地研修 (2週間以上) 研修先で授業やアクティビティに参加する。</p> <p>5 事後研修・成果発表 帰国報告書を提出し、研修での学びを総括する。合わせて研修内容を学内で発表する。</p>
到達目標・基準 C評価になる基準	<p>◎A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる (P評価の基準) ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる (P評価の基準)</p>
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 海外大学編入学・留学支援センター主催の事前研修が複数回設定されるので、必ず参加すること。 研修先主催の事前研修が設定されることもある。その場合も必ず参加すること。 帰国後は研修での体験を発表する機会を設ける。ガクチカとしても活かせるように十分に準備して臨むこと。
指導方法	海外大学編入学・留学支援センターの教職員を中心に行う。必要に応じて研修先のスタッフを交えることもある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：本学および研修先のスタッフの指示を仰いで、研修を最後まで終了することができる (P評価の基準) ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる (P評価の基準)</p> <p>以下の取り組みをもとに総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書類の提出 (海外研修申込書、同意書、渡航届、帰国報告書) 事前研修会への参加 事後研修会への参加 研修機関からの成果報告 成果発表
テキスト	特になし
参考書	
履修上の注意	海外短期研修の詳細については海外大学編入学・留学支援センターへ問い合わせること。
アクティブ・ラーニング、PBL	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	6	国専：選択
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E310C69			授業方法：対面
添付ファイル			

学習成果	ディプロマ・ポリシー ☒ A：他者と協力して共に創り上げる力 ☒ B：自己肯定感をもって最後までやり遂げる力 ☐ C：目標と計画を立てて課題を解決する力 ☐ D：知識を活かして考える力 ☐ E：学んで理解する力
------	---

授業内容 授業目標 学習成果 S評価になる基準	(授業内容) 本科目は、海外大学編入学・留学支援センターを通じて提携大学で1学期間以上の留学をし、所定の成果を上げた者に単位認定（P評価）するものである。 (授業目標) 提携大学への留学を通じて、異文化への寛容さ、他者と協働する力、自己効力感、計画性や行動力など、社会人として必要な基礎力を身に付けることを目指す。 (学習成果) ◎A：本学および留学先のスタッフの指示を仰いで、留学を最後まで終了することができる（P評価の基準） ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）
----------------------------------	---

授業計画	1 説明会（課外時間にて実施予定） 海外留学の意義、目的、日程、費用等について説明する。 2 海外研修申込書・渡航届の提出 必要書類を提出し、渡航に向けた準備を進める。 3 事前研修（複数回あり） 電子渡航認証の取得やプレイスメントテストの受験、留学先・滞在先の説明や注意点の確認を通じて渡航準備を完了する。 4 提携大学への留学（1学期以上） 留学先で授業やアクティビティに参加する。 5 事後研修・成果発表 帰国報告書を提出し、留学報告会で成果を発表する。
------	---

到達目標・基準 C評価になる基準	◎A：本学および留学先のスタッフの指示を仰いで、留学を最後まで終了することができる（P評価の基準） ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準）
---------------------	---

事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 海外大学編入学・留学支援センター主催の事前研修が複数回設定されるので、必ず参加すること。 研修先主催の事前研修が設定されることもある。その場合も、必ず参加すること。 帰国後、学長に向けた留学報告会が設定される。大学の代表また奨学生として恥じることはないよう、十分な準備をもって臨むこと。
---------	---

指導方法	海外大学編入学・留学支援センターの教職員を中心に行う。必要に応じて留学先または外部機関のスタッフを交えることもある。
------	--

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎A：本学および留学先のスタッフの指示を仰いで、留学を最後まで終了することができる（P評価の基準） ○B：事前および事後の研修に参加し、必要な書類準備や手続きを期限内に完了することができる（P評価の基準） 以下の取り組みをもとに総合的に評価する。 ・書類の提出（海外研修申込書、同意書、渡航届、帰国報告書） ・事前研修会への参加 ・事後研修会への参加 ・留学報告会でのプレゼンテーション ・戸板フェス等での成果発表
---------------------------	--

テキスト	特になし
------	------

参考書	
-----	--

履修上の注意	ターム留学の詳細については海外大学編入学・留学支援センターへ問い合わせること。
--------	---

アクティブ・ラー ニング、PBL	
---------------------	--